
芦屋市「障がい福祉に関するアンケート調査」
結果報告書

令和8年（2026年）3月

芦屋市

目次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	2
2 調査の方法.....	2
3 回収状況.....	2
4 報告書の見方.....	3
5 調査結果の概要.....	4
II 調査の結果【18歳以上】.....	17
回答者について.....	18
1. 回答者自身のことについて.....	19
2. 現在の生活について.....	29
3. 日中・夕方や休日の過ごし方、仕事などについて.....	43
4. 通院の状況などについて.....	62
5. 生活の不安、相談などについて.....	64
6. 障がい福祉サービス等の利用について.....	74
7. 災害時や緊急時の対応について.....	81
8. 障がいのある人に対する差別や虐待などについて.....	85
9. 地域社会とのかかわりについて.....	95
10. 芦屋市の取り組みについて.....	103
11. 回答者の介護者について.....	106
12. 自由意見一覧.....	112
III 調査の結果【18歳未満】.....	118
1. お子さんご自身のことについて.....	119
2. お子さんの現在の生活について.....	130
3. 教育・保育や通所支援などについて.....	142
4. 通院の状況などについて.....	154
5. 生活の不安、相談などについて.....	156
6. 障がい福祉サービス等の利用について.....	168
7. 災害時や緊急時の対応について.....	175
8. 障がいのある人に対する差別や虐待などについて.....	179
9. 地域社会とのかかわりについて.....	189
10. 芦屋市の取り組みについて.....	195
11. お子さんの介護者について.....	199
12. 自由意見一覧.....	205

I 調査の概要

1 調査の目的

令和9年度（2027年度）からの「（仮称）芦屋市障がい者（児）福祉計画第8次中期計画および芦屋市第8期障がい福祉計画・芦屋市第4期障がい児福祉計画」の策定や施策の推進に役立てるため、障がい福祉サービスの利用実態や障がい福祉に関する意識、意向などについて把握するとともに、次期計画の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の方法

（1）調査地域

芦屋市内全域

（2）調査対象および標本抽出方法

【18歳以上】市内在住で障がい者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）所持者の中から1,000人を無作為抽出

【18歳未満】市内在住で障がい者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）所持者およびサービス利用者の中から400人を無作為抽出

（3）調査方法

郵送による配布、郵送・持参またはインターネットによる回答

（4）調査期間

令和8年（2026年）1月15日～2月3日

3 回収状況

【18歳以上】

対象者数	1,000件
有効配布数	1,000件
有効回収数	606件（127件）
有効回収率	60.6%（12.7%）

※（ ）は内インターネット回答の数

【18歳未満】

対象者数	400件
有効配布数	400件
有効回収数	241件（130件）
有効回収率	60.3%（32.5%）

※（ ）は内インターネット回答の数

4 報告書の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。
小数点第2位を四捨五入しているため、単一回答でも回答比率の合計が 100.0%にならない場合があります。
また、複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- (2) 回答者数（n）が少ない場合は、統計的に有意でなく、結果の利用に注意が必要です。
- (3) 図表において、紙面の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合があります。
- (4) 図表中、表示が煩雑になることを避けるため、身体障害者手帳所持者は「身体」、療育手帳所持者は「療育」、精神障害者保健福祉手帳所持者は「精神」と表記しています。
- (5) 障がい種別の図表は、各手帳種別の所持状況を独立した設問により把握した結果を整理したものです。複数の手帳を所持する回答者が含まれるため、区分間で回答者が重複している場合があります。
- (6) 障がい種別、年齢別の図表に対する記載は、必ずしも最も割合の高い項目だけを記載しているものではなく、区分ごとの違いがみられる項目や比較的特徴のある項目に着目しているものです。

5 調査結果の概要

調査対象者の基本属性について

【18歳以上】本報告書 P18～P28

回答者・性別・年齢

回答者は、「本人が一人で回答」が 67.8%で最も多く、性別は男性 49.5%、女性 50.0%でほぼ同程度です。年齢は「65歳以上」が 63.2%を占めています。

障がい種別にみると、身体障がいのある人では 65歳以上、知的障がい・発達障がいのある人では 18～39歳、精神障がいのある人では 40～64歳がそれぞれ多く、障がい種別によって年齢構成に違いがみられます。

障がい者手帳、障がいの診断等

回答者の手帳所持状況は、身体障害者手帳を持っている人が 463人、療育手帳を持っている人が 61人、精神障害者保健福祉手帳を持っている人が 114人となっています（重複あり）。身体障害者手帳では「1級」が、療育手帳では「A（重度）」が、精神障害者保健福祉手帳では「3級」が多くなっています。なお、身体障害者手帳を持っている人では、内部障がい最も多く 41.3%を、次いで肢体不自由が 36.7%を占めています。

障がいの診断については、「自立支援医療（精神通院医療）を受給している」が 18.3%、「指定難病と診断されている」が 7.4%、「発達障がいと診断されている」が 6.8%となっています。

介護保険の要介護認定は、「受けている」が 25.6%、「受けていない」が 64.9%となっています。認定区分では、「要支援 2」が 21.3%で最も多く、次いで「要支援 1」「要介護 2」が 14.2%、「要介護 3」が 12.3%となっています。

【18歳未満】本報告書 P119～P129

回答者・性別・年齢

こどもの性別は男性 68.5%、女性 29.5%であり、年齢は、0～6歳の乳幼児が 28.6%、7～17歳の学齢期が 71.4%となっています。

障がい者手帳、障がいの診断等

18歳未満では、障がい者手帳所持者に加え、サービス利用者も対象としています。

手帳所持状況は、身体障害者手帳を持っているこどもが 31人、療育手帳を持っているこどもが 148人、精神障害者保健福祉手帳を持っているこどもが 6人となっています（重複あり）。また、いずれの手帳も持っていないこどもは 69人となっています。

身体障害者手帳は「持っていない」が 83.0%で最も多く、「1級」が 4.1%、「2級」が 3.7%となっています。所持者のみの割合を年齢別にみると、0～6歳では「2級」が、7～17歳では「1級」が多くなっています。

療育手帳は「持っていない」が 36.5%で、「A（重度）」が 13.3%、「B1（中度）」が 8.7%、「B2（軽度）」が 39.4%となっています。年齢別では、0～6歳で「持っていない」が 62.3%と多い一方、7～17歳では「B2（軽度）」が 45.9%で最も多くなっています。

精神障害者保健福祉手帳は「持っていない」が 94.6%で大半を占めています。

障がいの診断などについては、「発達障がいと診断されている」が 60.6%で最も多く、次いで「いず

れにもあてはまらない※」が 32.8%となっています。年齢別にみると、0～6 歳では「いずれにもあてはまらない」、7～17 歳では「発達障がいと診断されている」が多くなっています。

※ 「自立支援医療（精神通院医療）を受給している」「発達障がいと診断されている」「高次脳機能障がいと診断されている」「指定難病と指定されている」のいずれにもあてはまらないもの

障がいや発達の特徴に気づいたきっかけについては、「家族による気づき」が 54.4%で最も多く、次いで「病院などの医療機関による受診」が 36.5%、「保健センターで実施する健診」が 29.9%となっています。また、気づいたあとに専門機関へ相談した時期は、「1 ヶ月以内に相談した」が 64.3%、「1 ヶ月以内に相談しなかったが、1 年以内には相談した」が 26.6%、「1 年以上相談しなかった」が 7.9%となっています。

現在の生活について

【18 歳以上】本報告書 P29～P42

収入について

収入の中で最も多いものは「障害年金以外の年金（老齢年金・遺族年金など）」（39.8%）で、次いで「給料など働いて得たお金」が 24.4%となっています。障がい種別にみると、身体障がいのある人では年金、知的障がい・発達障がいのある人では障害年金や手当、精神障がいのある人では就労収入が多くなっていますが、回答者に 65 歳以上の人が多いことや、障がい種別によって年齢構成に違いがみられることに留意する必要があります。

現在の生活、介護・介助の状況、将来生活してみたい場所

今どのように生活しているかについては、「家族と一緒に生活」が 70.1%で最も多く、次いで「一人で生活」が 18.6%となっています。知的障がい・発達障がいのある人では「共同生活できる施設（グループホームなど）で生活」が比較的多くなっています。

介護・介助の状況については、食事やお風呂、トイレ、着替えといった場面では「自分でできる」という回答が多い一方で、家事（料理や掃除、洗濯）、出かけるとき（通院や買い物など）、お金の管理、日常の暮らしに必要な手続き、緊急時に避難・連絡したいときでは、支援を受けているという回答も一定の割合を占めています。また、知的障がい・発達障がいのある人では、家族や施設職員から支援を受けるとい回答の割合が比較的高くなっています。

将来どのような場所で生活してみたいと思うかについては、「家族と一緒に自宅で生活したい（もしくは生活を続けたい）」が 67.0%で最も多く、次いで「家族から離れて一人で生活がしたい（もしくは生活を続けたい）」が 13.9%となっています。知的障がい・発達障がいのある人ではグループホームなどを、精神障がいのある人では一人暮らしを希望する割合が比較的高くなっています。

親しく付き合ったり、頼れる人の有無

家族以外で、親しく付き合ったり困ったときに頼れる人がいるかについては、「いる」が 48.6%、「いない」が 49.0%となっています。知的障がい・発達障がいのある人では「いる」が 28.6%にとどまっており、身近な相談相手やつながりづくりが課題であると言えます。

外出について

通学、通勤、通所や通院以外で「外に出たい」と思うときについては、「買い物をするとき」が 63.2%で最も多く、次いで「家族・親戚と出かけるとき」が 47.2%、「友だち・知り合いと出かけるとき」が 39.8%となっています。日常的な用事に加え、家族や友人との外出、趣味や余暇活動が外出意向の主な

きっかけとなっています。

出かけるときの移動手段については、「徒歩」が63.9%で最も多く、次いで「電車」が56.4%、「バス」が39.1%となっています。障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人では「徒歩」「家族などが運転する自動車」、精神障がいのある人では「電車」が比較的多くなっています。

外出時に困ったり、心配になったりすることについては、「特にない」が23.8%で最も多いものの、「バスや鉄道などが利用しにくい」が22.8%、「休憩できる場所が少ない」が21.6%となっています。障がい種別によって不安の内容に違いがみられ、外出しやすい環境づくりが求められます。

【18歳未満】本報告書 P130～P141

現在の生活、介護・介助の状況、将来生活してみたい場所

今現在生活している場所については「家族と一緒に生活」が97.9%で大半を占めており、介護・介助者についても家族や親戚が多くなっています。

将来的に子どもがどのような場所で生活したいと思うかについては、「家族と一緒に自宅で生活したい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）」が46.9%で最も多く、次いで「家族と離れて一人で生活がしたい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）」が27.0%となっています。知的障がい・発達障がいのある子どもでは、グループホームなどを希望する割合が比較的高くなっています。

外出について

通園・通学、通所や通院以外で「外に出たい」と思うときについては、「家族・親戚と出かけるとき」が85.5%で最も多く、次いで「買い物をするとき」が62.2%、「スポーツや趣味の活動をするとき」が54.8%となっています。

出かけるときの移動手段は「徒歩」が86.7%で最も多く、次いで「家族などが運転する自動車」が77.6%、「電車」が61.4%となっています。

出かけるときに困ったり、心配になったりすることについては、「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが難しい」が34.4%で最も多く、次いで「困ったときにどうすればいいのか、だれに聞いたらいいのかわからないので心配」が33.2%、「特にない」が25.7%となっています。身体障がいのある子どもでは交通機関や歩道、建物設備の利用のしにくさが多く、知的障がい・発達障がいのある子どもでは意思疎通や、困ったときの対処がわからないことへの不安が多くなっており、安心して外出できるための支援が求められます。なお、年齢別にみると、0～6歳では「特にない」が、7～17歳では「困った時にどうすればいいのか、だれに聞いたらいいのかわからないので心配」「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが難しい」が多くなっています。

日中・夕方や休日の過ごし方、仕事などについて（18歳以上）

【18歳以上】本報告書 P43～P61

日中・夕方や休日の過ごし方

平日の日中の主な過ごし方については、「仕事をしている（就労訓練含む）」が26.9%で最も多く、次いで「家事などを行っている」が23.3%、「特に何もしていない」が16.0%となっています。障がい種別にみると、身体障がいのある人では「家事などを行っている」、知的障がい・発達障がいのある人では通所サービスを受ける施設などで過ごしている人が多くなっています。

平日の夕方以降や休日の主な過ごし方については、「家や施設で過ごしている」が 50.5%で最も多く、次いで「買い物に出かける」が 41.4%、「気分転換に散歩や外出をしている」が 27.6%となっています。知的障がい・発達障がいのある人では「移動支援・日中一時支援事業や地域活動支援センターを利用している」、精神障がいのある人では「買い物に出かける」「友人や知人と会っている」が多く、障がい種別によって過ごし方に違いがみられます。

平日の夕方以降や休日の過ごし方で希望していることについては、「自宅で過ごしたい」が 52.6%で最も多く、次いで「特にない」が 23.8%、「カフェや飲食店、買い物など、街なかのお店で過ごしたい」が 21.5%となっています。障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人では街なかで過ごしたい、精神障がいのある人では趣味や仲間づくりに関する希望が比較的多くなっています。多様な過ごし方につながる場の充実が求められます。

就労場所

平日の日中に仕事をしている（就労訓練含む）人が働いている場所は、「一般企業に勤めている」が 58.9%で最も多く、次いで「自営業など、事業をしている」が 14.1%、「就労継続支援【A型：雇用型】事業所で働いている」が 11.0%となっています。障がい種別にみると、身体障がいのある人では「自営業など、事業をしている」、知的障がい・発達障がいのある人では就労継続支援【B型：非雇用型】事業所、精神障がいのある人では就労継続支援【A型：雇用型】事業所で働いている人が比較的多くなっています。

一般就労または就労継続支援 A 型事業所で就労している人の仕事の種類など

一般就労または就労継続支援 A 型事業所で就労している人の仕事の種類は、「事務的な仕事」が 36.6%で最も多く、次いで「運搬・清掃・包装などの仕事」が 19.7%、「専門的・技術的な仕事」が 19.0%となっています。知的障がい・発達障がいのある人では、「運搬・清掃・包装などの仕事」が多くなっています。

雇用形態は「正社員」が 34.5%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 30.3%、「契約社員・嘱託」が 19.7%となっています。知的障がい・発達障がいのある人と精神障がいのある人では、身体障がいのある人に比べて非正規雇用の割合が高くなっています。

現在の仕事で困っていることについては、「特に困っていることはない」が 37.3%で最も多く、次いで「収入」が 20.4%、「通勤や仕事場の移動」が 17.6%となっています。障がい種別により、通勤・移動、職場でのコミュニケーション、収入など、困りごとの内容に違いがみられます。

一般就労の意向

一般就労をしたいと思うかについては、「思う」が 50.0%、「思わない」が 43.8%となっています。

一般就労をしたい人が一般就労をしていない理由は「一般就労に不安がある」が 87.5%で最も多く、次いで「自分に合った・やりたい仕事が見つからない」が 50.0%となっています。一般就労を希望する人に対しては、移行に向けた支援が求められます。

平日の日中の主な過ごし方で「仕事をしている（就労訓練を含む）」以外を選んだ人の就労経験など

平日の日中の主な過ごし方が「仕事をしている（就労訓練を含む）」以外であった人のこれまでの就労経験は、「一般企業や自営業などで働いたことがある」が 59.2%で最も多く、「これまで働いたことがない」は 10.2%となっています。障がい種別でみると、知的障がい・発達障がいのある人では、「これまで働いたことがない」が比較的多くなっています。

一般企業や自営業などで働いた経験がある人が仕事を辞めた理由は「定年退職」が 30.6%で最も多

く、次いで「病気のために仕事を続けることが難しくなったから」が29.0%、「障がいのために仕事を続けることが難しくなったから」が18.8%となっています。精神障がいのある人では、病気や障がい、仕事の負担を理由とする割合が比較的高くなっています。

現在働いていない理由は、「高齢のため働くことができない」が39.6%で最も多く、次いで「障がいや病気で、働くことができない」が33.7%となっています。精神障がいのある人では、自分に合った仕事がわからないことや就職先が見つからないという回答も比較的多くなっています。

今後どのように働きたいかについては、「働きたくない」が27.8%で最も多く、次いで「不明・無回答」が27.1%、「年齢や今の状態、家庭の事情などで、一般企業・自営業などでは働けない」が22.0%となっています。障がい種別で見ると、精神障がいのある人では、正社員やパート・アルバイトとして働きたいとする割合が比較的高くなっています。

現在仕事を探しているかについては、「仕事は探していない」が45.8%を占めています。仕事を探す方法については、「求人雑誌や新聞の求人欄などを見て、自分で応募する」「ハローワークで紹介してもらう」「自分で仕事を始めたいと考えている」という回答が多くなっています。

障がいのある人の就労を進めるために必要なこと

障がいのある人の就労を進めるために必要なことについては、「職場に障がいのある人への理解があること」が42.1%で最も多く、次いで「障がいのある人に配慮した設備などが整っていること」が39.3%、「勤務日数や時間に配慮があること」「障がいの特性に合った職種・業務を増やすこと」が36.1%となっており、職場の理解や配慮を進める取組が求められています。

教育・保育や通所支援などについて（18歳未満）

【18歳未満】本報告書 P142～P153

在籍している学校、希望する進路

在籍している学校については、「小学校（義務教育学校前期課程を含む）」が43.6%で最も多く、次いで「幼稚園、保育所、認定こども園」が23.2%、「中学校（義務教育学校後期課程を含む）」が12.4%となっています。

現在在籍している学校など（在宅含む）の次の進路について望むことは、「小・中学校（通常学級）へ進学」が43.6%で最も多く、次いで「小・中学校（特別支援学級）へ進学」が16.6%、「特別支援学校（小・中・高等部）へ進学」が12.4%となっています。

障がい児通所支援の利用状況など

「障がい児通所支援」の利用状況については、「放課後等デイサービス」が46.5%、「児童発達支援」が24.5%、「利用していない」が23.7%となっています。知的障がい・発達障がいのある子ども、手帳を持っていない子どもで利用割合が高くなっています。

主に利用している児童発達支援や放課後等デイサービスについては、「楽しい」が67.8%、「まあまあ楽しい」が26.3%となっており、利用者の多くが肯定的に受け止めています。

「障がい児通所支援を利用していない理由」については、「その他」が36.8%で最も多くなっており、その内容としては、今後の利用を検討または準備している、本人が行きたがらない・嫌がるなどがあげられています。次いで「利用する必要がない」が26.3%、「通いたい事業所がない」が19.3%となっています。障がい種別で見ると、知的障がい・発達障がいのある子どもでは「通いたい事業所がない」が多く、通所先の確保や情報提供が課題です。

進路に関すること、保育・教育において今後特に必要と思うもの

こどもが将来 18 歳になり、「障がい児通所支援」の利用が終了になった後、日中をどのように過ごしてほしいかについては、「大学・専門学校に進学してほしい」が 43.2%で最も多く、次いで「一般就労（企業などで雇用されること）してほしい」が 22.4%、「福祉的就労（障がい福祉サービスの就労）してほしい」が 15.4%となっています。障がい種別でみると、知的障がい・発達障がいのあるこどもでは、福祉的就労を望む割合が比較的高くなっています。将来を見据えた進路支援が必要です。

学校教育終了後の進路を考えるにあたっての不安については、「一般企業などに就職することについて」が 54.8%で最も多く、次いで「就労に向けて専門機関の支援を受けられるかどうか」が 30.7%、「障がいや発達の特性に合った事業所などを利用できるかどうか」が 29.9%となっています。進学・就労への移行を支える支援の充実が必要です。

保育や教育について、今後、特に必要だと思うことについては、「障がいのある児童・生徒の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」が 19.1%で最も多く、次いで「教員などの指導力の向上や障がいへの理解」が 12.9%、「周囲の児童・生徒、保護者の障がいへの理解」が 10.0%となっています。個々の状況に応じた保育・教育の提供と周囲の理解を進めることが求められます。

通院の状況などについて

【18 歳以上】本報告書 P62～P63

現在、どのくらい通院しているかについては、「月 1 回程度」が 28.7%で最も多く、次いで「月 2～3 回程度」が 25.4%、「月 4 回以上」が 14.4%となっています。障がい種別でみると、精神障がいのある人では比較的継続的に通院している状況がうかがえます。

医療に関係することで困っていることについては、「特に困っていない」が 47.0%で最も多く、次いで「医療費の負担が大きい」が 9.6%、「通院の負担が大きい（交通費など）」が 8.9%となっています。精神障がいのある人では、「医療費の負担が大きい」が比較的多くなっています。

【18 歳未満】本報告書 P154～P155

現在、どのくらい通院しているかについては、「年 4 回未満」が 26.1%で最も多く、次いで「通院していない」が 21.6%、「月 1 回程度」が 19.1%となっています。通院頻度は比較的少ない層が多い一方で、月 1 回以上継続して通院しているこどもも一定数みられます。

医療に関係することで困っていることについては、「特に困っていない」が 42.3%で最も多く、次いで「専門的な治療を行う病院が身近にない」が 10.4%、「障がいや理由で治療を受けにくい診療科がある」が 8.3%となっています。身近な医療機関や受診しやすい環境づくりへのニーズがみられます。

生活の不安・相談などについて

【18 歳以上】本報告書 P64～P73

生活で困っていること・不安なこと、相談相手

現在の生活で困っていることや不安に思っていることについては、「自分の健康や体力に自信がない」が 32.5%で最も多く、次いで「特に困っていることはない」が 26.7%、「家族など介護者の健康が不安」が 22.8%となっています。18～39 歳では、今後の暮らしの見通しや家族など介護者の健康に関する不安が比較的多くなっています。将来の暮らしを見据えた支援が必要です。

悩みや困ったことを相談する相手については、「家族・親戚」が 81.4%で最も多く、次いで「友だち・知り合い・近所の人」が 29.2%、「病院・診療所（医療相談）」が 18.3%となっています。知的障がい・発達障がいのある人ではサービスや相談支援に関わる機関、精神障がいのある人では身近な人や医療機関を相談先とする割合が比較的高くなっています。

連絡や相談、情報の獲得、コミュニケーション

連絡や相談、情報を得るときや周囲の人とコミュニケーションをとるときによく使う方法については、「携帯電話・スマートフォン」が 69.5%で最も多く、次いで「電話（自宅などの固定電話）」が 32.7%、「パソコン・スマートフォン・タブレット端末などのインターネット機能」が 27.9%となっています。年齢別にみると、40～64 歳ではインターネット機能、65 歳以上では固定電話の利用が多くなっています。困っていることについては、「特にない」が 48.2%で最も多い一方、「どこに情報があるかわからない」が 19.3%、「情報の内容がむずかしい」が 11.7%となっています。わかりやすい情報提供や相談しやすい環境づくりが求められます。

地域での生活や福祉サービスなどに関する情報をどこから得ているかについては、「家族・親戚」が 44.6%で最も多く、次いで「市の広報紙」が 26.6%、「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」が 17.0%となっていますが、障がい種別により回答の傾向は異なります。

【18 歳未満】本報告書 P156～P167

生活で困っていること・不安なこと、相談相手

現在の生活で困っていることや、不安に思っていることについては、「特に困っていることはない」が 31.1%で最も多く、「お金が足りないこと」が 20.7%となっています。また、「その他」（24.1%）として、保護者の就労に関することや、こどもの学習・進学に関することや、市の経済的な支援に関することなどの回答がありました。年齢別にみると、7～17 歳では「お金が足りないこと」に加えて「家族など介護者の健康のこと」が比較的多くなっています。家族を含めた生活支援に対するニーズが示唆されます。

悩みや困ったことを相談する相手については、「家族・親戚」が 80.9%で最も多く、次いで「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」が 51.0%、「保育所・幼稚園・認定子ども園・学校」が 41.5%となっています。0～6 歳では、利用しているサービス事業所や保育・教育機関を相談先とする割合が比較的高くなっています。

連絡や相談、情報の獲得、コミュニケーション

連絡や相談、情報を得るときや周囲の人とコミュニケーションをとるときに使う方法については、「携帯電話・スマートフォン」が 43.6%で最も多く、次いで「その他」が 30.7%、「パソコン・スマートフォン・タブレット端末などのインターネット機能」が 27.4%となっています。「その他」では、会話や口頭でのやりとり、家族による代行などがみられます。

連絡や相談、情報を得るときや周りの人とコミュニケーションをとるときに困っていることについては、「特にない」が 50.6%で最も多く、次いで「どこに情報があるかわからない」が 28.6%、「コミュニケーションに時間がかかる、細かい部分が伝わらない」が 14.9%となっています。7～17 歳では、情報の見つけにくさや内容の理解に関する困りごとが比較的多くなっています。必要な情報が届きやすいようにするための工夫が求められます。

地域での生活や福祉サービスなどに関する情報をどこから得ているかについては、「サービスを利用

しているところ（施設、作業所、事業所）」が42.7%で最も多く、次いで「友だち・知り合い・近所の人」が33.6%、「保育所・幼稚園・認定こども園・学校」が31.1%となっています。0～6歳では、利用しているサービス事業所や保育・教育機関を情報源とする傾向がみられます。

障がい福祉サービス等の利用について

【18歳以上】本報告書 P74～P80

障がい福祉サービスを利用するための障がい支援区分の認定を受けているかについては、「区分なし」が56.8%で最も多く、次いで「区分2」「区分3」がともに2.0%となっています。障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人では区分4～6の割合が他の障がい種別に比べて高くなっています。

障がい福祉サービス等の利用有無と今後利用したいサービスについては、現在の利用では「居宅介護（ホームヘルプ）」が10.7%で最も多く、次いで「計画相談支援」が7.4%、「短期入所（ショートステイ）」が5.3%となっています。今後3年以内の利用希望については、障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人では「短期入所（ショートステイ）」、精神障がいのある人では「就労定着支援」で、今よりも利用を増やしたい（はじめたい）とする割合が比較的高くなっています。必要なサービスにつながる支援が求められます。

芦屋市にある窓口や機関、事業などについて聞いたことがあるかについては、「どれも知らない」が46.2%で最も多く、次いで「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」が39.9%、「障がい者相談員の相談」が21.5%となっています。65歳以上では「どれも知らない」が特に多くなっており、窓口や事業の周知が課題です。

【18歳未満】本報告書 P168～P174

障がい福祉サービスを利用するための障がい支援区分の認定を受けているかについては、「区分なし」が69.3%で最も多く、次いで「区分2」が5.0%、「区分1」が4.6%となっています。身体障がいのあるこどもでは「区分1」が比較的多くなっています。

障がい福祉サービス等の利用有無と今後利用したいサービスについては、現在の利用では「児童発達支援」が28.2%、「放課後等デイサービス」が50.2%、「計画相談支援・障害児相談支援」が38.6%、「保育所等訪問支援」が23.2%となっています。今後3年以内の利用希望では、放課後等デイサービスや計画相談支援・障害児相談支援を希望する割合が比較的高くなっています。

芦屋市にある窓口や機関、事業などの認知については、「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」が65.1%で最も多く、次いで「障がい者・障がい児水浴訓練室開放事業（福祉センター1階）」が61.8%、「サポートファイル」が56.4%となっています。18歳以上に比べて認知は進んでいますが、事業によって差がみられます。

災害時や緊急時の対応について

【18歳以上】本報告書 P81～P84

災害時や洪水などの緊急時に、避難の際に手助けしてくれる人については、「家族・親族」が80.0%で最も多く、次いで「近所の人」が13.5%、「友人・知人」が11.9%となっています。一方で、「手助けしてくれる人はいない」も8.6%みられます。

災害時に不安なことについては、「避難所などでの集団生活や設備（トイレなど）」が36.0%で最も多く、次いで「身体の動きに制限があり、自力で安全を確保することが難しいこと」が34.7%、「医療（投薬や治療）が受けられないこと」が33.3%となっています。知的障がい・発達障がいのある人では避難時の判断や周囲との意思疎通、周囲の理解に関する不安、精神障がいのある人では避難所での生活環境や医療の継続に関する不安が多くなっています。

【18歳未満】本報告書 P175～P178

災害時や緊急時に避難する際、お子さんを手助けしてくれる人がいるかについては、「家族・親族」が88.8%で最も多く、次いで「友人・知人」が21.2%、「近所の人」が15.8%となっています。7～17歳では、「友人・知人」や「近所の人」が比較的多くなっています。

大きな地震や風水害が起こった場合に不安に感じることについては、「自分で判断して行動することが難しいこと」が58.9%で最も多く、次いで「避難所などでの集団生活や設備（トイレなど）」が39.0%、「周囲に障がいへの理解があるか」が38.6%となっています。身体障がいのあることでも身体面の制約や医療ケアが受けられないこと、知的障がい・発達障がいのあることでも避難時の判断や周囲との意思疎通、周囲の障がいへの理解についての回答が多くなっています。7～17歳では、避難時の判断や混乱への不安が比較的多くなっており、本人の状況に応じた支援や周囲の理解が求められます。

障がいのある人に対する差別や虐待などについて

【18歳以上】本報告書 P85～P94

制度などの認知

「障害者差別解消法」については、「知っている」が8.1%、「聞いたことがある」が19.6%、「まったく知らない」が66.2%となっています。精神障がいのある人では、「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合が比較的高くなっています。「合理的配慮」については、「知っている」が11.6%、「聞いたことがある」が15.8%、「まったく知らない」が66.2%となっています。

「障害者虐待防止法」については、「知っている」が14.7%、「聞いたことがある」が28.1%、「まったく知らない」が51.2%となっています。虐待を受けたり、受けている人を見つけた際の相談・通報先を知っているかについては、「知らない」が82.5%で大半を占め、「知っている」は11.7%にとどまっており、相談・通報先の周知が課題です。

「成年後見制度」を知っているかについては、「知っている」が38.0%で最も多く、次いで「聞いたことがある」が34.2%、「まったく知らない」が22.4%となっています。

障がいがあることで差別・偏見を受けた経験など

これまで、障がいがあることで差別や偏見などを受けたことがあるかについては、「ない」が59.2%で最も多く、次いで「わからない」が16.3%、「ときどきある」が15.2%となっています。差別などを受けた場所や場面は「職場」が33.9%で最も多く、次いで「保育所や幼稚園、学校などの対応」「外出先・余暇を楽しむとき」が22.3%、「お店の対応」が18.8%となっています。いずれの内容も、年齢や障がい種別によって回答の傾向に違いがみられます

差別などの内容については、「嫌な言葉を言われた」が47.3%で最も多く、次いで「障がいのない人と異なる対応をされた」が37.5%、「じろじろと見られた」が30.4%となっています。

地域や周囲の人の理解を深め、差別や偏見をなくすために必要なことについては、「学校や職場での

障がい理解に関する教育」が 44.6%で最も多く、次いで「広報紙やホームページでの啓発」が 29.2%、「施設などのバリアフリー化を進めること」が 27.2%となっています。理解促進に向けた啓発や教育が求められます。

【18歳未満】本報告書 P179～P188

制度などの認知

「障害者差別解消法」については、「知っている」が 24.9%、「聞いたことがある」が 27.0%、「まったく知らない」が 47.3%となっています。知的障がい・発達障がいのある子どもや手帳を持っていない子どもでは「まったく知らない」が比較的多くなっています。「合理的配慮」については、「知っている」が 45.6%、「聞いたことがある」が 28.6%、「まったく知らない」が 24.9%となっています。いずれも 18 歳以上に比べると認知は進んでいますが、引き続き周知が必要です。

「障害者虐待防止法」については、「知っている」が 30.7%、「聞いたことがある」が 43.6%、「まったく知らない」が 24.9%となっています。虐待を受けたり、受けている人を見つけた際の相談・通報先を知っているかについては、「知っている」が 30.3%、「知らない」が 68.9%となっており、相談先の周知が課題です。

「成年後見制度」については、「知っている」が 42.7%、「聞いたことがある」が 37.8%、「まったく知らない」が 18.7%となっています。

障がいがあることで差別・偏見を受けた経験など

これまで、障がいがあることで差別や偏見などを受けたことがあるかについては、「ない」が 34.0%で最も多く、次いで「ときどきある」が 29.9%、「わからない」が 28.2%となっています。年齢別で見ると、7～17 歳では、「ときどきある」が比較的多くなっています。

どのような場所や場面で差別などを受けたかについては、「保育所や幼稚園、学校などの対応」が 49.4%で最も多く、次いで「外出先・余暇を楽しむとき」が 37.9%、「近所づきあい」が 24.1%となっています。学校や地域での理解を進めることが求められます。

差別などの内容については、「嫌な言葉を言われた」が 55.2%で最も多く、次いで「じろじろと見られた」が 40.2%、「お子さんだけ違う対応をされた」が 24.1%となっています。

地域や周囲の人の「障がい」や「障がいのある人」への理解を深め、差別や偏見をなくすために必要なことについては、「学校や職場での障がい理解に関する教育」が 79.3%で最も多く、次いで「障がいのある人となない人の交流の場」が 28.2%、「外出支援や就労支援など、障がいのある人の社会参加の促進」が 27.8%となっています。理解促進や交流の機会づくりなどが重要です。

地域社会とのかかわりについて

【18歳以上】本報告書 P95～P102

地域の行事や活動への参加

地域の行事や活動への参加状況については、「参加しない」が 51.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば参加しない」が 27.6%、「どちらかといえば参加する」が 13.0%となっています。

地域活動に参加するために必要だと思うことについては、「楽しそう・興味を持てる内容の活動であること」が 31.5%で最も多く、次いで「一緒に活動してくれる人がいること」が 27.1%、「施設や地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること」が 23.9%となっています。活動内容を考える際、

これらの内容を考慮して進めることが考えられます。

地域活動のうち、できそうなこと、協力できそうなことについては、「特になし」が 39.1%で最も多く、次いで「趣味や特技を生かした活動」が 21.9%、「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」が 18.6%となっています。障がい種別や年齢によって内容に違いがみられます。

障がいのある人に対する地域の理解や、自宅・地域で生活するために必要なこと

障がいのある人に対する地域の理解は進んできたと思うかについては、「わからない」が 33.5%で最も多く、次いで「まあまあ進んできた」が 17.3%、「どちらともいえない」「あまり進んでいると思わない」がともに 17.0%となっています。65 歳以上では「かなり進んできた」「まあまあ進んできた」と感じる割合が比較的高くなっています。

自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ために必要だと思う条件については、「医療・介護・福祉の関係機関が連携して支えてくれること」が 43.9%で最も多く、次いで「生活に必要な支援やサービスをまとめて相談・利用できる窓口があること」が 43.4%、「安心して住み続けられる家があること」が 40.9%となっています。

【18 歳未満】 本報告書 P189～P194

地域の行事や活動への参加

地域の行事や活動への参加状況については、「どちらかといえば参加しない」が 33.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば参加する」が 32.4%、「参加しない」が 28.2%となっています。障がい種別にみると、身体障がいのある子どもでは「よく参加する」が 16.1%と比較的多く、知的障がい・発達障がいのある子どもでは「どちらかといえば参加しない」「参加しない」が多くなっています。また、0～6 歳では、7～17 歳に比べて参加している割合が高くなっています。

地域活動に参加するために必要だと思うことについては、「楽しそう・興味を持てる内容の活動であること」が 60.6%で最も多く、次いで「一緒に活動してくれる人がいること」が 39.0%、「自分の関心や得意なことを活かせる内容であること」が 38.6%となっています。活動内容を考える際、これらの内容を考慮して進めることが考えられます。

障がいのある人に対する地域の理解や、自宅・地域で生活するために必要なこと

障がいのある人に対する地域の理解は進んでいると思うかについては、「どちらともいえない」が 34.9%で最も多く、次いで「わからない」が 20.7%、「まあまあ進んできた」が 20.3%となっています。身体障がいのある子どもでは、「進んできた」と感じる割合が比較的高くなっています。

子どもが自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ために必要だと思う条件については、「生活に必要な支援やサービスをまとめて相談・利用できる窓口があること」が 47.3%で最も多く、次いで「医療・介護・福祉の関係機関が連携して支えてくれること」が 44.4%、「安心して住み続けられる家があること」が 43.6%となっています。子どもの成長を見据えた地域での支援体制づくりが求められます。

芦屋市の取り組みについて

【18 歳以上】 本報告書 P103～P105

芦屋市は暮らしやすいまちだと思うかについては、「まあそう思う」が 39.3%で最も多く、次いで「そう思う」が 30.7%となっています。いずれの障がい種別でも、「そう思う」と「まあそう思う」の合計

がおよそ7割を占めていますが、知的障がい・発達障がいのある人及び精神障がいのある人では、「思わない」が比較的多くなっています。

芦屋市が行っている各種障がい者施策に期待すること、重要だと思うことについては、「サービス利用の手続きを簡単にする」が37.6%で最も多く、次いで「何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする」が33.8%、「障がいに対する地域の理解を進めるための広報啓発活動を充実させる」が30.7%となっています。知的障がい・発達障がいのある人では住まいの確保、精神障がいのある人では相談窓口や手続きのしやすさ、働く場に関するニーズが比較的高く、18～39歳では「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」が他の年代に比べ多くなっています。

【18歳未満】本報告書 P195～P198

芦屋市は暮らしやすいまちだと思うかについては、「まあそう思う」が48.1%で最も多く、次いで「そう思う」が26.1%、「どちらでもない」が10.0%となっています。「そう思う」「まあそう思う」を合わせると、身体障がいのある子どもと知的障がい・発達障がいのある子どもでおよそ8割、手帳を持っていない子どもでおよそ7割となっています。

芦屋市が行っている各種障がい者施策に期待すること、重要だと思うことについては、「保育所・幼稚園・認定子ども園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制を充実させる」が46.1%で最も多く、次いで「子どもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みを充実させる」が39.8%、「サービス利用の手続きを簡単にする」が39.4%となっています。成長段階に応じた切れ目のない支援体制や、引継ぎの仕組みづくりが重要です。

介護者について

【18歳以上】本報告書 P106～P111

主に介護・介助している人については、「特に介護・介助の必要はない」が40.9%で最も多く、次いで「配偶者（夫または妻）」が20.3%、「母親」が9.1%となっています。

主に介護・介助をしている人で「母親」「父親」を選んだ人が、「親が病気や死亡等によって将来あなたを支えられなくなったとき」にどこで生活しようと考えているかについては、「家族と離れて一人で生活をする」が22.6%で最も多く、次いで「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用する」が21.0%となっています。

主な介護者の年齢については、「65歳以上」が62.2%で最も多く、次いで「40～64歳」が30.3%となっています。身体障がいのある人、知的障がい・発達障がいのある人では、「65歳以上」が約6割となっています。

主な介護者の健康状態については、「ふつう」が57.8%で最も多く、次いで「よくない」が20.3%、「よい」が15.9%となっています。精神障がいのある人では、「よくない」が30.2%と比較的多くなっています。

介護をするうえで、介護者が困っていることや不安などについては、「介護者の健康について不安があること」が40.6%で最も多く、次いで「介護で体と心も疲れること」「将来の見通しがたてられないこと」がともに27.9%となっています。知的障がい・発達障がいのある人では、将来の見通しや緊急時の支援先に関する不安が比較的多くなっています。介護者を支える支援の充実が求められます。

【18歳未満】本報告書 P199～P204

主にだれがお子さんを介護・介助しているかについては、「母親」が66.0%で最も多く、次いで「特に介護・介助の必要はない」が28.6%となっています。

「親が病気や死亡等によって将来お子さんを支えられなくなったとき」に、どこで生活しようと考えているかについては、「家族と一緒に自宅で生活できたらいい」が29.6%で最も多く、次いで「家族と離れて一人で生活できたらいい」が25.9%、「専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用できたらいい」が22.8%となっています。知的障がい・発達障がいのあるこどもでは、共同生活ができる施設を利用できたらいいとする割合が比較的高くなっています。将来の生活を見据えた支援が必要です。

主な介護者の年齢については、「40～64歳」が65.0%で最も多く、次いで「39歳以下」が23.3%、「65歳以上」が11.7%となっています。

主な介護者の健康状態については、「ふつう」が45.4%で最も多く、次いで「よい」が36.8%、「よくない」が6.7%となっています。

介護をするうえで、介護者が困っていることや不安などについては、「将来の見通しがたてられないこと」が45.4%で最も多く、次いで「介助で体と心も疲れること」が39.9%、「介助で仕事や家事ができないこと」が31.9%となっています。知的障がい・発達障がいのあるこどもでは、将来の見通しに関する不安が比較的多くなっています。介護者を支え、こどもの将来に向けた支援の充実が求められます。

Ⅱ 調査の結果【18歳以上】

回答者について

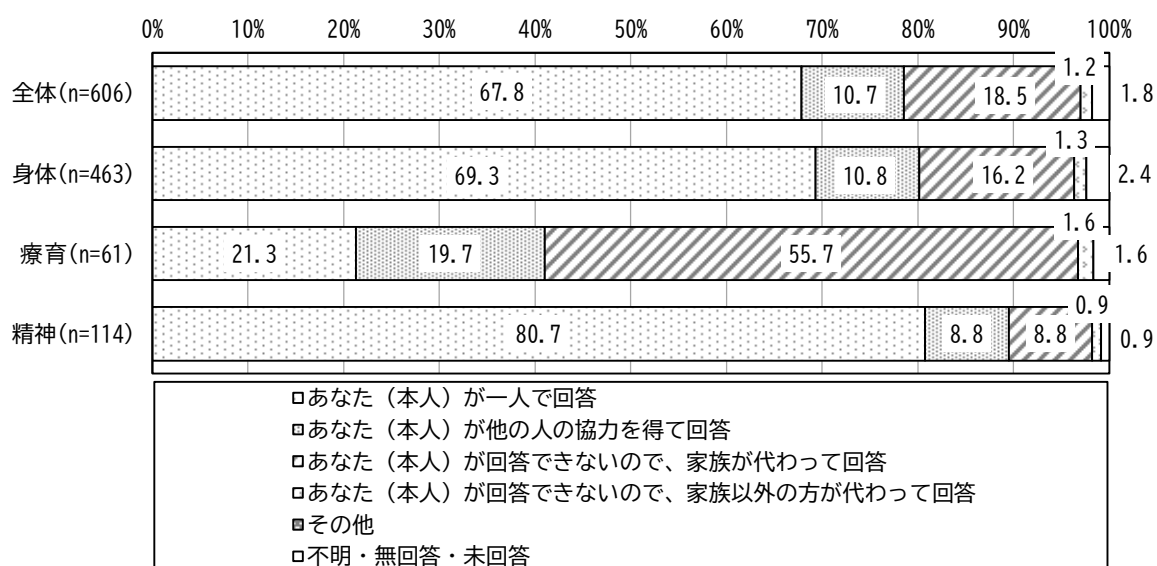
(1) 回答者

問1 アンケートに答えるのはだれですか。(○は1つだけ)

回答者は、「あなた（本人）が一人で回答」が67.8%で最も多く、次いで「あなた（本人）が回答できないので、家族が代わって回答」が18.5%、「あなた（本人）が他の人の協力を得て回答」が10.7%となっています。

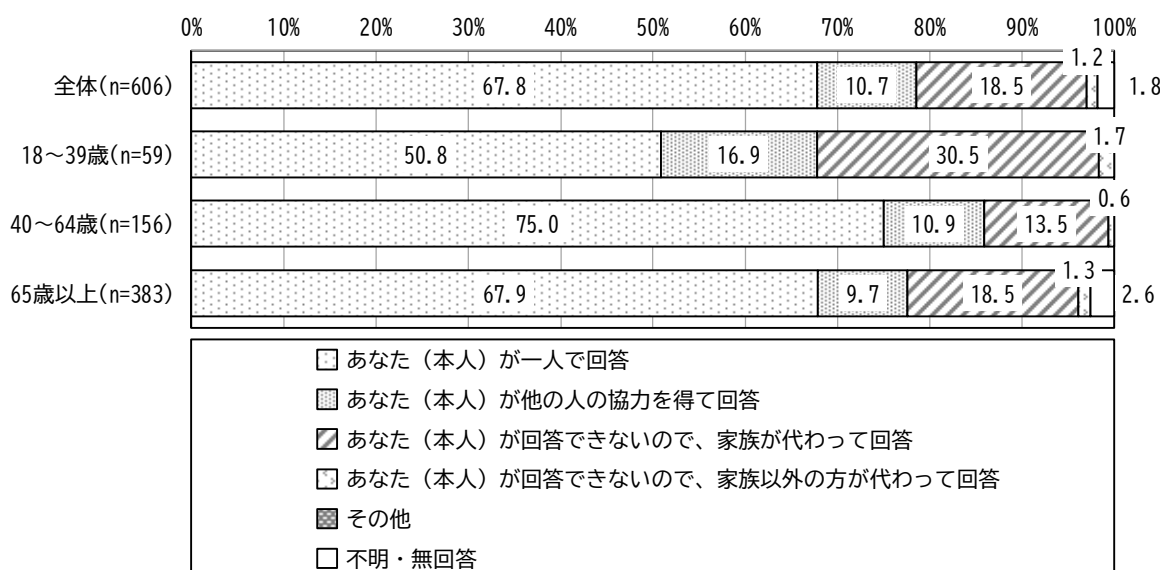
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「あなた（本人）が回答できないので、家族が代わって回答」が55.7%と最も多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「あなた（本人）が回答できないので、家族が代わって回答」が多くなっています。



1. 回答者自身のことについて

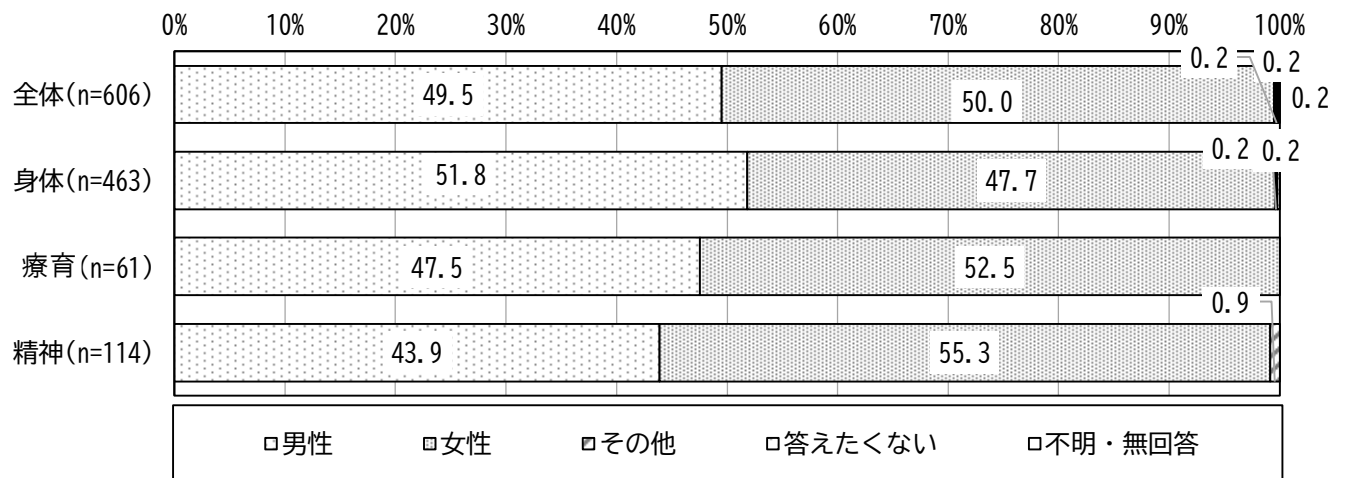
(1) 性別

問2 あなた自身が思う性別を書いてください。(○は1つだけ)

性別は、「男性」が49.5%、「女性」が50.0%となっています。

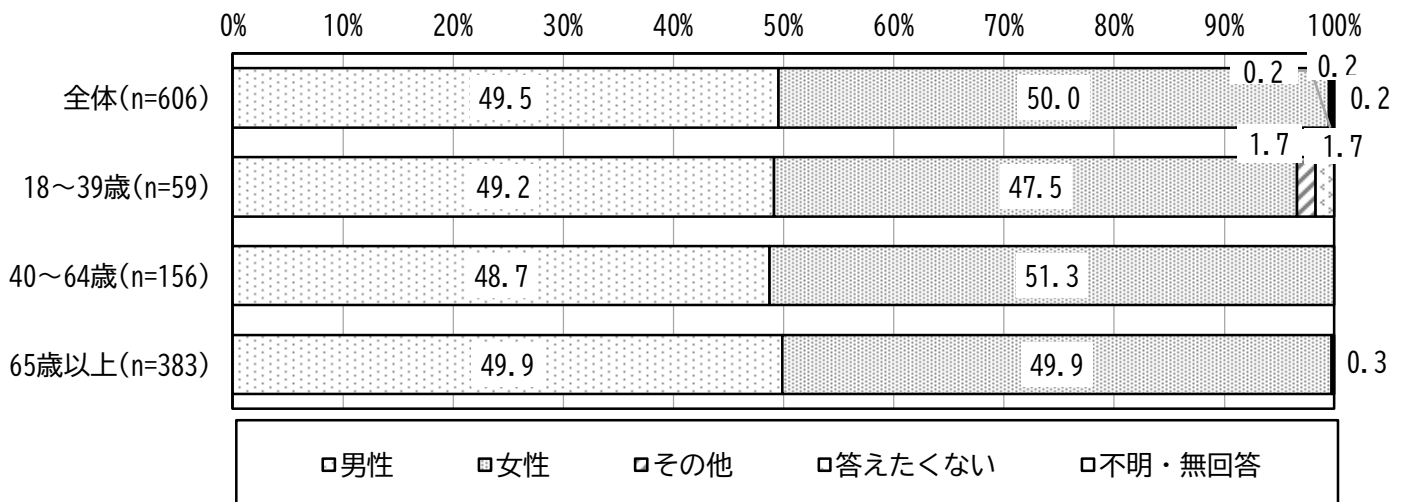
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、以下のようになっています。



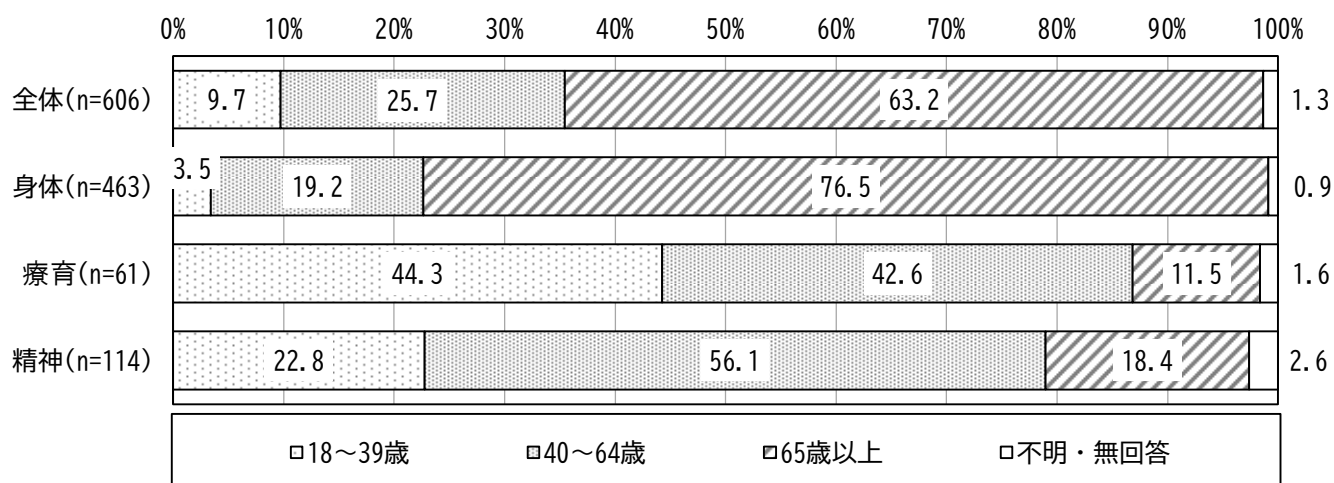
(2) 年齢

問3 現在のあなたの年齢を書いてください。(○は1つだけ)

年齢は、「18～39歳」が9.7%、「40～64歳」が25.7%、「65歳以上」が63.2%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人は「65歳以上」が、知的障がい・発達障がいのある人は「18～39歳」が、精神障がいのある人は「40～64歳」が他の障がい種別に比べて多くなっています。

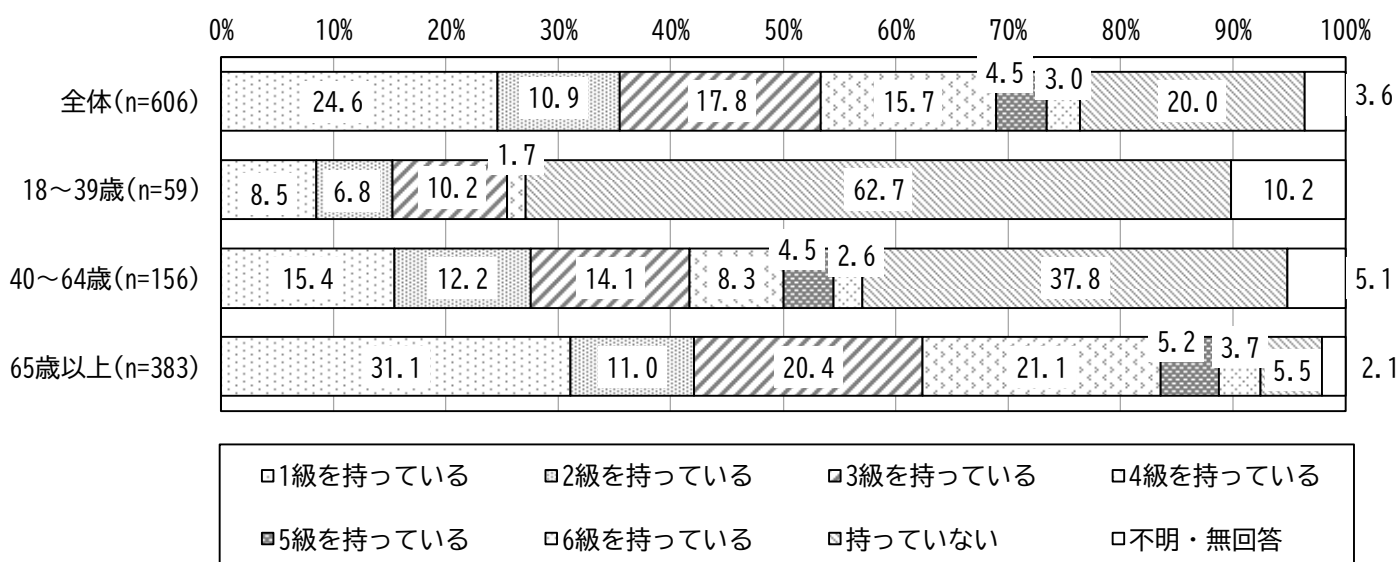


(3) 障がい者手帳について

問4 あなたが持っている「障がい者手帳」についてお答えください。

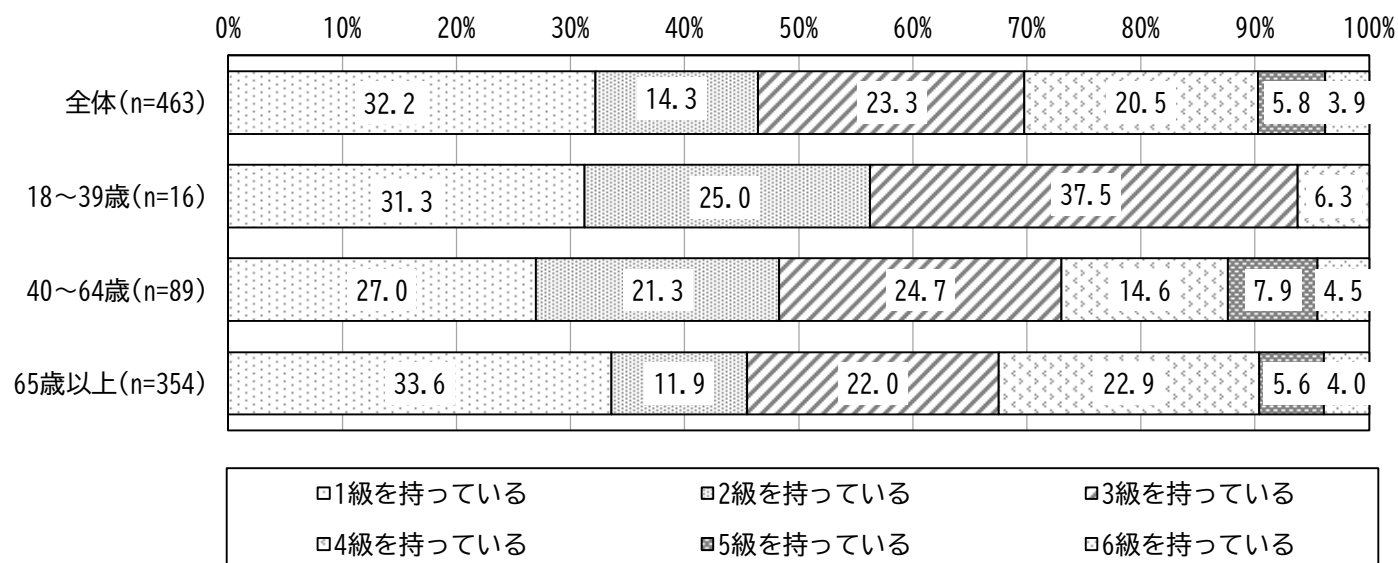
① あなたは、身体障害者手帳を持っていますか。(○は1つだけ)

身体障害者手帳については、「1級」が24.6%で最も多く、次いで「持っていない」が20.0%、「3級」が17.8%、「4級」が15.7%となっています。



【年齢別】

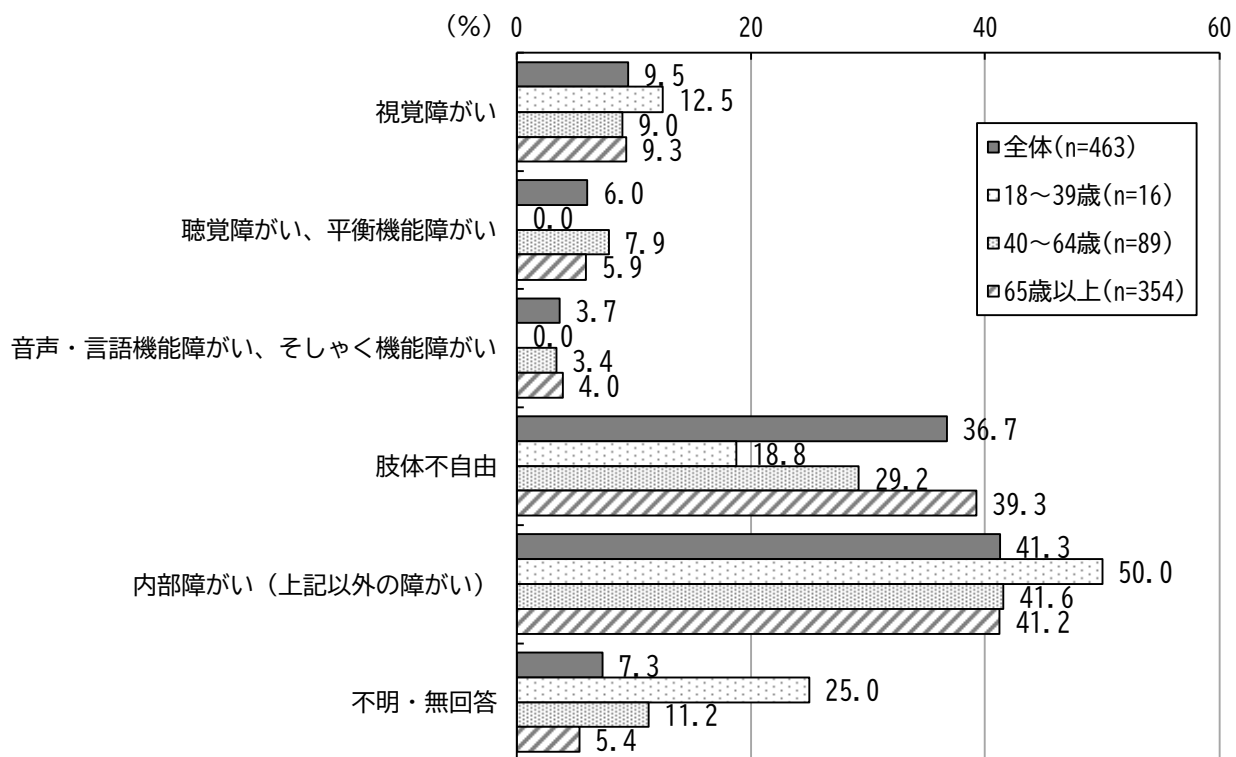
所持者のみの割合を年齢別にみると、65歳以上で「1級」が33.6%、「4級」が22.9%と多くなっています。



② 身体障害者手帳を持っている場合、障がいの内容をお答えください。

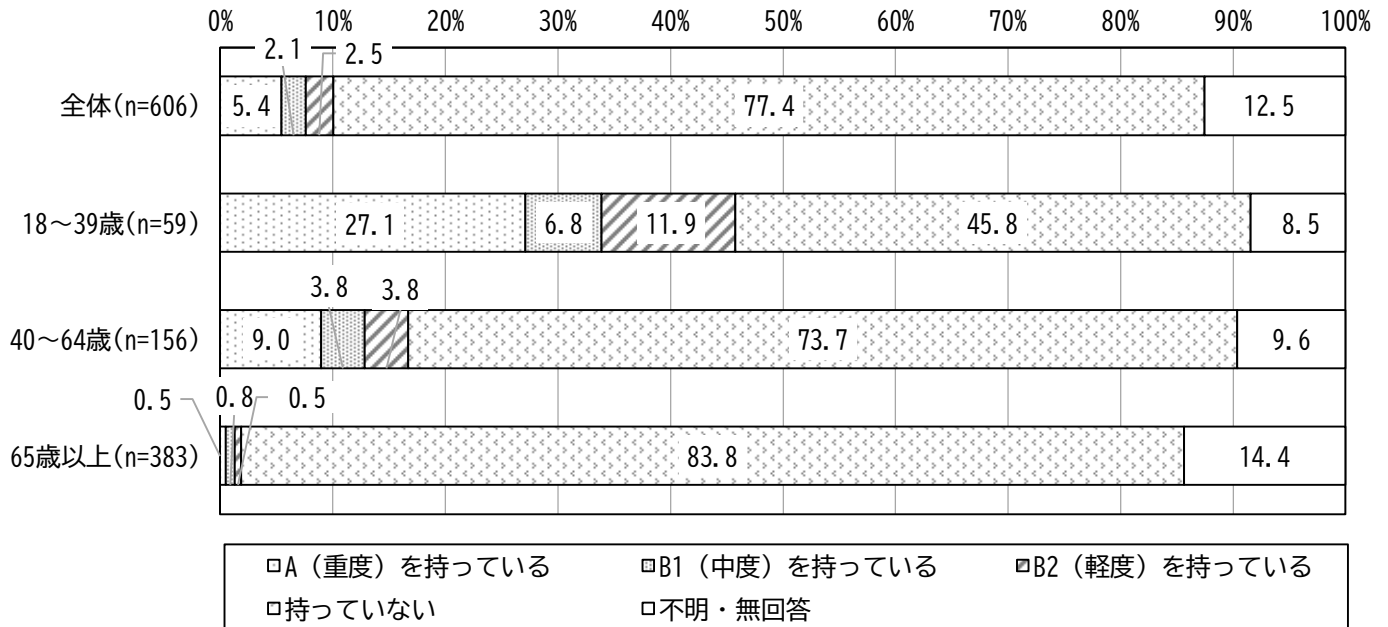
(あてはまるものすべてに○)

身体障害者手帳を持っている人の主な障がいの内容は、「内部障がい」が41.3%で最も多く、次いで「肢体不自由」が36.7%、「視覚障がい」が9.5%となっています。



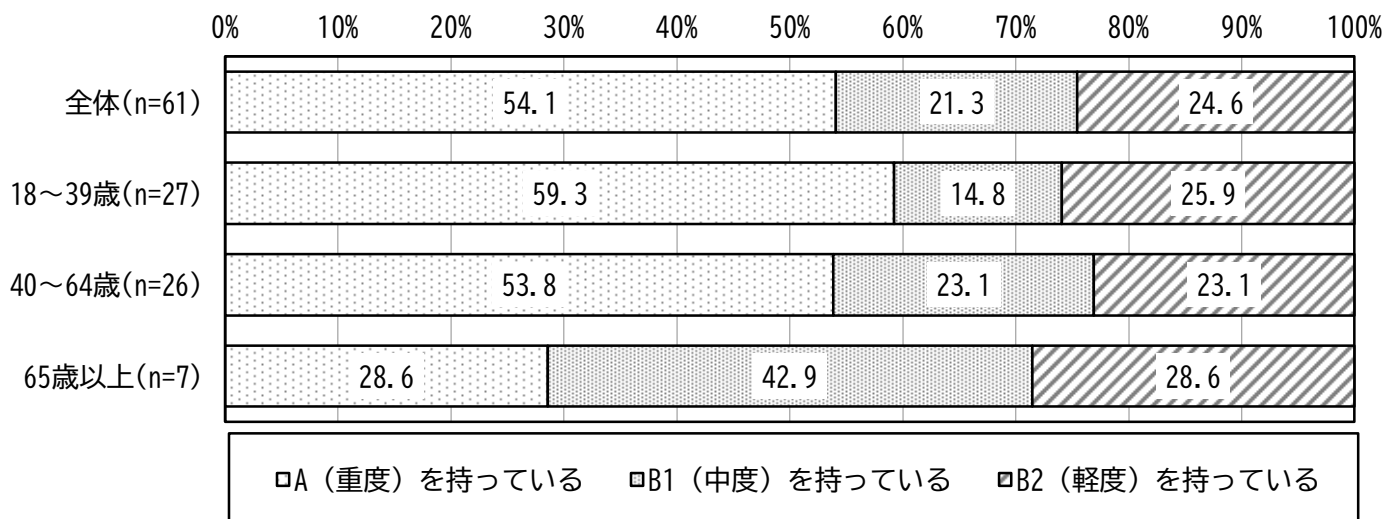
③ あなたは、療育手帳を持っていますか。(○は1つだけ)

療育手帳については、「持っていない」が77.4%、「A（重度）」が5.4%、「B1（中度）」が2.1%、「B2（軽度）」が2.5%となっています。



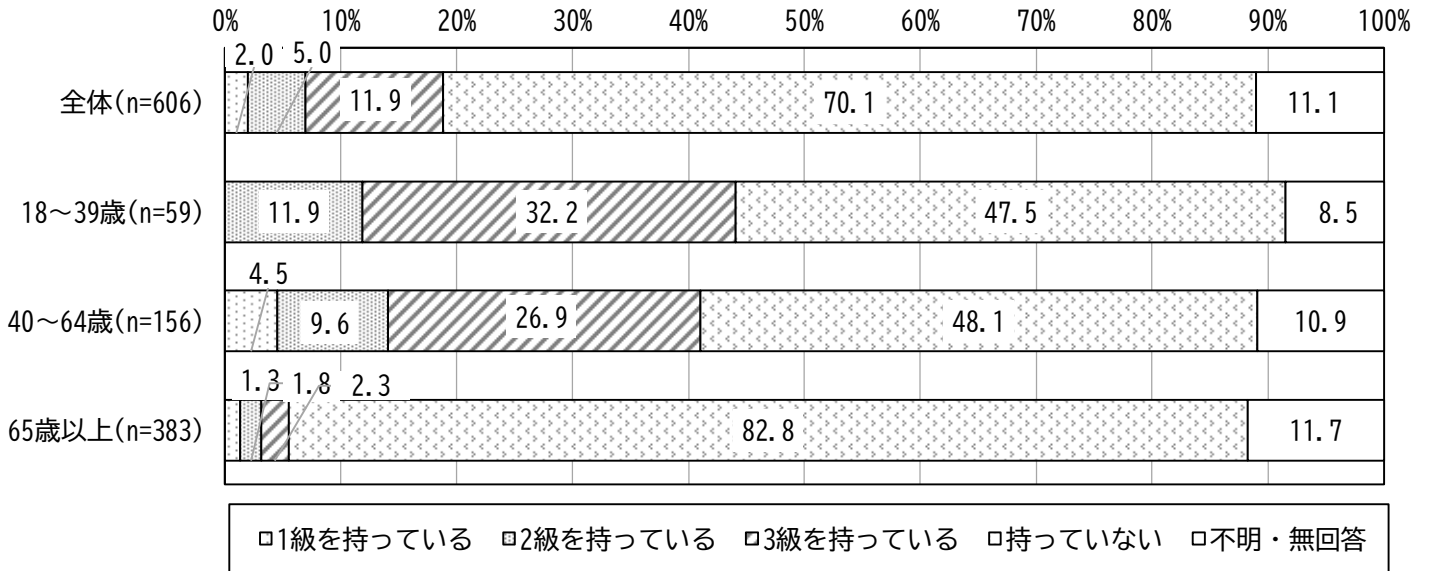
【年齢別】

所持者のみの割合を年齢別にみると、「A（重度）」が18～39歳で59.3%、40～64歳で53.8%と多くなっています。



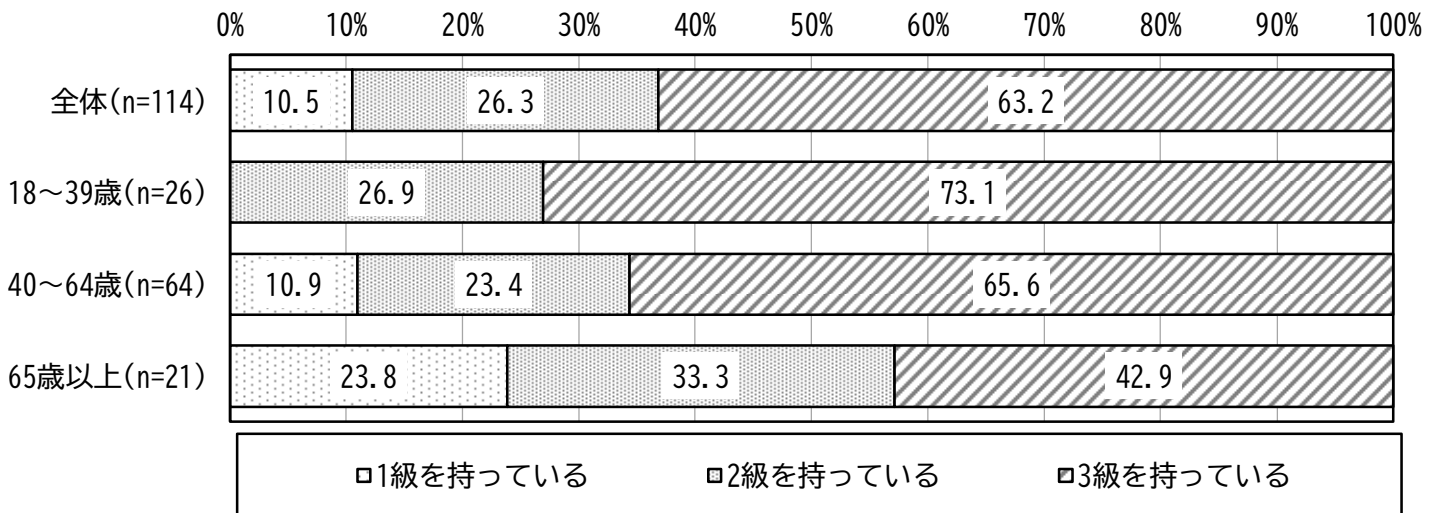
④ あなたは、精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。(○は1つだけ)

精神障害者保健福祉手帳については、「持っていない」が70.1%、「1級」が2.0%、「2級」が5.0%、「3級」が11.9%となっています。



【年齢別】

所持者のみの割合を年齢別にみると、18~39歳で「3級」が73.1%、40~64歳で65.6%と多くなっています。



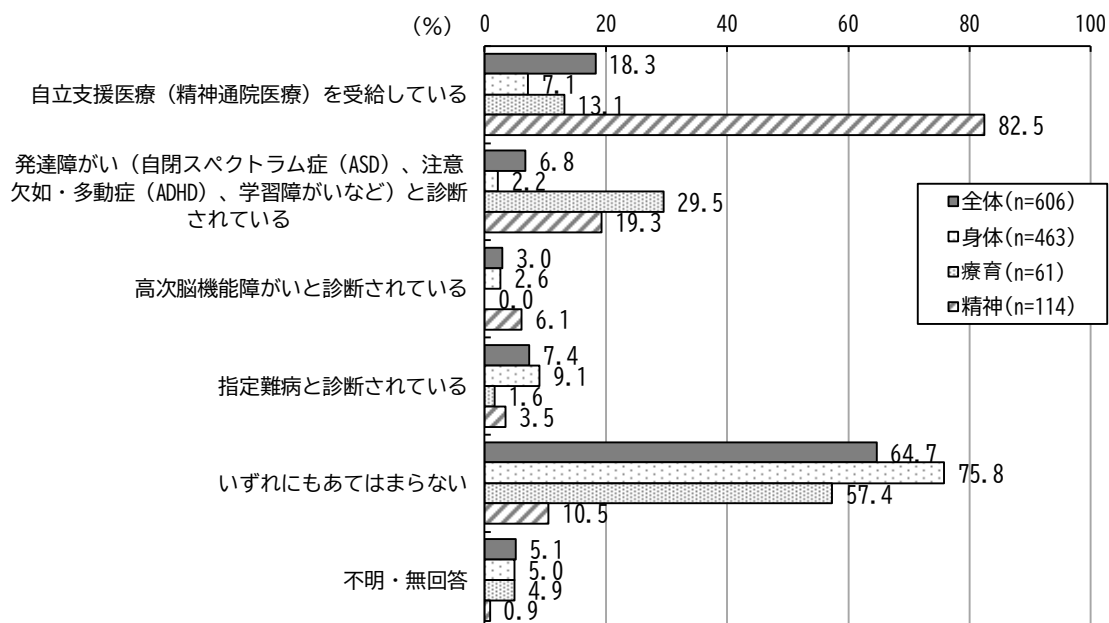
(4) 障がいの診断

問5 あなたは、次のような障がいの診断などを受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

障がいの診断などについては、「自立支援医療（精神通院医療）を受給している」が 18.3%、「指定難病と診断されている」が 7.4%、「発達障がい（自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、学習障がいなど）と診断されている」が 6.8%となっています。

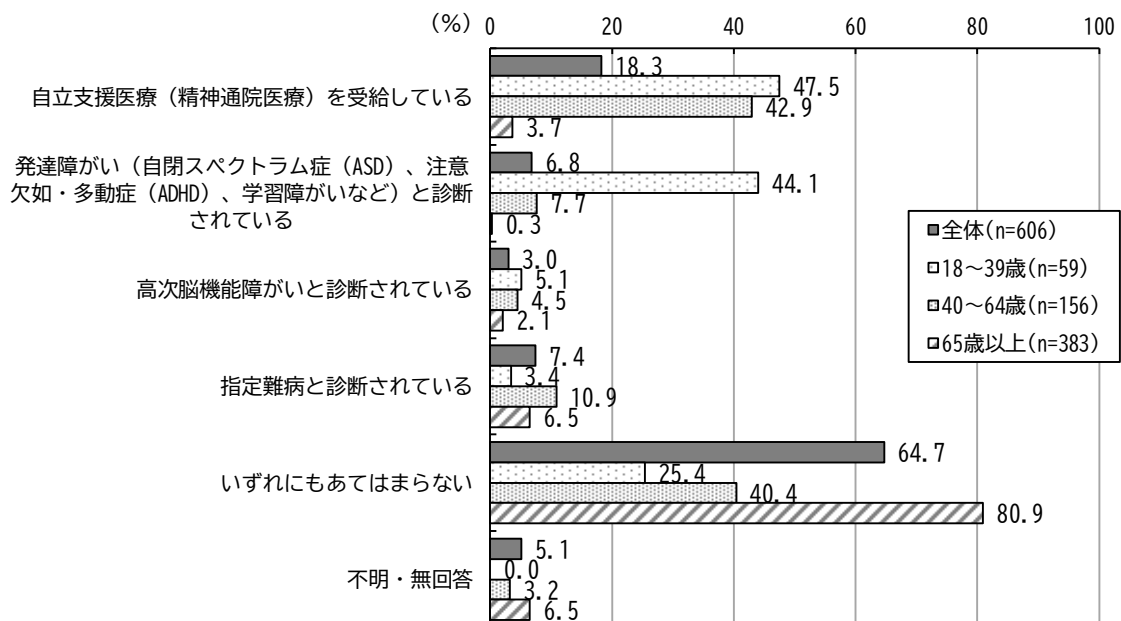
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「自立支援医療（精神通院医療）を受給している」「発達障がい（自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、学習障がいなど）と診断されている」、40～64歳では「自立支援医療（精神通院医療）を受給している」が多くなっています。



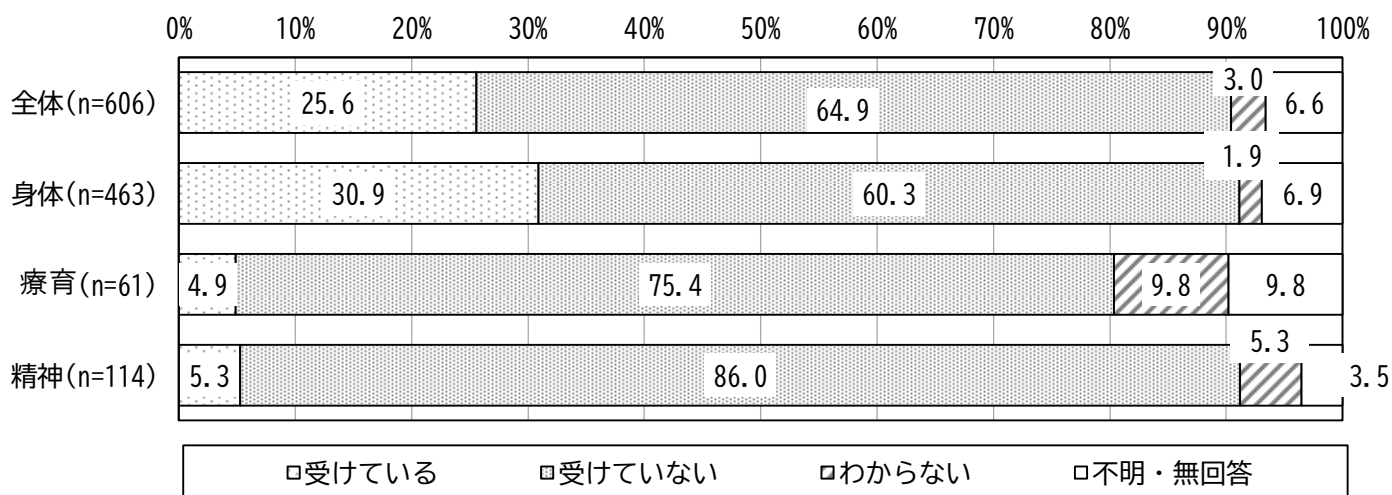
(5) 介護保険の要介護認定

問6 あなたは介護保険の要介護認定を受けていますか。(○は1つだけ)

要介護認定を受けているかについては、「受けている」が25.6%、「受けていない」が64.9%となっています。

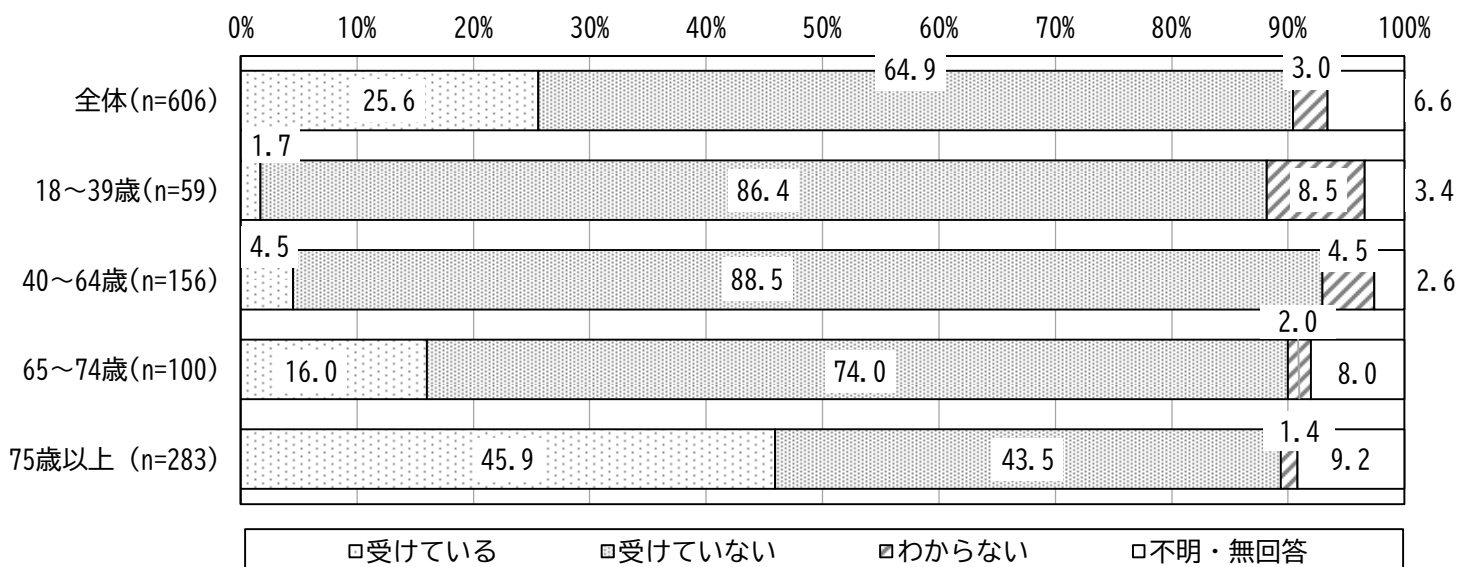
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「受けている」が30.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、65～74歳で「受けている」が16.0%、75歳以上で45.9%と多くなっています。

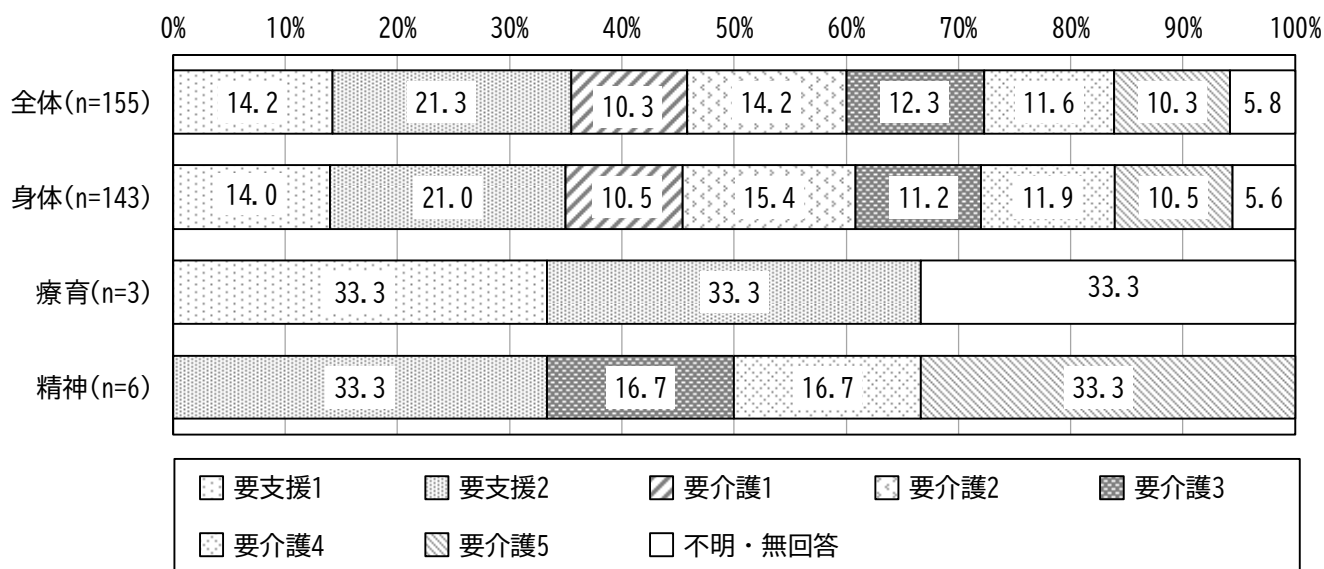


① 問6で1を選んだ方にお聞きます。あなたの要介護認定は次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

要介護認定については、「要支援2」が21.3%で最も多く、次いで「要支援1」「要介護2」が14.2%、「要介護3」が12.3%となっています。

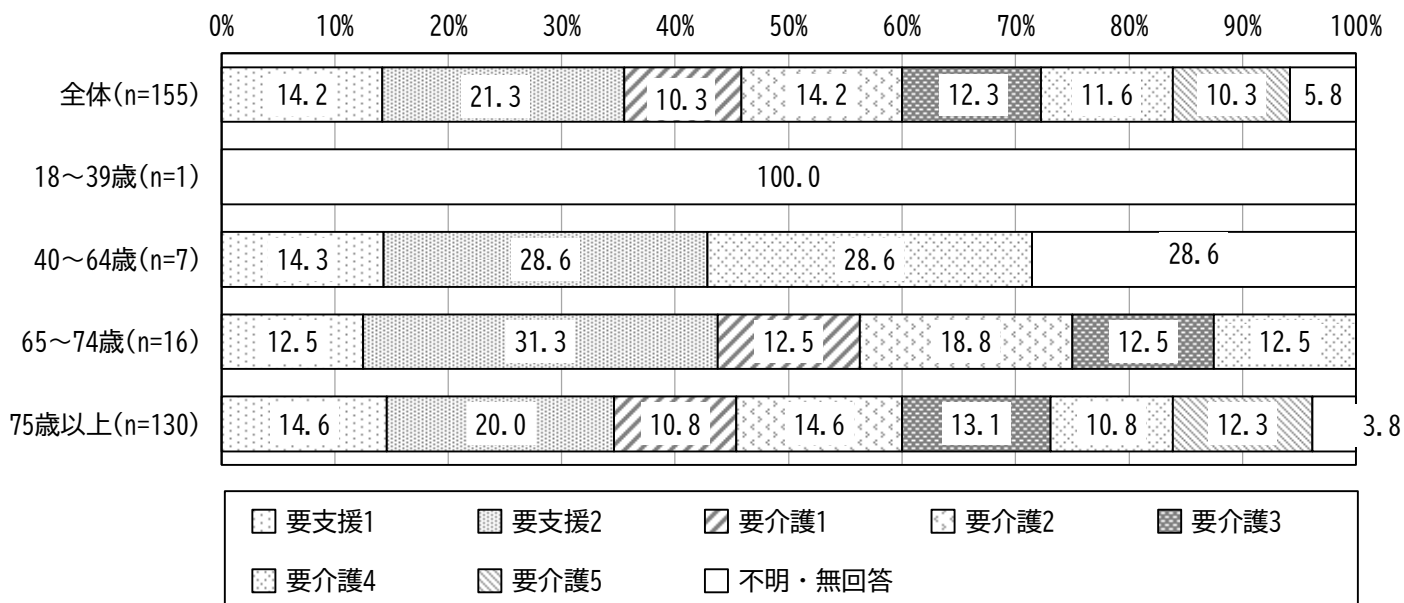
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「要介護1」以上の認定を受けている割合が59.5%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、65歳未満で「要支援2」「要介護4」がともに28.6%（各2名）となっています。

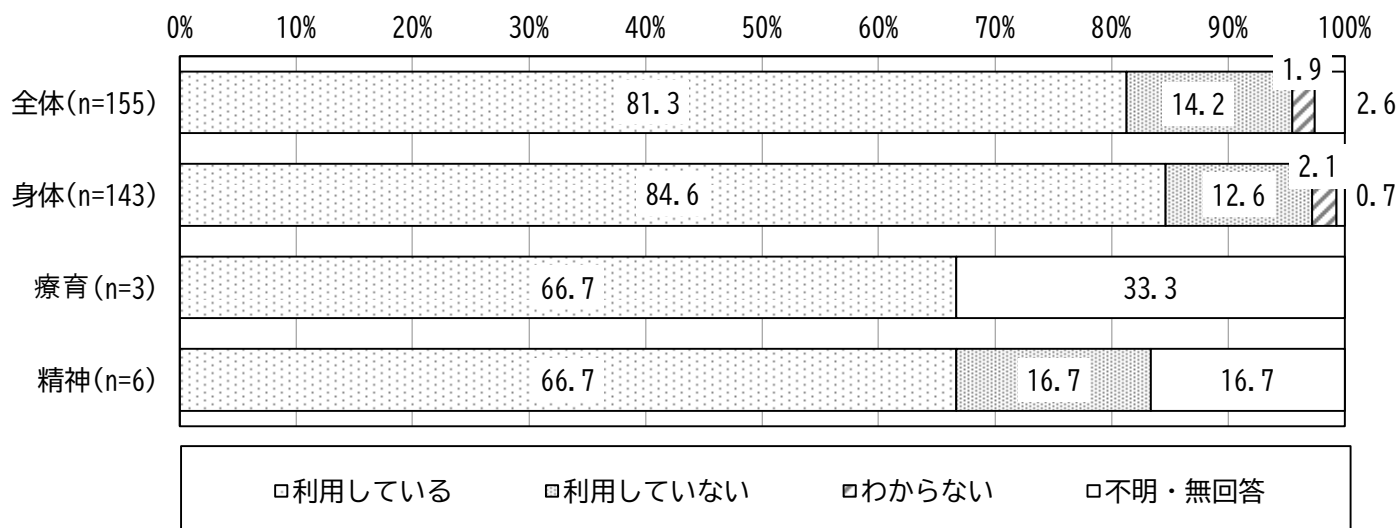


② あなたは介護保険サービスを利用していますか。(○は1つだけ)

介護保険サービスの利用については、「利用している」が81.3%となっています。

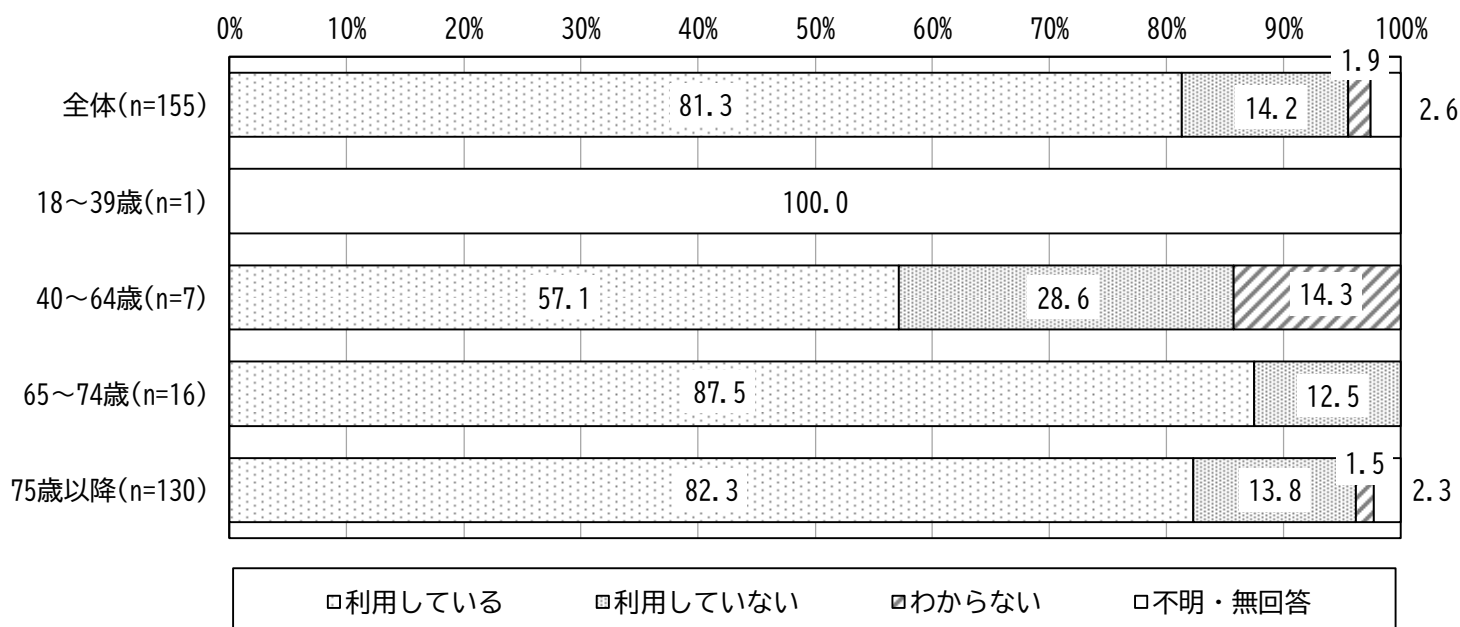
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「利用している」が84.6%と多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、65～74歳で「利用している」が87.5%、75歳以上で82.3%となっています。



2. 現在の生活について

(1) 収入の中で最も多いもの

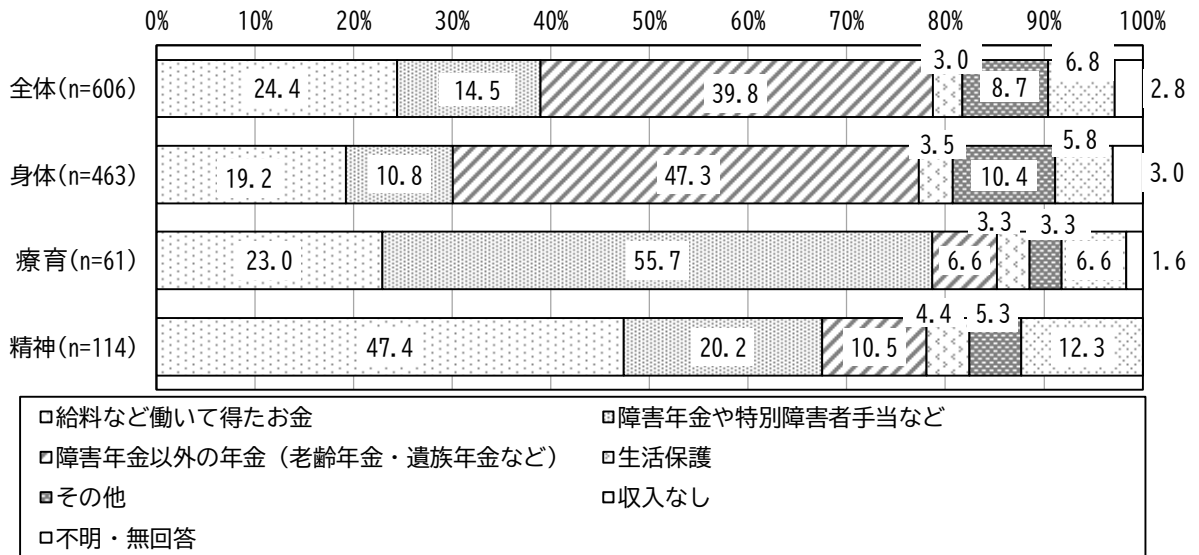
問7 あなた自身の収入の中で最も多いものはなんですか。(○は1つだけ)

※家族の方の収入や保護者に支給される手当は含みません。

収入の中で最も多いものについては、「障害年金以外の年金（老齢年金・遺族年金など）」が39.8%で最も多く、次いで「給料など働いて得たお金」が24.4%、「障害年金や特別障害者手当など」が14.5%となっています。

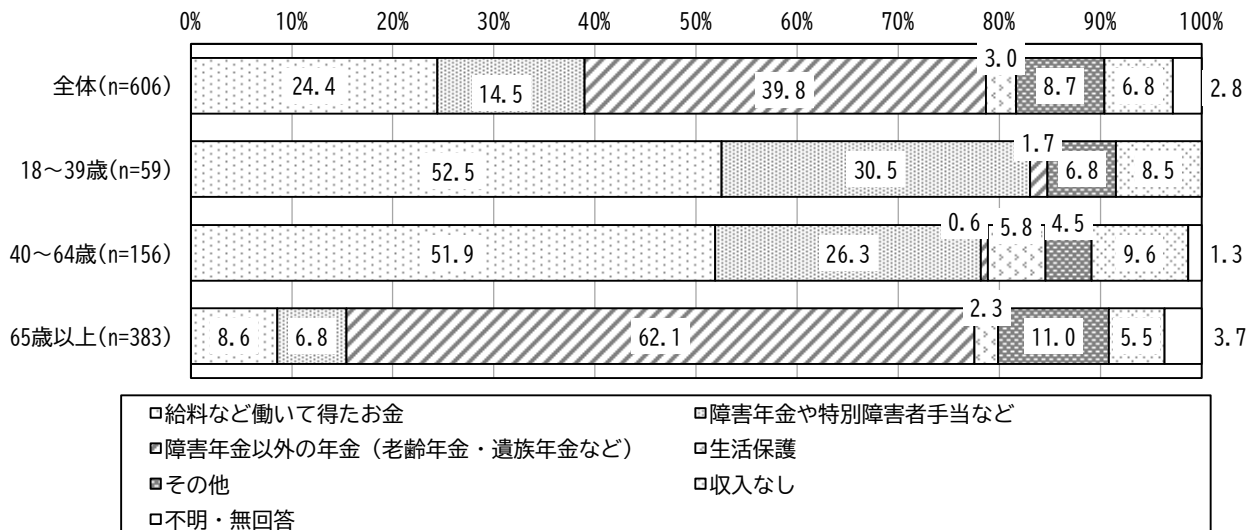
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「障害年金以外の年金（老齢年金・遺族年金など）」、知的障がい・発達障がいのある人で「障害年金や特別障害者手当など」、精神障がいのある人で「給料など働いて得たお金」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、65歳未満で「給料など働いて得たお金」が約5割、65歳以上で「障害年金以外の年金（老齢年金・遺族年金など）」が約6割となっています。



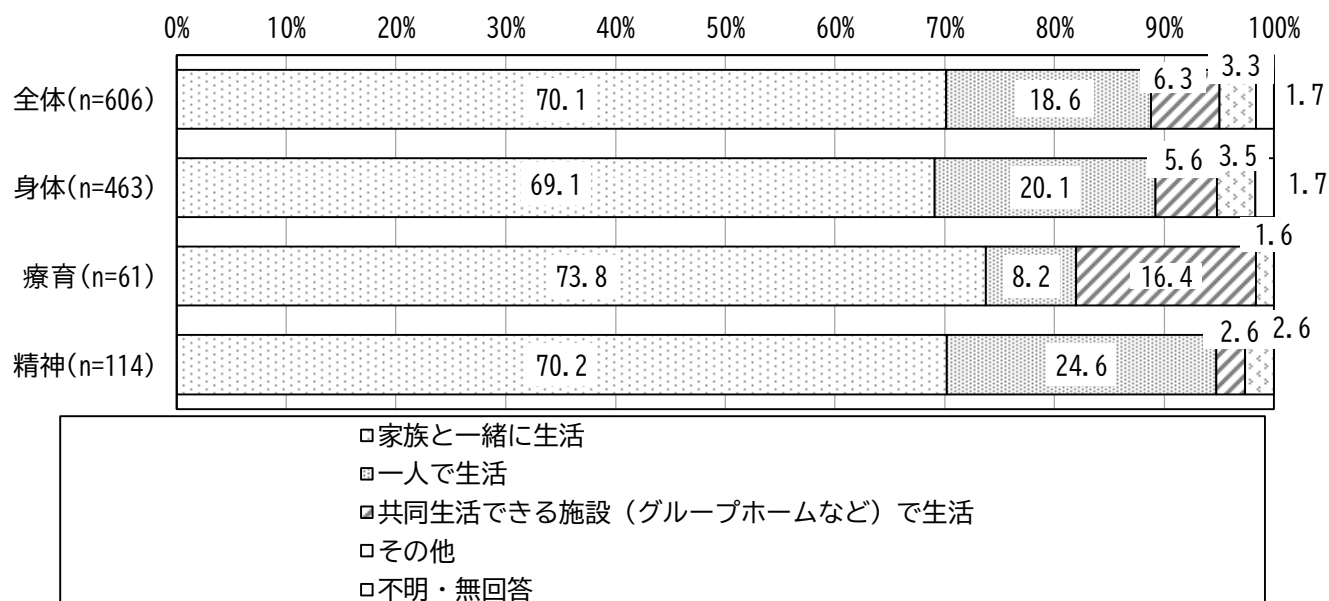
(2) 現在の生活について

問8 あなたは、今どのように生活していますか。(○は1つだけ)

今どのように生活しているかについては、「家族と一緒に生活」が70.1%、「一人で生活」が18.6%、「共同生活できる施設（グループホームなど）で生活」が6.3%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族と一緒に生活」「共同生活できる施設（グループホームなど）で生活」、精神障がいのある人で「一人で生活」が他の障がい種別に比べてやや多くなっています。



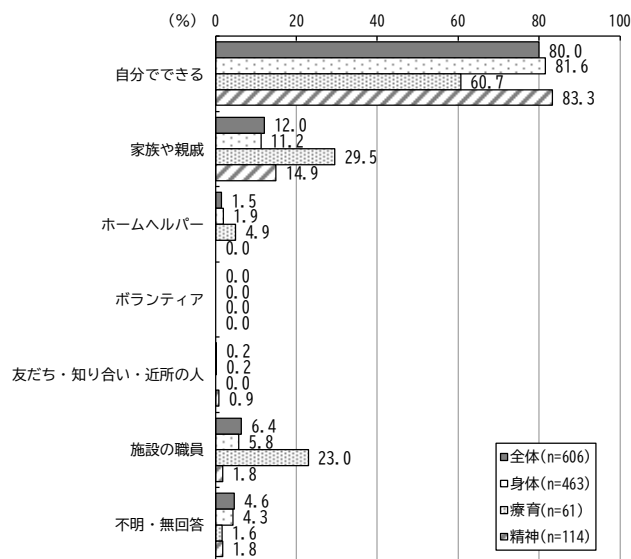
(3) 介護・介助の状況

問9 あなたが以下のことをするとき、だれの支援を受けていますか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

①食事をするとき(料理、配膳、片付けなどは含まない)

【障がい種別】

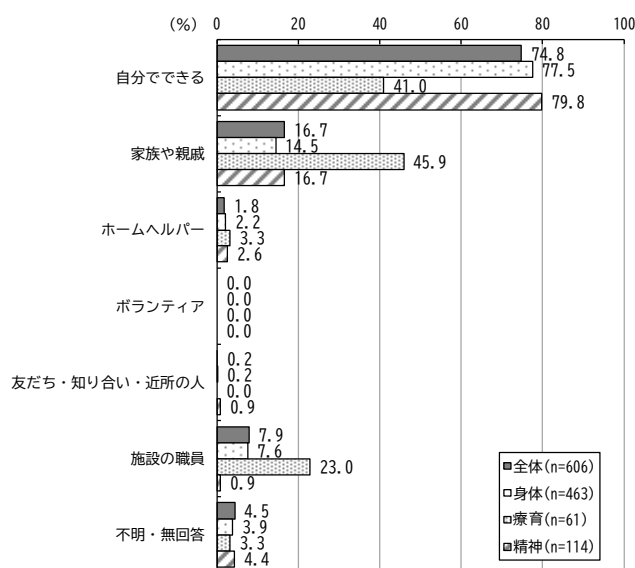
障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。



②薬を飲んだり保管するとき

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。

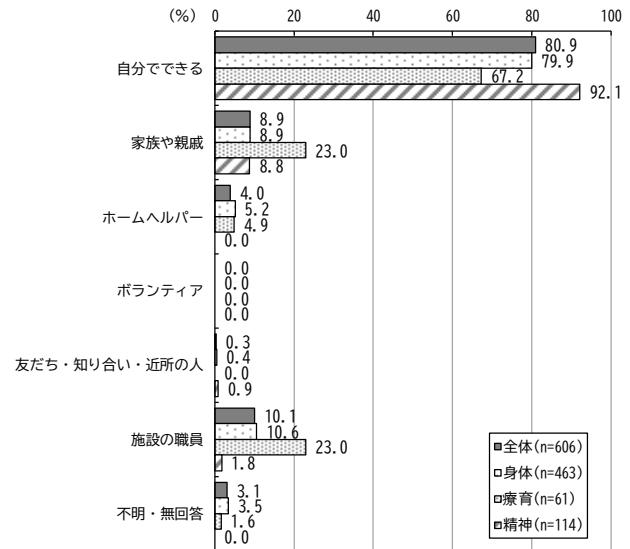


③お風呂に入る・トイレを使うとき

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「自分でできる」と回答している割合が高くなっています。

また、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。

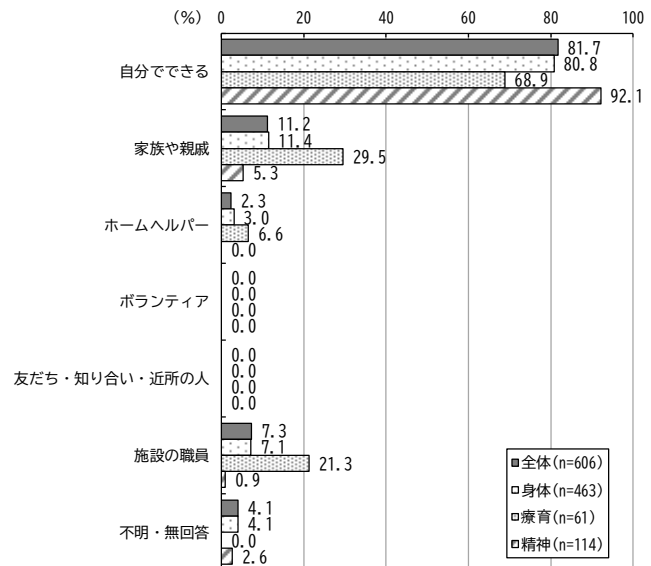


④着替えをするとき

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「自分でできる」と回答している割合が高くなっています。

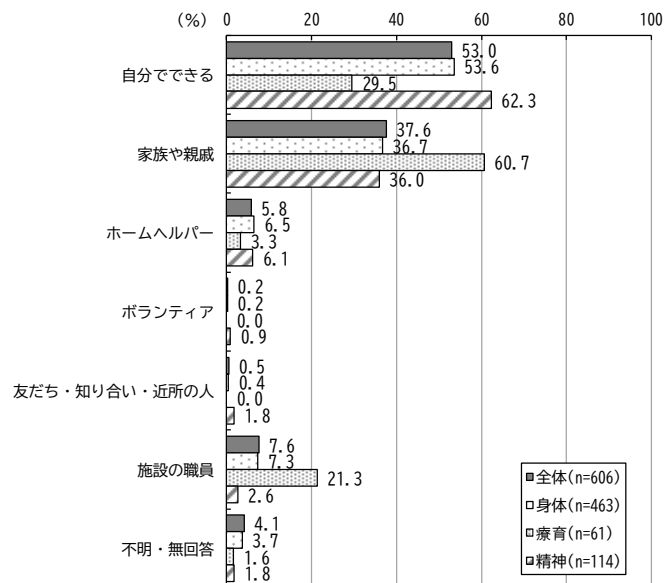
また、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。



⑤料理・掃除・洗濯をするとき

【障がい種別】

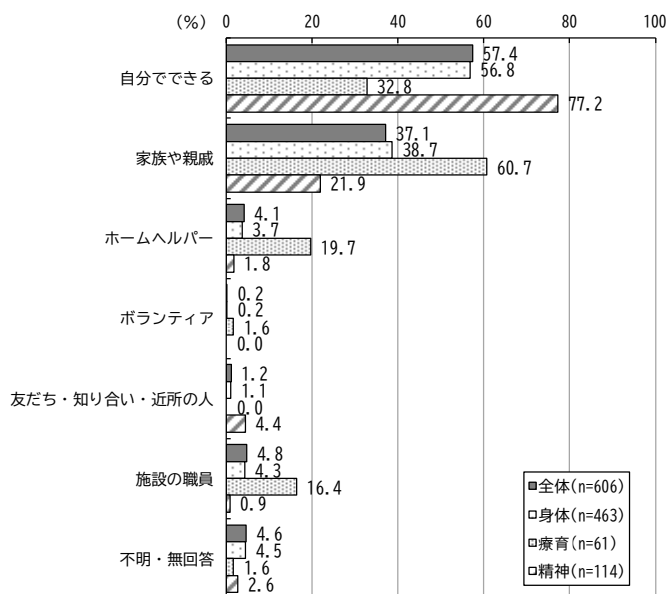
障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。



⑥出かけるとき（通院や買い物など）

【障がい種別】

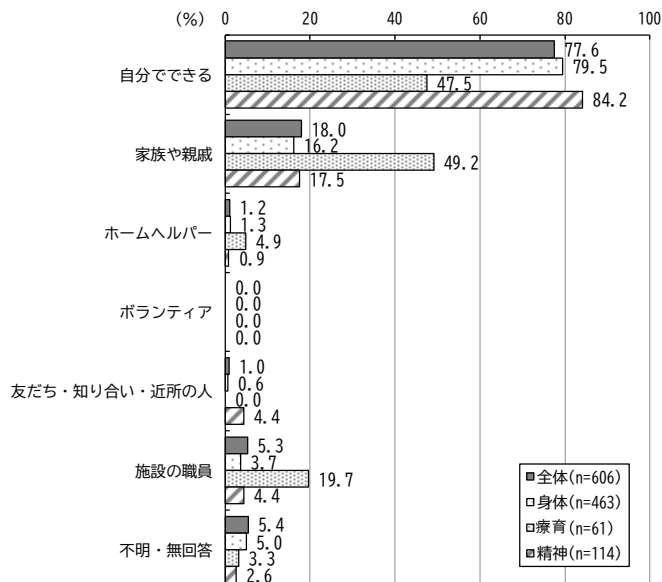
障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「ホームヘルパー」「施設の職員」から支援を受けている割合が、精神障がいのある人で「自分でできる」が高くなっています。



⑦自分の考えを伝えたいとき

【障がい種別】

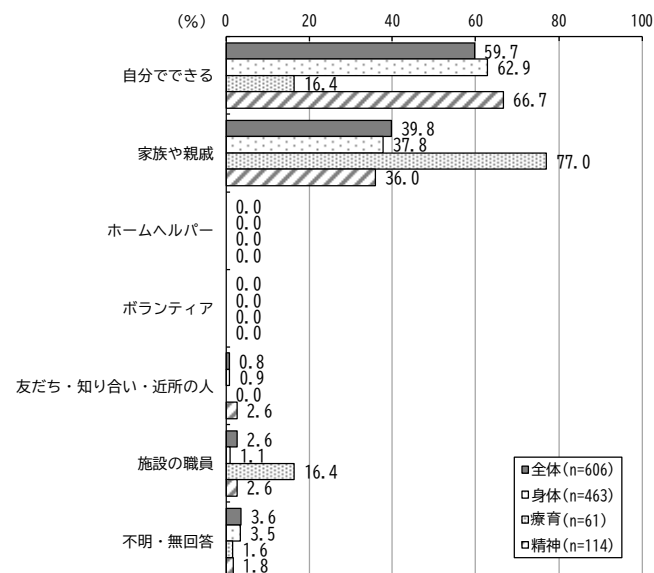
障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。



⑧生活費など、お金の管理をするとき

【障がい種別】

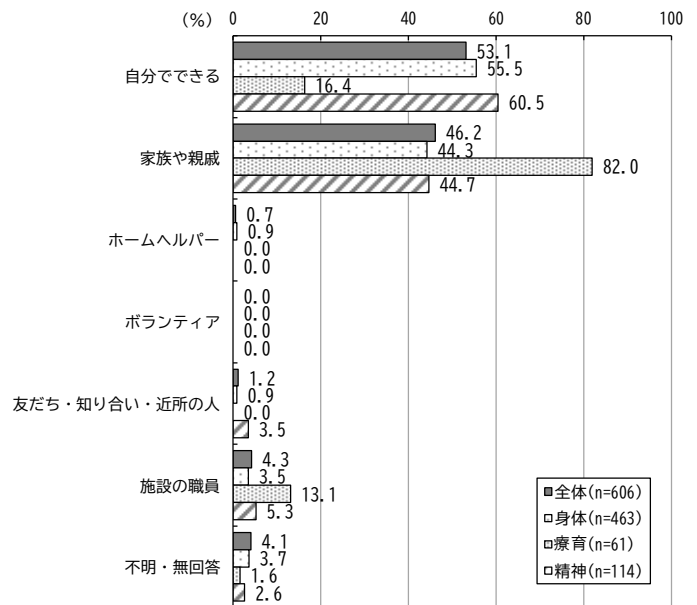
障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。



⑨ 日常の暮らしに必要な手続きをするとき

【障がい種別】

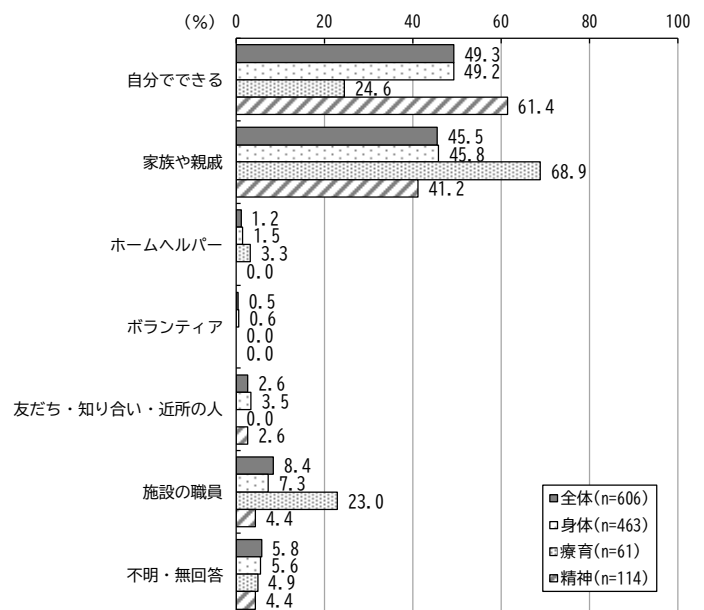
障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が高くなっています。



⑩ 地震や台風など、緊急時に避難・連絡したいとき

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族や親戚」「施設の職員」から支援を受けている割合が、精神障がいのある人で「自分ができる」と回答している割合が高くなっています。



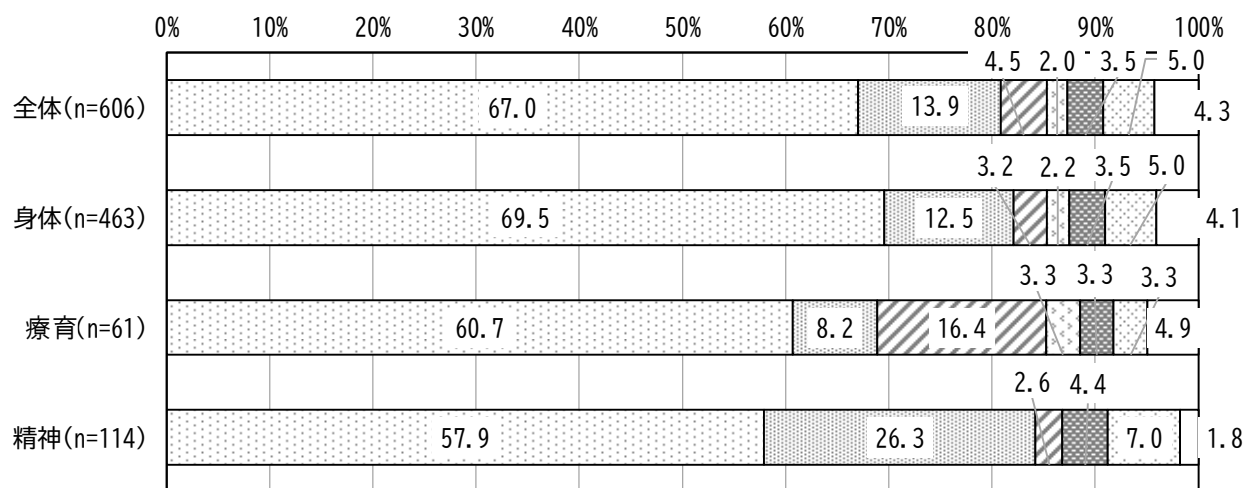
(4) 将来生活してみたい場所

問 10 あなたはどのような場所で生活してみたいと思いますか。(○は1つだけ)

どのような場所で生活してみたいと思うかについては、「家族（親・兄弟姉妹・子）と一緒に自宅で生活したい（もしくは、生活を続けたい）」が 67.0%で最も多く、次いで「家族（親・兄弟姉妹・子）から離れて一人で生活がしたい（もしくは、生活を続けたい）」が 13.9%、「わからない」が 5.0% となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい（もしくは、利用し続けたい）」、精神障がいのある人で「家族（親・兄弟姉妹・子）から離れて一人で生活がしたい（もしくは、生活を続けたい）」が多くなっています。



- 家族（親・兄弟姉妹・子）と一緒に自宅で生活したい（もしくは、生活を続けたい）
- 家族（親・兄弟姉妹・子）から離れて一人で生活がしたい（もしくは、生活を続けたい）
- 専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい（もしくは、利用し続けたい）
- 入所施設で生活したい（もしくは、生活を続けたい）
- その他
- わからない
- 不明・無回答

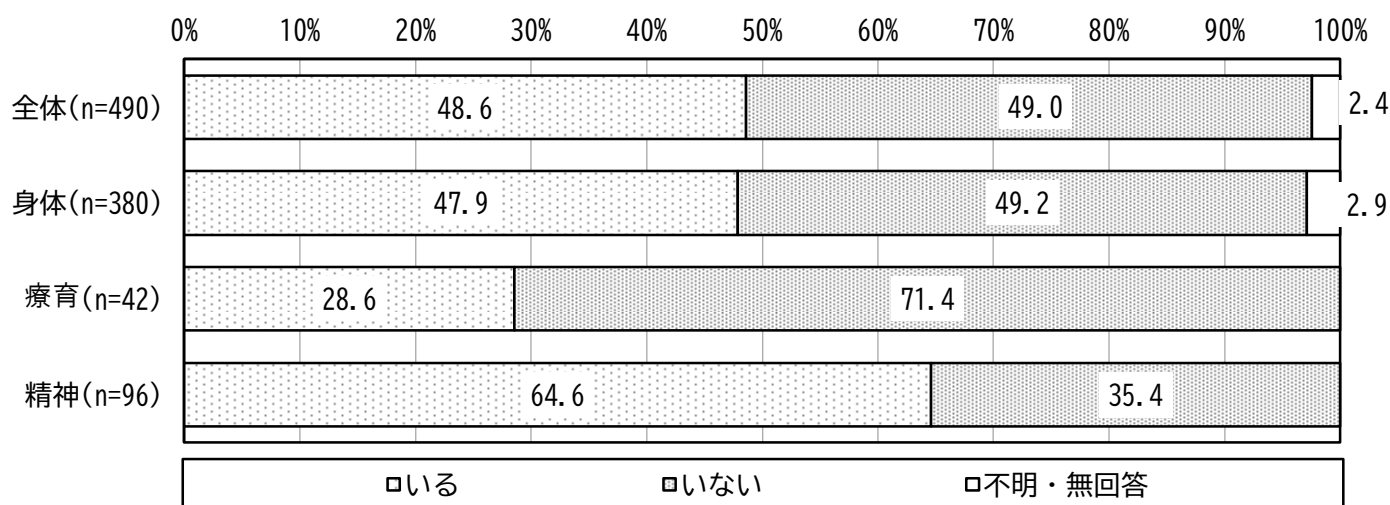
(5) 親しく付き合ったり、頼れる人の有無

問 11 問 10 で 1、2 を選んだ方にお聞きします。家族（親・兄弟姉妹・子）以外で、親しく付き合ったり、困ったりしたときに頼れる人はいますか。（○は1つだけ）

家族（親・兄弟姉妹・子）以外で、親しく付き合ったり、困ったりしたときに頼れる人がいるかについては、「いる」が 48.6%、「いない」が 49.0%となっています。

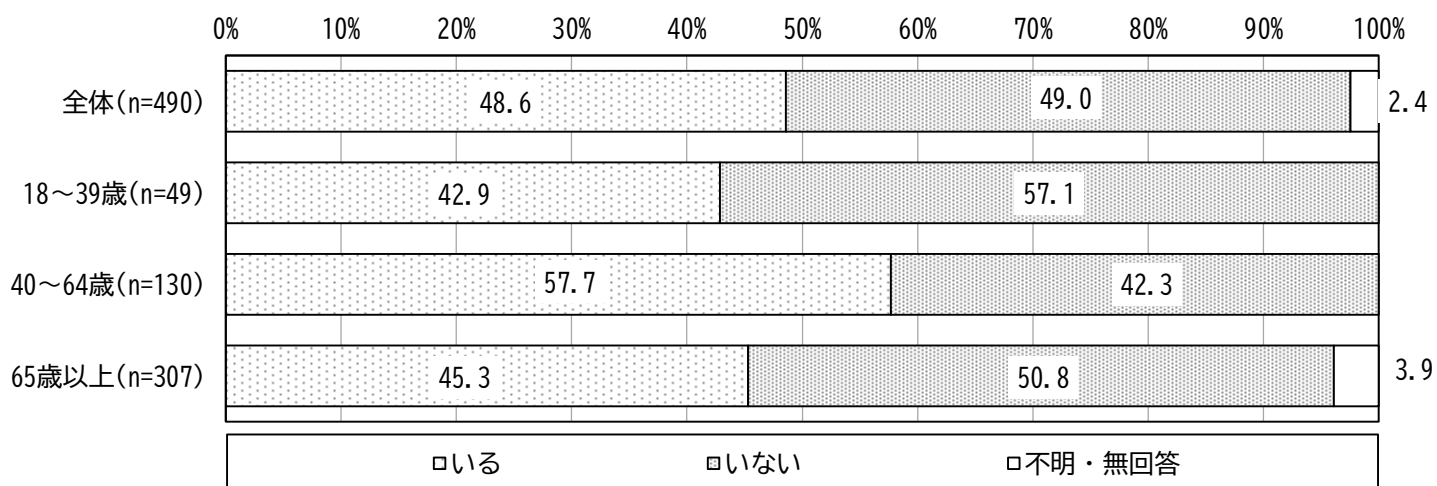
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「いる」が 28.6%と少なくなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、40～64歳で「いる」が 57.7%と多くなっています。



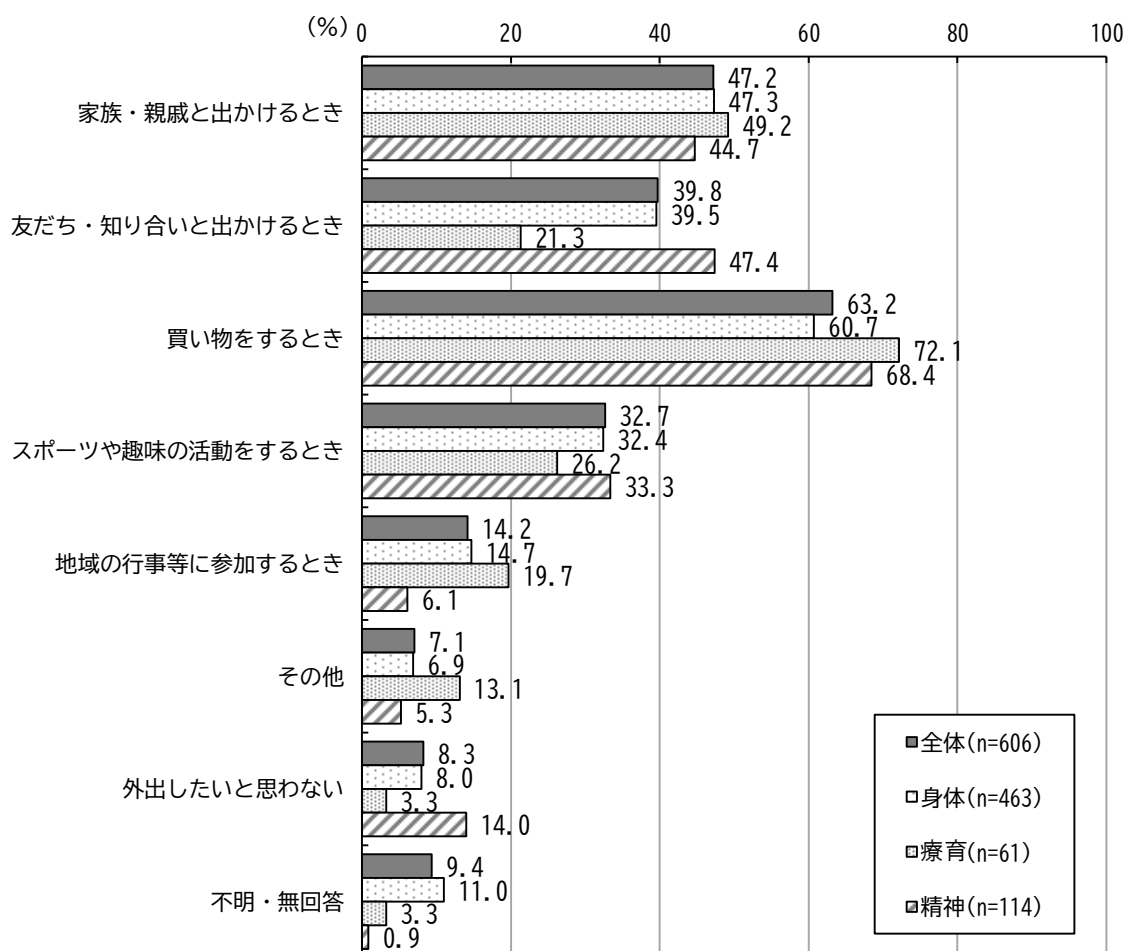
(6) 通学、通勤、通所や通院以外で外出したいと思うとき

問 12 あなたが通学、通勤、通所や通院以外で「外出したい」と思うのは、どのようなときですか。
(あてはまるものすべてに○)

通学、通勤、通所や通院以外で「外出したい」と思うときについては、「買い物をするとき」が63.2%で最も多く、次いで「家族・親戚とでかけるとき」が47.2%、「友だち・知り合いと出かけるとき」が39.8%となっています。

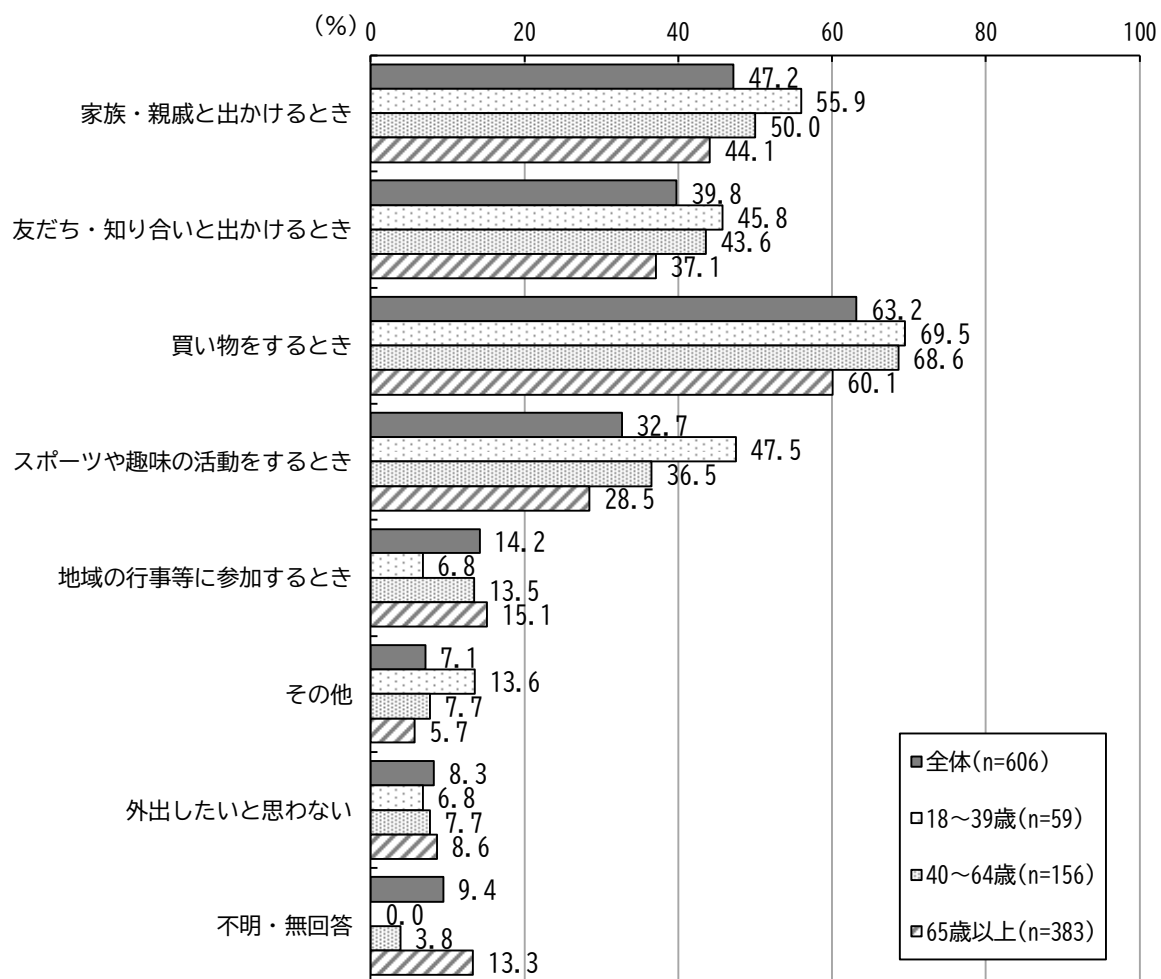
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「買い物をするとき」「地域の行事などに参加するとき」が、精神障がいのある人で「友だち・知り合いと出かけるとき」「外出したいと思わない」が他の障がい種別に比べて多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「スポーツや趣味の活動をするとき」が多くなっています。



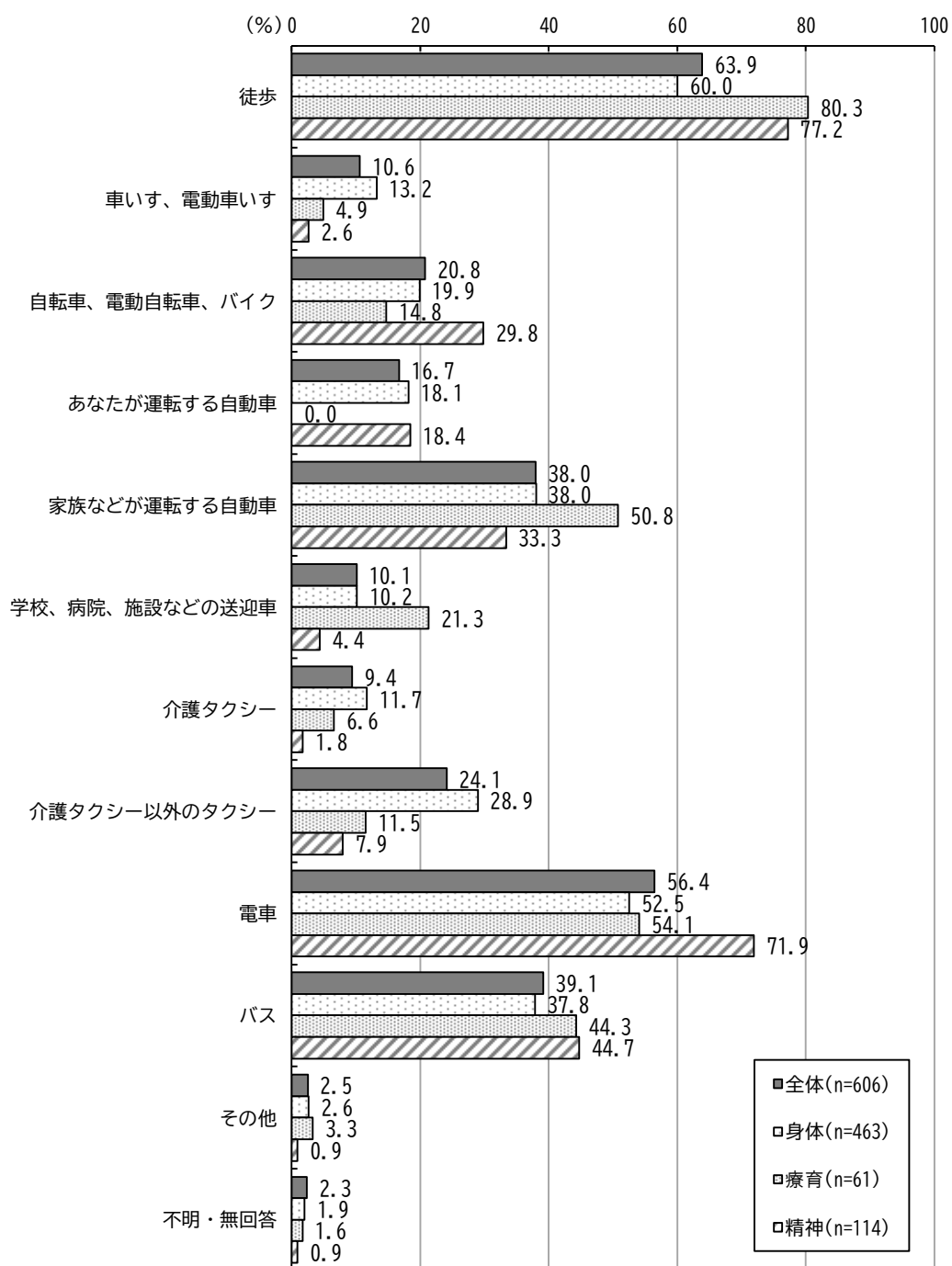
(7) 外出時の移動手段

問 13 あなたが出かけるとき、何で移動しますか（通学、通勤、通所や通院も含む）。（もっともあてはまるもの5つまでに○）

出かけるとき、何で移動するかについては、「徒歩」が63.9%で最も多く、次いで「電車」が56.4%、「バス」が39.1%となっています。

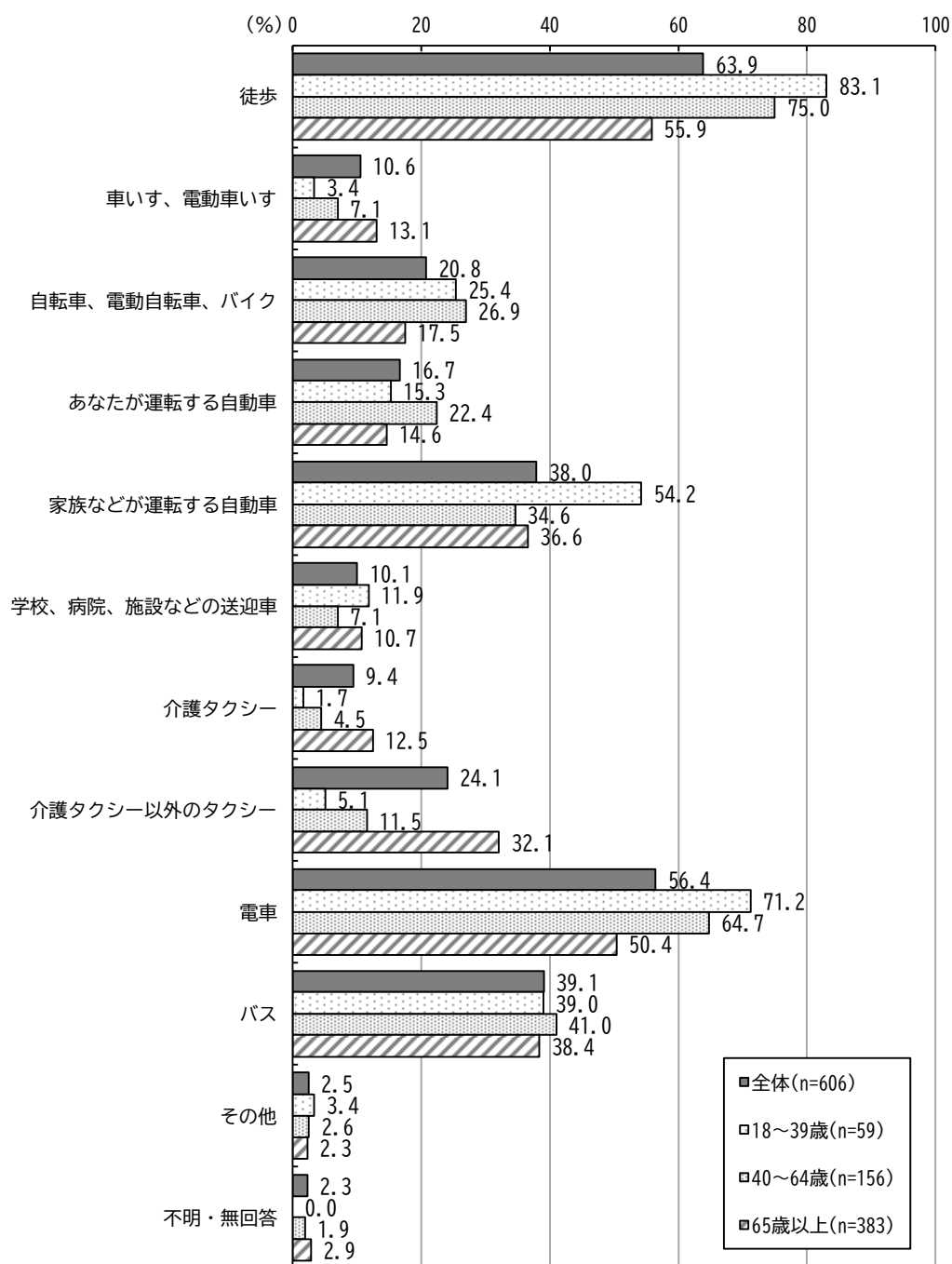
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「徒歩」「家族などが運転する自動車」、精神障がいのある人で「電車」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「徒歩」「電車」「家族などが運転する自動車」が多くなっています。



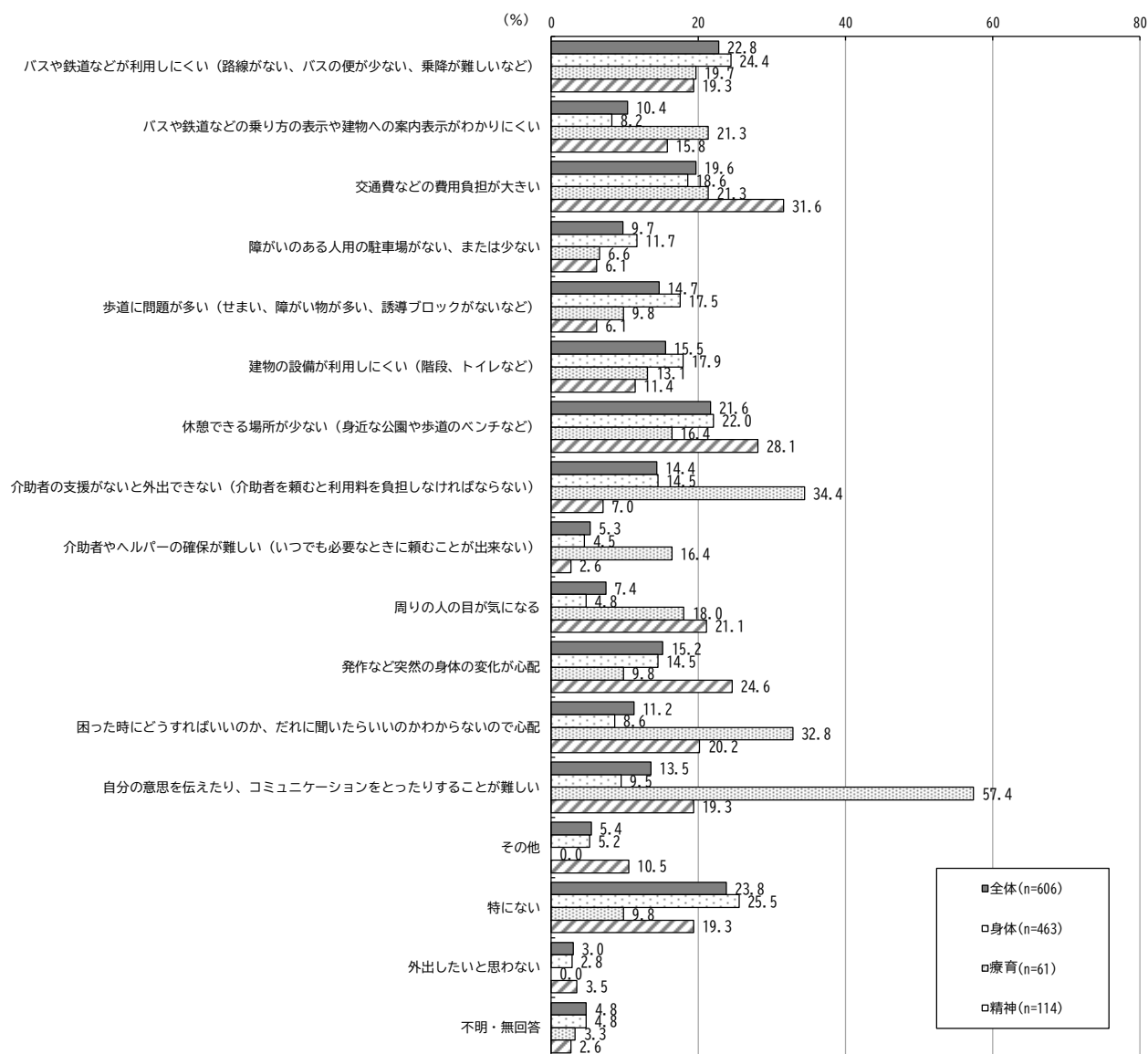
(8) 外出時に困ったり、心配になったりすること

問 14 あなたが出かけるときに、困ったり、心配になったりすることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

出かけるときに、困ったり、心配になったりすることについては、「特にない」が23.8%で最も多く、次いで「バスや鉄道などが利用しにくい(路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど)」が22.8%、「休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)」が21.6%となっています。

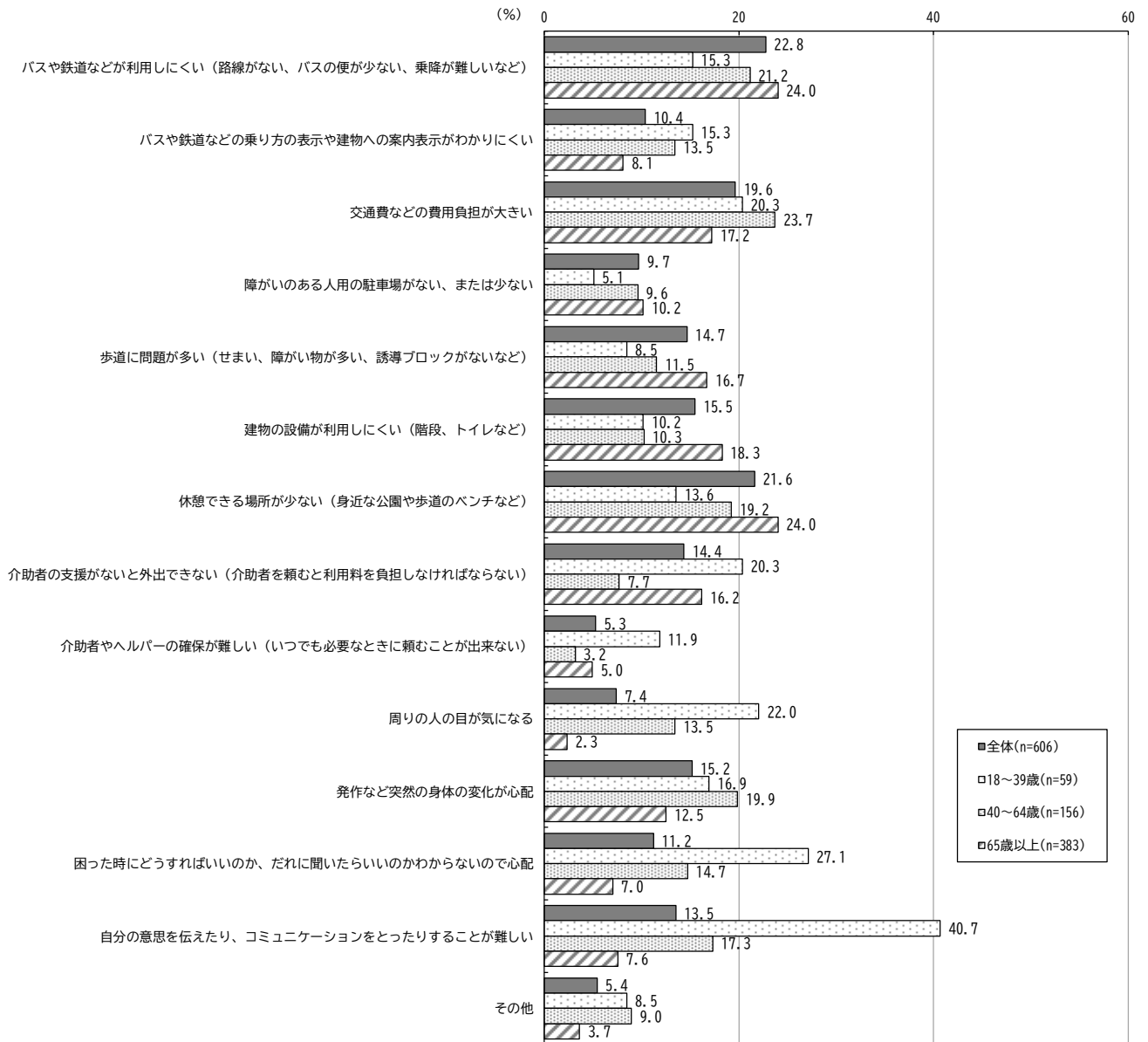
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「バスや鉄道などが利用しにくい(路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど)」、知的障がい・発達障がいのある人で「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが難しい」「介助者の支援がないと外出できない(介助者を頼むと利用料を負担しなければならない)」「困ったときにどうすればいいのかわからないので心配」、精神障がいのある人で「交通費などの費用負担が大きい」「休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)」「発作など突然の身体の変化が心配」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが難しい」「困ったときにどうすればいいのか、だれに聞いたらいいのかわからないので心配」が、40～64歳では「交通費などの費用負担が大きい」「発作など突然の身体の変化が心配」が、65歳以上では「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレなど）」が多くなっています。



3. 日中・夕方や休日の過ごし方、仕事などについて

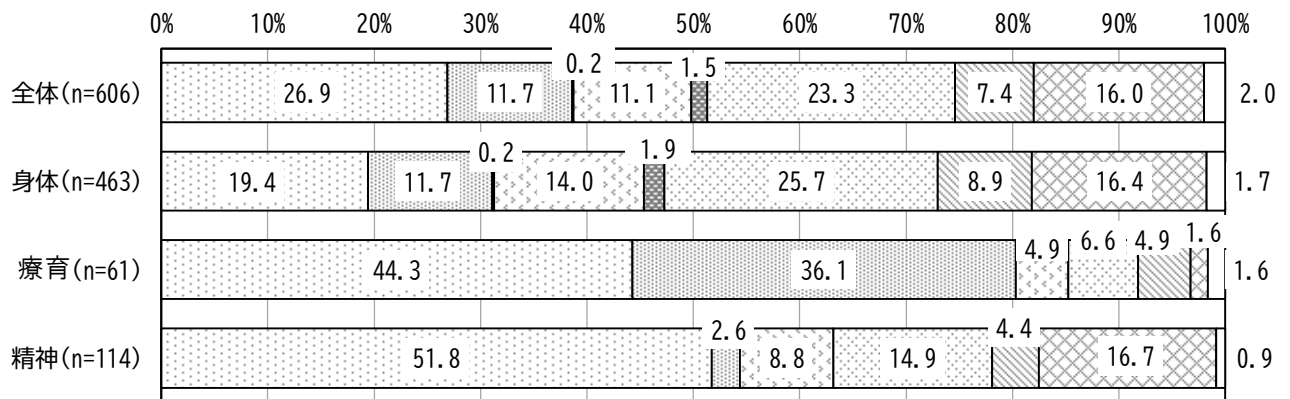
(1) 平日の日中の主な過ごし方

問 15 あなたは、平日の日中に主に何をしていますか。(○は1つだけ)

平日の日中に主に何をしているかについては、「仕事をしている（就労訓練含む）」が 26.9%で最も多く、次いで「家事などをしている」が 23.3%、「特に何もしていない」が 16.0%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「家事などをしている」、知的障がい・発達障がいのある人で「通所サービス（介護や訓練など）を受ける施設などで生活している、または通っている」が多くなっています。



- 仕事をしている（就労訓練含む）
- 通所サービス（介護や訓練など）を受ける施設などで生活している、または通っている
- 大学、専門学校などに通っている
- 病院に通っている（リハビリ、デイケアなど）
- 地域活動に参加している
- 家事などをしている
- その他
- 特に何もしていない
- 不明・無回答

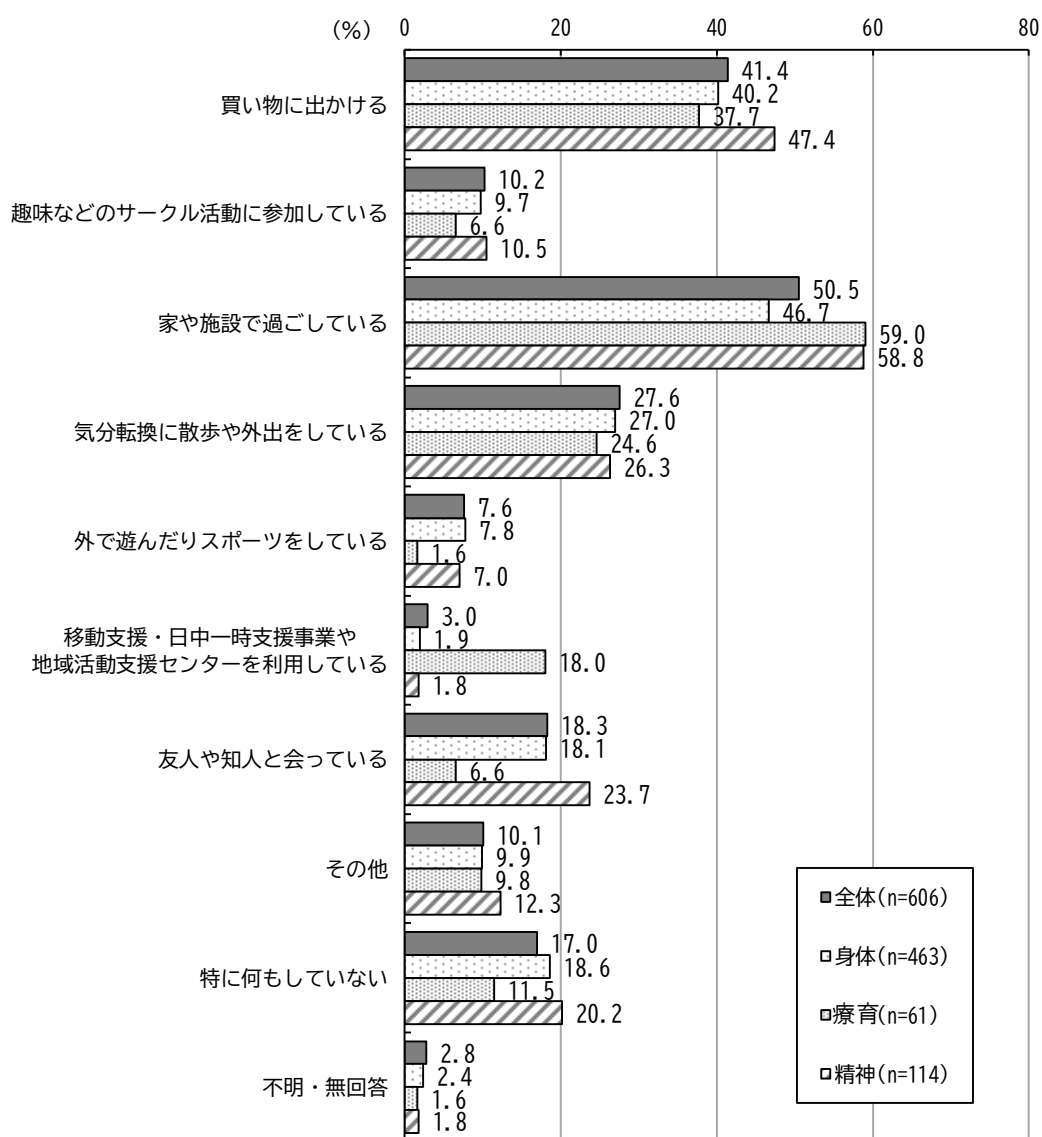
(2) 平日の夕方以降や休日の主な過ごし方

問 16 あなたは、平日の夕方以降や休日を主に何をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

平日の夕方以降や休日を主に何をしているかについては、「家や施設で過ごしている」が50.5%で最も多く、次いで「買い物に出かける」が41.4%、「気分転換に散歩や外出をしている」が27.6%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「移動支援・日中一時支援事業や地域活動支援センターを利用している」、精神障がいのある人で「買い物に出かける」「友人や知人と会っている」が多くなっています。



◇平日の夕方以降・休日に主にしている事 「その他」の回答

内 容	
① 趣味・余暇活動	
テレビ・動画視聴など (10人)	家事 刺しゅう
塗り絵 テレビ視聴 音楽鑑賞	洋裁や手芸
ラジオ鑑賞	読書、パズル等
散歩	読書 (2人)
公園	図書館
昼寝など	運動や創作活動
家で趣味を楽しむ	施設でもらっている絵を書いている
② 家事・家庭内での活動	
家事 (8人)	料理
買い物	細かい物の修理等
終日、部屋で動く練習をしている	
③ 介護・家族支援	
家族の介護 (3人)	
④ 通学・就労	
仕事 (2人)	店番
夜間学校にっている	
⑤ 外出・社会参加活動	
スーパーで年配の方の話し相手をしている	聖書の勉強会
⑥ 医療関連 (通院等)	
病院	通院
リハビリで外出	

など

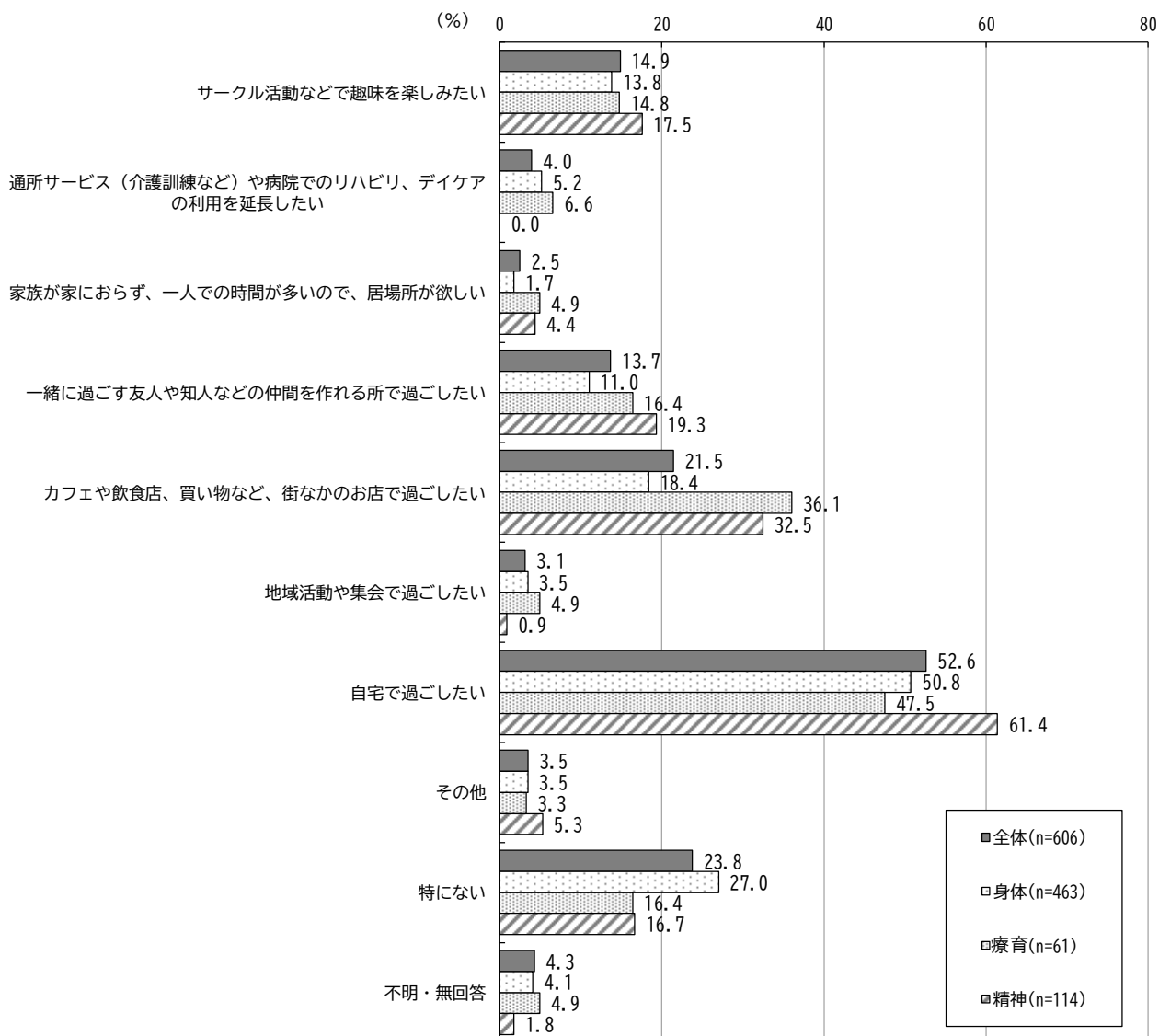
(3) 平日の夕方以降や休日の主な過ごし方の希望

問 17 あなたは、平日の夕方以降や休日の過ごし方で希望されていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

平日の夕方以降や休日の過ごし方で希望していることについては、「自宅で過ごしたい」が52.6%で最も多く、次いで「特にない」が23.8%、「カフェや飲食店、買い物など、街なかのお店で過ごしたい」が21.5%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「カフェや飲食店、買い物など、街なかのお店で過ごしたい」、精神障がいのある人で「サークル活動などで趣味を楽しみたい」「一緒に過ごす友人や知人などの仲間を作れる所で過ごしたい」「自宅で過ごしたい」が多くなっています。



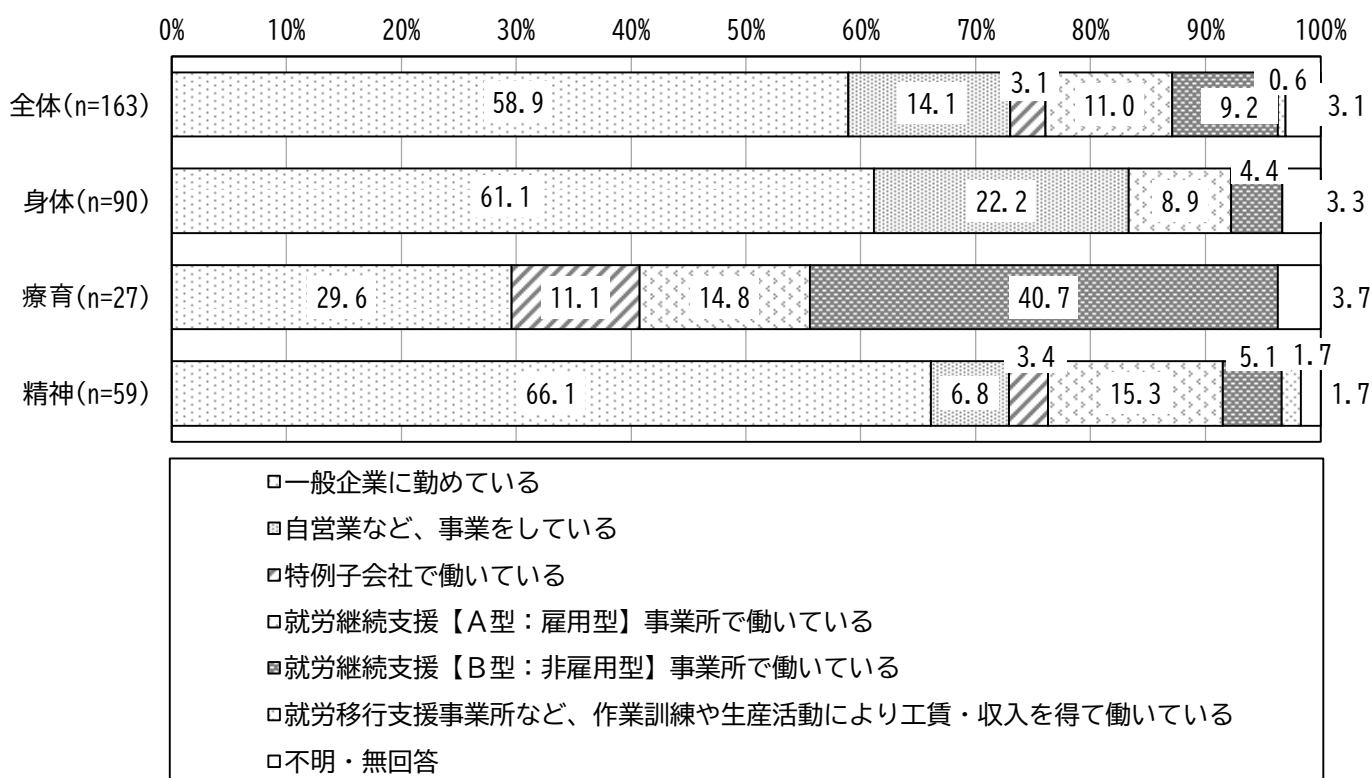
(4) 就労場所

問 18 問 15 で 1 (「仕事をしている(就労訓練含む)」) を選んだ方にお聞きします。どのような場所で働いていますか。(○は1つだけ)

どのような場所で働いているかについては、「一般企業に勤めている」が 58.9%で最も多く、次いで「自営業など、事業をしている」が 14.1%、「就労継続支援【A型：雇用型】事業所で働いている」が 11.0%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「自営業など、事業をしている」、知的障がい・発達障がいのある人で「就労継続支援【B型：非雇用型】事業所で働いている」、精神障がいのある人で「就労継続支援【A型：雇用型】事業所で働いている」が多くなっています。また、「一般企業に勤めている」は知的障がい・発達障がいのある人で少なくなっています。



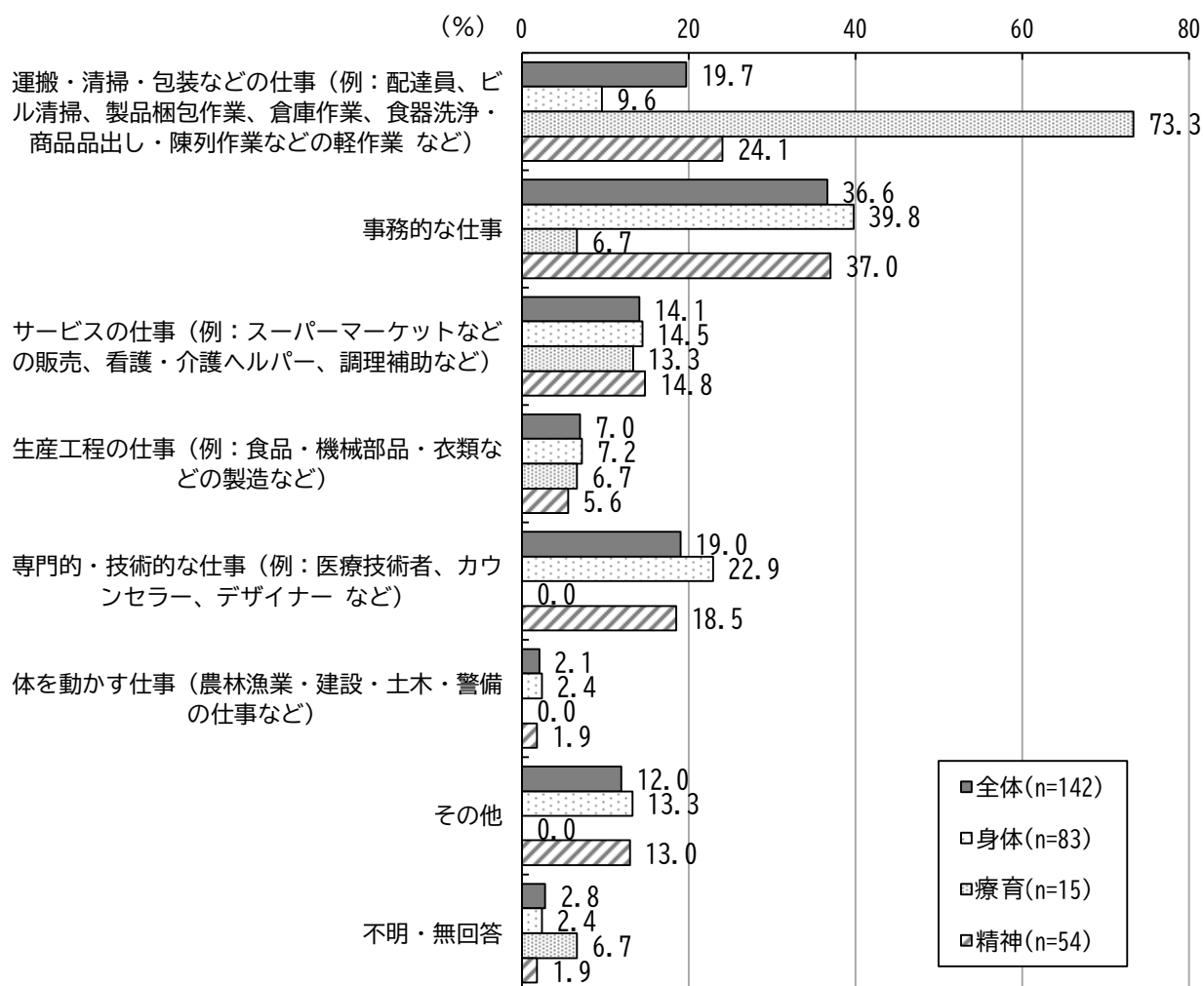
(5) 仕事の種類

問 19 問 18 で 1~4 のいずれかを選んだ方にお聞きします。どのような仕事をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

どのような仕事をしているかについては、「事務的な仕事」が 36.6%で最も多く、次いで「運搬・清掃・包装などの仕事（例：配達員、ビル清掃、製品梱包作業、倉庫作業、食器洗浄・商品品出し・陳列作業などの軽作業など）」が 19.7%、「専門的・技術的な仕事（例：医療技術者、カウンセラー、デザイナーなど）」が 19.0%となっています。

【障がい種別】

知的障がい・発達障がいのある人で「運搬・清掃・包装などの仕事（例：配達員、ビル清掃、製品梱包作業、倉庫作業、食器洗浄・商品品出し・陳列作業などの軽作業など）」が多くなっています。



◇仕事内容 「その他」の回答

内 容	
① 執筆・編集関連業務	
創作	校正
執筆 創作	
② 医療・福祉関連職	
歯科助手及び受付	保育教諭（公務員）
③ 経営・自営業	
会社経営	経営者
④ 事務・軽作業	
郵便物の仕分け	
⑤ 接客・販売業務	
アパレル	カフェ業務
小売業	
⑥ 公共・施設管理関連業務	
市役所関連駐輪場	清掃含むマンション管理人
⑦ 不動産関連業務	
不動産業	

① あなたが最も働く時間の多い仕事は、どのような雇用形態ですか。(〇は1つだけ)

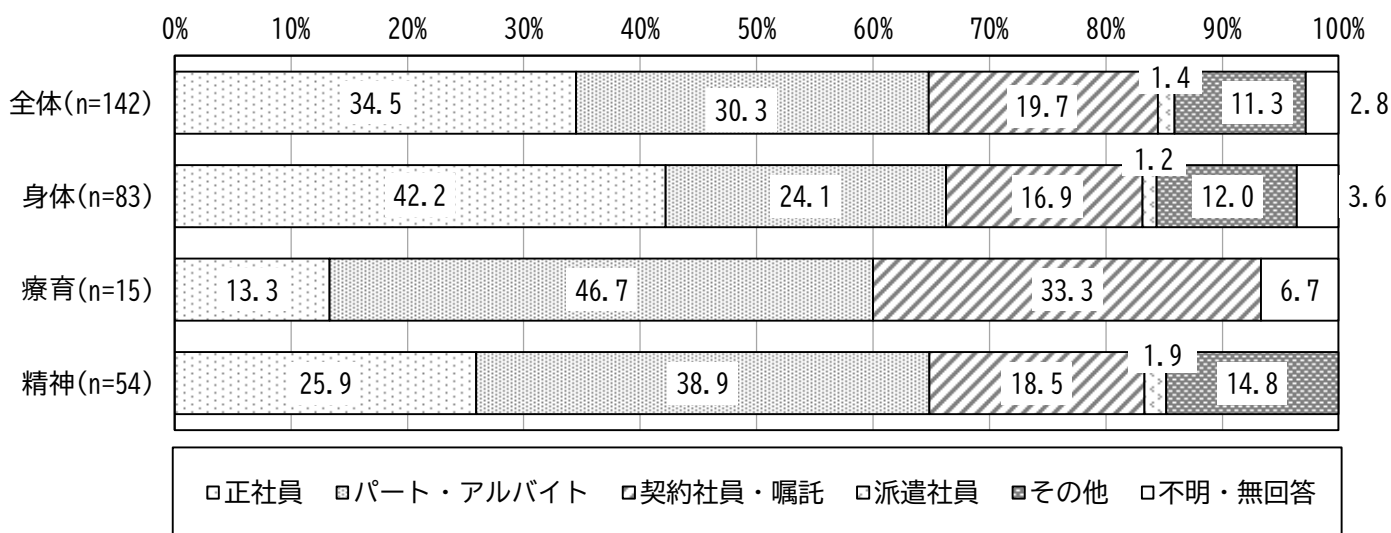
② 1か月の収入(月平均)はどれぐらいですか。複数箇所で働いている場合は合計額を教えてください。※賞与は含まずに教えてください。

最も働く時間の多い仕事の雇用形態については、「正社員」が34.5%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が30.3%、「契約社員・嘱託」が19.7%となっています。

回答した人の1カ月の収入の平均は、49.01万円となっています。

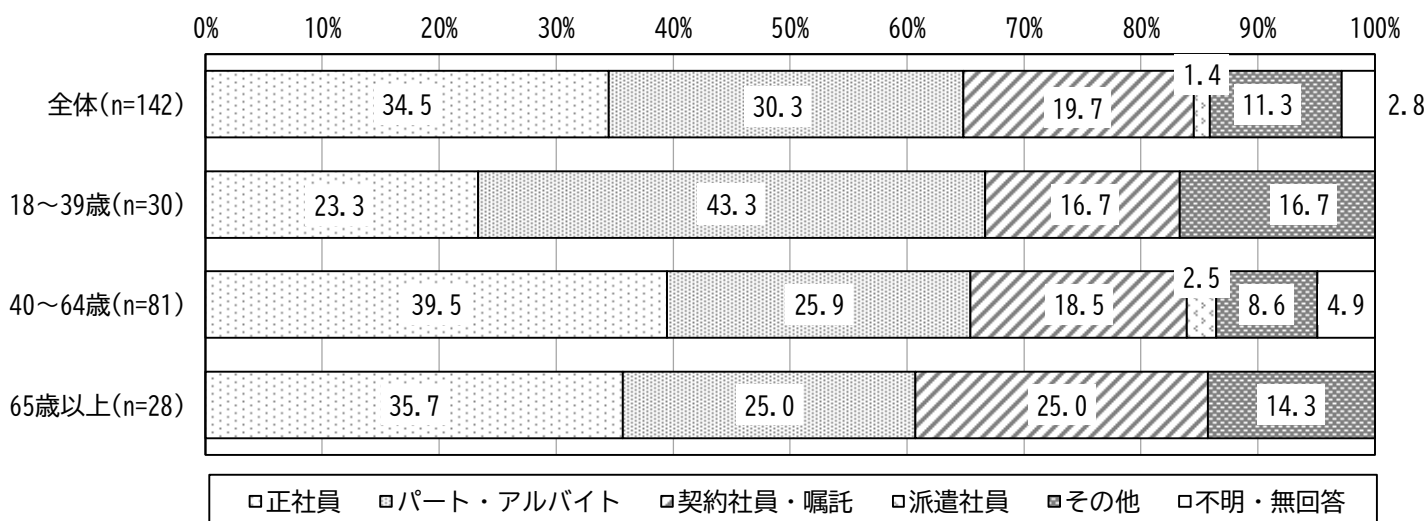
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人、精神障がいのある人については、身体障がいのある人よりも非正規雇用の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では他の年齢に比べて非正規雇用の割合が高くなっています。



◇もっとも働く時間の多い仕事の雇用形態 「その他」の回答

内 容	
① 自営業・経営（役員含む）	
個人事業主	役員・会社役員（3人）
自営業（2人）	雇用主
② 就労支援による雇用	
就労継続支援 A 型（2人）	
③ 家族従業者	
専従者従業員	
④ 公的機関等での勤務	
公務員	

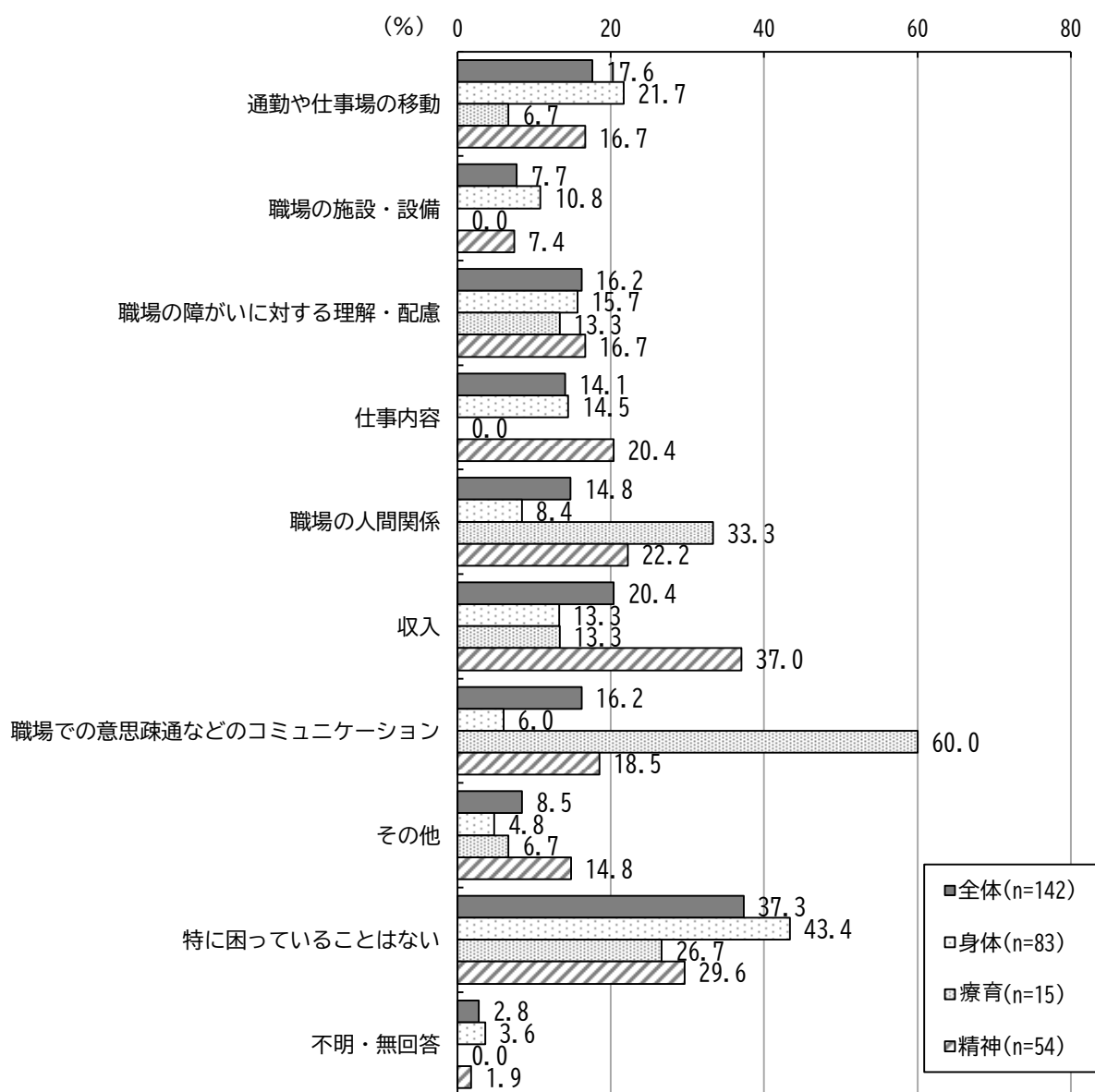
など

③ 現在の仕事で特に困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

現在の仕事で特に困っていることについては、「特に困っていることはない」が37.3%で最も多く、次いで「収入」が20.4%、「通勤や仕事場の移動」が17.6%となっています。

【障がい種別】

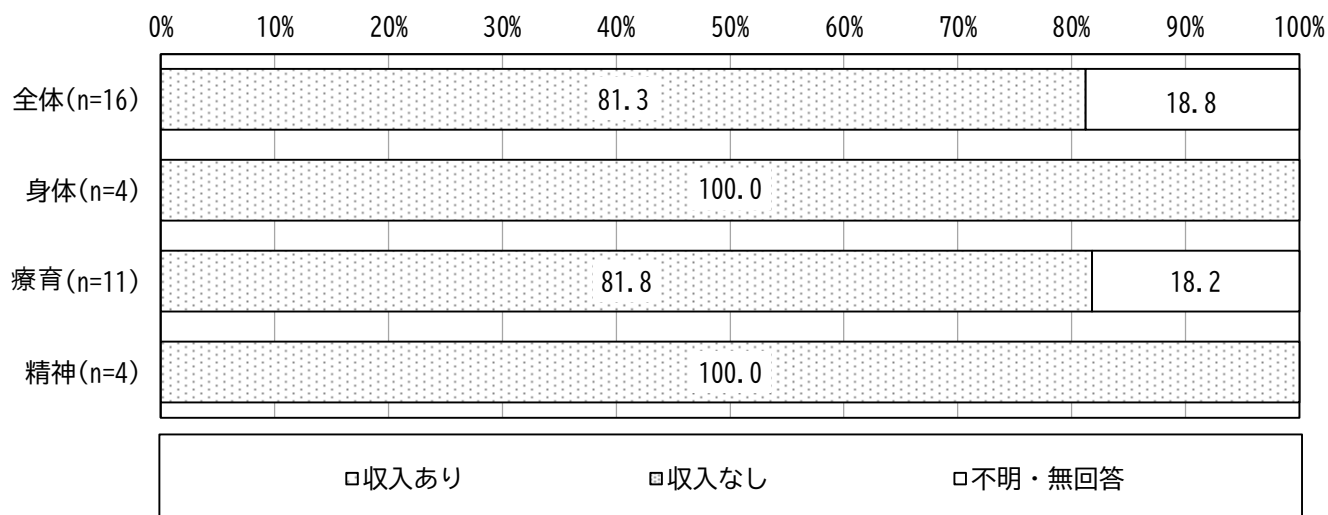
障がい種別にみると、身体障がいのある人で「通勤や仕事場の移動」、知的障がい・発達障がいのある人で「職場での意思疎通などのコミュニケーション」「職場での人間関係」、精神障がいのある人で「収入」が多くなっています。



(6) 1カ月の工賃収入

問 20 問 18 で 5、6 のいずれかを選んだ方にお聞きします。1カ月の工賃・収入は平均どのくらいですか。(○は1つだけ)

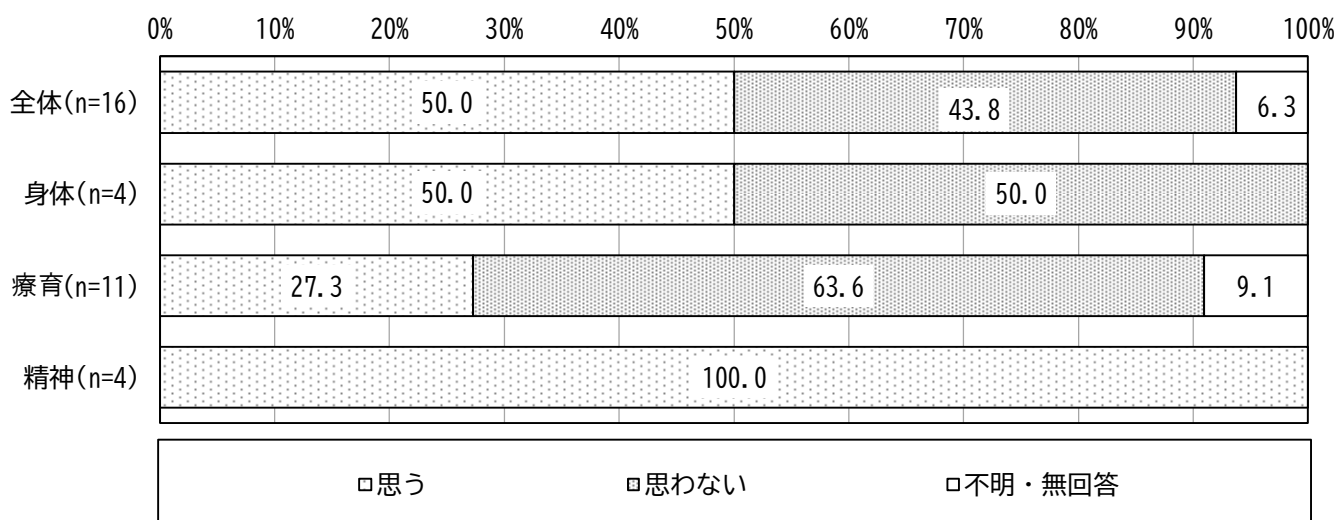
1カ月の工賃・収入については、「収入あり」が 81.3%、「収入なし」が 18.8%となっています。回答した人の1カ月の平均金額は、5.31万円となっています。



(7) 一般就労の希望

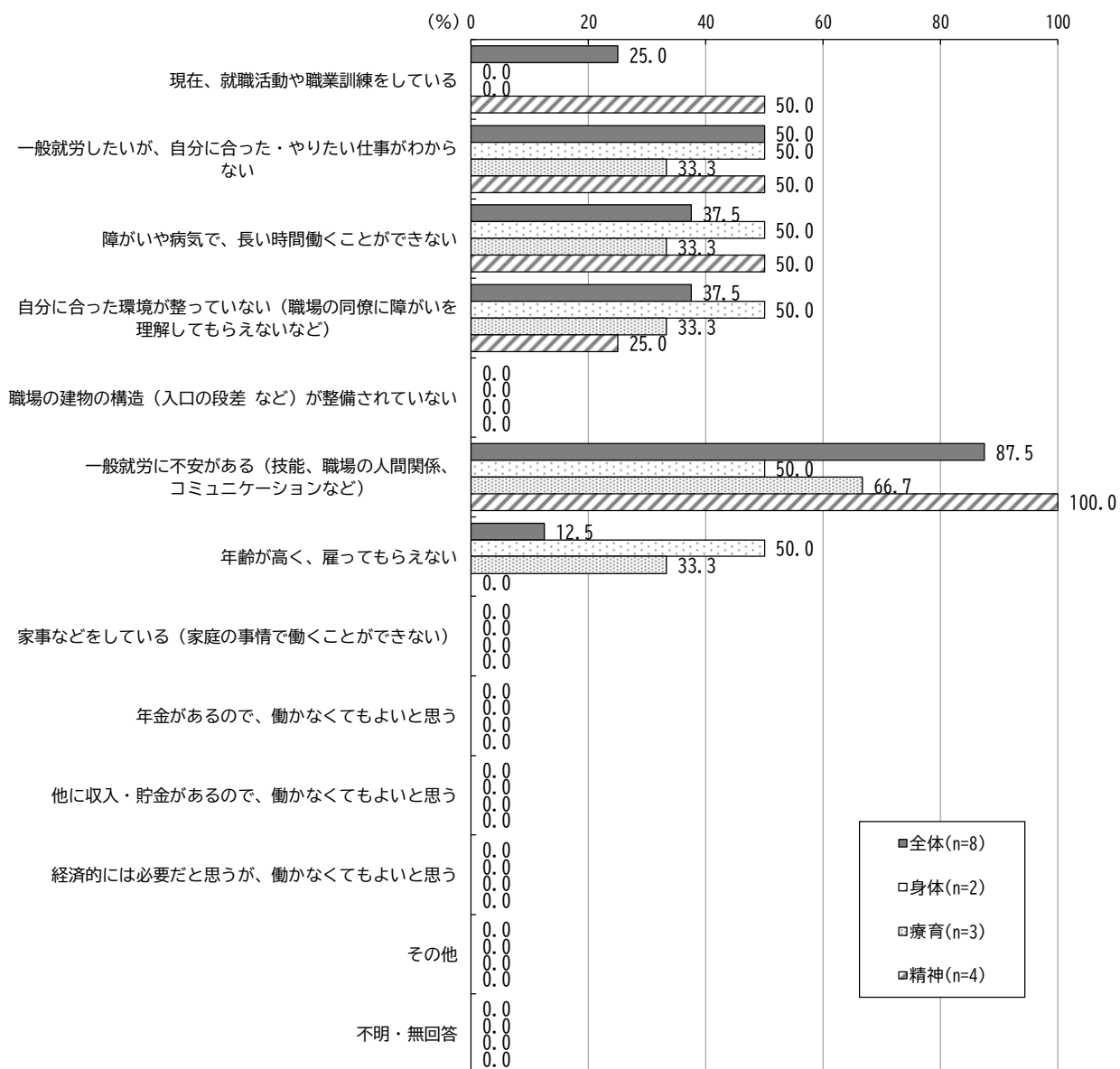
問 21 あなたは、一般就労（一般企業などで働く※障がい者雇用枠で働くことも含む）をしたいと思いませんか。(○は1つだけ)

一般就労をしたいと思うかについては、「思う」が 50.0%、「思わない」が 43.8%となっています。



① 問 21 で 1 を選んだ方にお聞きします。現在、一般就労をしていない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

現在、一般就労をしていない理由については、「一般就労に不安がある（技能、職場の人間関係、コミュニケーションなど）」が 87.5%で最も多く、次いで「一般就労したいが、自分に合った・やりたい仕事が見つからない」が 50.0%、「障がいや病気で、長い時間働くことができない」「自分に合った環境が整っていない（職場の同僚に障がいを理解してもらえないなど）」が 37.5%となっています。



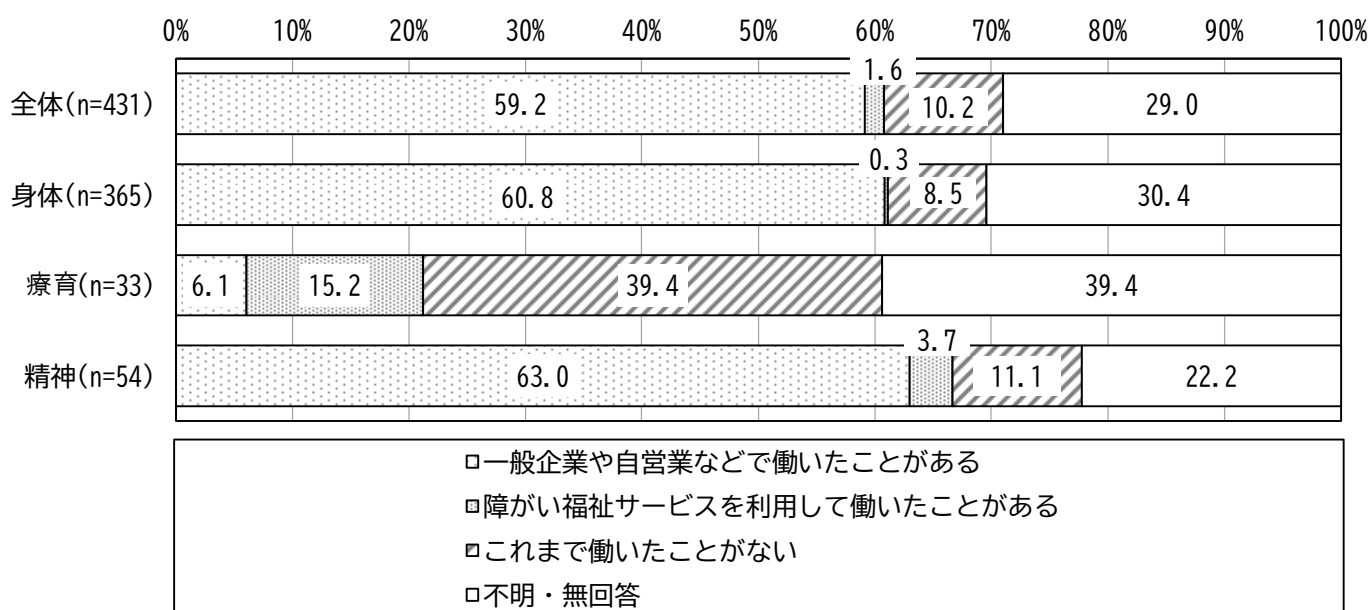
(8) これまでの就労経験

問 22 問 15 で 2～8 のいずれかを選んだ方にお聞きします。あなたはこれまでに働いた経験がありますか。(○は1つだけ)

これまでに働いた経験については、「一般企業や自営業などで働いたことがある」が 59.2%、「障がい福祉サービスを利用して働いたことがある」が 1.6%、「これまで働いたことがない」が 10.2% となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人は「これまで働いたことがない」が他の障がい種別に比べて多くなっています。

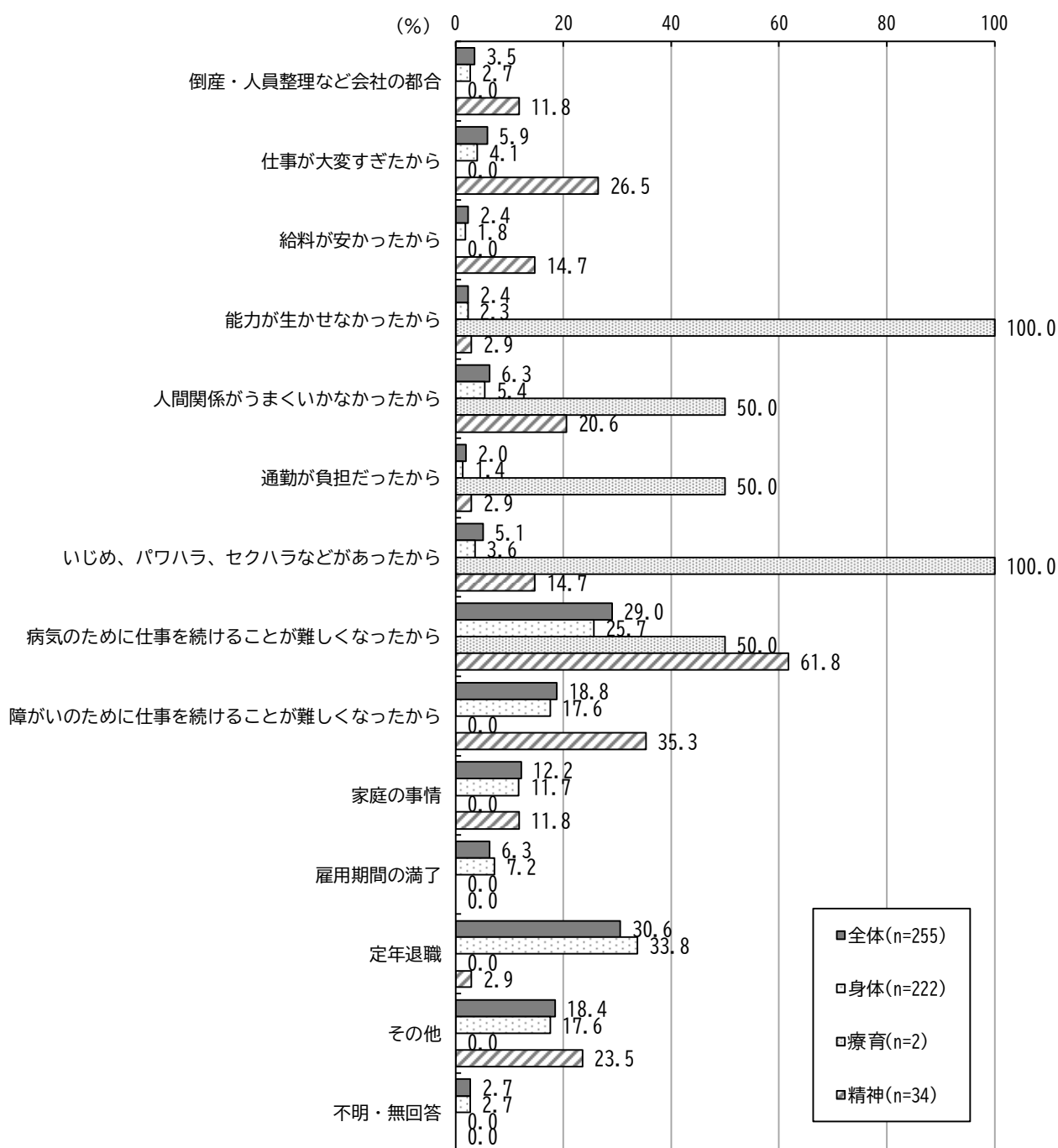


① 問 22 で 1 を選んだ方にお聞きします。一般企業や自営業などの仕事を辞めたのはどのような理由ですか。(あてはまるものすべてに○)

一般企業や自営業などの仕事を辞めた理由については、「定年退職」が 30.6%で最も多く、次いで「病気のために仕事を続けることが難しくなったから」が 29.0%、「障がいのために仕事を続けることが難しくなったから」が 18.8%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「病気のために仕事を続けることが難しくなったから」「障がいのために仕事を続けることが難しくなったから」「仕事が大変すぎたから」が多くなっています。



◇一般企業や自営業などの仕事を辞めた理由 「その他」の回答

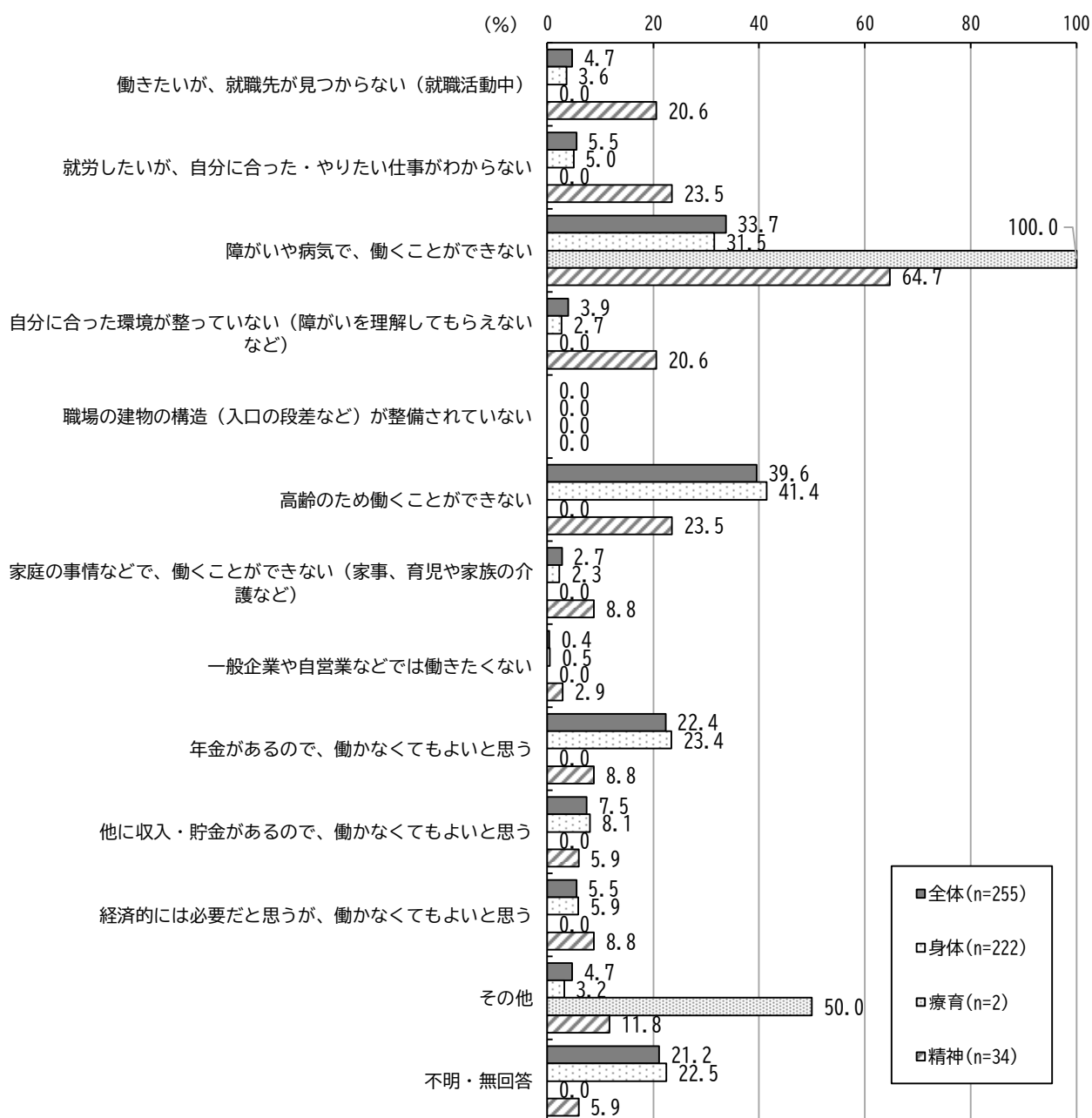
内 容	
① 年齢・高齢化に関する理由	
高齢のため（5人）	年齢のため
年を重ね仕事がなくなってくる	
② 就業条件・契約・経営に関する理由	
契約満了	事業譲渡・売却
後継者が見つかったため	
③ 学業に関する理由	
学業との両立が大変になった	
④ 結婚・出産に関する理由	
結婚のため（9人）	出産や子育てのため（2人）
⑤ 健康・病気・療養に関する理由	
入院中であったため	
病気等のため働けなくなった・今までの仕事ができなくなった（2人）	
⑥ 介護・家族事情に関する理由	
家族の介護のため（2人）	
⑦ 心理的・精神的理由	
苦行、自殺を考えることが増えた	
⑧ その他	
震災のため	一身上の都合
休職中（3人）	働かなくてもいいから
理由を思い出せない	

② 働いていない理由について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

働いていない理由については、「高齢のため働くことができない」が39.6%で最も多く、次いで「障がいや病気で、働くことができない」が33.7%、「年金があるので、働かなくてもよいと思う」が22.4%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「障がいや病気で、働くことができない」「就労したいが、自分に合った・やりたい仕事が見つからない」「働きたいが、就職先が見つからない(就職活動中)」「自分に合った環境が整っていない(障がいを理解してもらえないなど)」が他の障がい種別の傾向に比べて多くなっています。

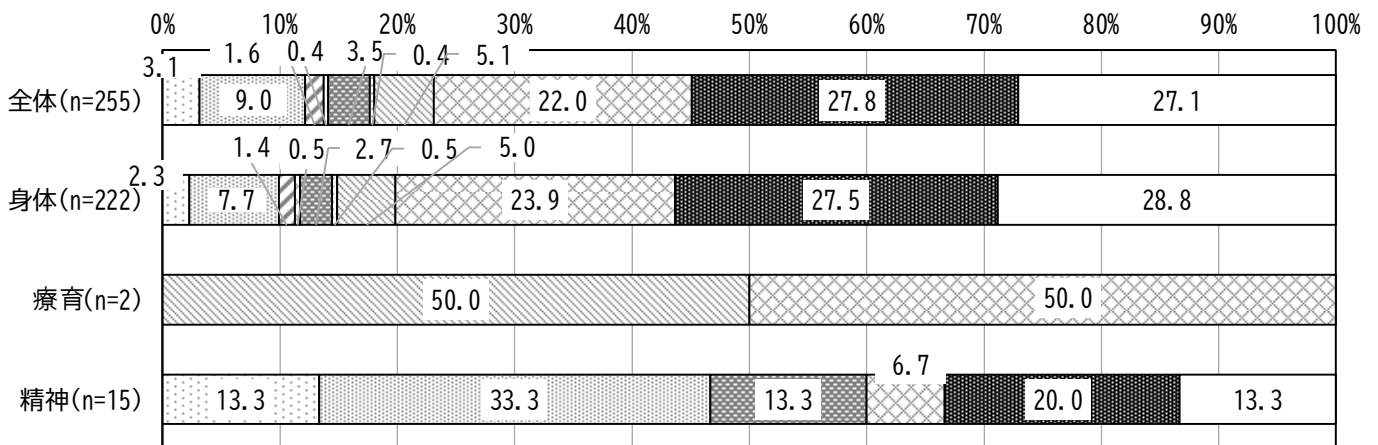


③ あなたは今後どのように働きたいですか。(○は1つだけ)

今後どのように働きたいかについては、「働きたくない」が27.8%で最も多く、次いで「年齢や今の状態、家庭の事情などで、一般企業・自営業などでは働けない」が22.0%、「パート・アルバイトとして働きたい」が9.0%となっています。なお、「不明・無回答」が2番目に多い27.1%となっています。

【障がい種別】

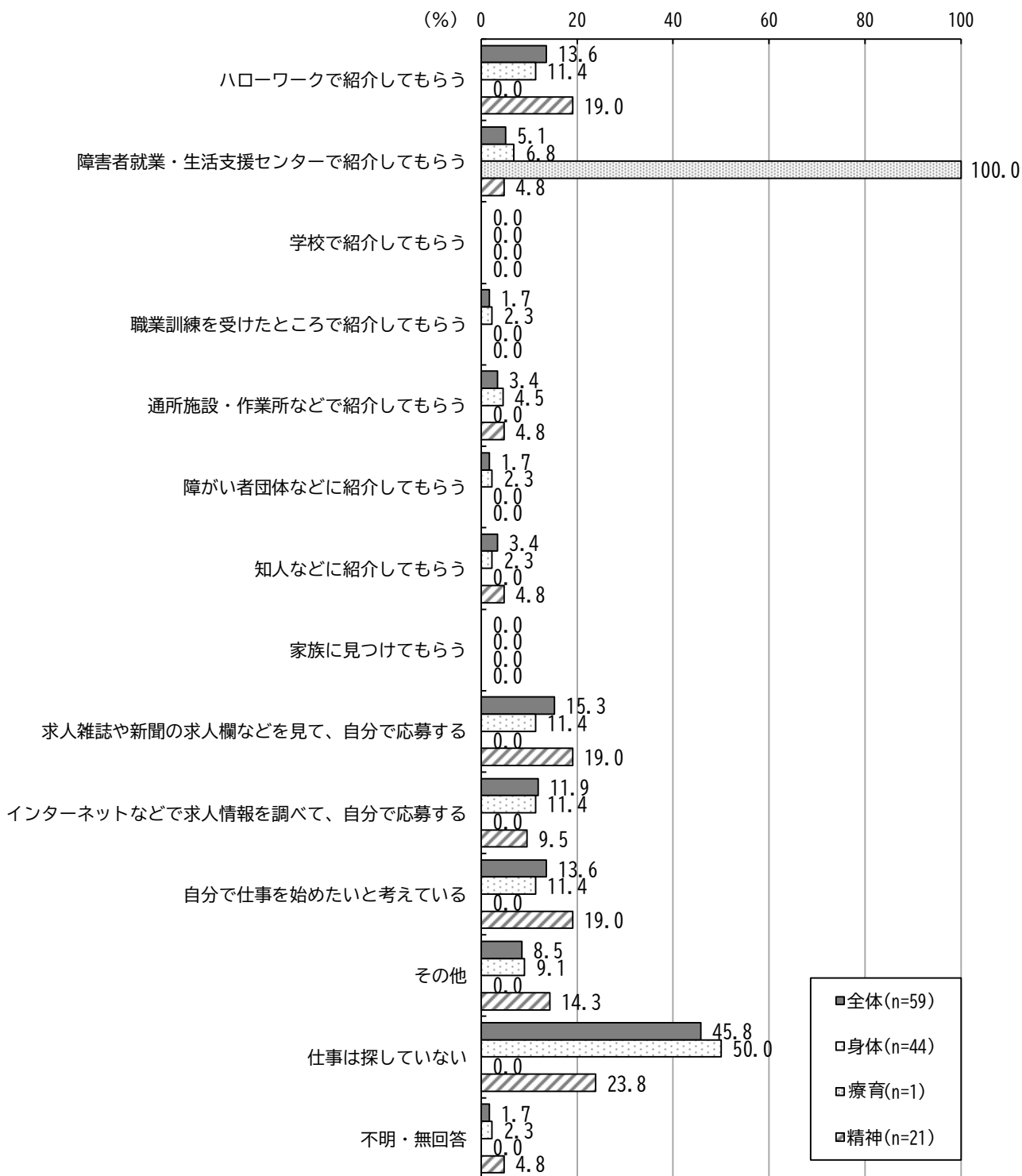
障がい種別にみると、精神障がいのある人で「パート・アルバイトとして働きたい」「正社員として働きたい」が他の障がい種別に比べて多くなっています。



- 正社員として働きたい
- パート・アルバイトとして働きたい
- 契約社員・嘱託社員として働きたい
- 派遣社員として働きたい
- 自営業をしたい
- 特例子会社で働きたい
- その他
- 年齢や今の状態、家庭の事情などで、一般企業・自営業などでは働けない
- 働きたくない
- 不明・無回答

④ 現在、仕事を探していますか。また、それはどのような方法ですか。(あてはまるものすべてに○)

どのような方法で仕事を探しているかについては、「仕事は探していない」が45.8%で最も多く、次いで「求人雑誌や新聞の求人欄などを見て、自分で応募する」が15.3%、「ハローワークで紹介してもらおう」「自分で仕事を始めたいと考えている」が13.6%となっています。



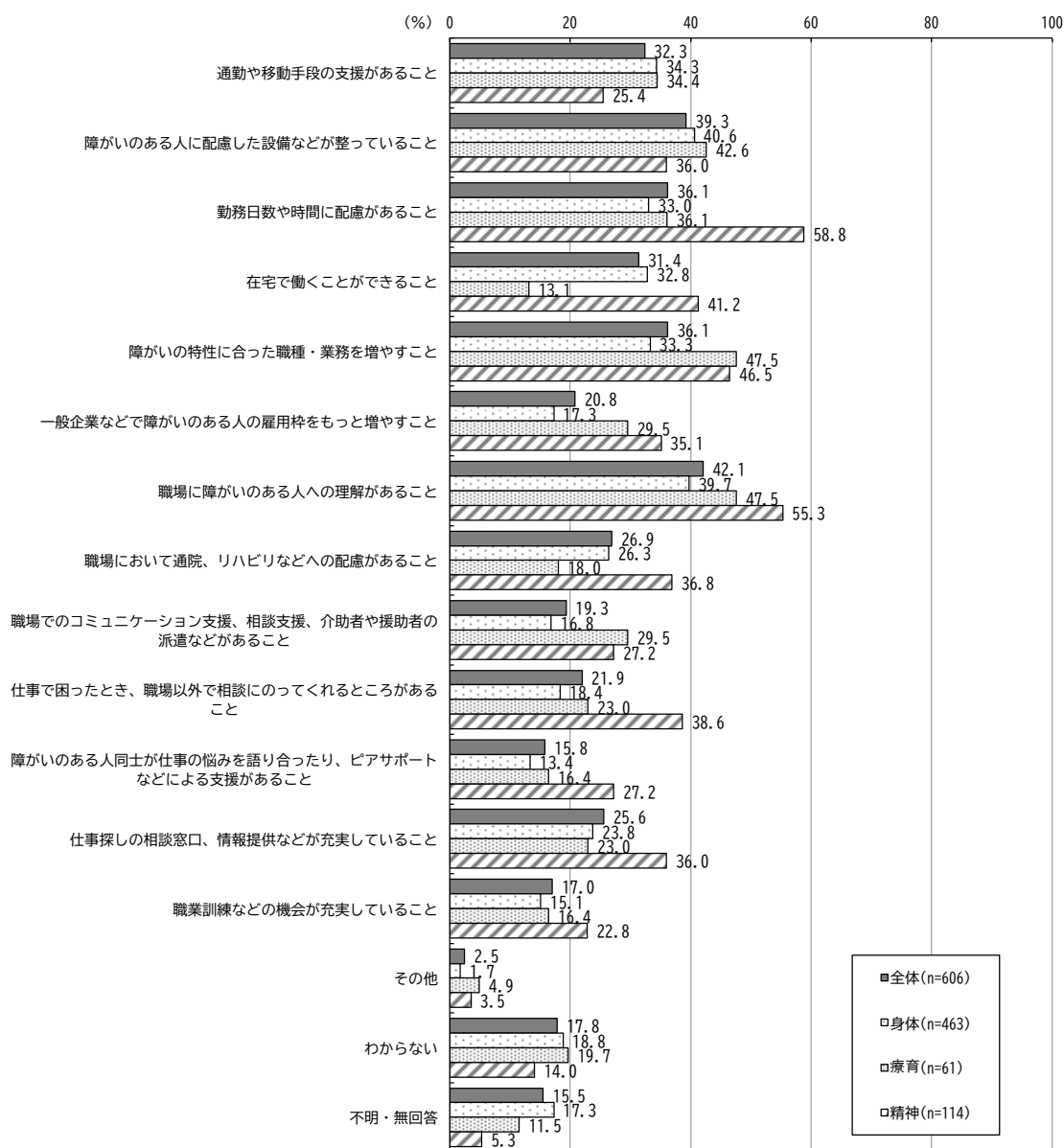
(9) 障がいのある人の就労を進めるために必要なこと

問 23 あなたは、障がいのある人の就労を進めるために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障がいのある人の就労を進めるために必要なことについては、「職場に障がいのある人への理解があること」が 42.1%で最も多く、次いで「障がいのある人に配慮した設備などが整っていること」が 39.3%、「勤務日数や時間に配慮があること」「障がいの特性に合った職種・業務を増やすこと」が 36.1%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「勤務日数や時間に配慮があること」「職場に障がいのある人への理解があること」「仕事で困ったとき、職場以外で相談にのってくれるところがあること」「職場において通院、リハビリなどへの配慮があること」「仕事探しの相談窓口、情報提供などが充実していること」が多くなっています。



4. 通院の状況などについて

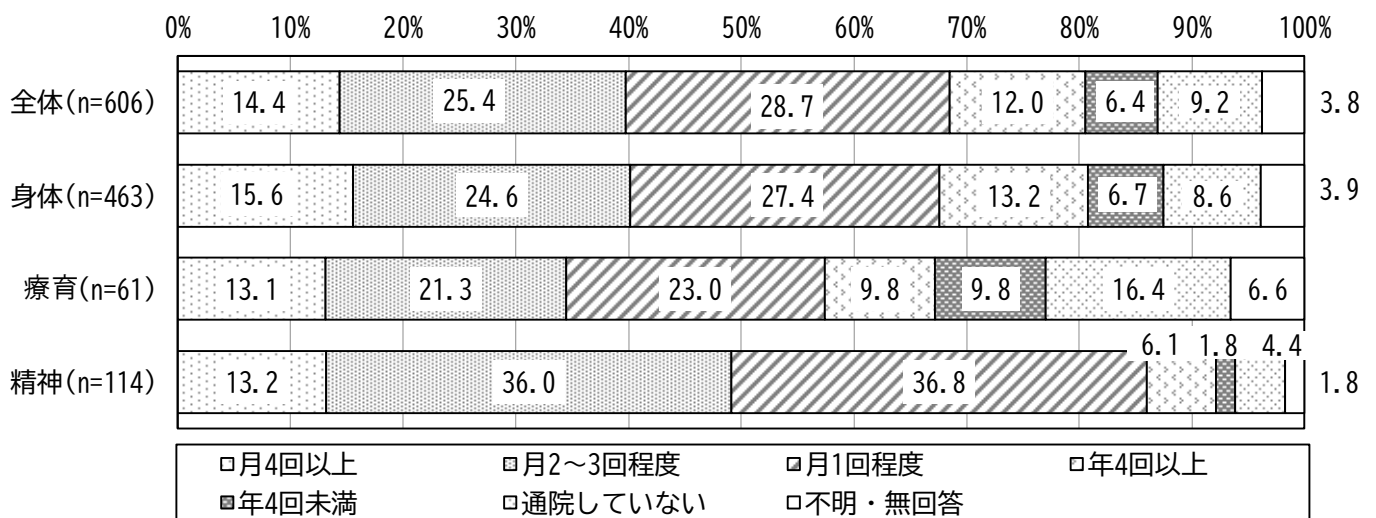
(1) 通院頻度

問 24 あなたは現在、どのくらい通院していますか。(〇は1つだけ)

現在、どのくらい通院しているかについては、「月1回程度」が28.7%で最も多く、次いで「月2～3回程度」が25.4%、「月4回以上」が14.4%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「通院していない」が他の障がい種別に比べて多く、精神障がいのある人で少なくなっています。



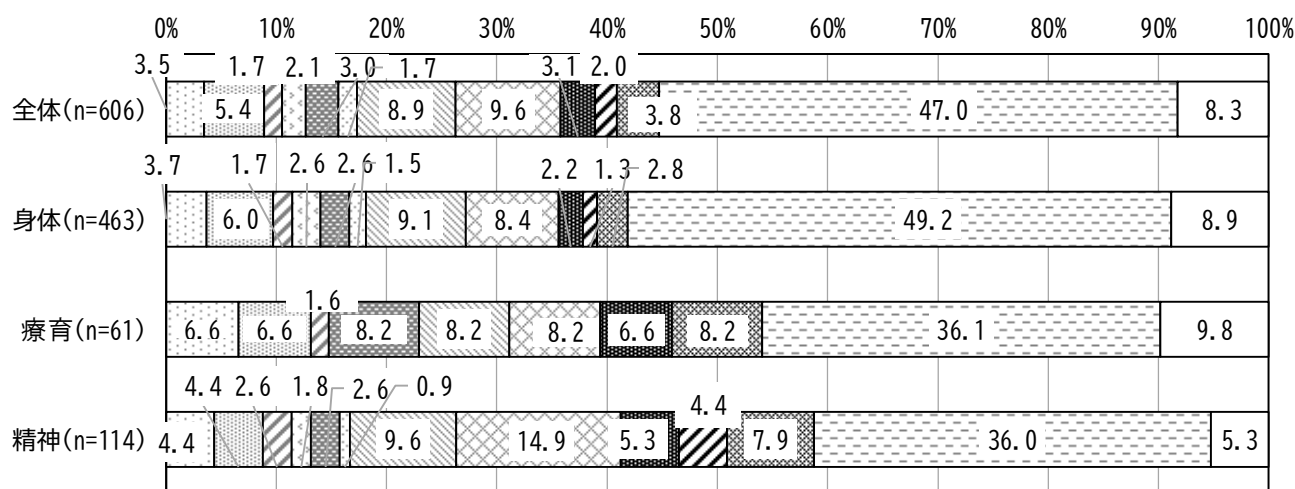
(2) 医療に関係することで困っていること

問 25 医療に関係することで、困っていることはありますか。(○は1つだけ)

医療に関係することで、困っていることについては、「特に困っていない」が47.0%で最も多く、次いで「医療費の負担が大きい」が9.6%、「通院の負担が大きい(交通費など)」が8.9%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「医療費の負担が大きい」が多くなっています。



- 通院・入退院するとき手助けしてくれる人がいない
- 専門的な治療を行う病院が身近にない
- 専門的なりハビリを受けられる施設が身近にない
- ちょっとした病気やけがのときに診てくれる病院が身近にない
- 障がい理由で治療を受けにくい診療科がある(例: 歯科・整形外科など)
- 往診を頼める医師がいない
- 通院の負担が大きい(交通費など)
- 医療費の負担が大きい
- 医師、看護師とのコミュニケーションがとりにくい
- 障がいの特性などを医師、看護師に理解してもらうことが難しい
- その他
- 特に困っていない
- 不明・無回答

5. 生活の不安、相談などについて

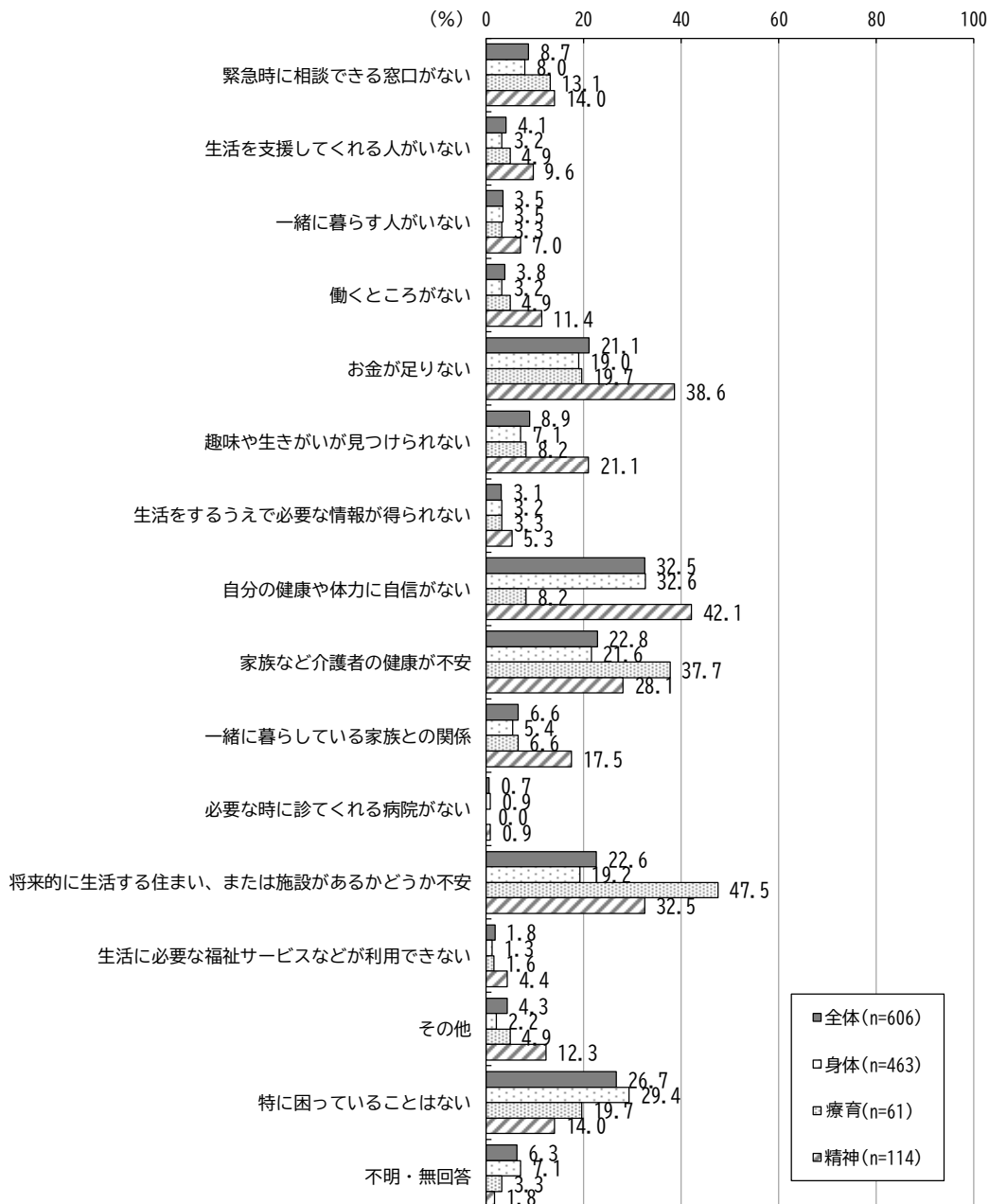
(1) 生活で困っていること・不安なこと

問 26 現在の生活で困っていることや、不安に思っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で困っていることや、不安に思っていることについては、「自分の健康や体力に自信がない」が32.5%で最も多く、次いで「特に困っていることはない」が26.7%、「家族など介護者の健康が不安」が22.8%となっています。

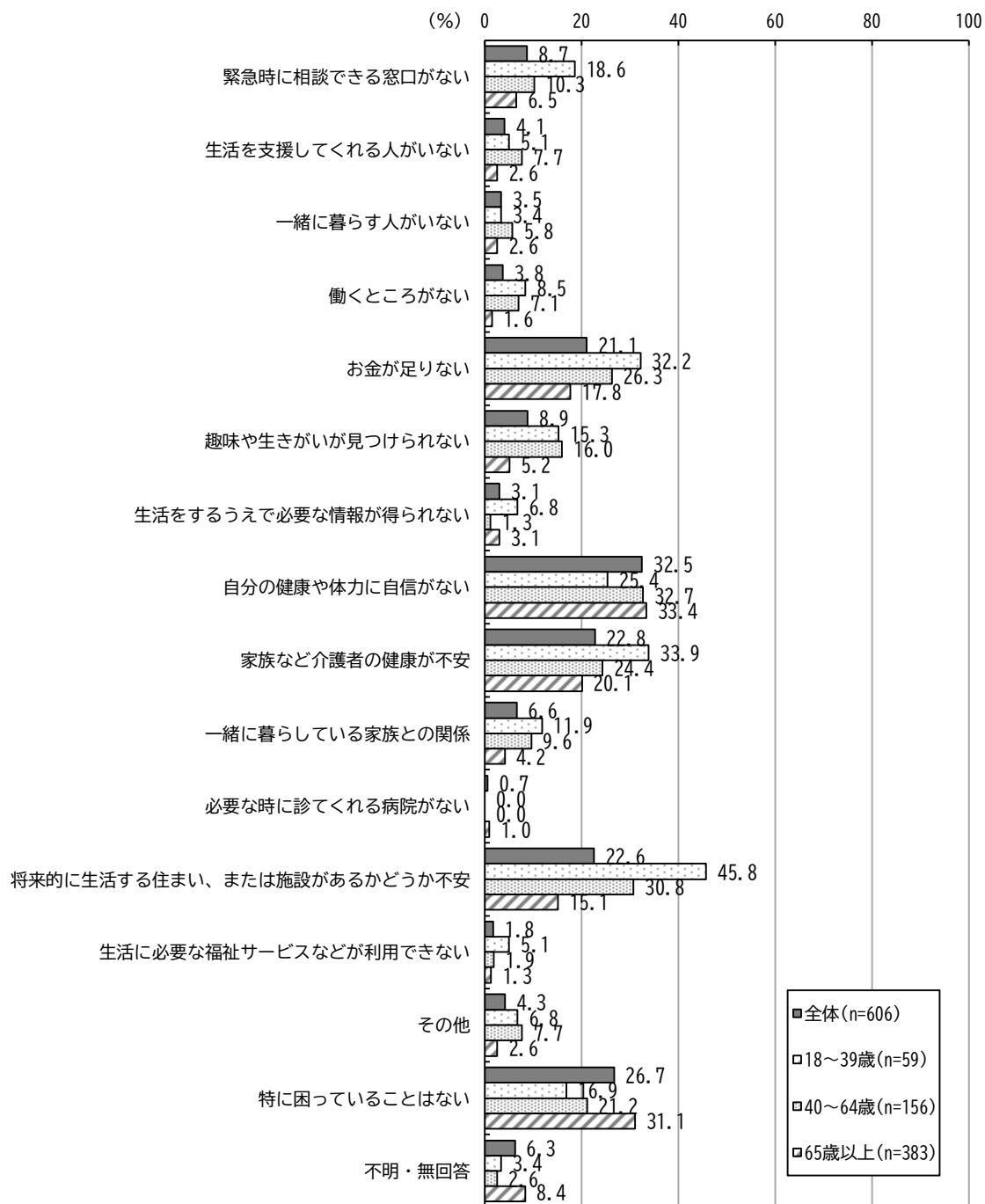
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」「家族など介護者の健康が不安」、精神障がいのある人で「自分の健康や体力に自信がない」「お金が足りない」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」「家族など介護者の健康が不安」が多くなっています。



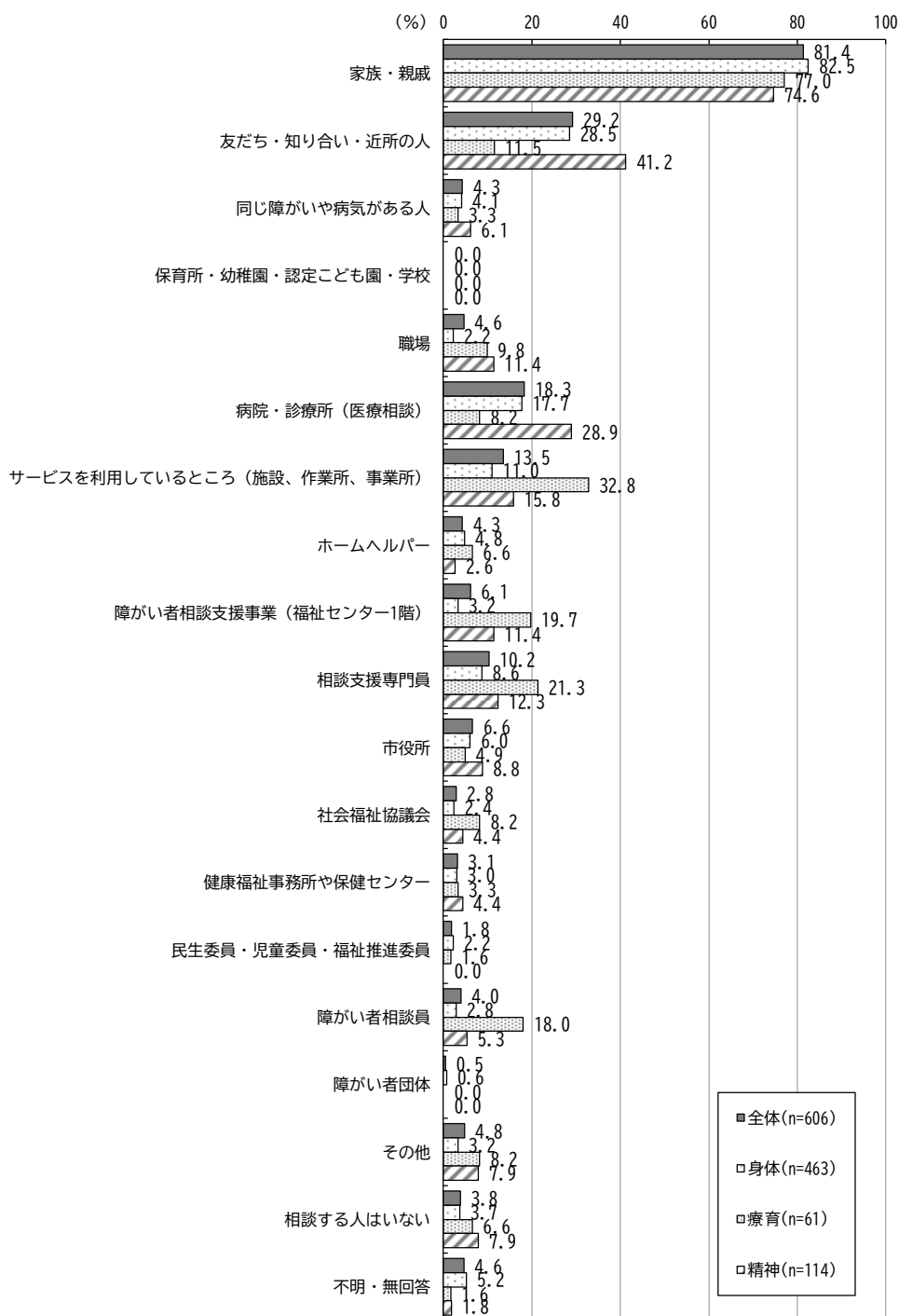
(2) 相談相手

問 27 悩みや困ったことを相談するのはだれですか。(あてはまるものすべてに○)

悩みや困ったことを相談する相手については、「家族・親戚」が81.4%で最も多く、次いで「友だち・知り合い・近所の人」が29.2%、「病院・診療所（医療相談）」が18.3%となっています。

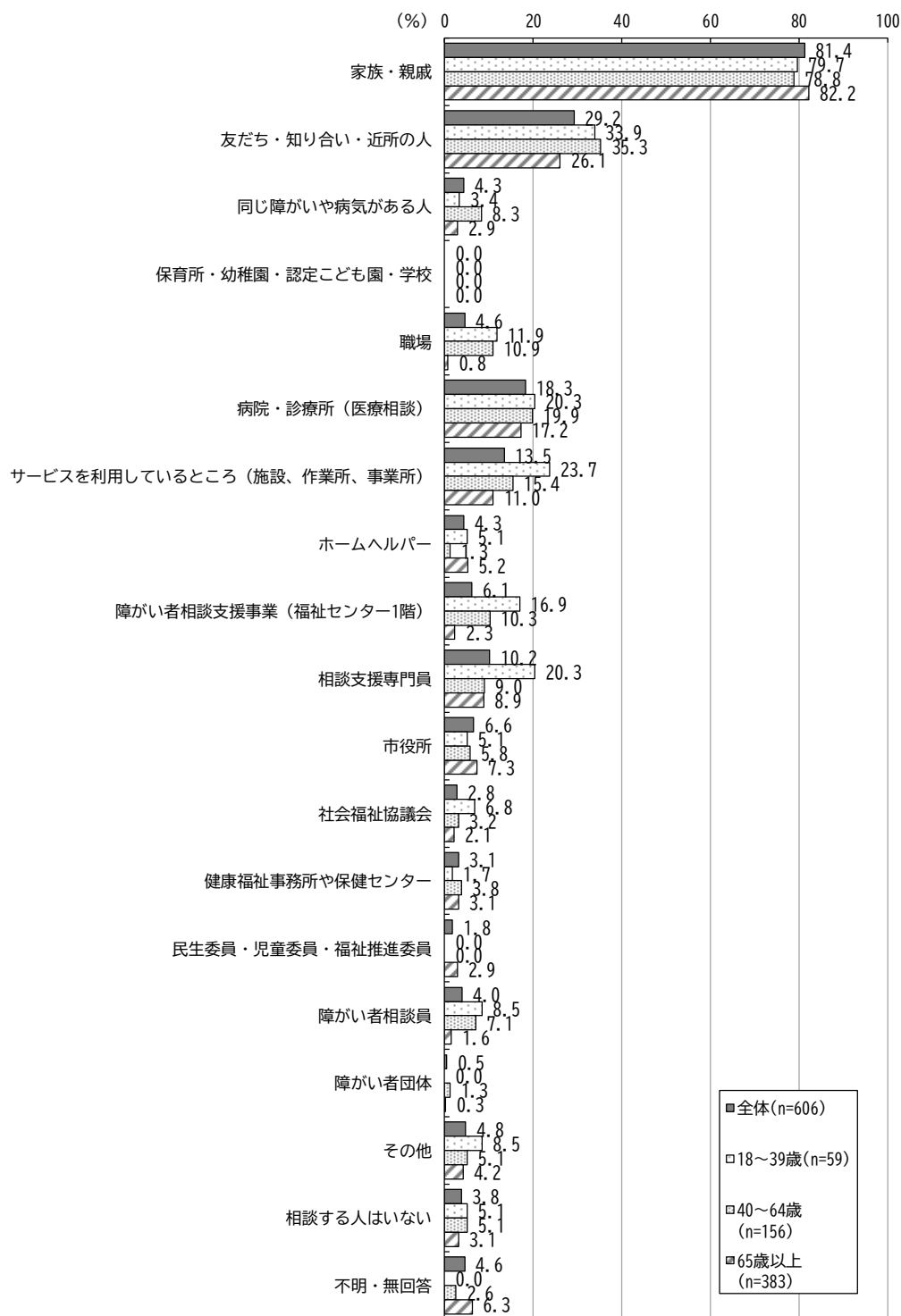
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「相談支援専門員」「障がい者相談支援事業」「障がい者相談員」、精神障がいのある人で「友だち・知り合い・近所の人」「病院・診療所（医療相談）」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「相談支援専門員」が多くなっています。



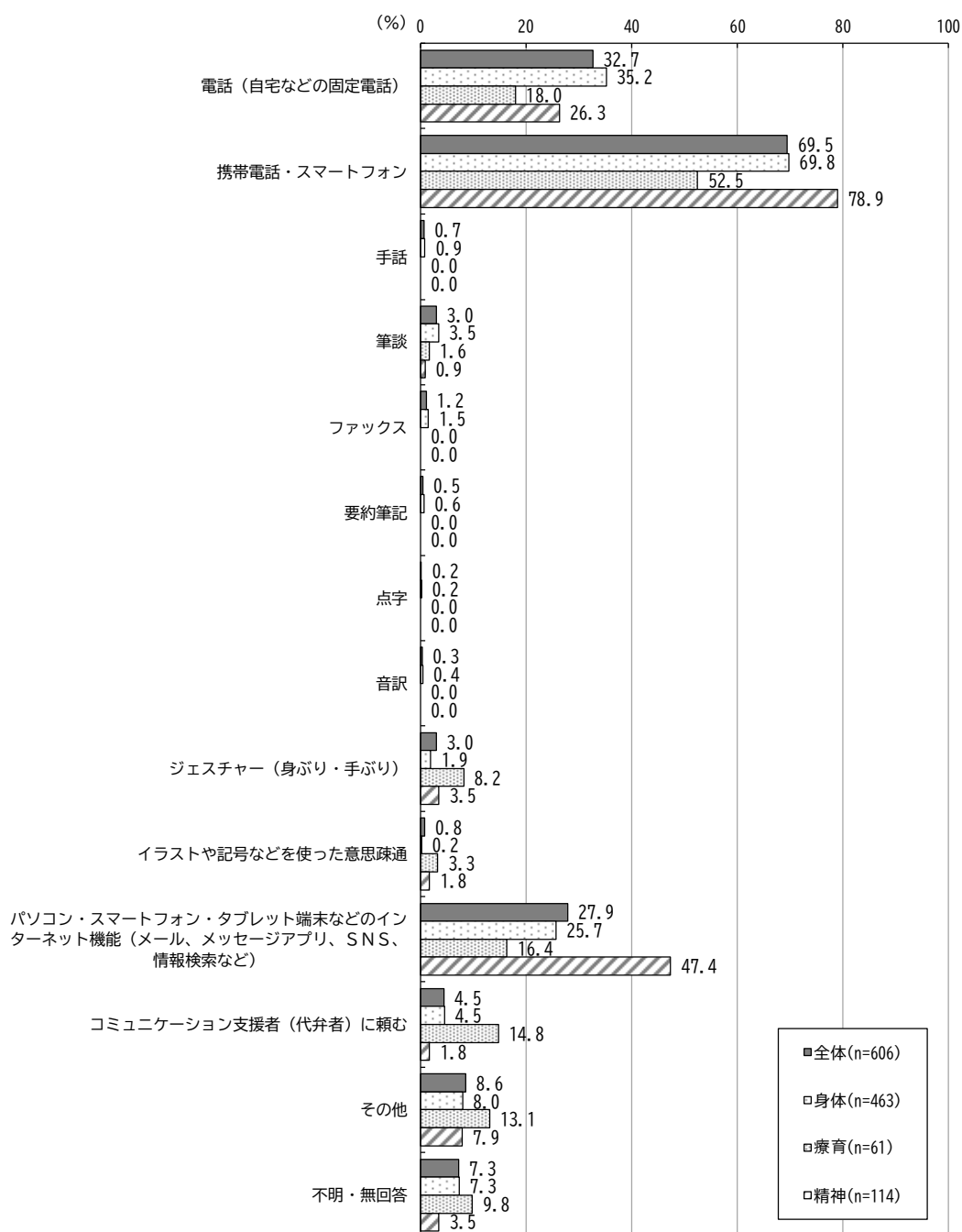
(3) 連絡や相談、情報を得るときやコミュニケーションをとるときの方法

問 28 あなたは、連絡や相談、情報を得るときや周囲の人とコミュニケーションをとるときに、どのような方法をよく使いますか。(あてはまるものすべてに○)

連絡や相談、情報を得るときや周囲の人とコミュニケーションをとるときに使う方法については、「携帯電話・スマートフォン」が69.5%で最も多く、次いで「電話(自宅などの固定電話)」が32.7%、「パソコン・スマートフォン・タブレット端末などのインターネット機能(メール、メッセージアプリ、SNS、情報検索など)」が27.9%となっています。

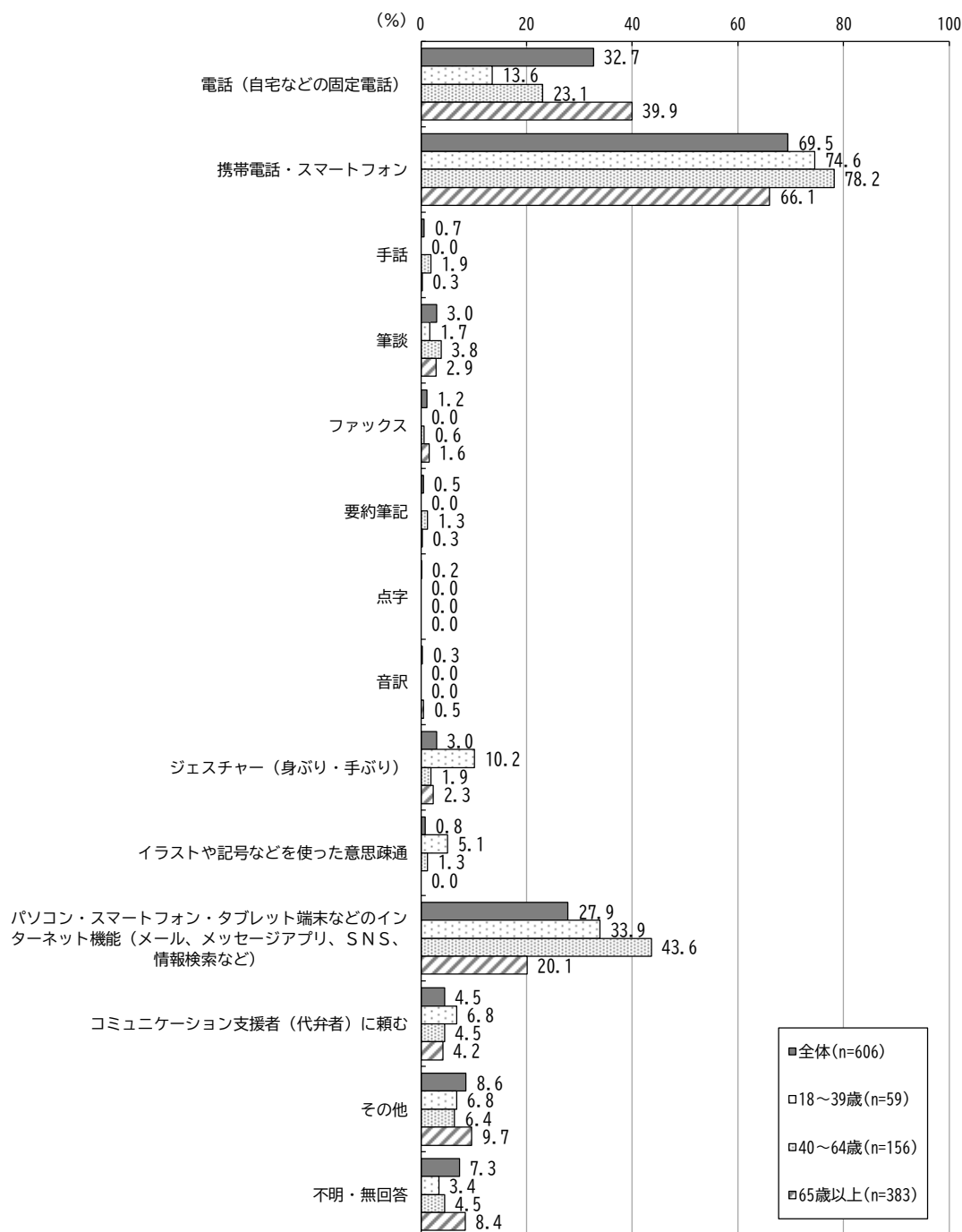
【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「パソコン・スマートフォン・タブレット端末などのインターネット機能(メール、メッセージアプリ、SNS、情報検索など)」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、40～64 歳では「パソコン・スマートフォン・タブレット端末などのインターネット機能（メール、メッセージアプリ、SNS、情報検索など）」、65 歳以上では「電話（自宅などの固定電話）」が多くなっています。



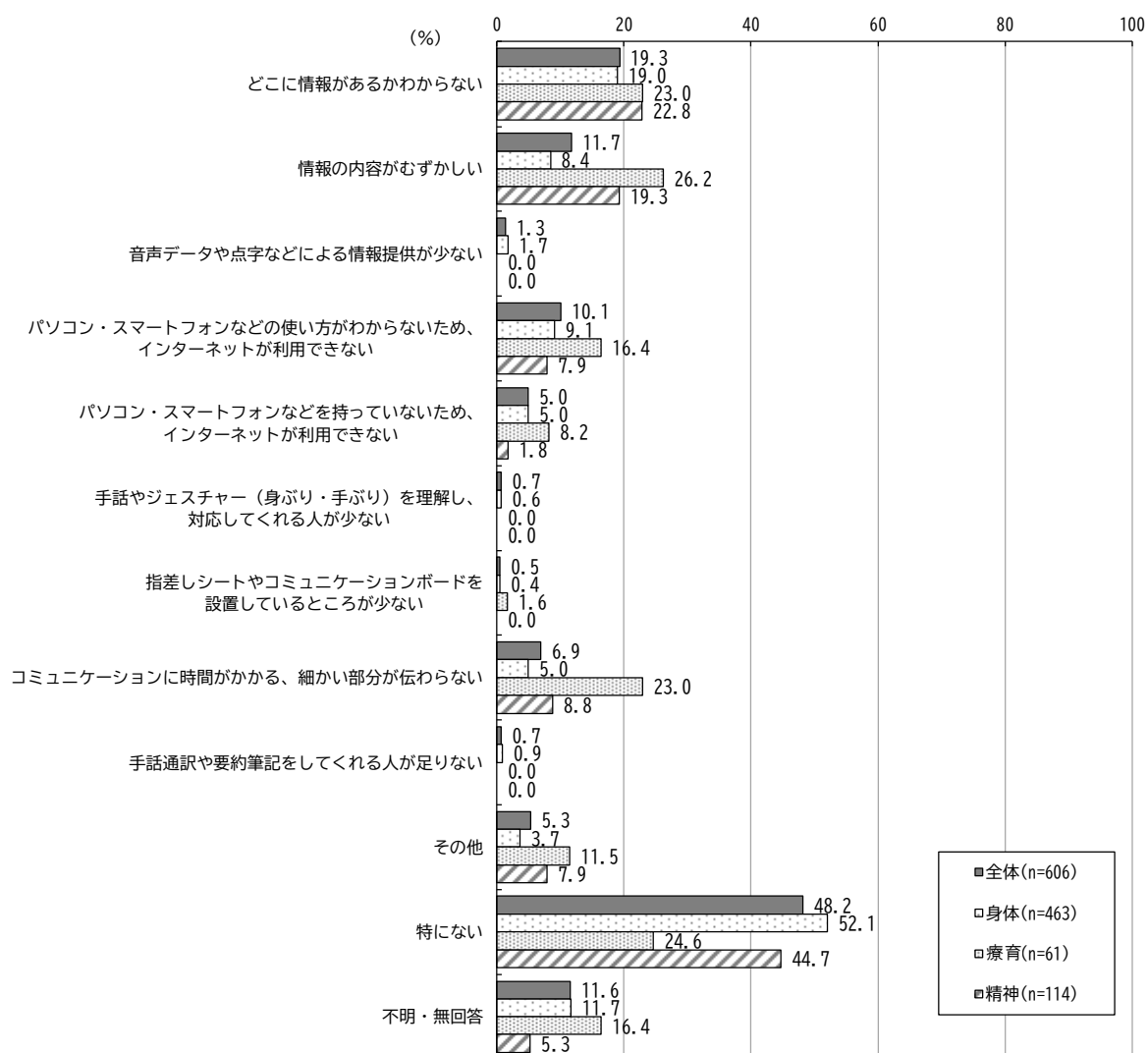
(4) 連絡や相談、情報を得るときやコミュニケーションをとるときに困っていること

問 29 あなたのことで、連絡や相談、情報を得るときや周りの人とコミュニケーションをとるときに、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

連絡や相談、情報を得るときや周りの人とコミュニケーションをとるときに、困っていることについては、「特にない」が48.2%で最も多く、次いで「どこに情報があるかわからない」が19.3%、「情報の内容がむずかしい」が11.7%となっています。

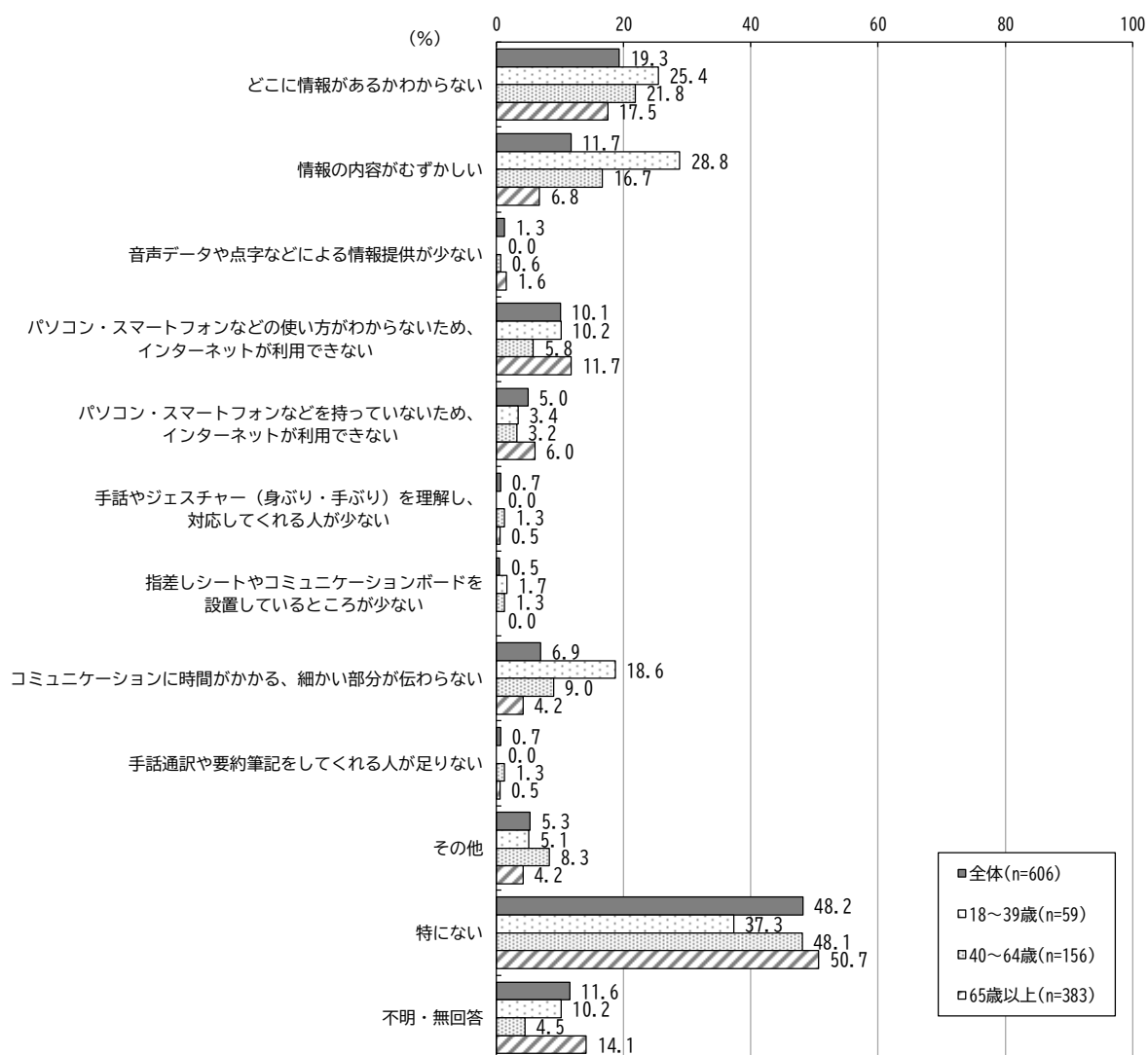
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「情報の内容がむずかしい」「コミュニケーションに時間がかかる、細かい部分が伝わらない」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「情報の内容がむずかしい」「コミュニケーションに時間がかかる、細かい部分が伝わらない」が多くなっています。



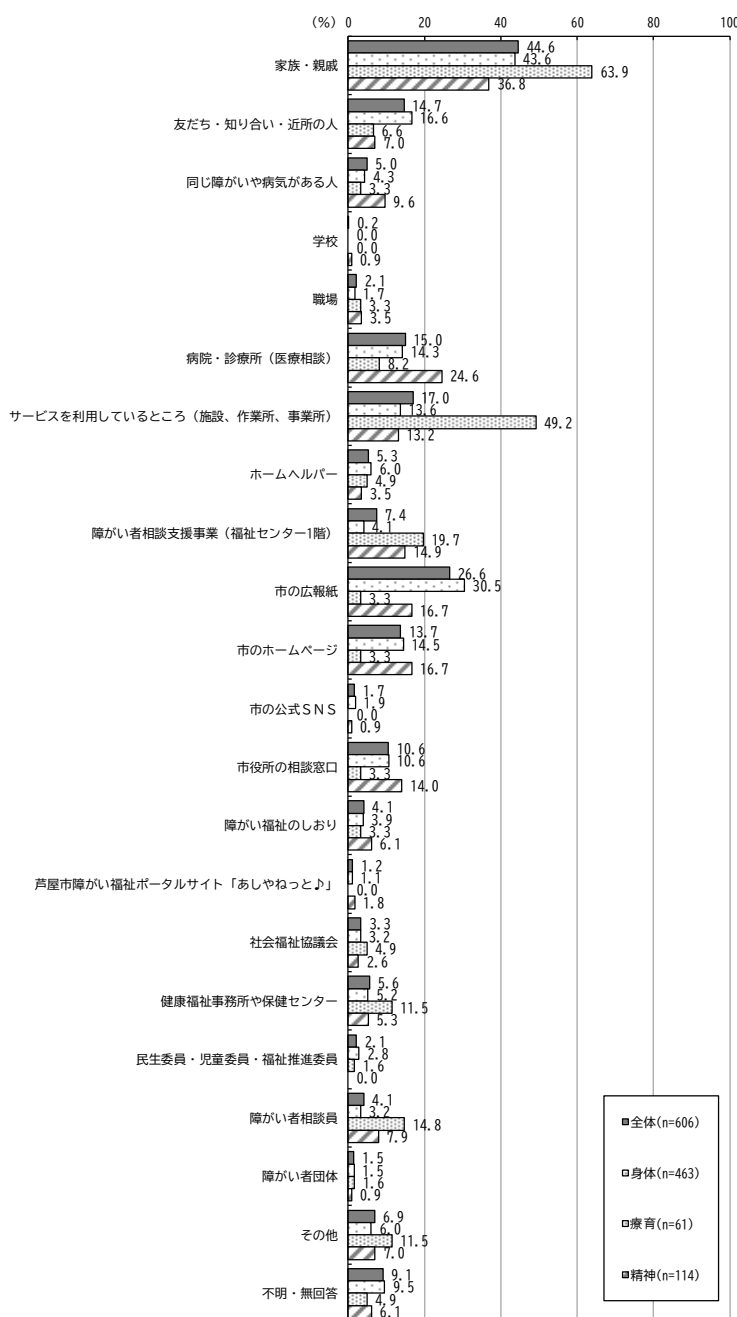
(5) 地域での生活や福祉サービスなどに関する情報を得る方法

問 30 地域での生活や福祉サービスなどに関する情報を、どこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

地域での生活や福祉サービスなどに関する情報を、どこから得ているかについては、「家族・親戚」が44.6%で最も多く、次いで「市の広報紙」が26.6%、「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」が17.0%となっています。

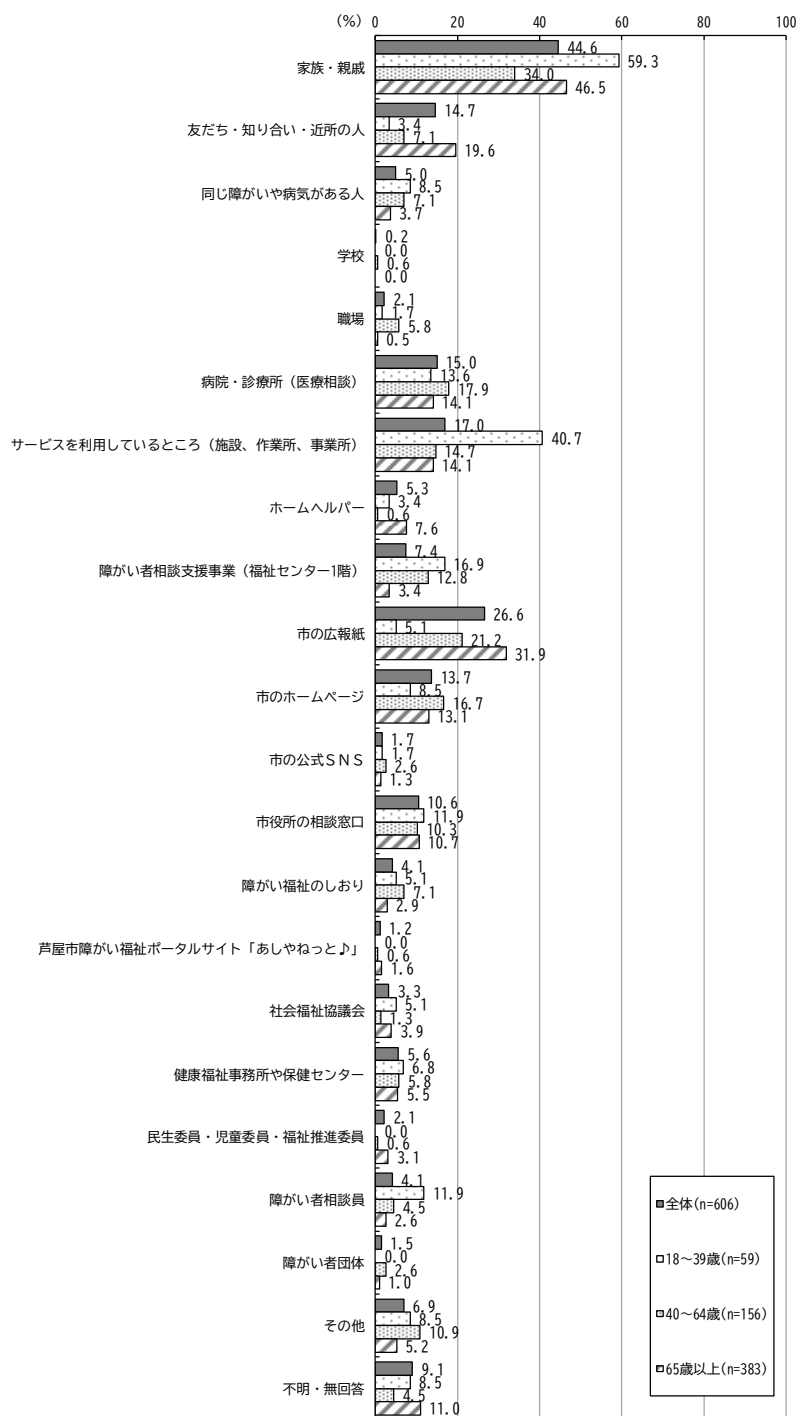
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「家族・親戚」「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「障がい者相談員」、精神障がいのある人で「病院・診療所（医療相談）」が多くなっています。また、知的障がい・発達障がいのある人では、「病院・診療所（医療相談）」「市の広報紙」「市のホームページ」「市役所の相談窓口」が少なくなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「家族・親戚」「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「障がい者相談員」、65歳以上では「市の広報紙」が多くなっています。

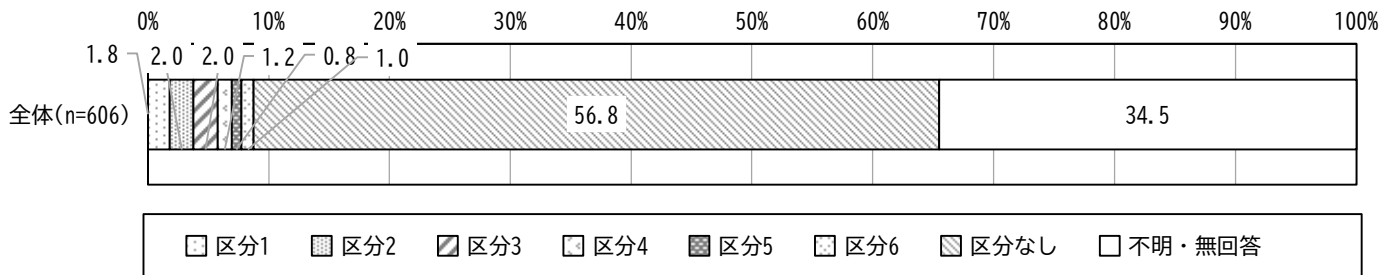


6. 障がい福祉サービス等の利用について

(1) 障がい福祉サービスの支援区分

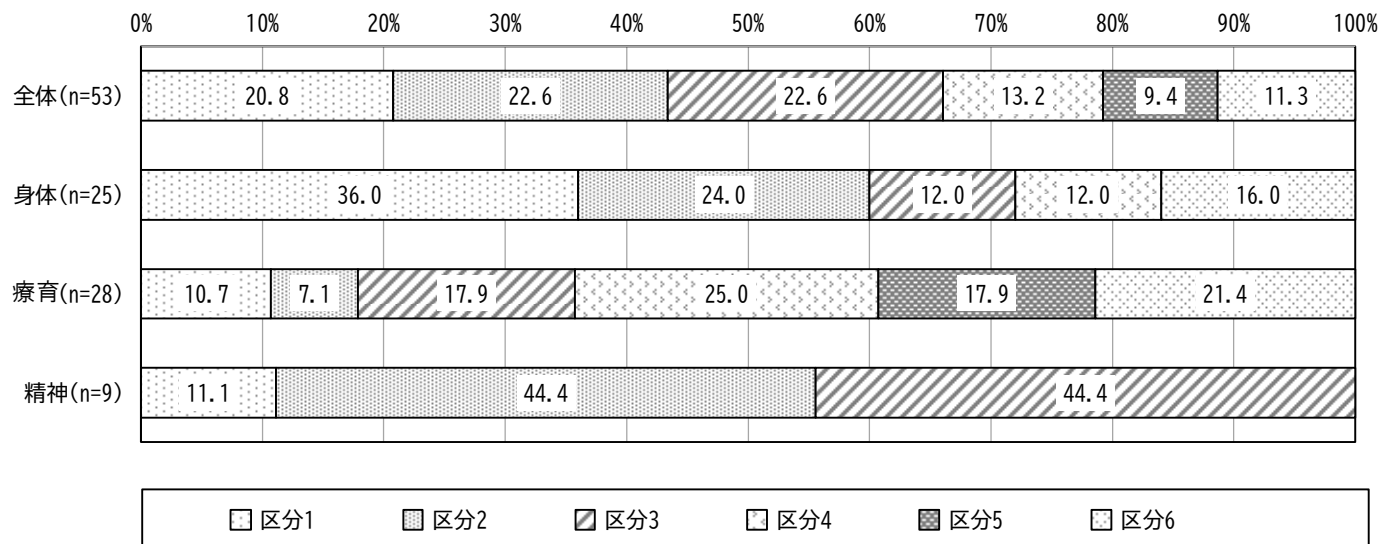
問 31 あなたは、障がい福祉サービスを利用するための障がい支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

障がい福祉サービスを利用するための障がい支援区分の認定を受けているかについては、「区分なし」が56.8%で最も多く、次いで「区分2」「区分3」が2.0%となっています。



【障がい種別】

区分認定の割合を障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「区分4」が25.0%、「区分5」が17.9%、「区分6」が21.4%と他の障がい種別に比べて高くなっています。



(2) 障がい福祉サービスの利用有無と今後利用したいサービス

問 32 あなたは次にあげる障がい福祉サービス等を利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。(①から③のそれぞれについて、「現在の利用」、「今後3年以内の利用希望」について回答してください。)

■現在の利用

現在の利用については、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 10.7%で最も多く、次いで「計画相談支援」が 7.4%、「短期入所（ショートステイ）」が 5.3%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「居宅介護（ホームヘルプ）」、知的障がい・発達障がいのある人で「計画相談支援」、精神障がいのある人で「計画相談支援」が多くなっています。

(利用している割合)	全体	身体	療育	精神
n=	606	463	61	114
居宅介護（ホームヘルプ）	10.7	11.0	11.5	9.6
重度訪問介護	1.5	1.7	3.3	1.8
同行援護	2.5	2.6	9.8	1.8
行動援護	1.5	1.1	9.8	0.9
重度障害者等包括支援	1.5	1.5	6.6	0.9
短期入所（ショートステイ）	5.3	5.0	21.3	1.8
療養介護	1.8	1.5	3.3	1.8
生活介護	4.5	3.7	24.6	2.6
施設入所支援	3.0	2.6	8.2	0.9
自立生活援助	3.0	2.2	0.0	7.9
共同生活援助（グループホーム）	2.0	0.6	11.5	1.8
自立訓練（機能訓練・生活訓練）	5.0	5.4	6.6	1.8
就労移行支援	2.5	1.3	3.3	7.9
就労継続支援（A型：雇用型）	3.5	1.9	6.6	9.6
就労継続支援（B型：非雇用型）	3.8	1.7	23.0	6.1
就労定着支援	1.5	0.4	4.9	4.4
就労選択支援	0.3	0.0	0.0	1.8
地域移行・地域定着支援	0.2	0.0	0.0	0.9
計画相談支援	7.4	4.3	29.5	12.3
意思疎通支援事業	0.5	0.2	0.0	1.8
地域活動支援センター	2.0	1.5	6.6	1.8
移動支援事業	3.6	1.9	27.9	1.8
日中一時支援事業	1.8	0.9	14.8	0.9

障がい種別に上位3項目を色づけ

■今後3年以内の利用希望

今後3年以内の利用希望については、以下のようになっています。

n=606

【全体】	今よりも 利用を増 やしたい (利用を はじめた い)	今と同じ くらい利 用したい	今よりも 利用を減 らしたい	利用した くない	わからな い	不明・無 回答
居宅介護（ホームヘルプ）	5.9	7.3	0.0	15.8	36.8	34.2
重度訪問介護	1.7	1.3	0.0	18.5	38.4	40.1
同行援護	2.1	2.1	0.2	18.0	38.0	39.6
行動援護	2.3	1.7	0.2	17.2	38.6	40.1
重度障害者等包括支援	0.8	1.0	0.0	18.5	38.8	40.9
短期入所（ショートステイ）	4.0	3.0	0.2	18.0	36.5	38.4
療養介護	1.7	1.7	0.0	17.7	39.1	39.9
生活介護	3.0	2.8	0.2	17.0	38.3	38.8
施設入所支援	3.1	2.1	0.0	18.6	37.5	38.6
自立生活援助	3.1	2.3	0.0	17.0	38.1	39.4
共同生活援助（グループホーム）	2.5	1.5	0.0	19.6	36.0	40.4
自立訓練（機能訓練・生活訓練）	3.6	3.1	0.0	16.5	37.0	39.8
就労移行支援	2.6	1.8	0.2	18.5	36.0	40.9
就労継続支援（A型：雇成型）	2.3	2.6	0.0	19.6	35.5	39.9
就労継続支援（B型：非雇成型）	2.0	2.5	0.5	20.5	34.2	40.4
就労定着支援	3.1	0.8	0.5	18.5	35.5	41.6
就労選択支援	3.0	0.5	0.0	18.5	36.1	41.9
地域移行・地域定着支援	1.2	0.5	0.0	18.2	38.0	42.2
計画相談支援	3.5	4.3	0.0	15.8	35.8	40.6
意思疎通支援事業	1.2	0.5	0.2	18.2	38.1	41.9
地域活動支援センター	1.8	1.7	0.0	17.3	38.3	40.9
移動支援事業	2.5	2.5	0.0	17.3	36.3	41.4
日中一時支援事業	1.8	1.0	0.0	17.3	37.3	42.6

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

【障がい種別】

障がい種別にみると、「今よりも利用を増やしたい（利用をはじめたい）」のは、知的障がい・発達障がいのある人で「短期入所（ショートステイ）」、精神障がいのある人で「就労定着支援」が多くなっています。

n=463

【身体】	今よりも利用を増やしたい (利用をはじめたい)	今と同じくらい利用したい	今よりも利用を減らしたい	利用したくない	わからない	不明・無回答
居宅介護（ホームヘルプ）	6.7	7.8	0.0	12.5	38.0	35.0
重度訪問介護	1.9	1.7	0.0	14.0	41.7	40.6
同行援護	2.2	2.6	0.2	13.8	41.5	39.7
行動援護	2.6	1.9	0.0	13.4	41.7	40.4
重度障害者等包括支援	0.9	1.3	0.0	14.0	41.9	41.9
短期入所（ショートステイ）	3.9	3.0	0.2	14.3	39.5	39.1
療養介護	1.7	1.7	0.0	14.0	41.7	40.8
生活介護	3.0	2.6	0.0	14.0	41.0	39.3
施設入所支援	3.5	2.4	0.0	14.9	39.3	40.0
自立生活援助	2.4	2.4	0.0	14.7	40.2	40.4
共同生活援助（グループホーム）	1.7	1.3	0.0	16.6	38.7	41.7
自立訓練（機能訓練・生活訓練）	3.5	3.7	0.0	13.4	39.3	40.2
就労移行支援	1.1	1.7	0.0	17.3	38.4	41.5
就労継続支援（A型：雇用型）	0.9	1.9	0.0	18.6	37.8	40.8
就労継続支援（B型：非雇用型）	1.1	1.5	0.0	19.0	36.1	42.3
就労定着支援	1.1	0.9	0.0	18.4	37.1	42.5
就労選択支援	0.9	0.6	0.0	18.1	37.4	43.0
地域移行・地域定着支援	0.9	0.6	0.0	15.8	39.5	43.2
計画相談支援	2.8	2.8	0.0	14.9	37.6	41.9
意思疎通支援事業	0.9	0.6	0.0	16.2	39.3	43.0
地域活動支援センター	1.5	1.5	0.0	15.1	40.2	41.7
移動支援事業	1.1	2.4	0.0	15.1	38.9	42.5
日中一時支援事業	1.3	1.1	0.0	14.9	38.7	44.1

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

n=61

【療育】	今よりも利用を増やしたい (利用をはじめたい)	今と同じくらい利用したい	今よりも利用を減らしたい	利用したくない	わからない	不明・無回答
居宅介護（ホームヘルプ）	9.8	6.6	0.0	8.2	27.9	47.5
重度訪問介護	3.3	3.3	0.0	9.8	26.2	57.4
同行援護	4.9	6.6	0.0	6.6	26.2	55.7
行動援護	6.6	4.9	0.0	6.6	26.2	55.7
重度障害者等包括支援	4.9	3.3	0.0	8.2	27.9	55.7
短期入所（ショートステイ）	14.8	11.5	0.0	6.6	18.0	49.2
療養介護	3.3	1.6	0.0	8.2	29.5	57.4
生活介護	4.9	13.1	0.0	6.6	21.3	54.1
施設入所支援	8.2	4.9	0.0	8.2	29.5	49.2
自立生活援助	11.5	1.6	0.0	8.2	29.5	49.2
共同生活援助（グループホーム）	11.5	4.9	0.0	9.8	23.0	50.8
自立訓練（機能訓練・生活訓練）	6.6	3.3	0.0	13.1	26.2	50.8
就労移行支援	1.6	1.6	0.0	11.5	29.5	55.7
就労継続支援（A型：雇用型）	3.3	4.9	0.0	6.6	27.9	57.4
就労継続支援（B型：非雇用型）	8.2	13.1	0.0	6.6	26.2	45.9
就労定着支援	3.3	1.6	0.0	6.6	29.5	59.0
就労選択支援	4.9	1.6	0.0	8.2	27.9	57.4
地域移行・地域定着支援	4.9	1.6	0.0	6.6	29.5	57.4
計画相談支援	9.8	13.1	0.0	0.0	24.6	52.5
意思疎通支援事業	4.9	1.6	0.0	4.9	34.4	54.1
地域活動支援センター	4.9	9.8	0.0	4.9	29.5	50.8
移動支援事業	13.1	14.8	0.0	4.9	21.3	45.9
日中一時支援事業	6.6	4.9	0.0	4.9	29.5	54.1

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

【精神】	今よりも 利用を増 やしたい (利用を はじめたい)	今と同じ くらい利 用したい	今よりも 利用を減 らしたい	利用した くない	わからな い	不明・無 回答
居宅介護（ホームヘルプ）	2.6	7.0	0.0	32.5	36.8	21.1
重度訪問介護	0.0	0.9	0.0	40.4	29.8	28.9
同行援護	1.8	0.0	0.0	37.7	30.7	29.8
行動援護	1.8	0.0	0.9	36.0	31.6	29.8
重度障害者等包括支援	0.0	0.0	0.0	40.4	30.7	28.9
短期入所（ショートステイ）	0.9	0.0	0.0	35.1	36.0	28.1
療養介護	0.9	0.9	0.0	35.1	35.1	28.1
生活介護	2.6	1.8	0.9	31.6	36.0	27.2
施設入所支援	1.8	0.0	0.0	35.1	36.0	27.2
自立生活援助	4.4	3.5	0.0	27.2	36.0	28.9
共同生活援助（グループホーム）	3.5	0.9	0.0	35.1	30.7	29.8
自立訓練（機能訓練・生活訓練）	4.4	0.9	0.0	28.9	36.0	29.8
就労移行支援	8.8	4.4	0.9	23.7	33.3	28.9
就労継続支援（A型：雇成型）	7.9	6.1	0.0	26.3	34.2	25.4
就労継続支援（B型：非雇成型）	3.5	3.5	2.6	30.7	32.5	27.2
就労定着支援	13.2	0.9	2.6	21.1	35.1	27.2
就労選択支援	11.4	0.0	0.0	21.1	39.5	28.1
地域移行・地域定着支援	2.6	0.0	0.0	29.8	37.7	29.8
計画相談支援	4.4	8.8	0.0	24.6	35.1	27.2
意思疎通支援事業	1.8	0.0	0.9	29.8	37.7	29.8
地域活動支援センター	1.8	0.0	0.0	29.8	37.7	30.7
移動支援事業	2.6	0.0	0.0	30.7	36.0	30.7
日中一時支援事業	2.6	0.0	0.0	30.7	36.8	29.8

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

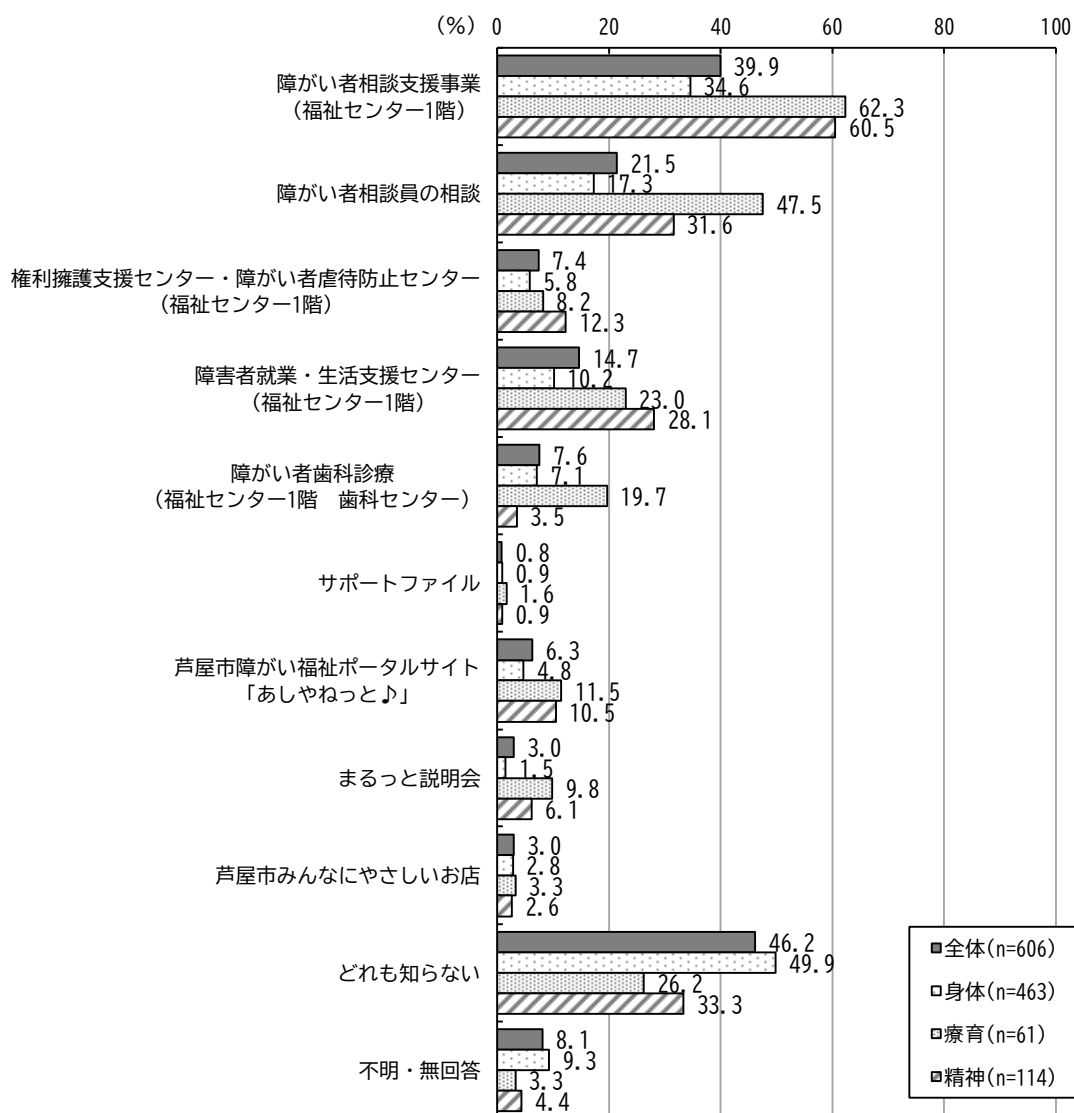
(3) 市の窓口・機関・事業等の認知

問 33 芦屋市にある以下の窓口や機関、事業などについて聞いたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

芦屋市にある以下の窓口や機関、事業などについて聞いたことがあるかについては、「どれも知らない」が46.2%で最も多く、次いで「障がい者相談支援事業(福祉センター1階)」が39.9%、「障がい者相談員の相談」が21.5%となっています。

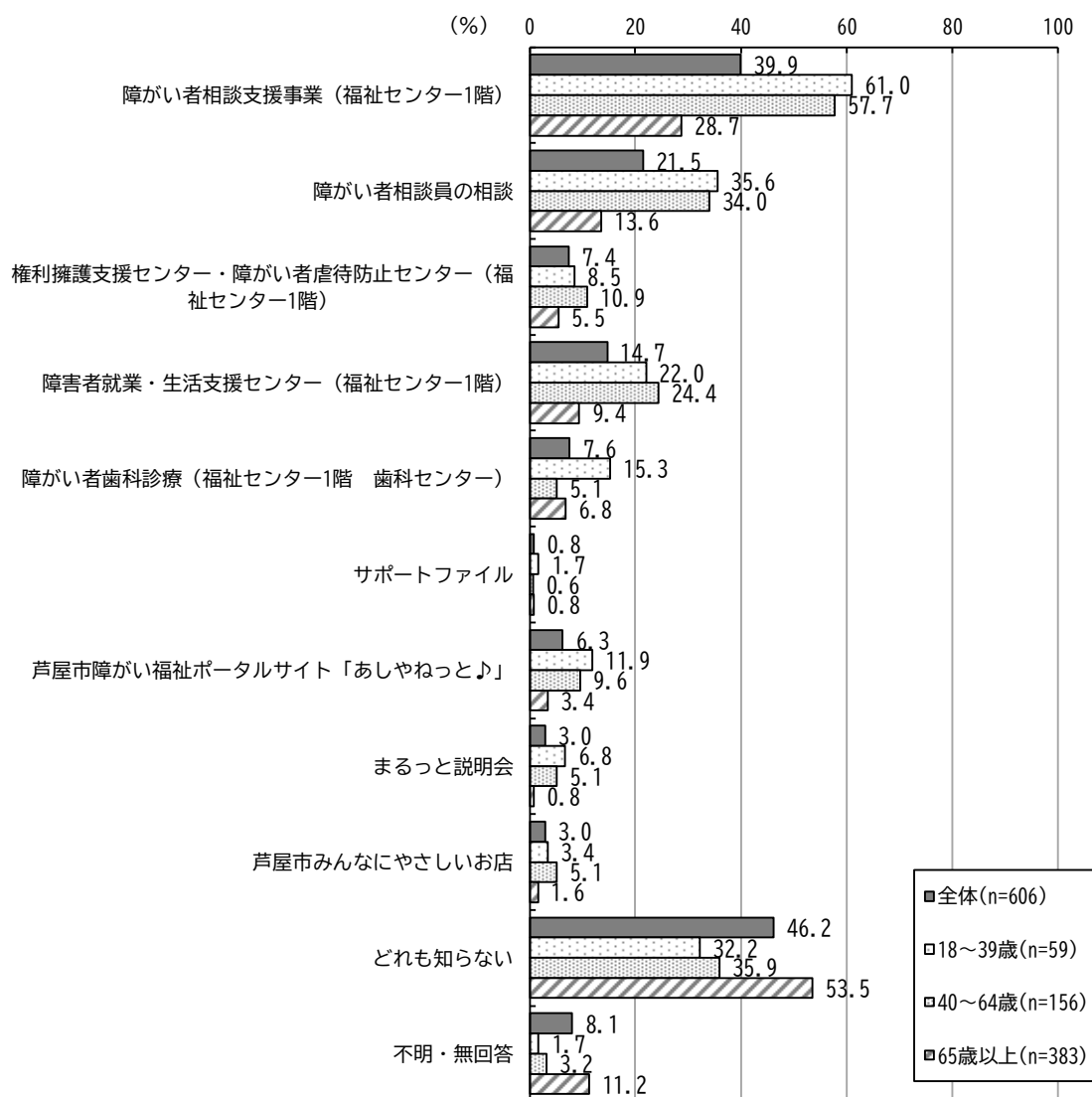
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「どれも知らない」が多くなっています。また、知的障がい・発達障がいのある人及び精神障がいのある人で「障がい者相談支援事業(福祉センター1階)」「障がい者相談員の相談」、加えて、知的障がい・発達障がいのある人では「障がい者歯科診療(福祉センター1階 歯科センター)」、精神障がいのある人では「障害者就業・生活支援センター(福祉センター1階)」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、65歳未満では「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」「障がい者相談員の相談」、65歳以上では「どれも知らない」が多くなっています。



7. 災害時や緊急時の対応について

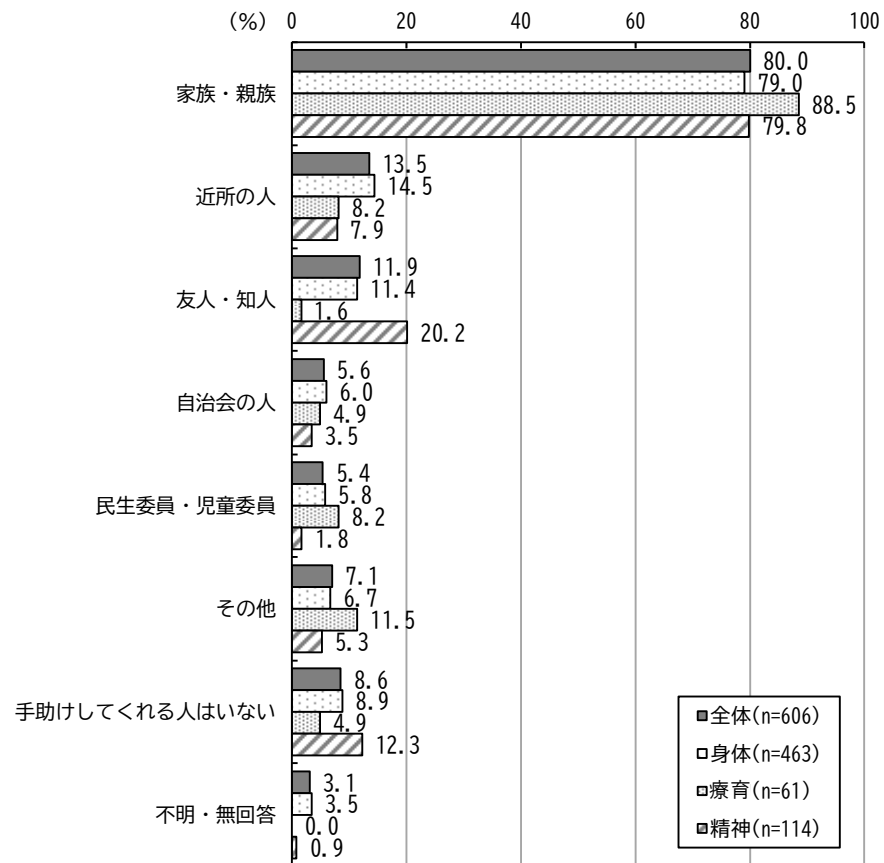
(1) 避難の際に手助けしてくれる人

問 34 災害時や緊急時に避難する際、手助けしてくれる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

災害時や緊急時に避難する際、手助けしてくれる人がいるかについては、「家族・親族」が80.0%で最も多く、次いで「近所の人」が13.5%、「友人・知人」が11.9%となっています。

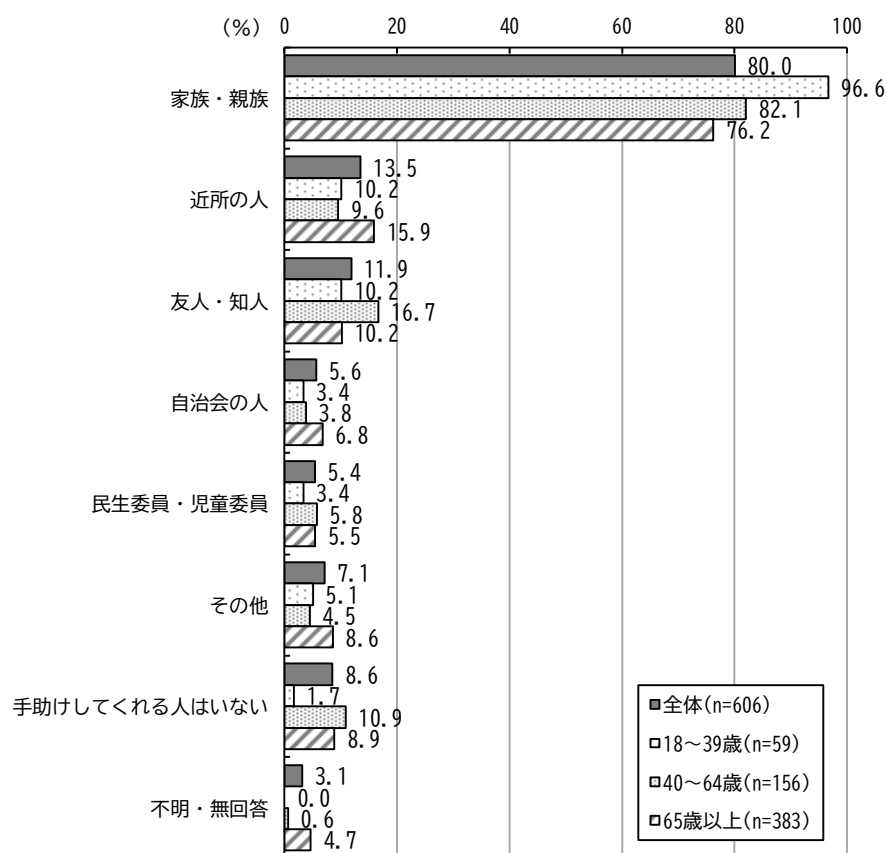
【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「友人・知人」が他の障がい種別に比べて多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、40～64歳では「友人・知人」、65歳以上では「近所の人」が多くなっています。
が多くなっています。



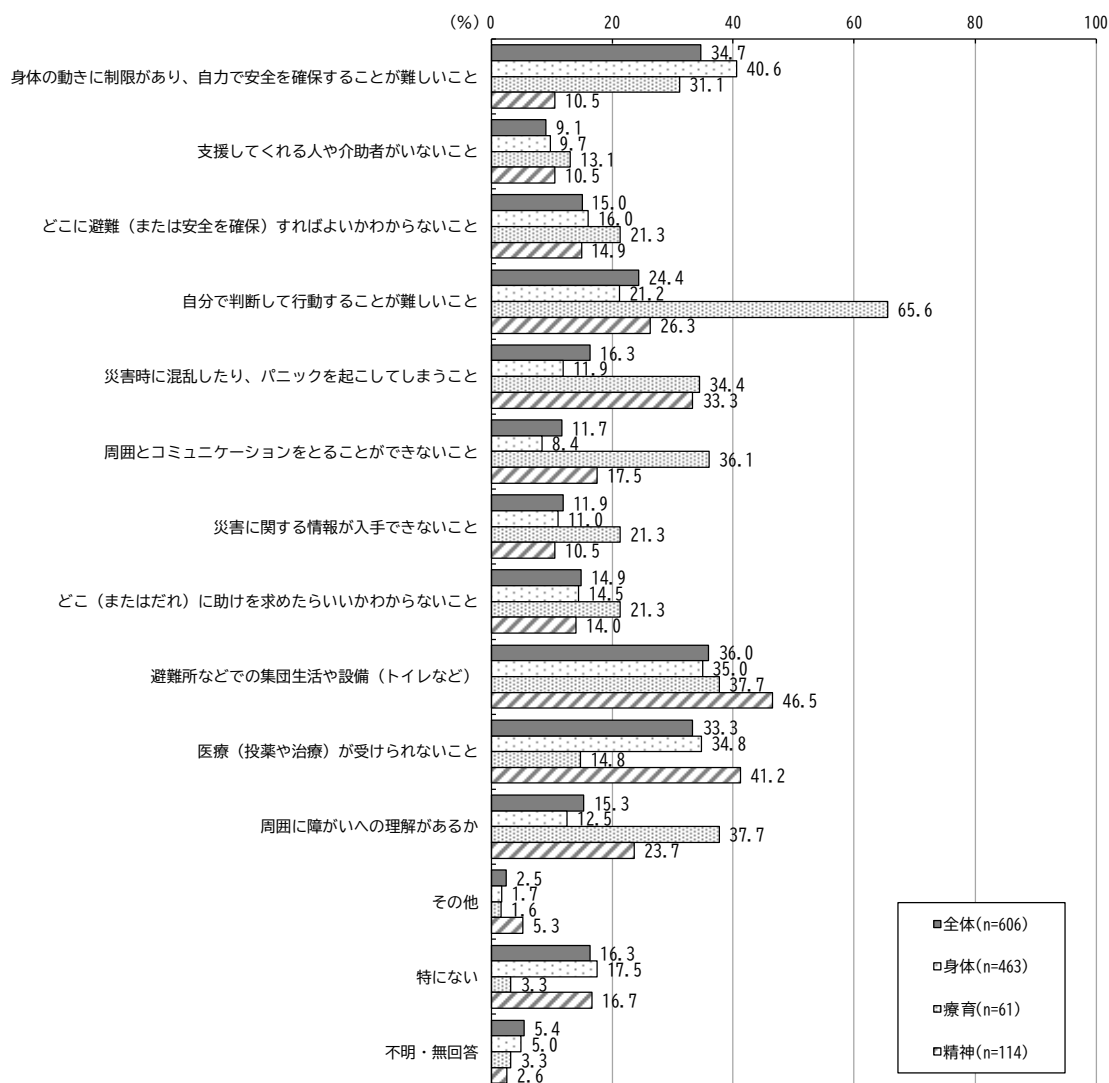
(2) 災害時に不安なこと

問 35 大きな地震や風水害が起こった場合、どのようなことを不安に感じますか。(あてはまるものすべてに○)

大きな地震や風水害が起こった場合、不安に感じることについては、「避難所などでの集団生活や設備（トイレなど）」が36.0%で最も多く、次いで「身体の動きに制限があり、自力で安全を確保することが難しいこと」が34.7%、「医療（投薬や治療）が受けられないこと」が33.3%となっています。

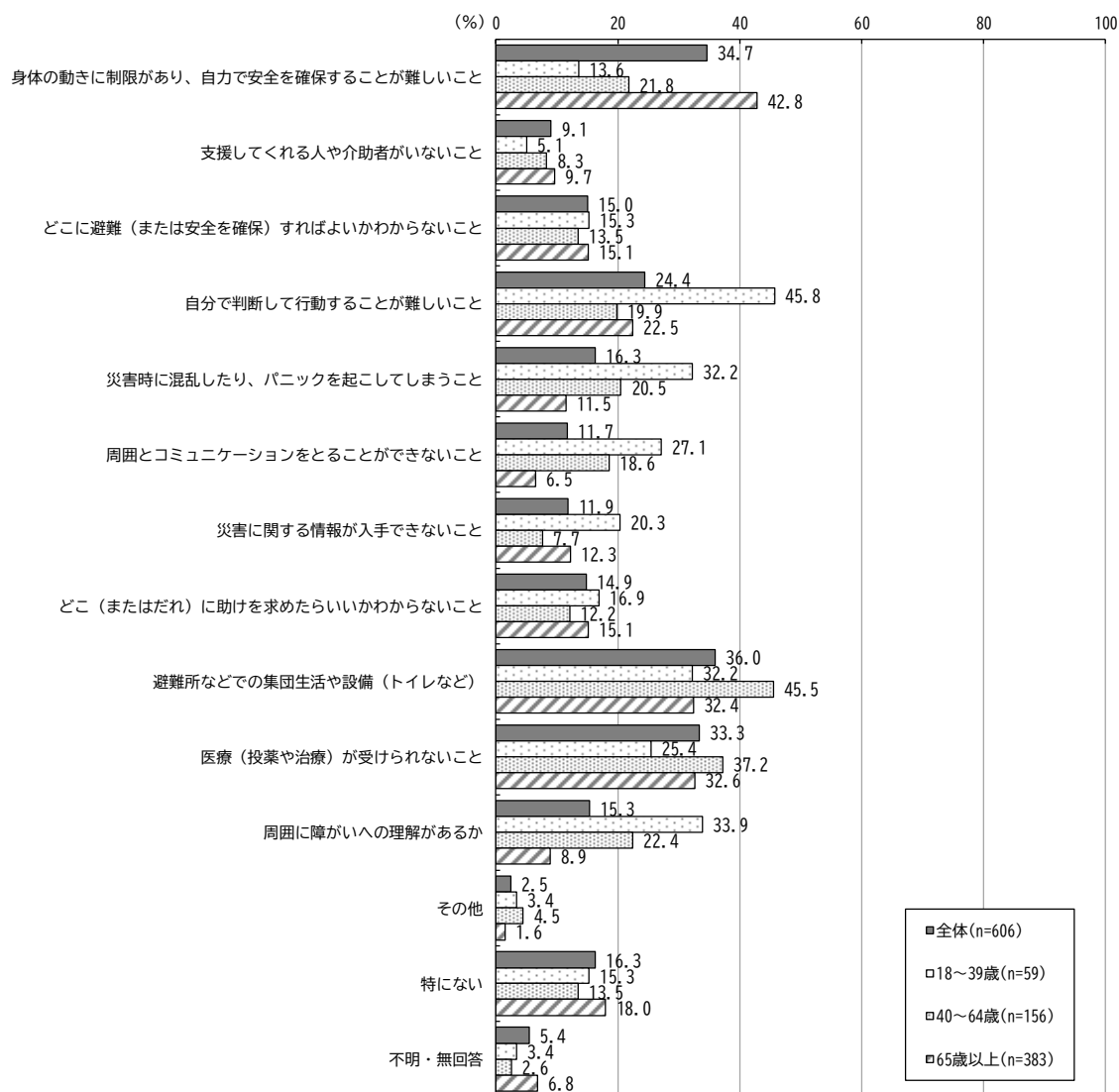
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「自分で判断して行動することが難しいこと」「周囲に障がいへの理解があるか」「周囲とコミュニケーションをとることができないこと」、精神障がいのある人で「避難所などでの集団生活や設備（トイレなど）」「医療（投薬や治療）が受けられないこと」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「自分で判断して行動することが難しいこと」、40～64歳では「避難所などでの集団生活や設備（トイレなど）」、65歳以上では「身体の動きに制限があり、自力で安全を確保することが難しいこと」が多くなっています。



8. 障がいのある人に対する差別や虐待などについて

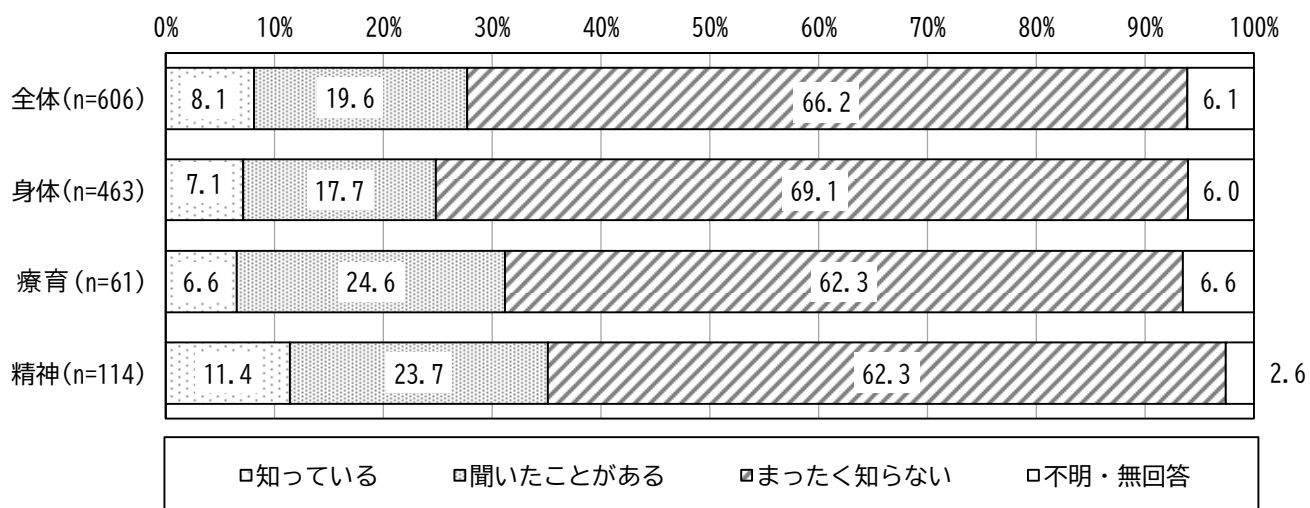
(1) 「障がい者差別解消法」の認知

問 36 「障害者差別解消法」を知っていますか。(○は1つだけ)

「障害者差別解消法」については、「知っている」が8.1%、「聞いたことがある」が19.6%、「まったく知らない」が66.2%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「知っている」「聞いたことがある」が合わせて35.1%と多くなっています。



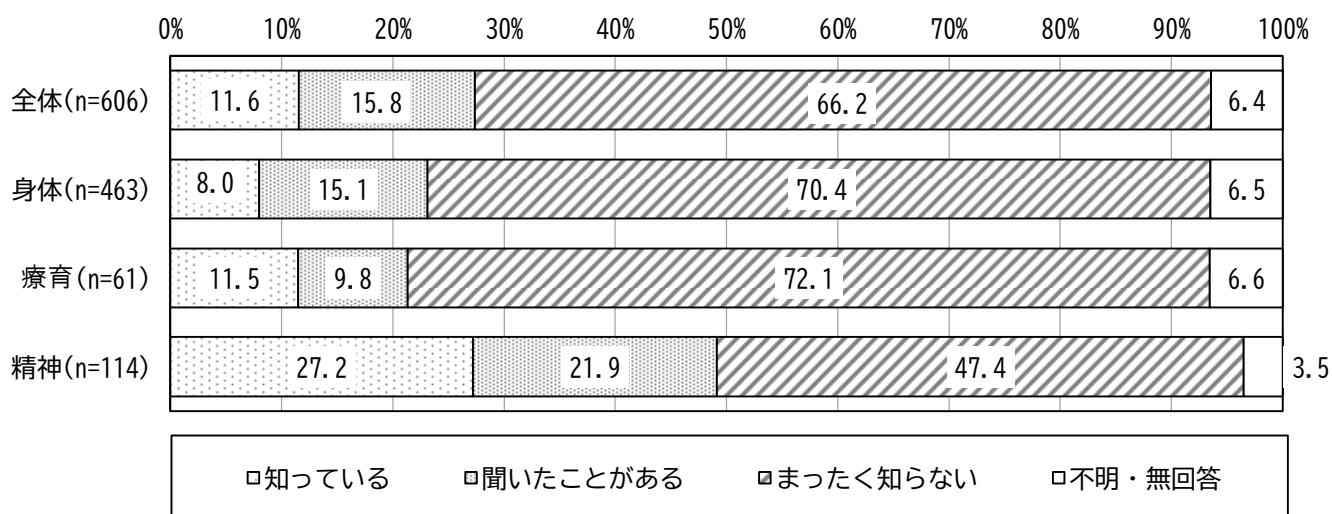
(2) 「合理的配慮」の認知

問 37 「合理的配慮」を知っていますか。(○は1つだけ)

「合理的配慮」については、「知っている」が11.6%、「聞いたことがある」が15.8%、「まったく知らない」が66.2%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「知っている」が27.2%、「聞いたことがある」が21.9%と多くなっています。



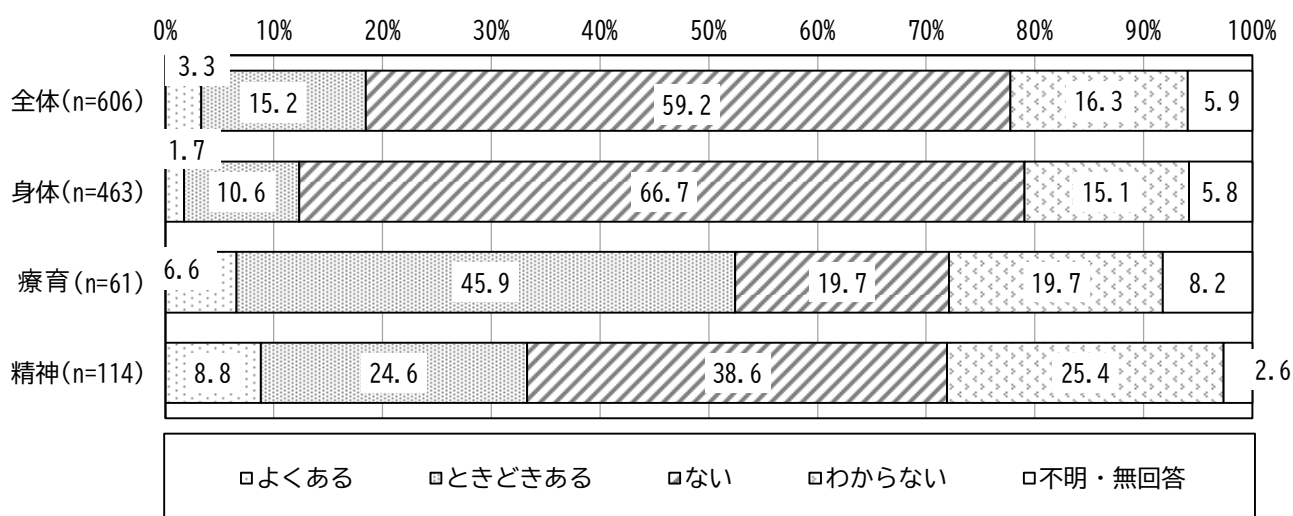
(3) 障がいがあることで差別・偏見を受けた経験

問 38 これまで、障がいがあることで差別や偏見などを受けたことがありますか。(○は1つだけ)

これまで、障がいがあることで差別や偏見などを受けたことがあるかについては、「ない」が 59.2%で最も多く、次いで「わからない」が 16.3%、「ときどきある」が 15.2%となっています。

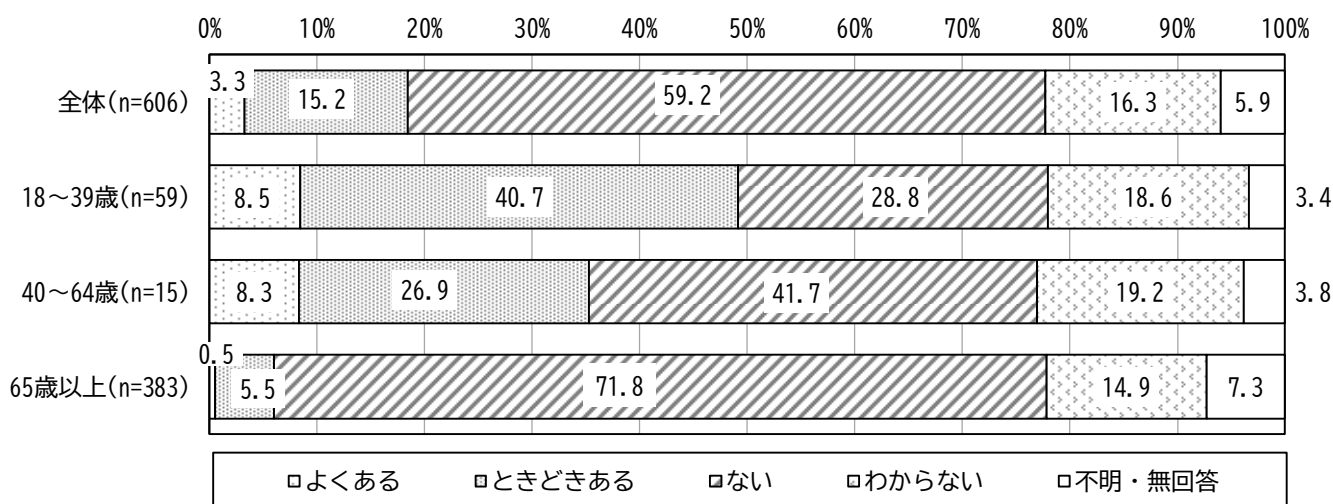
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「ときどきある」が 45.9%と多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「ときどきある」が 40.7%、40～64歳で 26.9%と多くなっています。



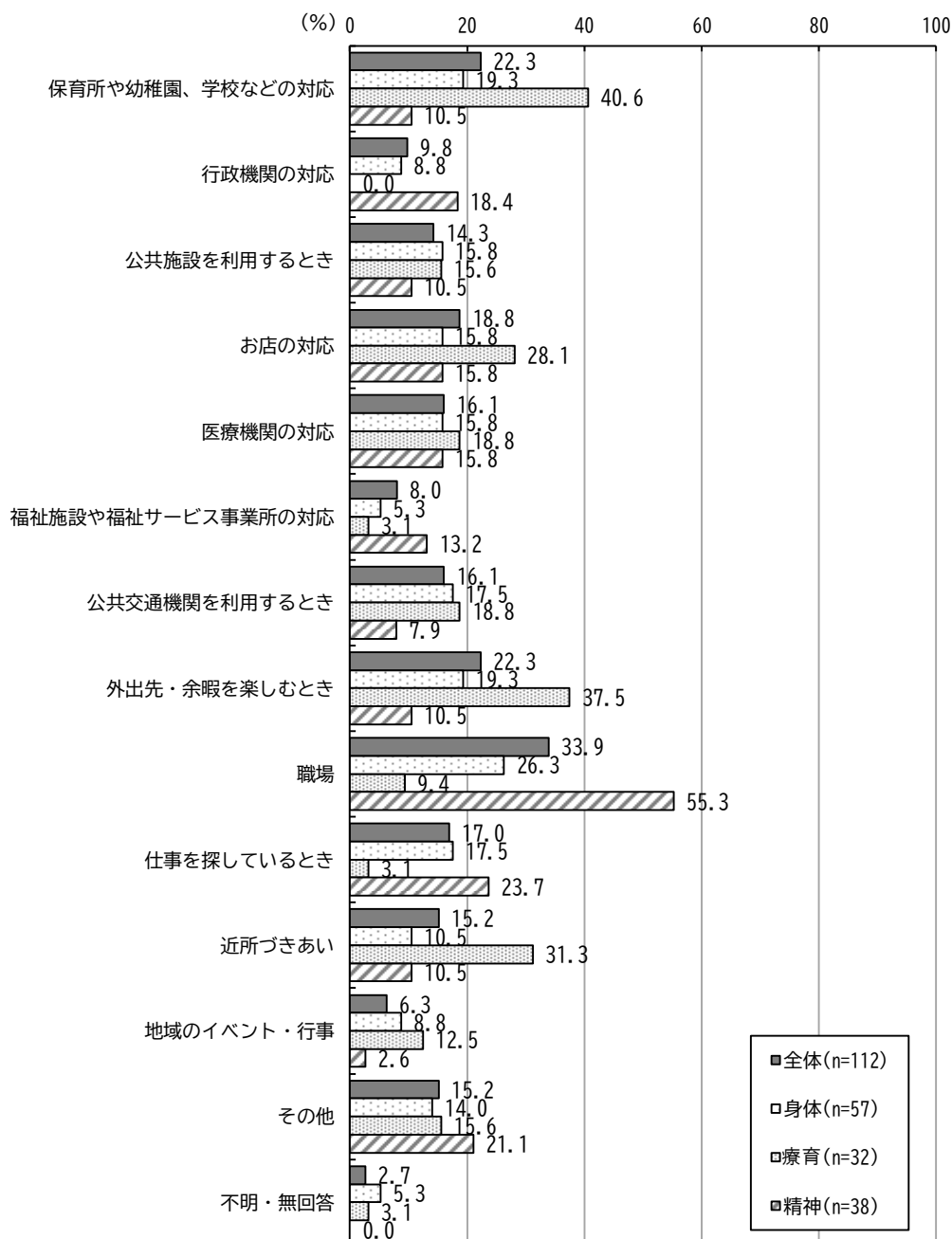
(4) 差別を受けた場所や場面

問 39 問 38 で 1、2 のいずれかを選んだ方にお聞きします。どのような場所や場面で差別などを受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

どのような場所や場面で差別などを受けたかについては、「職場」が 33.9%で最も多く、次いで「保育所や幼稚園、学校などの対応」「外出先・余暇を楽しむとき」が 22.3%、「お店の対応」が 18.8% となっています。

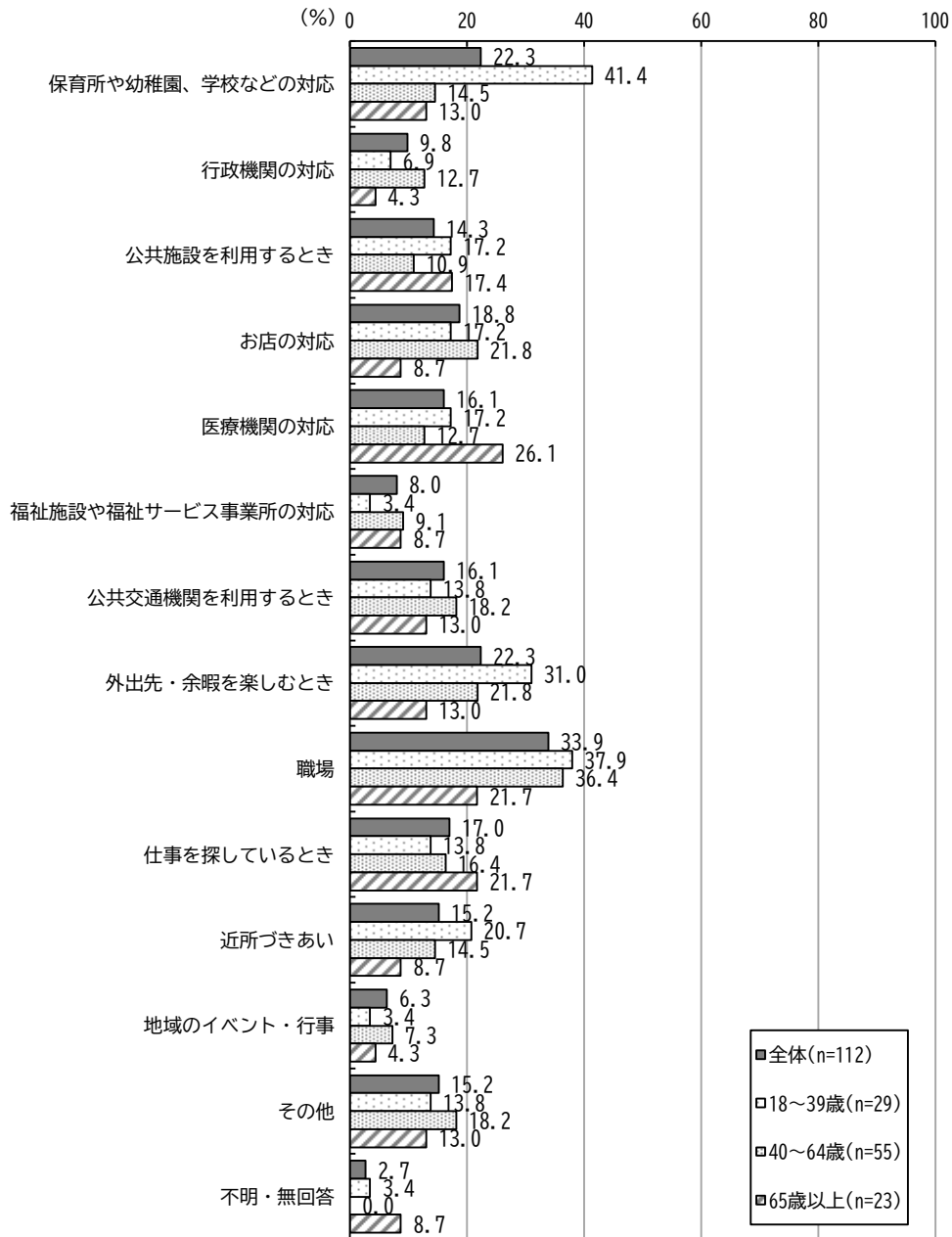
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「保育所や幼稚園、学校などの対応」「外出先・余暇を楽しむとき」「お店の対応」「近所づきあい」、精神障がいのある人で「職場」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「保育所や幼稚園、学校などの対応」、65歳以上では「医療機関の対応」が多くなっています。



◇どのような場所や場面で差別等を受けたか 「その他」の回答

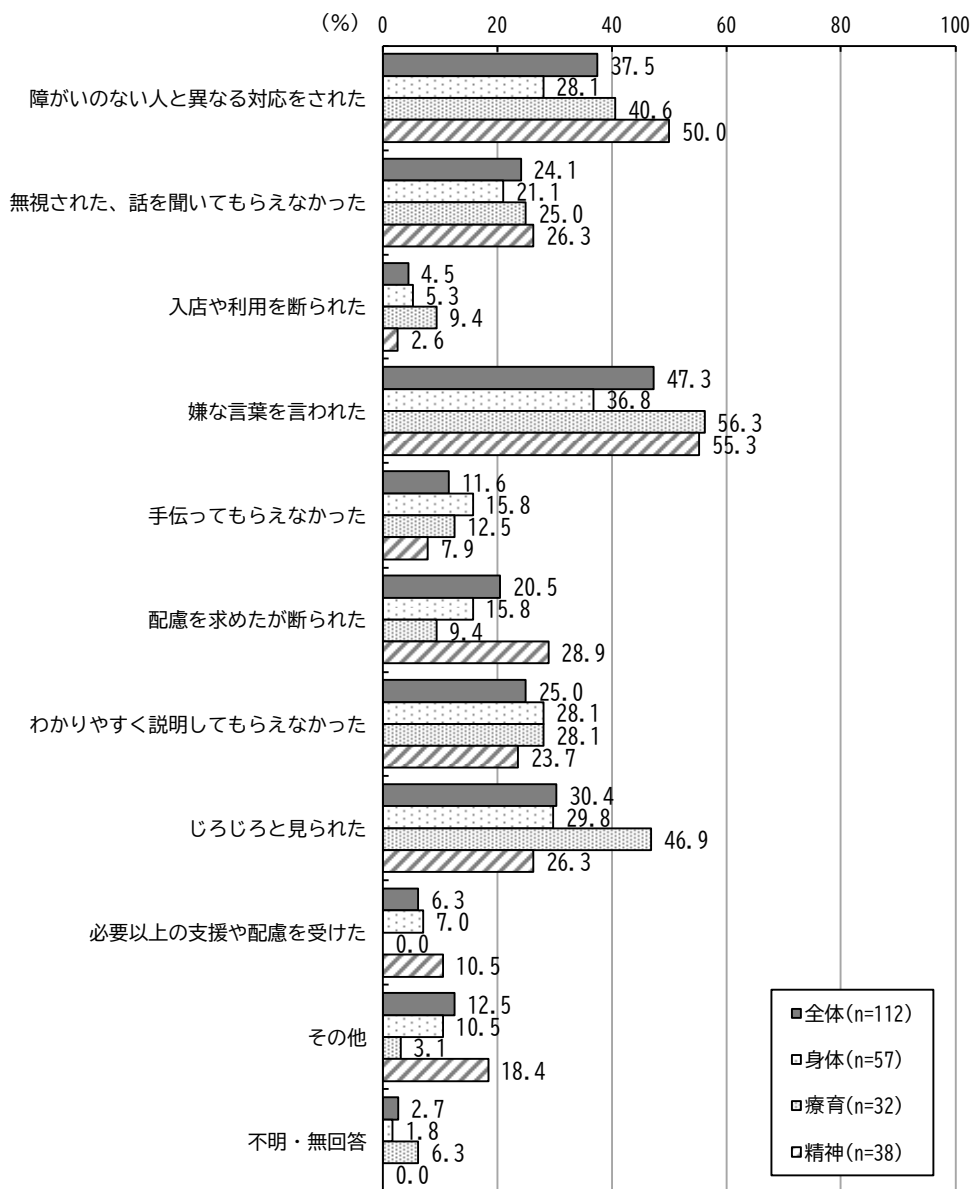
内 容	
友人 (3人)	家族 (親) とのコミュニケーションをとる時
知人 (2人)	結婚相談所
インターネット (SNS 等)	電車
成人式の頃に行われた同窓会的なイベント	警察署
大人は親切だが、こどもはシビア	

① それは、どのような内容でしたか。(あてはまるものすべてに○)

差別などの内容については、「嫌な言葉を言われた」が47.3%で最も多く、次いで「障がいのない人と異なる対応をされた」が37.5%、「じろじろと見られた」が30.4%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「じろじろと見られた」、精神障がいのある人で「障がいのない人と異なる対応をされた」が他の障がい種別に比べて多くなっています。



◇差別等の内容 「その他」の回答

内 容	
何となく距離を置かれる	言葉ではないが嘲笑された
いじめられた	強迫性のある言葉を何度も繰り返された
障害手帳を提示したら舌打ちされた	電車の席を譲ってもらえなかった
「気合でうつ病など治る」など、理解がない対応をされた	
立場の弱さに付け込んでセクハラをされた	
障がいがあると分かった上で苦手な職種に異動させられ、復職する時も正社員には戻れないと言われた	
見た目では解らない下肢障がいで、いつも障がいがあることを伝えていても忘れられるので、病気の事が伝わらない	
特別養護老人ホームなどの施設の入所において、ショート利用は断られることが多い	

など

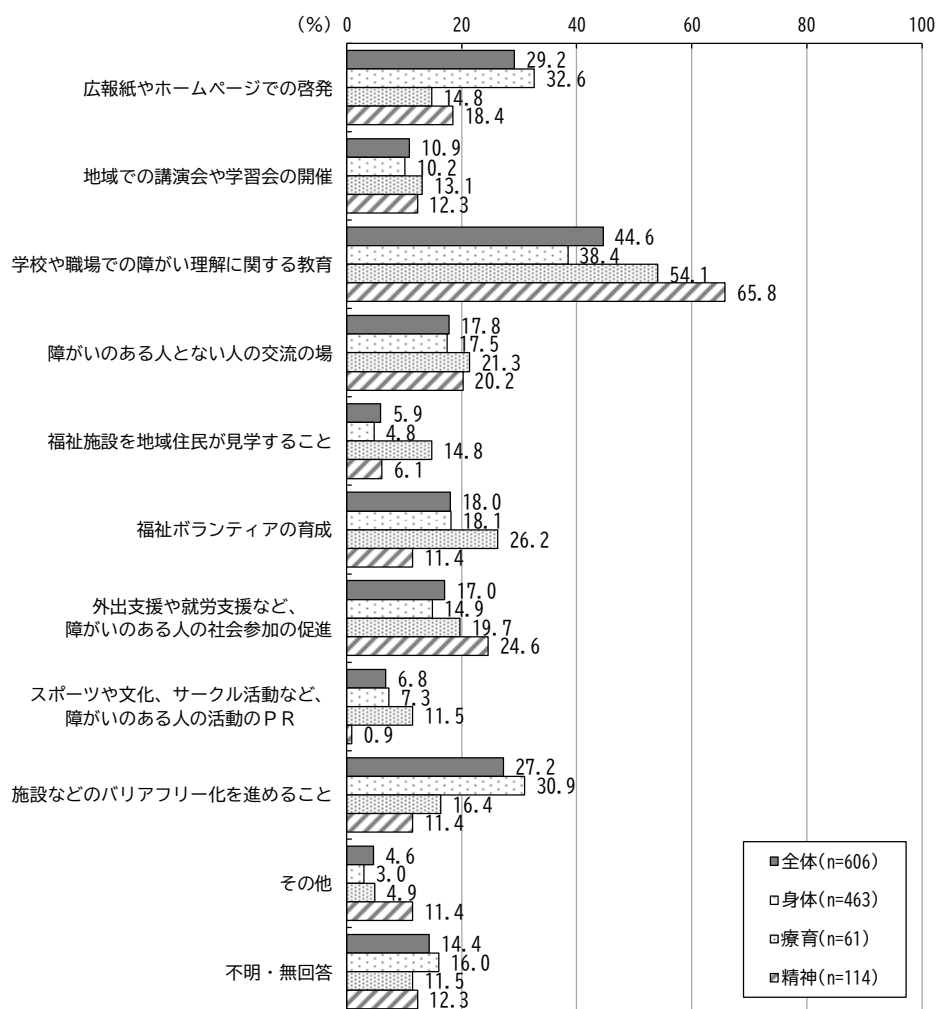
(5) 差別や偏見をなくすために必要なこと

問 40 地域や周囲の人の「障がい」や「障がいのある人」への理解を深め、差別や偏見をなくすためには、何が必要だと思いますか。(もっともあてはまるもの3つまでに○)

地域や周囲の人の「障がい」や「障がいのある人」への理解を深め、差別や偏見をなくすために必要なことについては、「学校や職場での障がい理解に関する教育」が44.6%で最も多く、次いで「広報紙やホームページでの啓発」が29.2%、「施設などのバリアフリー化を進めること」が27.2%となっています。

【障がい種別】

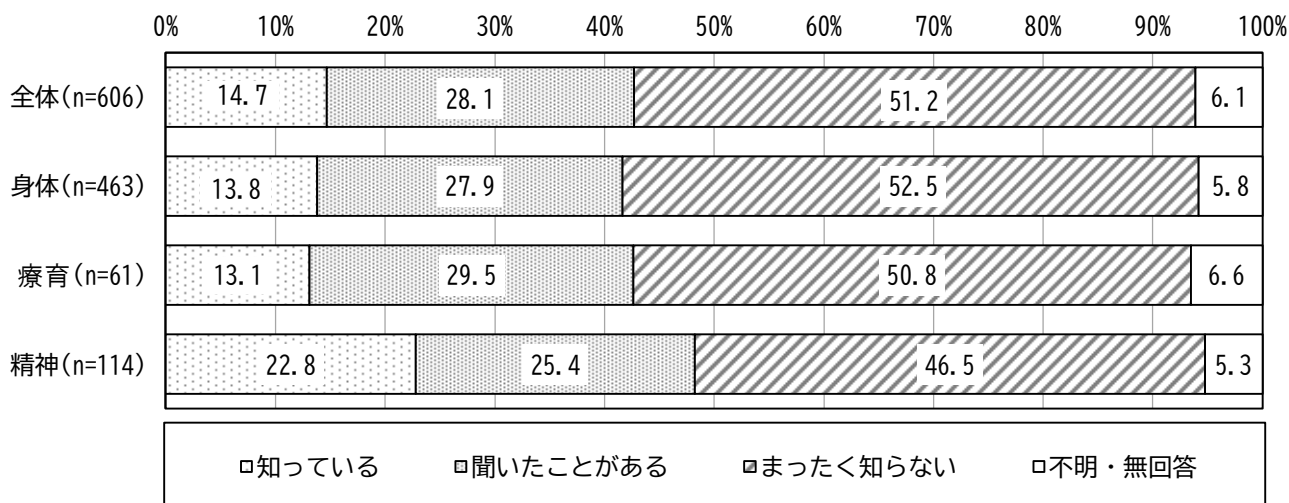
障がい種別にみると、精神障がいのある人で「学校や職場での障がい理解に関する教育」が多くなっています。



(6) 「障がい者虐待防止法」の認知

問 41 「障害者虐待防止法」を知っていますか。(○は1つだけ)

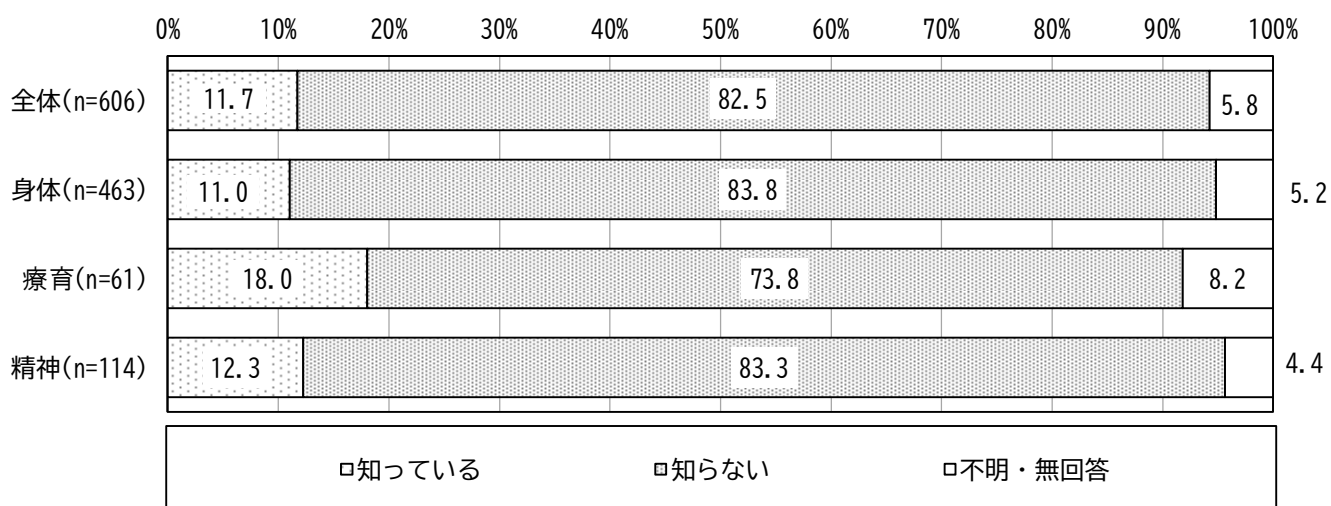
「障害者虐待防止法」については、「知っている」が14.7%、「聞いたことがある」が28.1%、「まったく知らない」が51.2%となっています。



(7) 虐待に関する相談先

問 42 虐待を受けたり、受けている人を見つけた際の相談・通報先を知っていますか。(○は1つだけ)

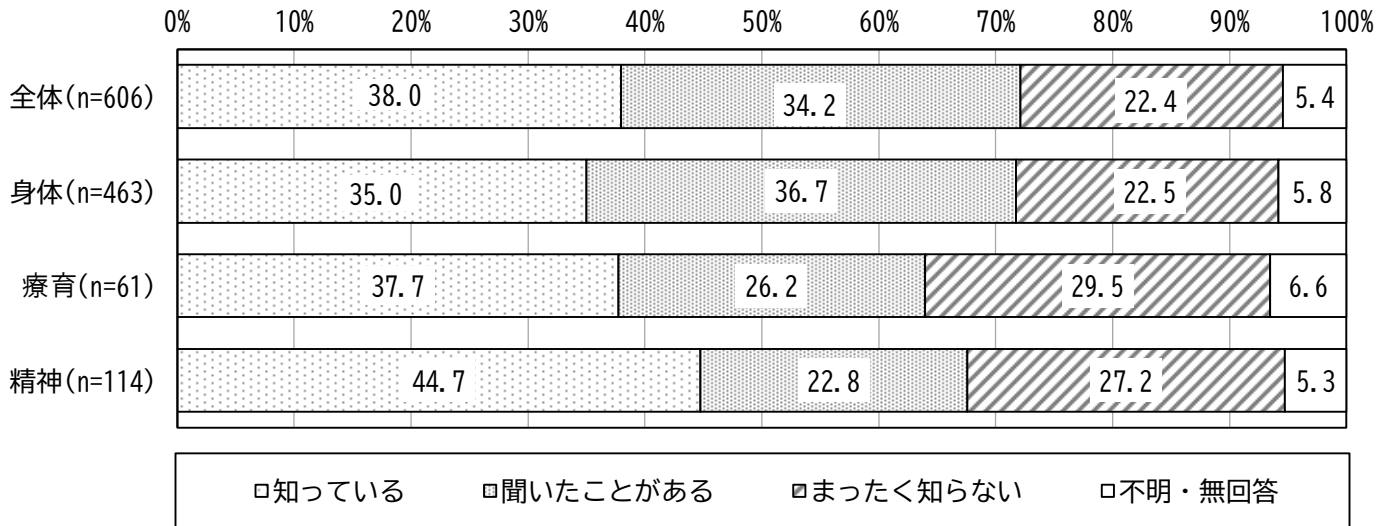
虐待を受けたり、受けている人を見つけた際の相談・通報先については、「知っている」が11.7%、「知らない」が82.5%となっています。



(8) 「成年後見制度」の認知

問 43 「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つだけ)

「成年後見制度」については、「知っている」が38.0%、「聞いたことがある」が34.2%、「まったく知らない」が22.4%となっています。



9. 地域社会とのかかわりについて

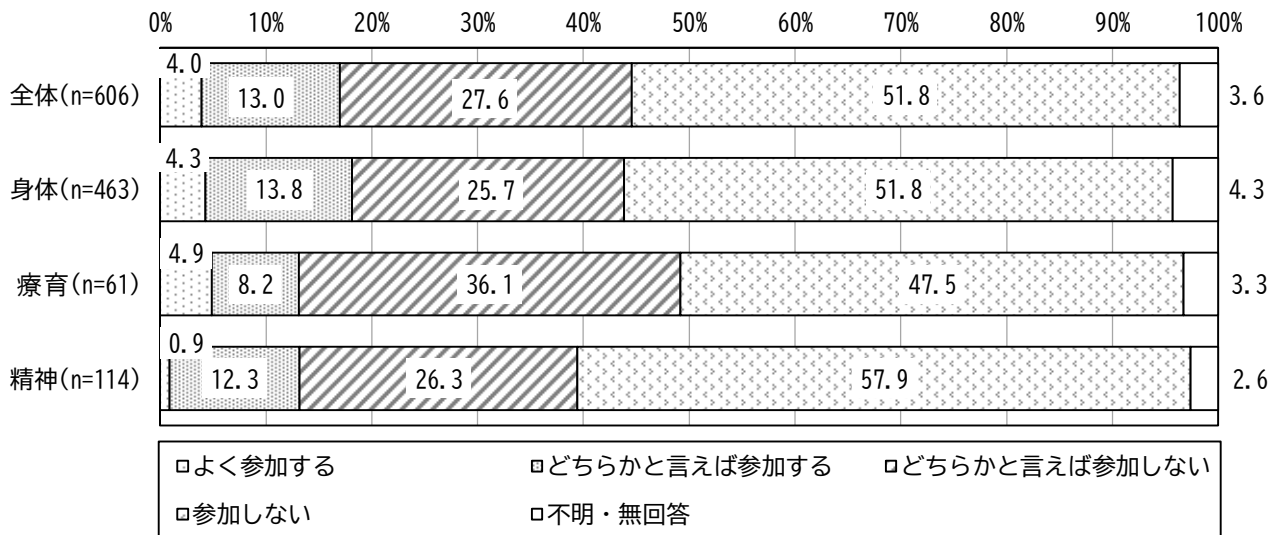
(1) 地域の行事・活動への参加状況

問 44 あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。(○は1つだけ)

地域の行事や活動に参加しているかについては、「参加しない」が51.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば参加しない」が27.6%、「どちらかといえば参加する」が13.0%となっています。

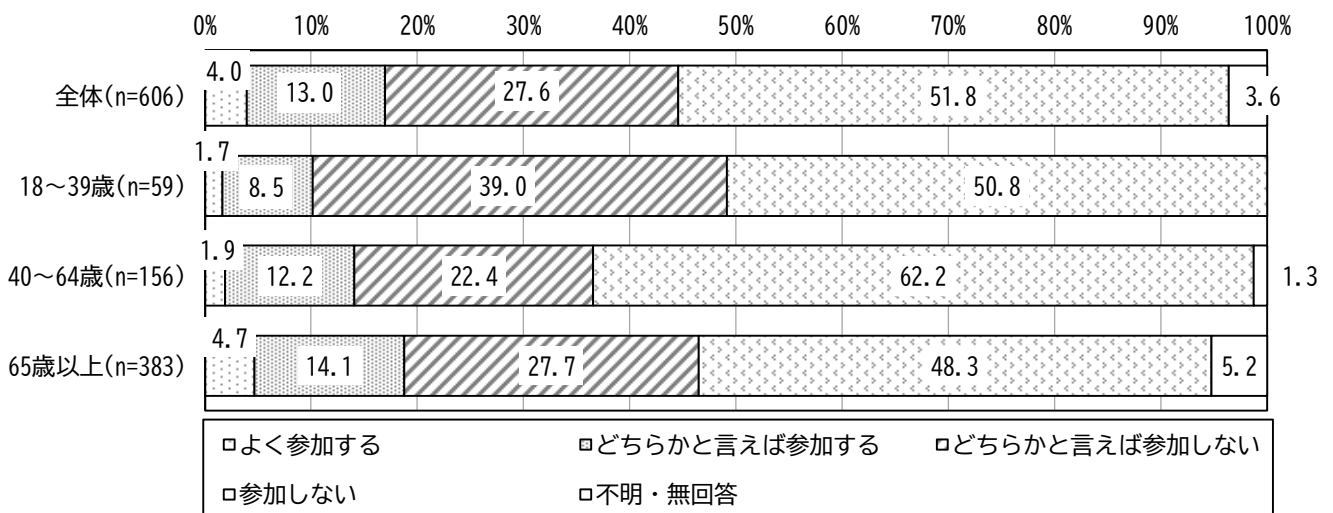
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「どちらかといえば参加する」、知的障がい・発達障がいのある人で「どちらかといえば参加しない」、精神障がいのある人で「参加しない」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「よく参加する」「どちらかといえば参加する」を合わせて10.2%、40～64歳で14.1%、65歳以上で18.8%となっています。



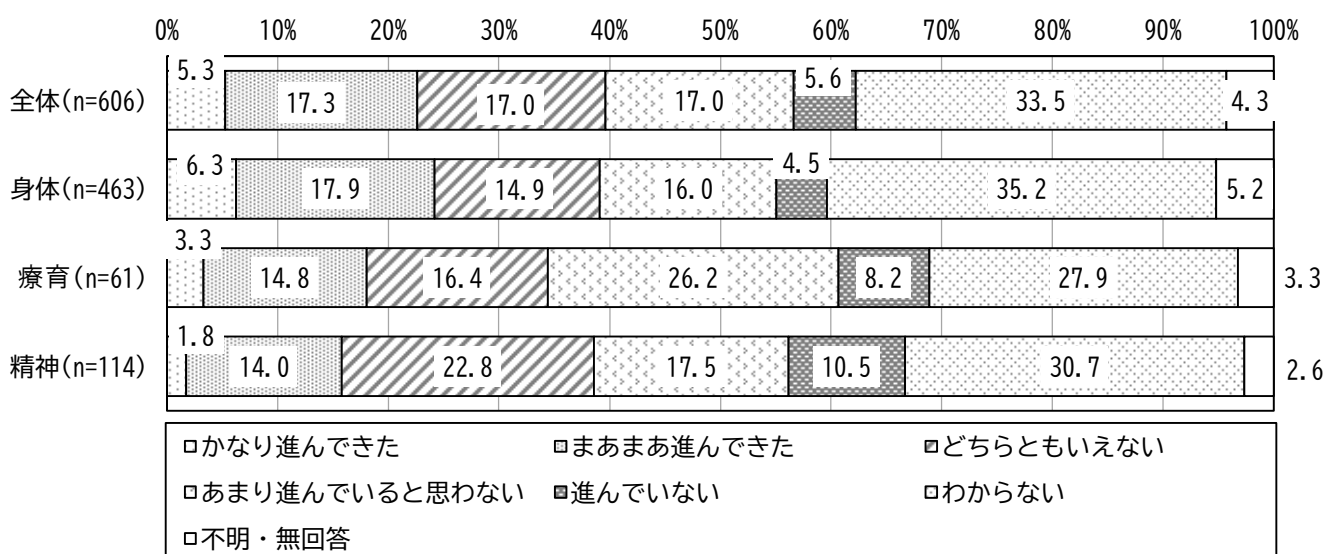
(2) 障がいのある人に対する地域の理解

問 45 障がいのある人に対する地域の理解は進んできたと思いますか。(○は1つだけ)

障がいのある人に対する地域の理解は進んできたと思うかについては、「わからない」が33.5%で最も多く、次いで「まあまあ進んできた」が17.3%、「どちらともいえない」「あまり進んでいると思わない」がともに17.0%となっています。

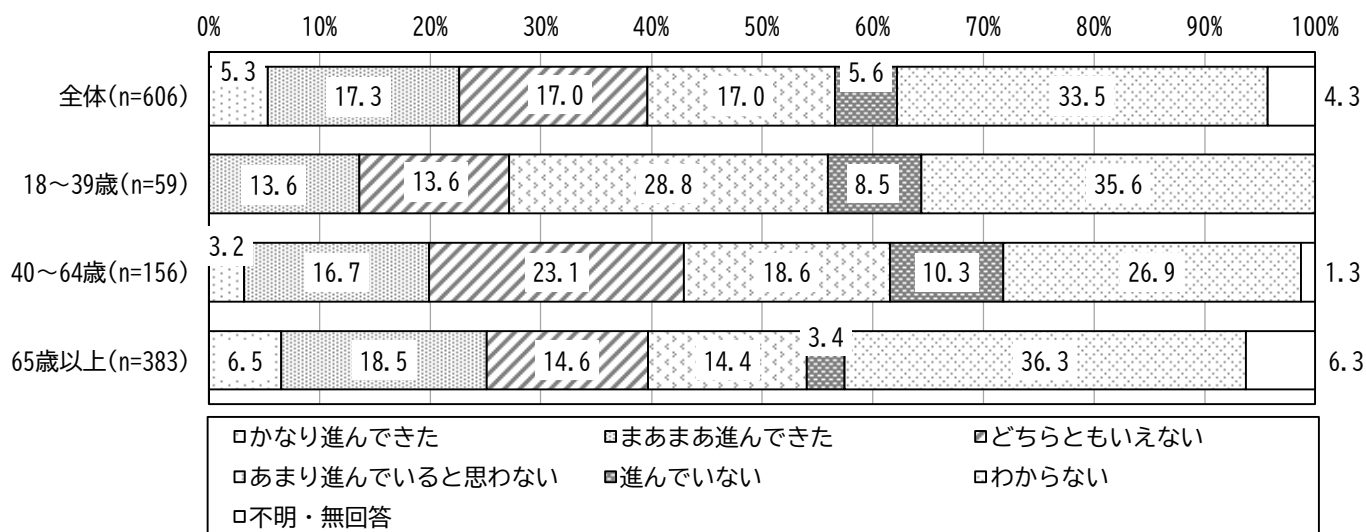
【障がい種別】

障がい種別にみると、「かなり進んできた」「まあまあ進んできた」を合わせて、身体障がいのある人で24.2%、知的障がい・発達障がいのある人で18.1%、精神障がいのある人で15.8%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、65歳以上で「かなり進んできた」「まあまあ進んできた」が多くなっています。



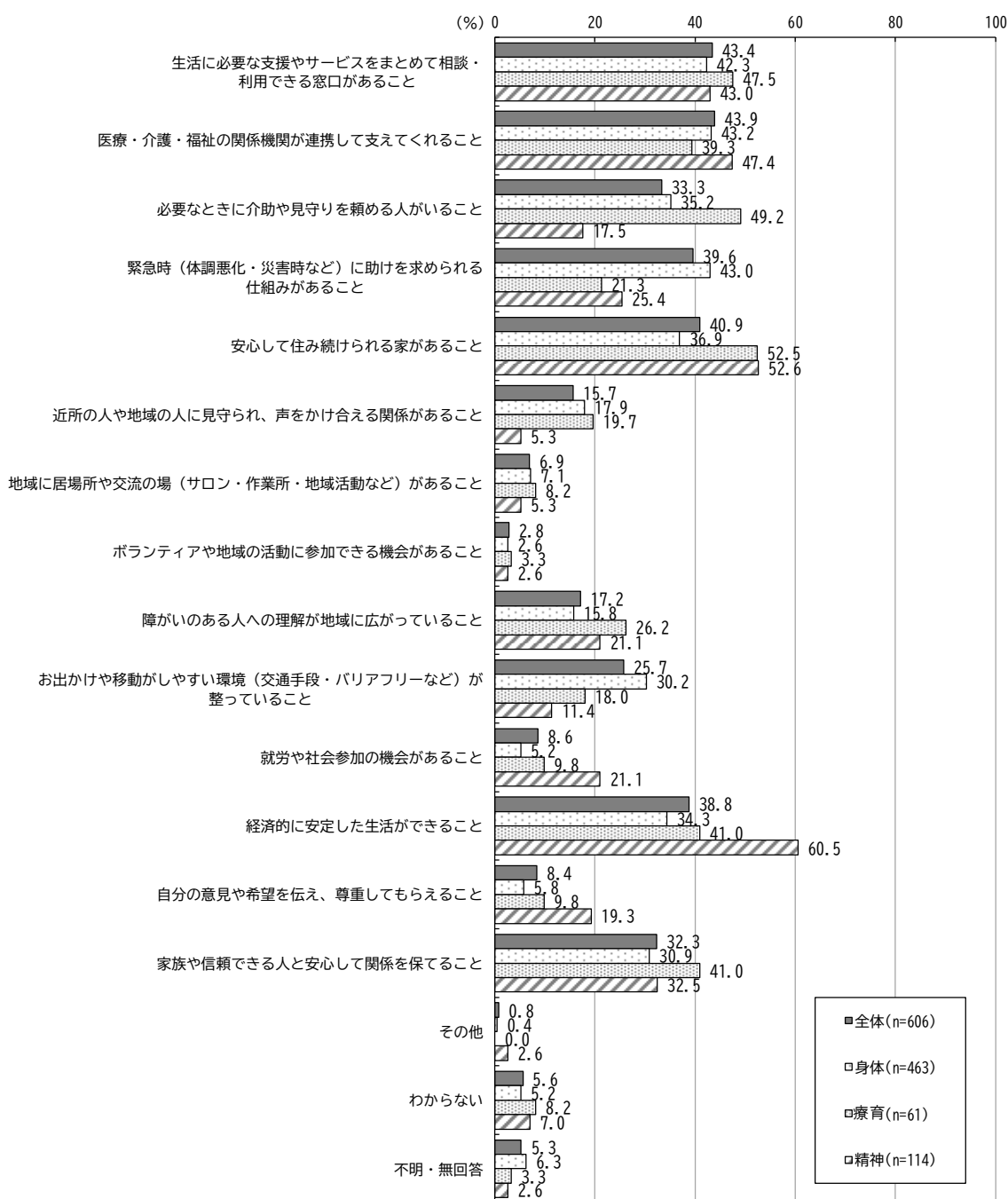
(3) 自宅・地域で生活するために必要なこと

問 46 あなたが自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ためには、どのような条件が必要だと思いますか。（もっともあてはまるもの5つまでに○）

自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ために必要だと思う条件については、「医療・介護・福祉の関係機関が連携して支えてくれること」が43.9%で最も多く、次いで「生活に必要な支援やサービスをまとめて相談・利用できる窓口があること」が43.4%、「安心して住み続けられる家があること」が40.9%となっています。

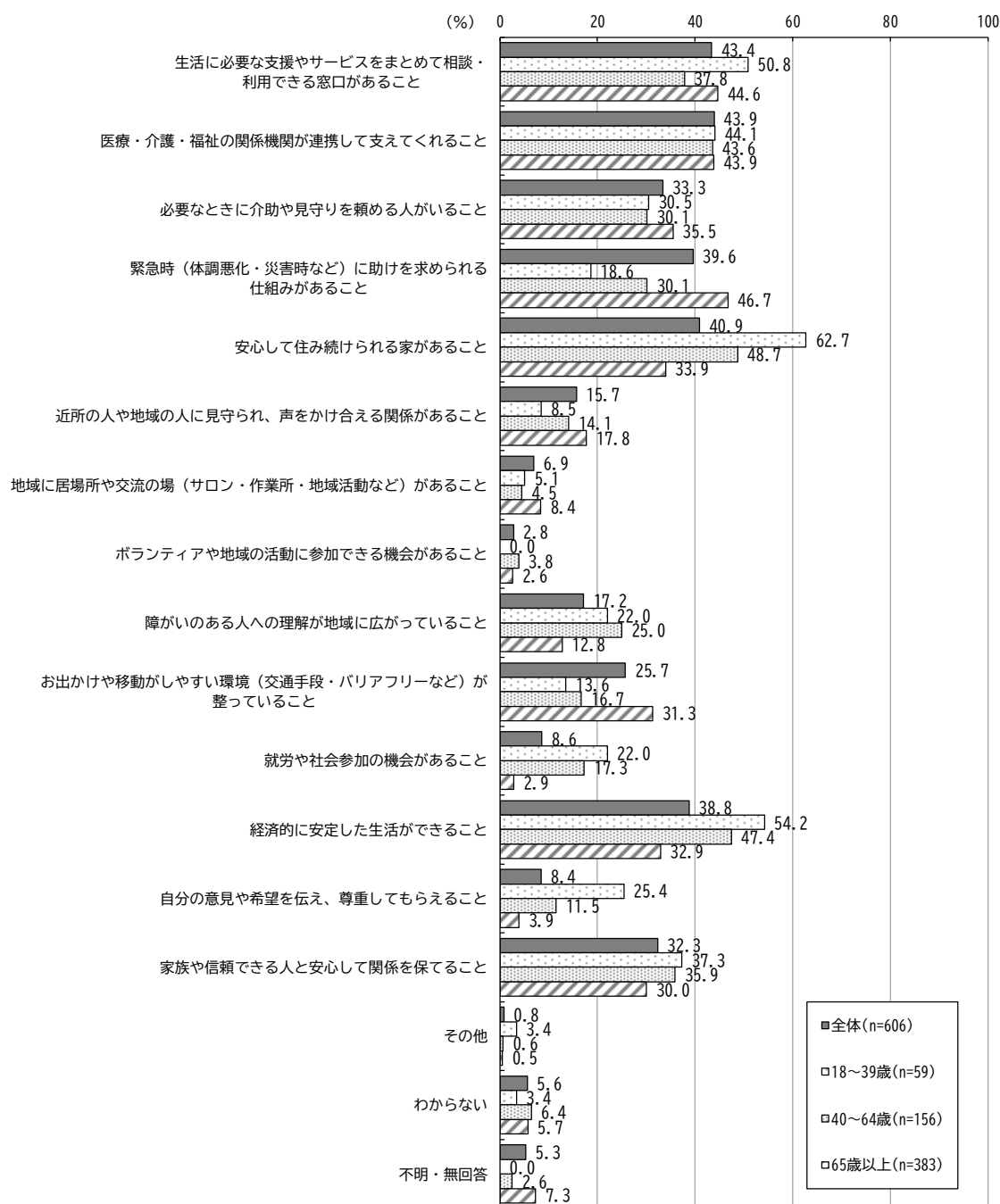
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「必要な時に介助や見守りを頼める人がいること」、精神障がいのある人で「経済的に安定した生活ができること」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「安心して住み続けられる家があること」「経済的に安定した生活ができること」、65歳以上では「緊急時（体調悪化・災害時など）に助けを求められる仕組みがあること」が多くなっています。



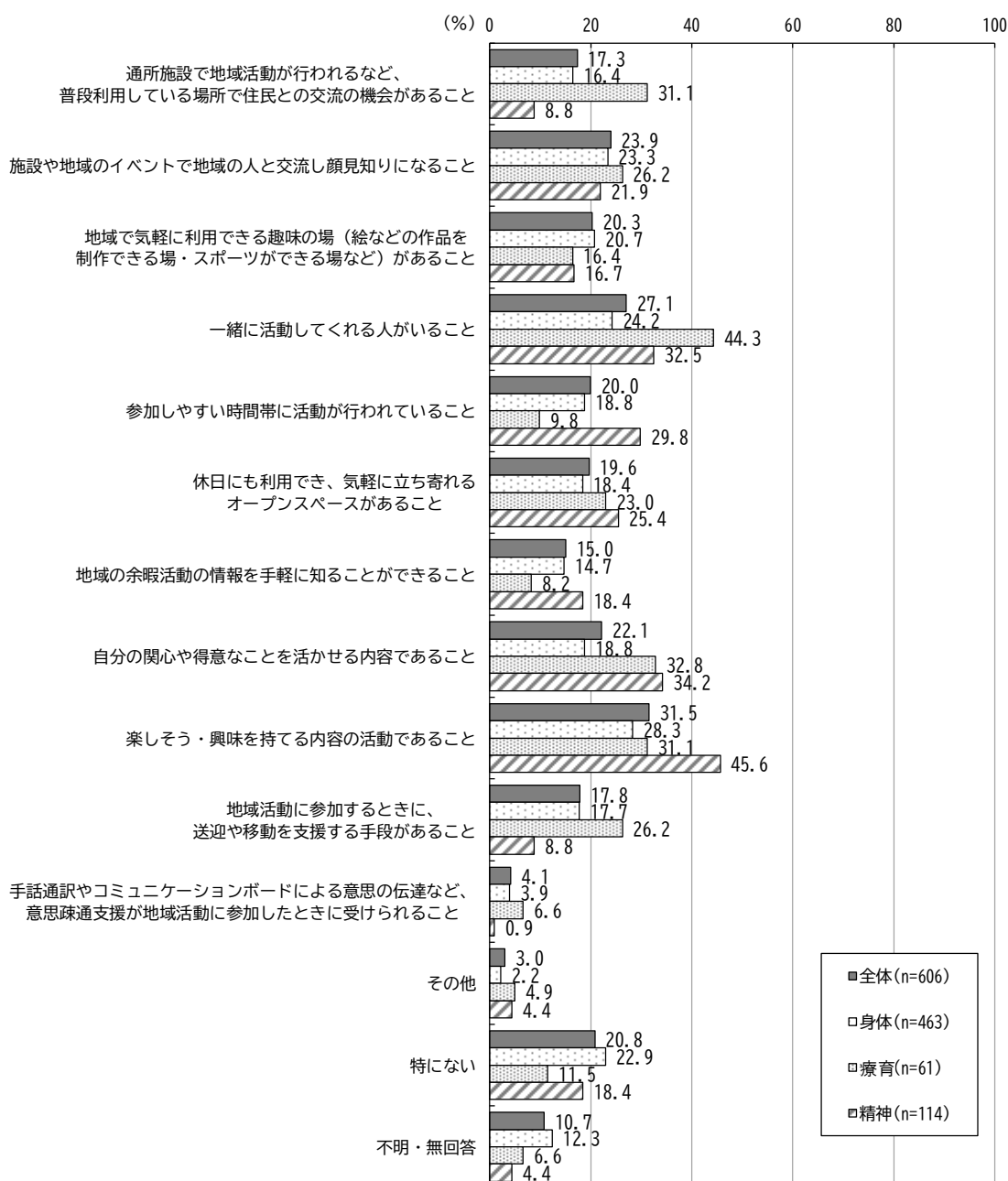
(4) 地域活動に参加するために必要なこと

問 47 地域の中では、住民同士の交流を深める活動をはじめ、様々な地域活動が行われています。地域活動に参加するために何が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動に参加するために必要だと思うことについては、「楽しそう・興味を持てる内容の活動であること」が31.5%で最も多く、次いで「一緒に活動してくれる人がいること」が27.1%、「施設や地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること」が23.9%となっています。

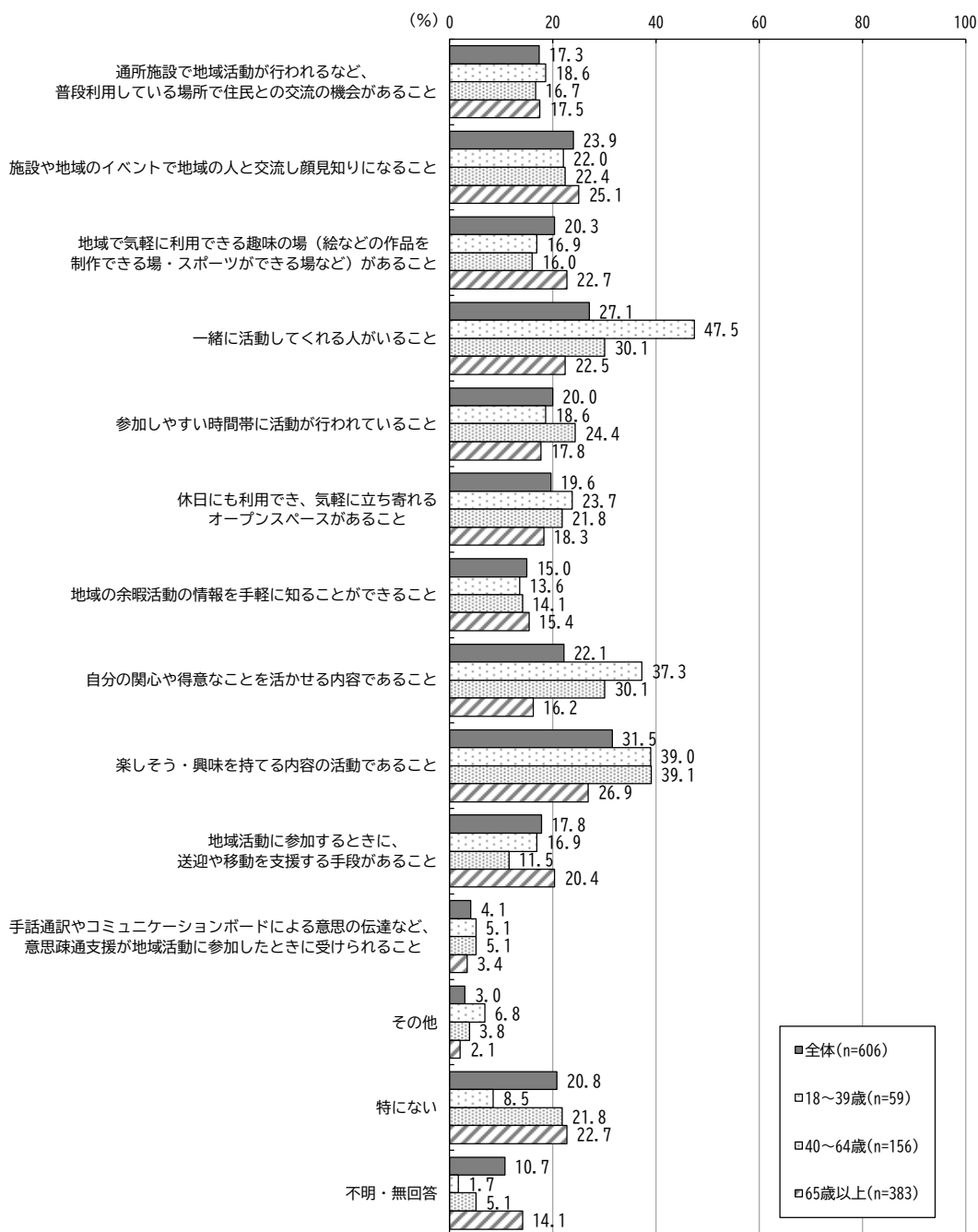
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「一緒に活動してくれる人がいること」「通所施設で地域活動が行われるなど、普段利用している場所で住民との交流の機会があること」、精神障がいのある人で「楽しそう・興味を持てる内容の活動であること」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「一緒に活動してくれる人がいること」「自分の関心や得意なことを活かせる内容であること」が多くなっています。



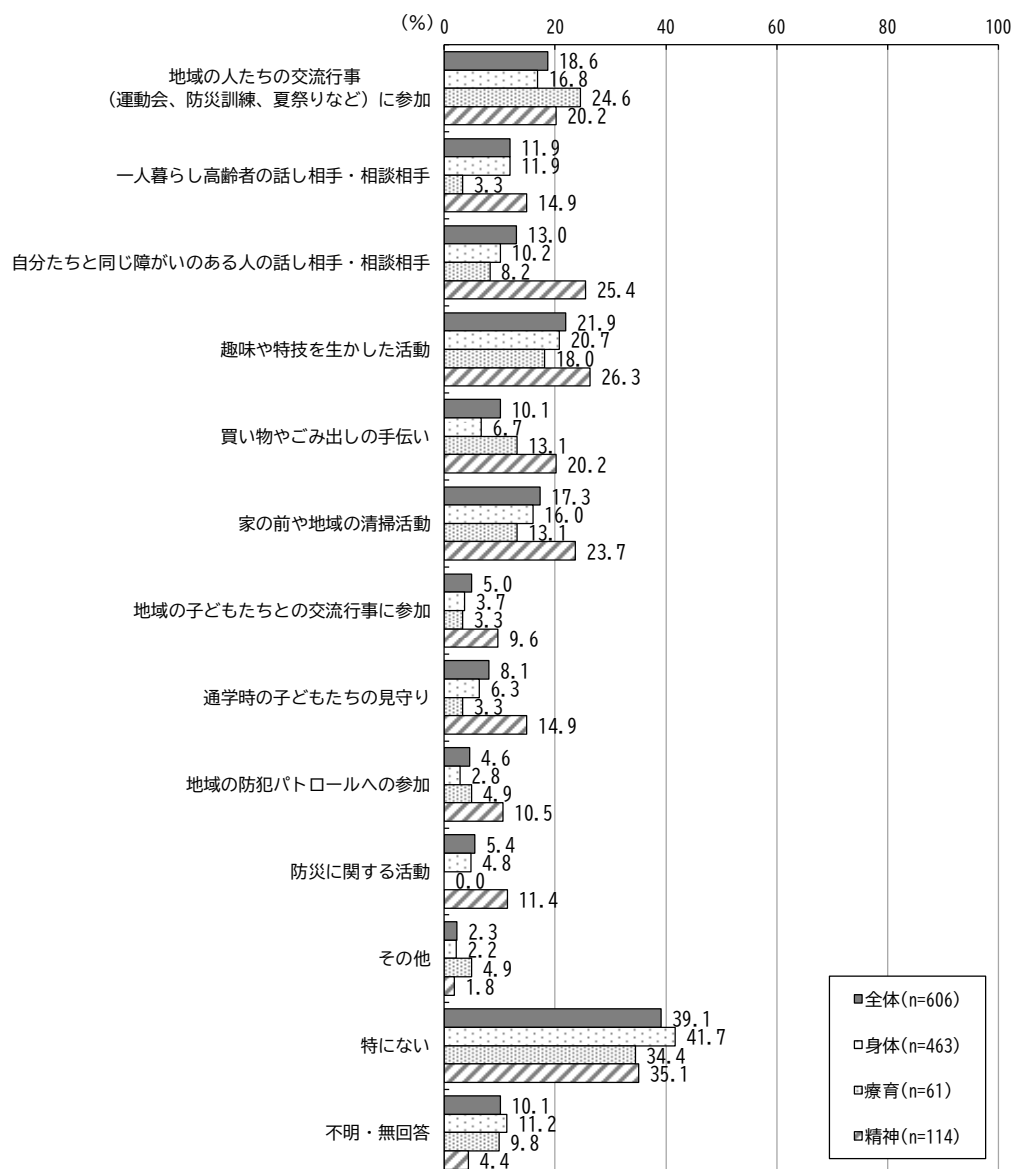
(5) 協力できそうな地域活動

問 48 地域の中では、住民同士の交流を深める活動をはじめ、様々な地域活動が行われています。次のうちあなたができそうなこと、協力できそうなことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動のうちできそうなこと、協力できそうなことについては、「特にない」が39.1%で最も多く、次いで「趣味や特技を生かした活動」が21.9%、「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」が18.6%となっています。

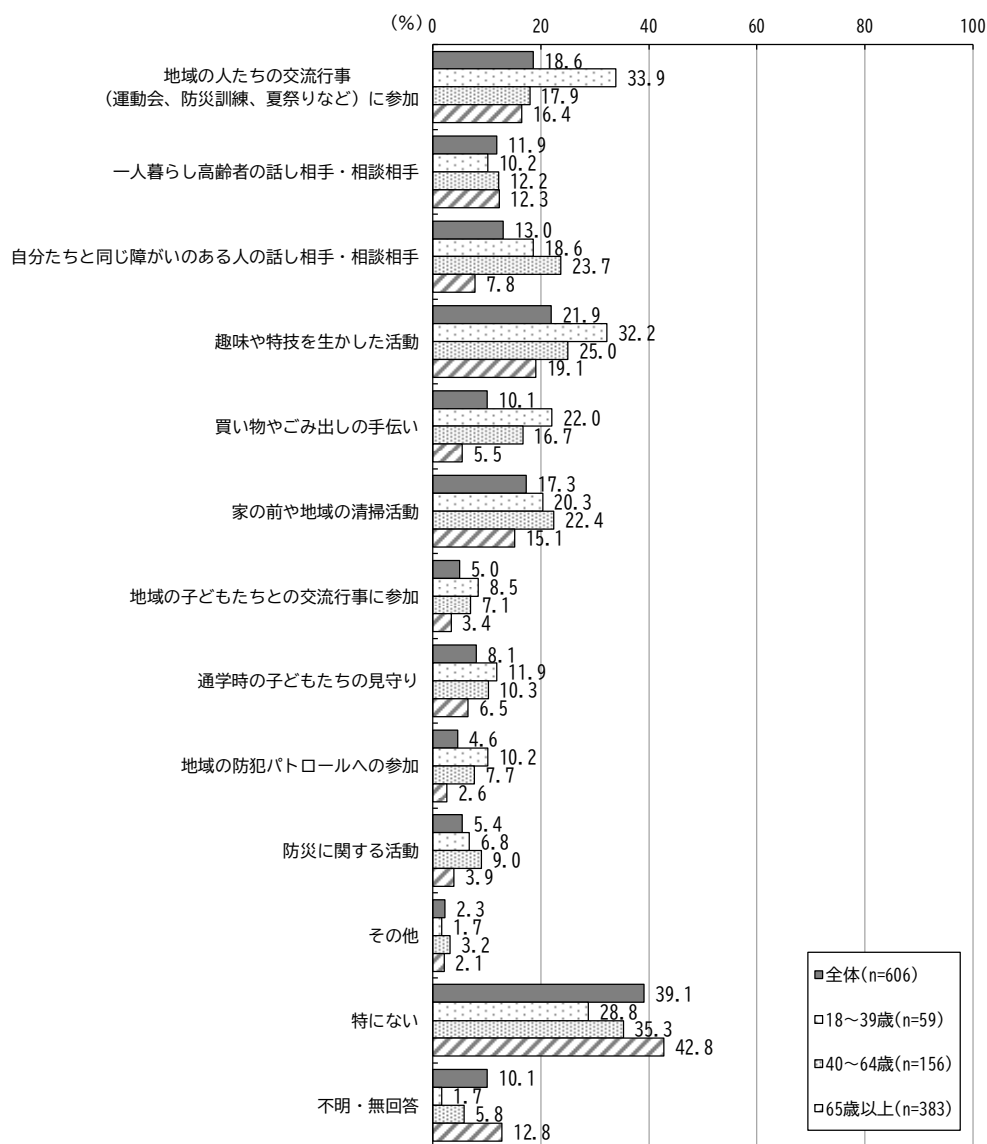
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」、精神障がいのある人で「趣味や特技を生かした活動」「自分たちと同じ障がいのある人の話し相手・相談相手」「家の前や地域の清掃活動」が他の障がい種別に比べて多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」「趣味や特技を生かした活動」、40～64歳では「自分たちと同じ障がいのある人の話し相手・相談相手」、65歳以上では「特にない」が多くなっています。



10. 芦屋市の取り組みについて

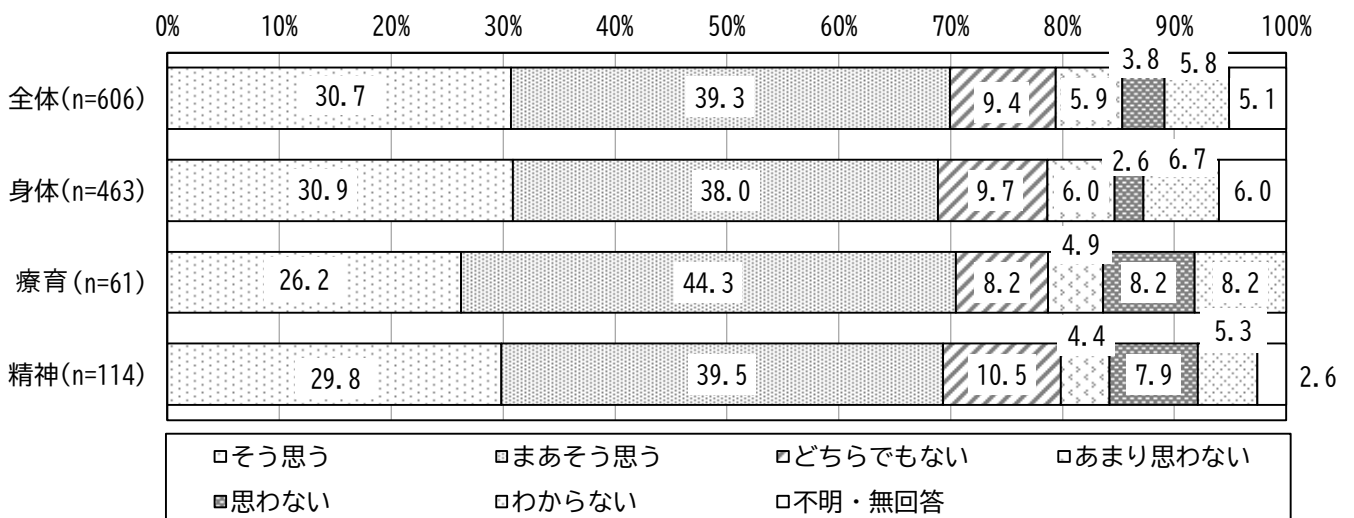
(1) 暮らしやすさ

問 49 芦屋市は、暮らしやすいまちですか。(〇は1つだけ)

芦屋市が暮らしやすいまちだと思うかについては、「まあそう思う」が39.3%で最も多く、次いで「そう思う」が30.7%、「どちらでもない」が9.4%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせると、いずれもおおよそ7割となっています。知的障がい・発達障がいのある人、精神障がいのある人では「思わない」が多くなっています。



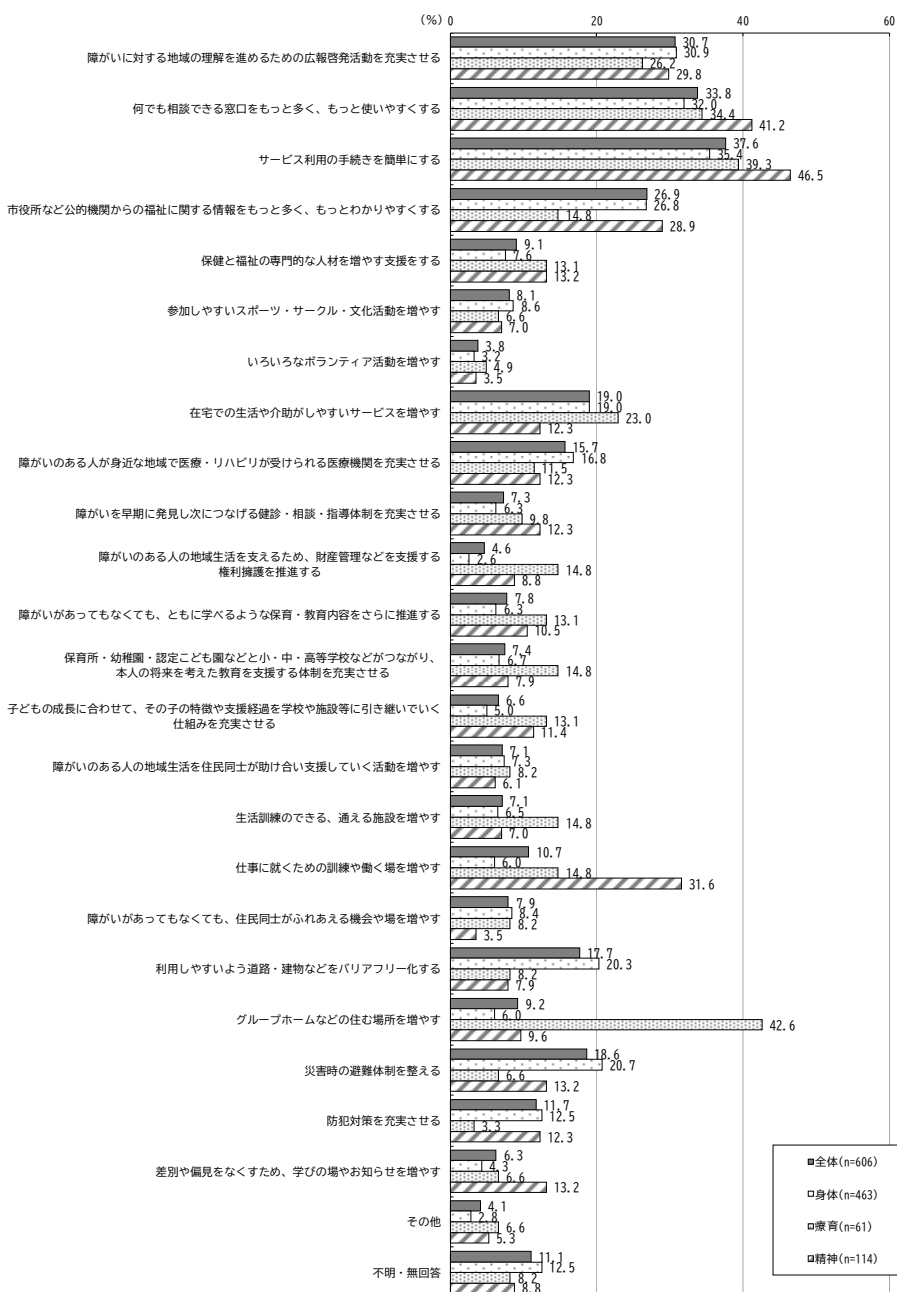
(2) 障がい者施策に期待すること・重要だと思うこと

問 50 芦屋市が行っている各種障がい者施策に期待すること、重要だと思うことはなんですか。(もっともあてはまるもの5つまでに○)

芦屋市が行っている各種障がい者施策に期待すること、重要だと思うことについては、「サービス利用の手続きを簡単にする」が37.6%で最も多く、次いで「何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする」が33.8%、「障がいに対する地域の理解を進めるための広報啓発活動を充実させる」が30.7%となっています。

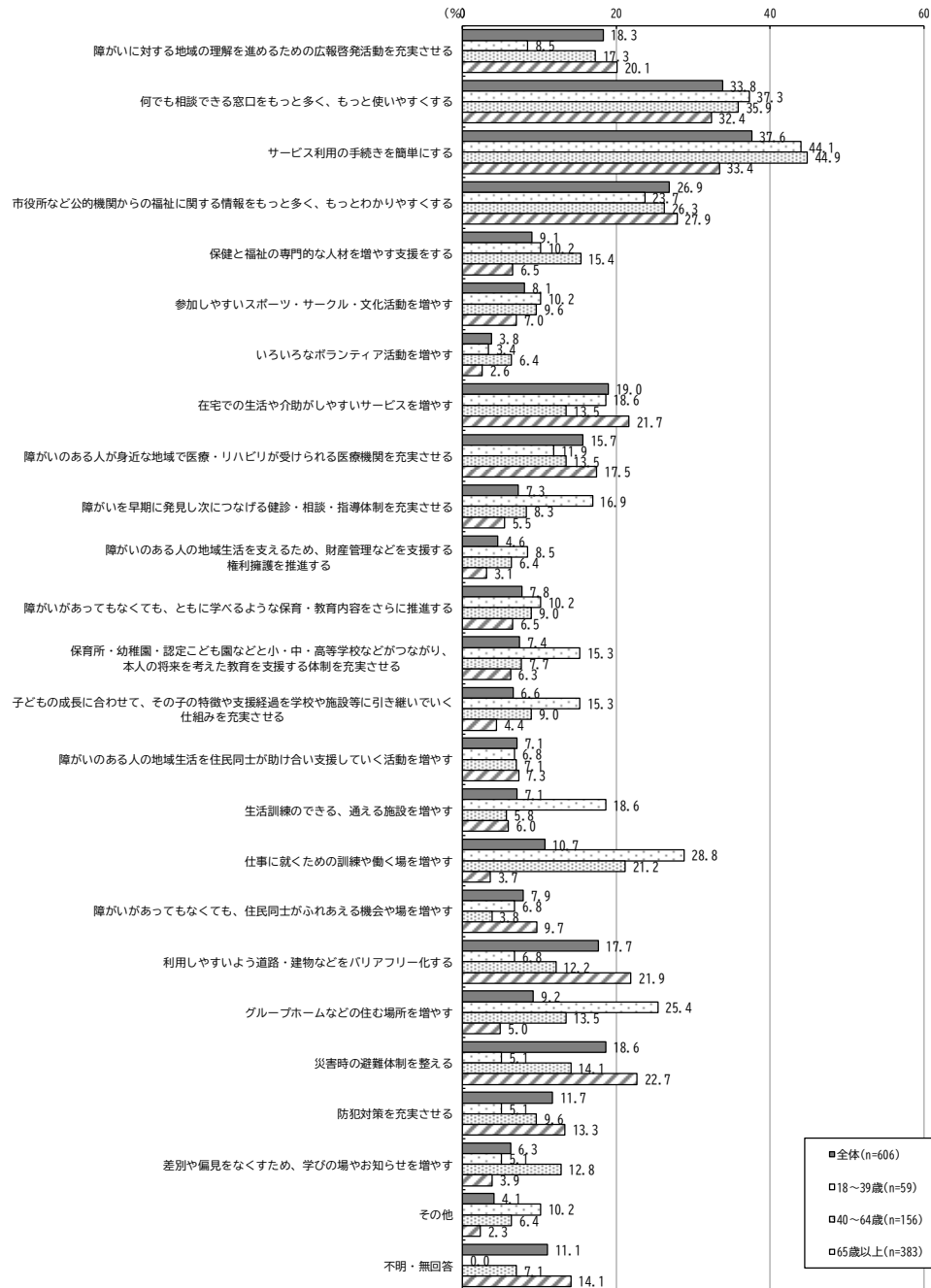
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「グループホームなどの住む場所を増やす」、精神障がいのある人で「何でも相談できる窓口をもっと多く、もっと使いやすくする」「サービス利用の手続きを簡単にする」「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」が他の年代に比べ多くなっています。



11. 回答者の介護者について

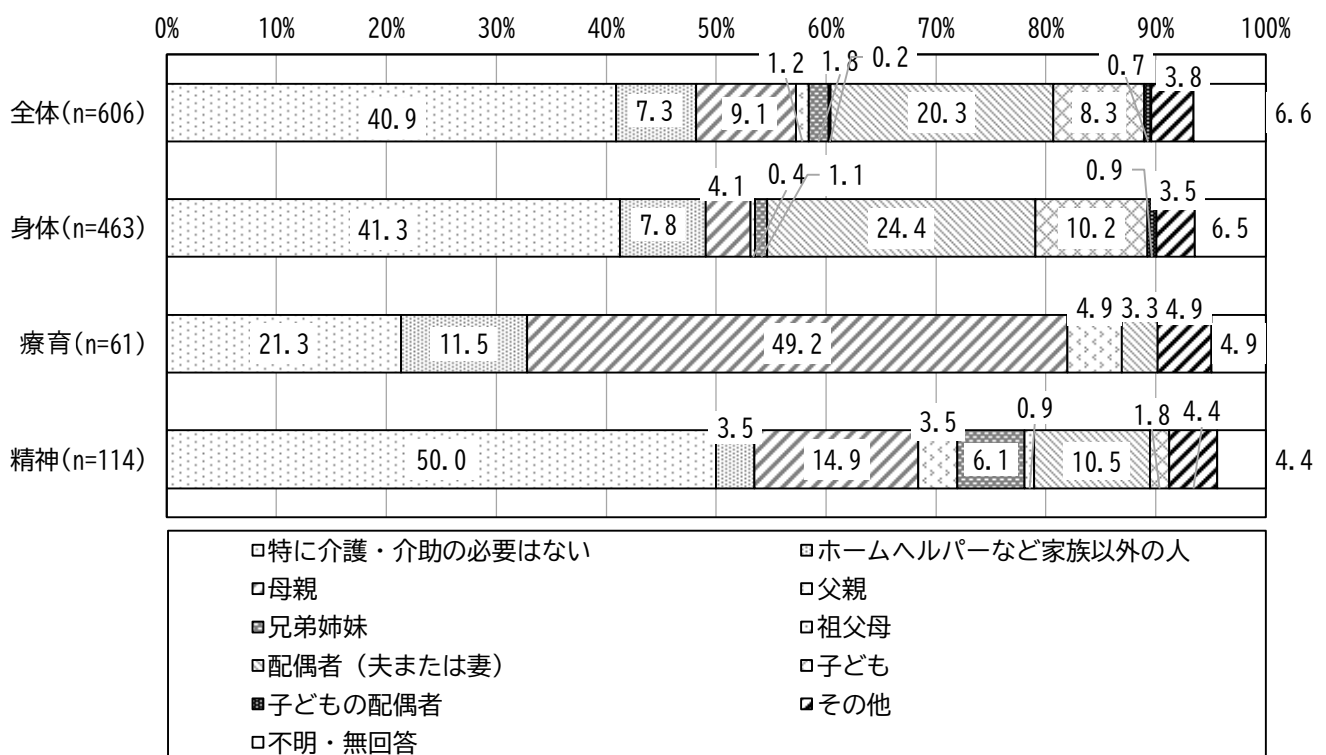
(1) 介護者の状況について

問 51 あなたを今、主に介護・介助している人はだれですか。(〇は1つだけ)

主に、誰に介護・介助されているかについては、「特に介護・介助の必要はない」が40.9%で最も多く、次いで「配偶者（夫または妻）」が20.3%、「母親」が9.1%となっています。

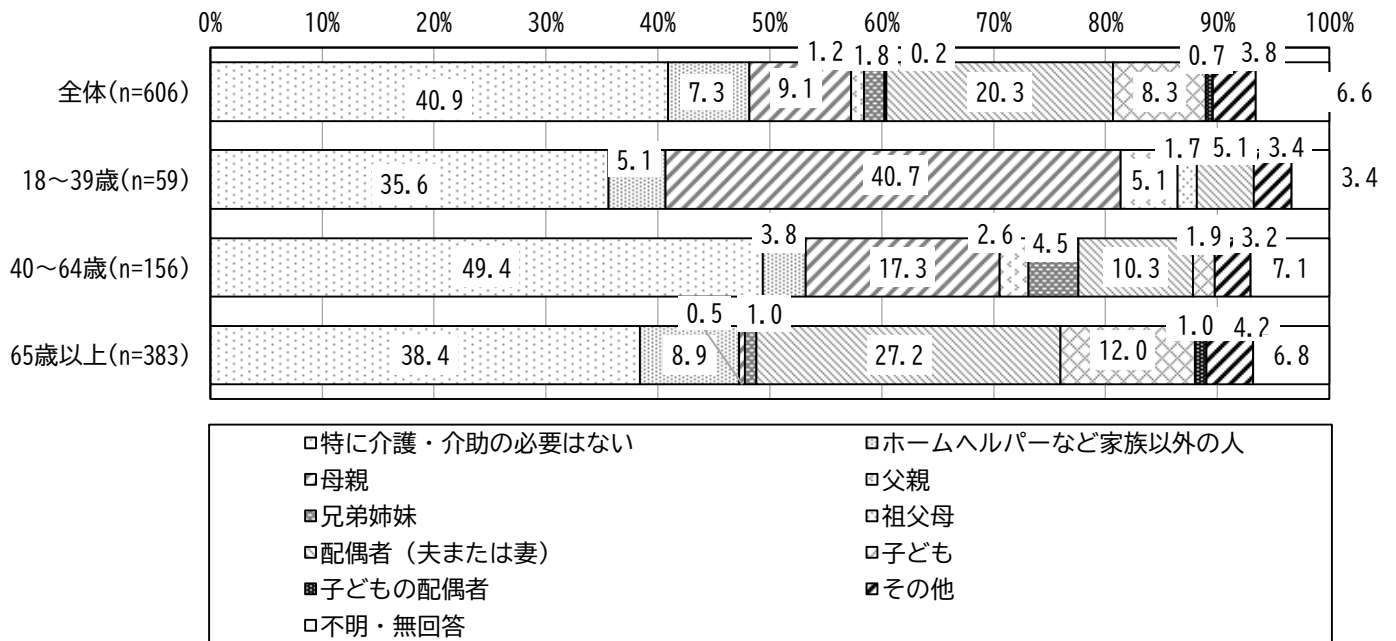
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「母親」が49.2%と多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「母親」が40.7%と多くなっています。

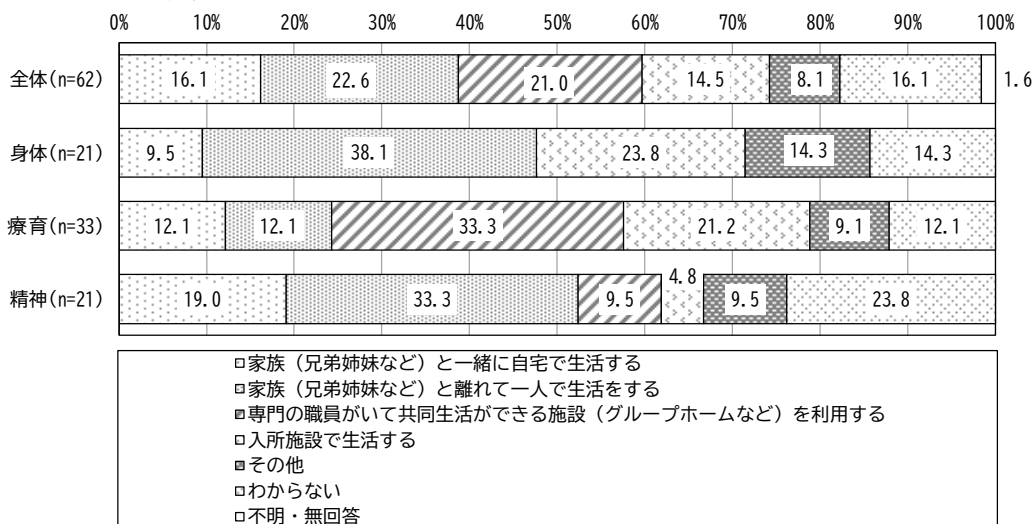


① 問 51 で 3、4 のいずれかを選んだ方にお聞きします。あなたは「親が病気や死亡等によって将来あなたを支えられなくなったとき」に、どこで生活しようと考えていますか。(○は1つだけ)

「親が病気や死亡等によって将来あなたを支えられなくなったとき」に、どこで生活しようと考えているかについては、「家族（兄弟姉妹など）と離れて一人で生活をする」が 22.6%で最も多く、次いで「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用する」が 21.0%、「家族（兄弟姉妹など）と一緒に自宅で生活をする」「わからない」が 16.1%となっています。

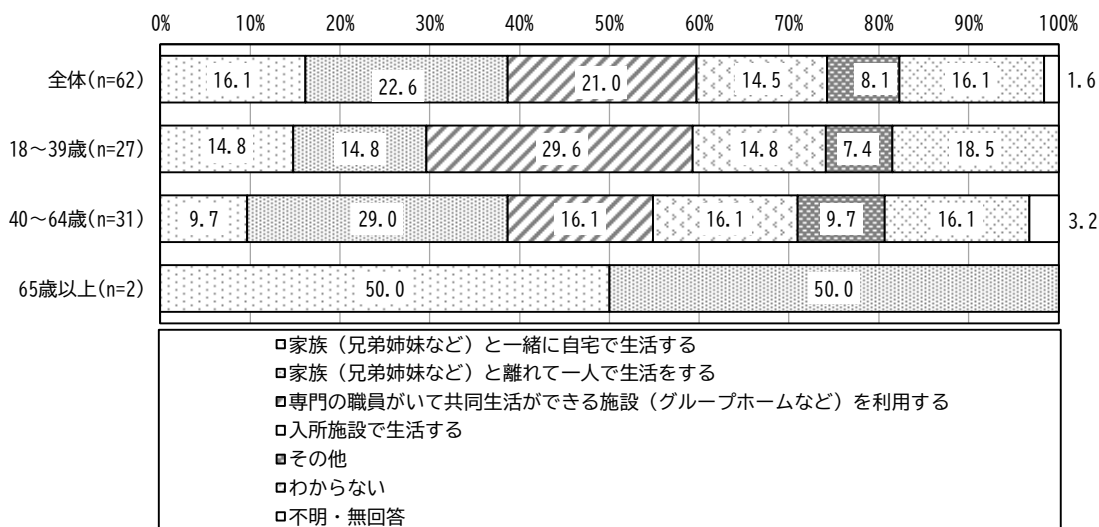
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「家族（兄弟姉妹など）と離れて一人で生活をする」、知的障がい・発達障がいのある人で「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用する」、精神障がいのある人で「家族（兄弟姉妹など）と離れて一人で生活をする」「わからない」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用する」が 29.6%と多くなっています。



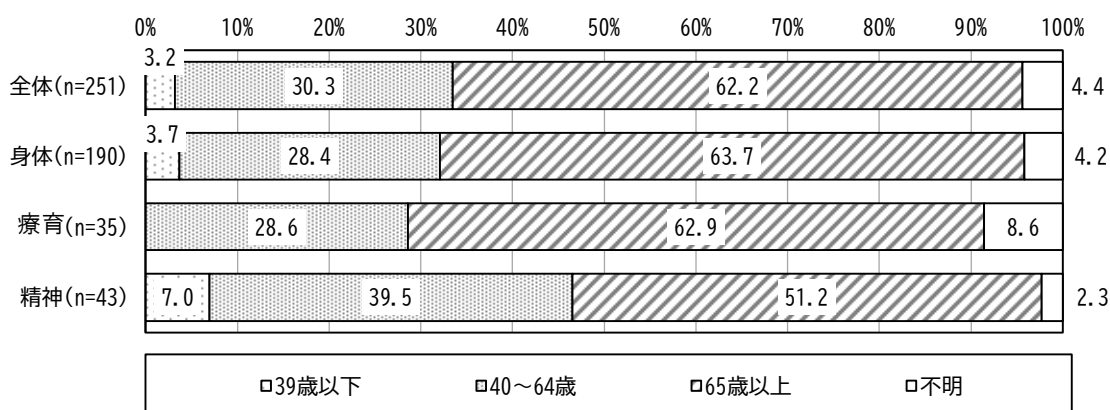
(2) 主な介護者の年齢

問 52 問 51 で 3～9 (ご家族の介護者) のいずれかを選んだ方にお聞きします。主な介護者の年齢は何歳ですか。(数字を記入)

主な介護者の年齢については、「65歳以上」が62.2%で最も多く、次いで「40～64歳」が30.3%、「39歳以下」が3.2%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人、知的障がい・発達障がいのある人で「65歳以上」が約6割となっています。



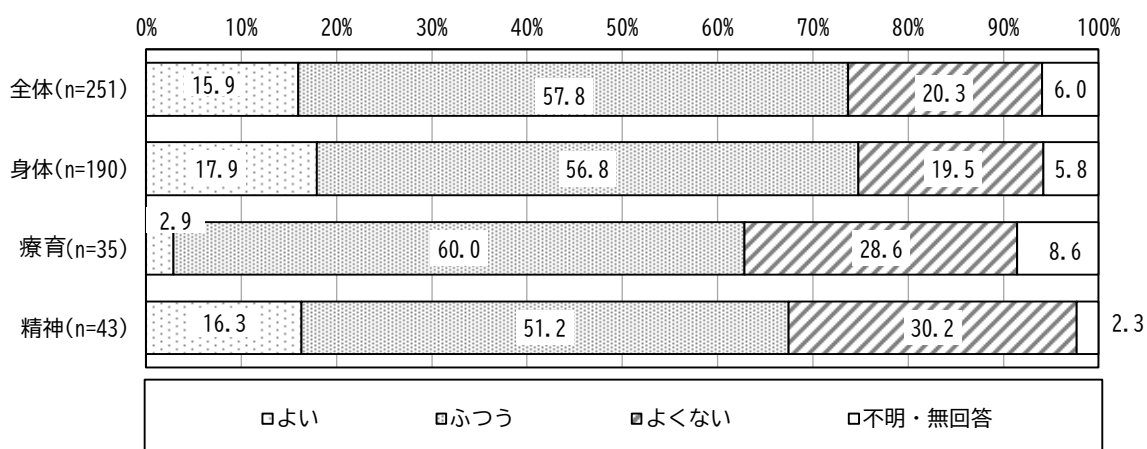
(3) 主な介護者の健康状態

問 53 問 51 で 3～9 (ご家族の介護者) のいずれかを選んだ方にお聞きします。主な介護者の健康状態はいかがですか。(○は1つだけ)

主な介護者の健康状態については、「よい」が15.9%、「ふつう」が57.8%、「よくない」が20.3%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、精神障がいのある人で「よくない」が30.2%と多くなっています。



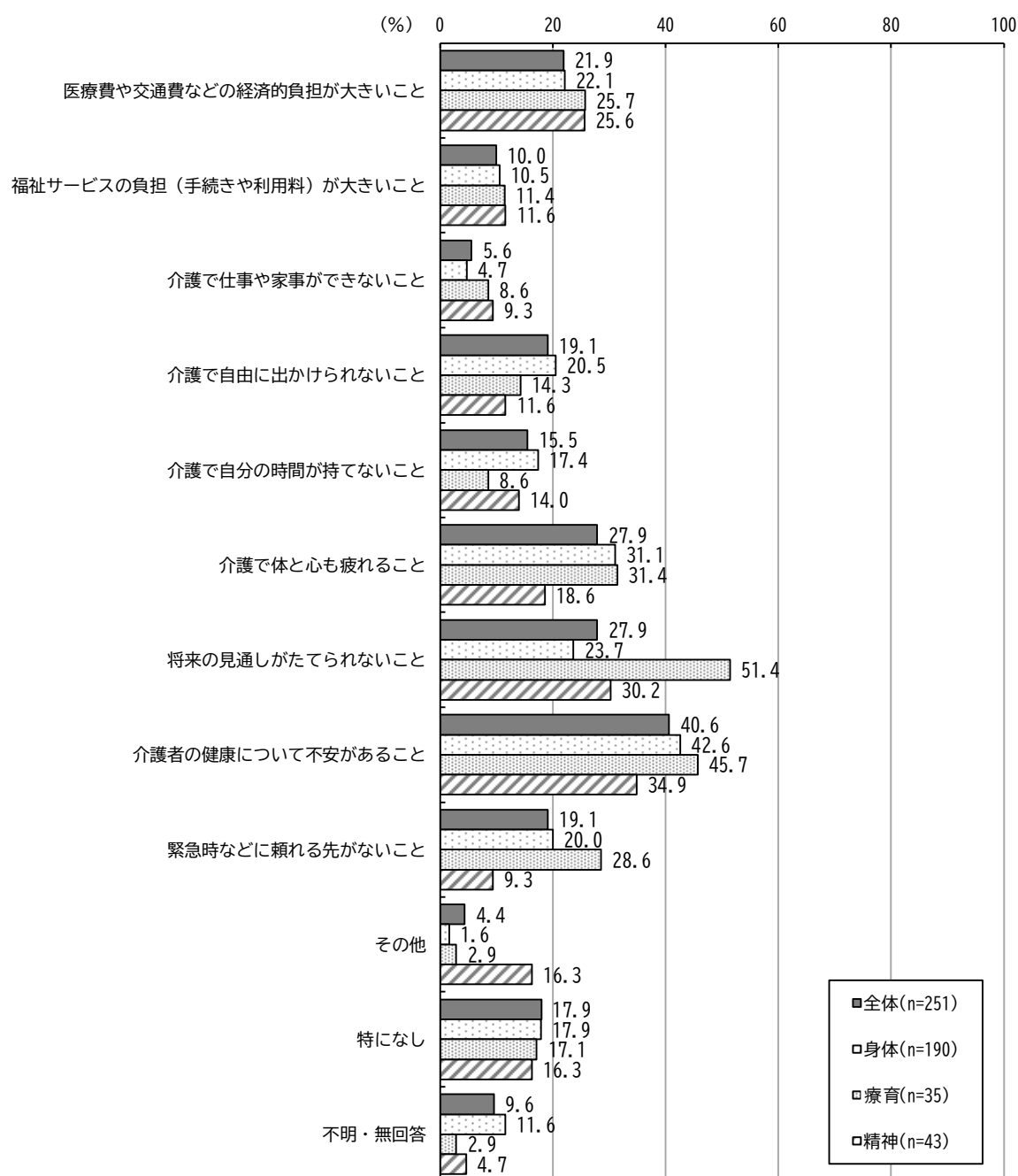
(4) 介護するうえで困っていること・不安なこと

問 54 問 51 で 3～9 (ご家族の介護者) のいずれかを選んだ方にお聞きします。介護をするうえで、介護者が困っていることや不安などがありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護をするうえで、介護者が困っていることや不安などについては、「介護者の健康について不安があること」が 40.6%で最も多く、次いで「介護で体と心も疲れること」「将来の見通しがたてられないこと」が 27.9%、「医療費や交通費などの経済的負担が大きいこと」が 21.9%となっています。

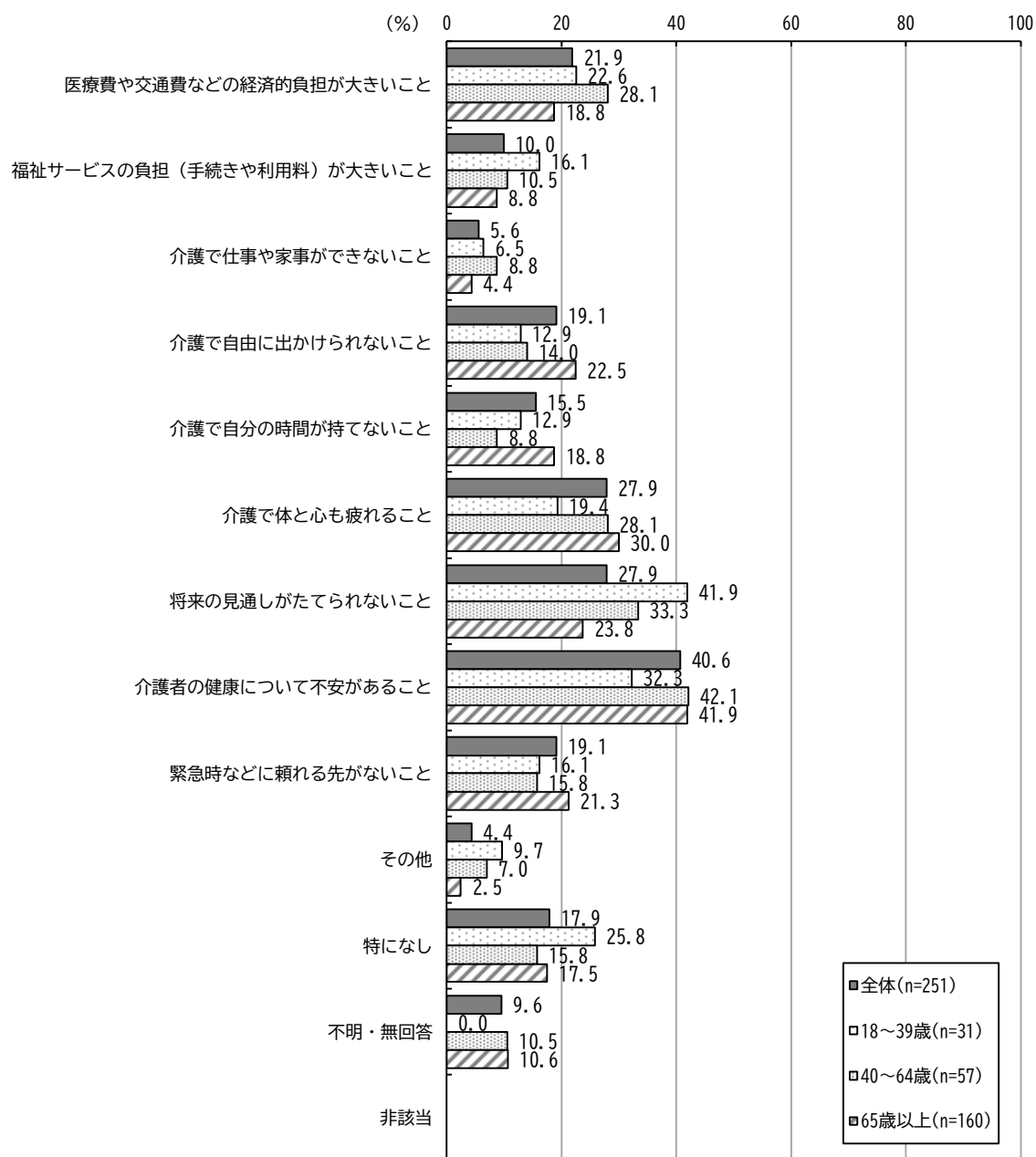
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「将来の見通しがたてられないこと」「緊急時などに頼れる先がないこと」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「将来の見通しがたてられないこと」、40歳以上で「介護者の健康について不安があること」が多くなっています。



12. 自由意見一覧

問 55 最後に、ご意見・ご提案などがありましたらご自由にお書きください。

自由記述設問では、161人から回答がありました。内容を分類した結果は下表のとおりです。最も多かったのが「⑦ 市への要望について」（20件）で、税負担の軽減や経済的支援、窓口対応等について様々なご意見が寄せられました。「③ 社会参加について」（18件）では、移動手段やバリアフリーに関する問題、就労の場などに関するご意見が寄せられました。「⑧ 障がい福祉サービスについて」（18件）では、グループホームやケアハウスの充実、障害者手帳に関する問題などに関するご意見がありました。

なお、複数の意見が書かれている場合は、それぞれに計上しているため、回答数と各意見の合計数は一致しません。また、意見の内容は、主なものを抜粋するとともに、類似した意見をまとめるなどして整理しています。

① 相談支援について の主な意見	17件
こどもに障がいがあり、将来が不安である。一人で過ごすトレーニングをさせたい。	
夫婦だけで何とか暮らしているが、認知症の進行や高齢化、経済的な困窮もあり、今後の生活がどうなるのか不安である。	
親が高齢の場合や介護してくれるこどもが障がいのある人の場合、将来の見通しがたてられなく不安である。	
杖で歩行しており、転倒すると自力で起きられないが、要介護認定の関係からリハビリ他支援を受けていない。	
精神が不安定で、休みが多くなり生活ができていない。助けてほしい。	
手帳を持っていても、手当のことなどに全く気付かず、このアンケートを見てようやく気がついた。誰もサービスについて教えてくれなかった。手帳交付の時や窓口で、その人に必要な手続きは詳しく説明してほしい。それが窓口でできないならせめて「相談支援事業センターに行ってください」と言ってほしい。	
市役所の相談窓口を充実させてほしい。	
窓口で、質問をただけだったのに、職員から語気強く言われ怖い思いをした。	
駅から近い場所に、気軽に立ち寄れて相談や情報収集ができるカフェを作ってはどうか。窓口は敷居が高く感じる。	
外国人でもあるので、書類の確認や相談ができる人が近くにいてほしい。	
障がいのある人自身が、本音で求めていることをしっかりと発信できているかという点に課題を感じる。	
現時点では一人で行動しているが、いざとなった時が不安。どのように行動・連絡をすればよいか、その方策を知らない。	
発達障がい向けに処方される薬を処方可能で新規患者受け入れ可能な病院を検索・紹介してもらえるサービスがあればありがたい。	

② 地域での暮らしについて の主な意見	12件
市内でアクセスできる医療設備のある病院・施設などは充分だろうか。	
障がいのある人に経済的支援をして、1人でも住める家を増やしてほしい。	
市営住宅に入れたら良いと思う。	
市営と県営住宅斡旋順位を優先してほしい。	
室内改修の補助を希望する。	
これまででは車で通院してきたが、将来的に通院などに不安がある。訪問（往診）などがあればよいのだが。	
健康センターのような場所で、歩行や姿勢の改善に関する支援があると助かる。	
グループホームを増やしてほしい。	
自身はグループホームで生活しているが、親も高齢になり、親が亡くなった後のことや、親が体調を崩してグループホームで生活できなくなったらどうしたらよいかなどの不安がある。	
家事支援などがあれば入所施設に入らなくて済むと思う。有料で良いので、市が安心できる事業者などを紹介してもらえると安心できる。	
生活介助者を受け入れる場所の問題などがあり、安心して受け入れられるかどうか不安である。	
肢体不自由の状態であるが、今より状態が悪くならないように努力をし、自宅で少しでも長く自立して暮らしたい。	

③ 社会参加について の主な意見	18件
交通の便が悪く福祉施設や行事に参加しにくい。	
介護タクシー・タクシー利用の経費がかさむので、ノンステップのマイクロバスなど、移動しやすい仕組みを整えてほしい。	
スマートフォンが使えずタクシーアプリを入れられないため、外出したくても移動手段が確保しにくい。障がいがある人が優遇となるタクシーと、それを無料にしてもっと外出しやすくしてほしい。	
飲食店などで車いすが使える駐車場（駐車場があっても誰でも止めれてしまう）やトイレが少ない。	
福祉タクシー券の1回あたりの枚数上限の引き上げや、タクシー代の負担軽減を望む。	
歩道が歩きにくい、歩道の自転車通行が怖い、街灯が少ない。樹木が歩道の妨げになっている。街の中にベンチを置いてほしい。	
地域の方々と気軽に交流できる場がほしい。	
病気に関する情報交換ができる場がほしい。	
障がいがあるなかでの生活の工夫を共有できたりする場などがほしい。私たちの世代だと、インターネットなどでの情報発信がありがたいと感じる。	
内部障がいがあっても区長や清掃などを担えず心苦しい。また、区長などを断りにくい。	

<p>一般就労の場を増やしてほしい。 就労支援終了後のフォローが受けられなくなることが不安。</p>
<p>市内のA型事業所を増やしてほしい。</p>
<p>安心して働ける場所が確保され、短い就労時間や在宅でも生活していける世の中になれば 生きやすい。</p>

④ 専門機関支援について の主な意見	3件
<p>ヘルパーの仕事ぶりや接し方に差があり、経験の浅さや教育不足を感じることもある。掃除やトイレ介助などが十分でない、笑顔がないなど、安心して任せにくい。事業所によって支援の質に差があり、指導してほしい。</p>	
<p>介護職の従事者が増えるよう、給与や労働条件を改善してほしい。</p>	
<p>ヘルパーに関する事業所も廃業するところが多いようであり、今後、ヘルパーが必要になったときに、頼めなくなるか心配である。</p>	

⑤ 地域づくりについて の主な意見	8件
<p>歩道での自転車の走行や、マナーが悪い車、思いやりのないふるまいなど、日常の中で安心して暮らしていくと感じることがある。</p>	
<p>地域の交流や活動の機会が少なく、特に高齢者と若い世代の交流が少ない。近所どうしの付き合いも浅く、もう少し希薄な関係性を改善する対応が必要では。</p>	
<p>自分が障がいの診断を受けるまで、公共のサポート体制などいろいろな仕組みを全く知らなかった。そうしたことが漠然として不安にもなっていたので、障がいのことや支援の情報は、障がいのある人だけでなく、もっと広く地域の人にも知ってほしい。障がいの特性や相談先などの周知が、漠然と不安を抱えている人の助けにもなる。</p>	
<p>阪神・淡路大震災のとき生活環境が壊れて動けなくなったことを思い出すと、非常時は不安である。</p>	
<p>災害時のストマ製品の供給に不安がある。障がい者マップ・リスト等のデータベースを市として整備した方が良いのでは。</p>	
<p>外国人でもあるので、災害時にどこに行ったらいいのか分からない。</p>	

⑥ アンケートについて の主な意見	18件
<p>質問数が多く、内容も難しい。障がいのある本人が自分で答えることは難しいと思う。何を求めているかも分かりにくい。もう少しわかりやすく簡略化してほしい。</p>	
<p>アンケートの結果がどう活かされているのか分からない。</p>	
<p>アンケートの外国語版がなく、読めなかった。</p>	
<p>とてもよく練られている内容だと感じた。</p>	
<p>高齢介護課からも同様のアンケートが続けて送られてきて驚いた。アンケートの結果がどう活かされているのかを公表してほしい。</p>	

⑦ 市への要望について の主な意見	20件
介護する側も、される側も精神的な不安があり、安心してお互いにいい関係ができるようなやさしい行政計画を期待している。	
固定資産税などの税負担が重い。もう少し柔軟で親身な対応をしてほしい。	
福祉サービスの手引き等が定期的に示されればよいと思う。	
市役所の手続きは、分かりやすくしてほしい。	
休日開庁を増やしてほしい。	
市役所の窓口で渡す書類の確認徹底もしてほしい。	
市からの告知が届かない。また、広報において、「支援します」だけでなく、支援の実績も掲載してほしい。	
視覚障がいがあり、マイナンバーカードの利用が困難である。後期高齢者医療資格確認書の継続発行をお願いしたい。	
障がいのある人の結婚への支援にも力を入れてほしい。	
一人暮らしの高齢者や障がいのある人のために、市で積み立てを行い、亡くなった後の対応をしてもらえるようなところがあればいいなと思う。	
介護や医療、バリアフリー、避難場所などは、障がいのある人だけを分けて考えるのではなく、まち全体の対策として充実させてほしい。	
JR芦屋駅周辺では、駐車禁止除外指定車標章があっても車を止めにくく、送迎や乗り降りもしづらい。障がいのある人が使いやすいルールや運用にしてほしい。	
精神障がい3級でも、他市のように交通費助成や各種割引、福祉サービスを充実させてほしい。3級でもしんどさはあり、住みやすいまちにしてほしい。	
継続的に治療をしているがん患者に対する経済的支援を望む。	
他市の制度も参考にしながら、援助を充実してほしい。	
障がいのある人がより暮らしやすい都市になりますように。	
保護犬や猫を大切に扱ってほしい。犬や猫は障がいのある人や高齢者にとって心の慰めになる。動物を大切にすることは、障がいのある人や高齢者を大切に、他人の事を思いやる優しい人間性を育くむものだと思う。	

⑧ 障がい福祉サービスについて の主な意見	18件
市内に送迎付きの生活介護の施設を増やして欲しい。	
秋の「ふれあい運動会」や「年末のつどい」などの催しの再開を望む。市内のグループホームの充実も希望する。	
70歳以上の高齢者が安心して入居でき、活躍の場も備えたケアハウスなどをつくってほしい。	
家事支援などがあれば入所施設に入らなくて済むと思う。有料で良いので、市が安心できる事業者などを紹介してもらえると安心できる。	
補聴器を使っているが、電話では音が割れて聞き取りにくく、緊急時に困る。	
介護サービスをお願いしたいが、費用が高くなっている現在ではとても厳しく、正直なところ、あきらめている部分もある。	
障がい福祉のサービスがいろいろあっても、どう利用するのか分からない。	
精神障がいのある人との話し相手や散歩の付き添い、楽しいという感覚を感じさせてもらえるような、サービスや場があると助かる。外に出るきっかけなどになるため。	
電灯の交換など小さな困りごとを助けてくれる安価なサービスなどがほしい。	
障がい者駐車場の指定車標章を3級までとしているが、4級、5級でも同じように利用できるようにしてほしい。	
芦屋市にもハローワークを作してほしい。	
家での生活が難しくなり施設に入所しているが、特別養護老人ホームへの入所が難しい。介護タクシー・タクシー利用の経費がかさむので、ノンステップのマイクロバスなど、移動しやすい仕組みを整えてほしい。	
緊急時に親の代わりになってくれる人を、どこに頼めばよいか分からない。	
障害者手帳は大きくて持ち歩きにくく、タクシーなどで提示を求められる時に不便である。カードサイズにしてほしい。	
障害者手帳は本人確認のために写真を見られるため、希望者には有料でもいいので最新の情報(写真)にできるようにしてほしい。	
障害者手帳は日本国内のみ有効だが、海外でも障がいのある人であることを証明出来るツールがあれば嬉しい。	

⑨ その他 の主な意見	7件
働くことができず収入がない。貯金を取り崩しながら生活しているがいつまで続けられるか不安である。国民年金や健康保険料が大きな負担となっており、少しでも下がるとありがたい。	
これまで医療機関のおかげで生活ができている。将来的に介護サービス・事業を利用することになるかと思うが、芦屋市の現状に十分満足している。	
障がいや介護のことは、実際にその立場になってみないと分かりにくく、相手の立場を思いやるのが大切だと感じている。	

マイナンバーカードを使っても、結局その都度障害者保険証の提示が必要で、何のための制度か分からず不便に感じている。

不安は大きいですが、なんとか毎日を楽しく過ごしたいと思う。趣味を持つことは大切だと思う。

夫婦とも健康でありたいと願っている。

いつまでも安心して暮らしたい。

Ⅲ 調査の結果【18歳未満】

1. お子さんご自身のことについて

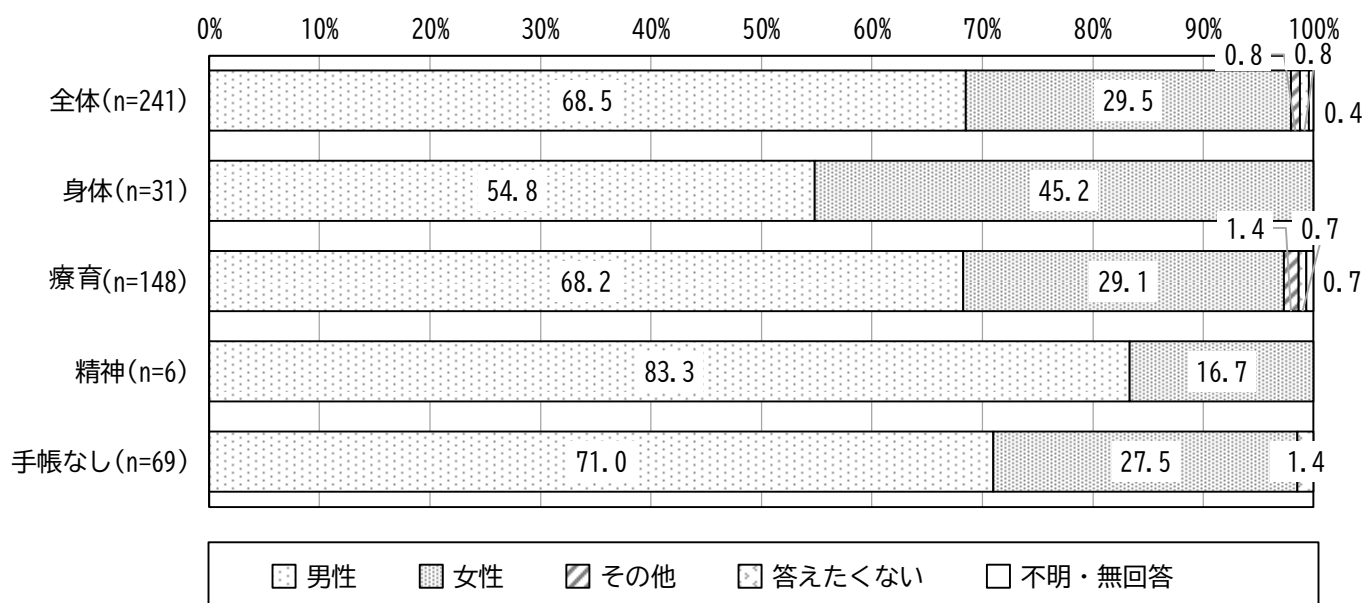
(1) 性別

問1 お子さんの性別を書いてください。(○は1つだけ)

性別は、「男性」が68.5%、「女性」が29.5%となっています。

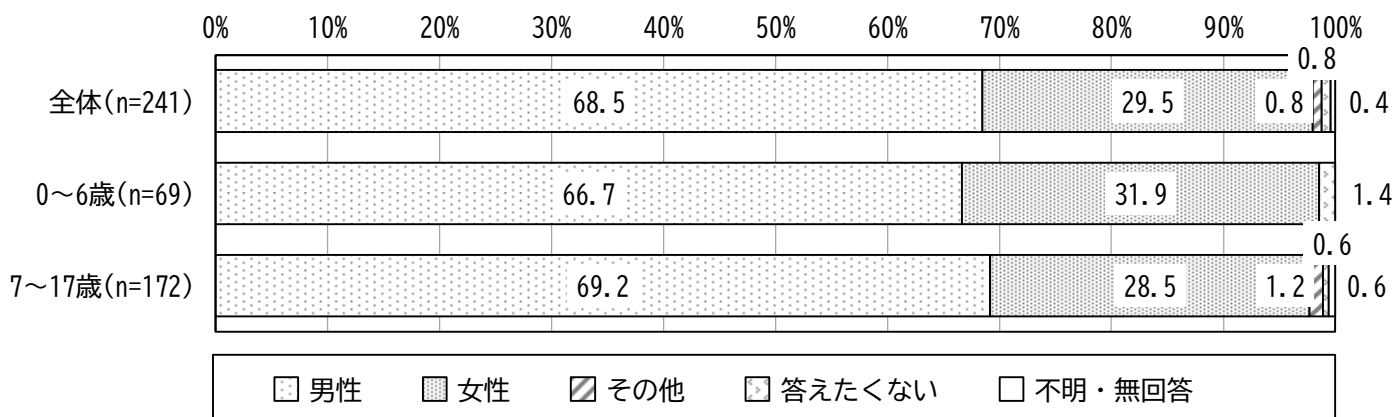
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、以下のようになっています。



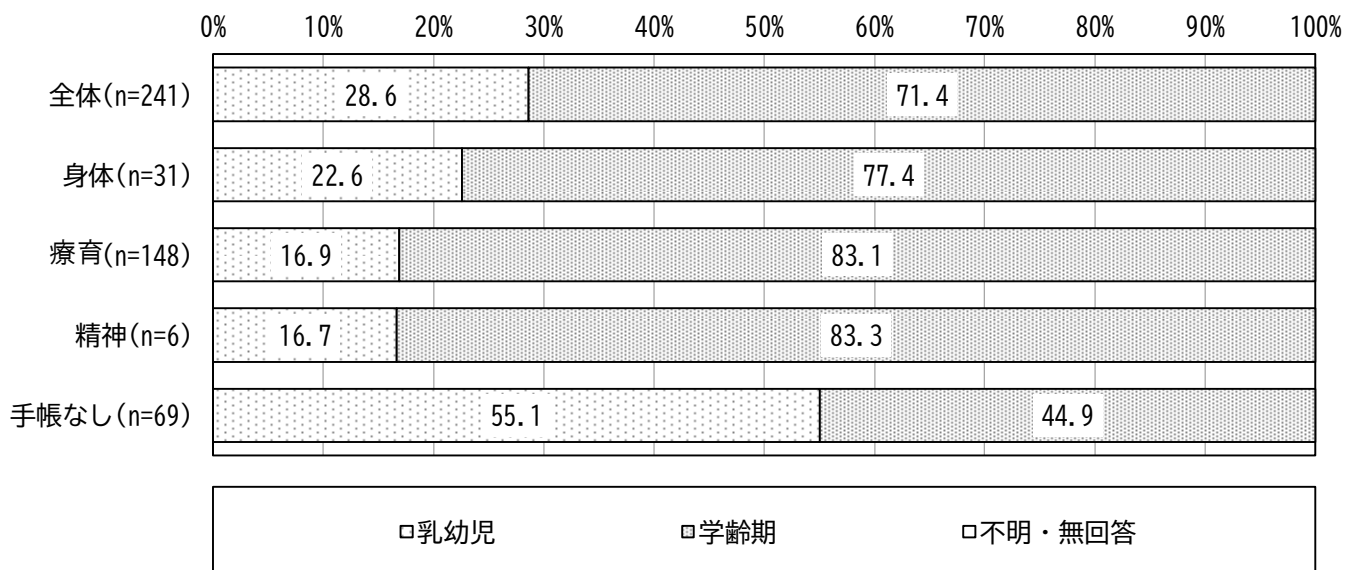
(2) 年齢

問2 現在のお子さんの年齢を書いてください。(○は1つだけ)

年齢は、「0～6歳」が28.6%、「7～17歳」が71.4%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人は「0～6歳」が他の障がい種別に比べて多くなっています。

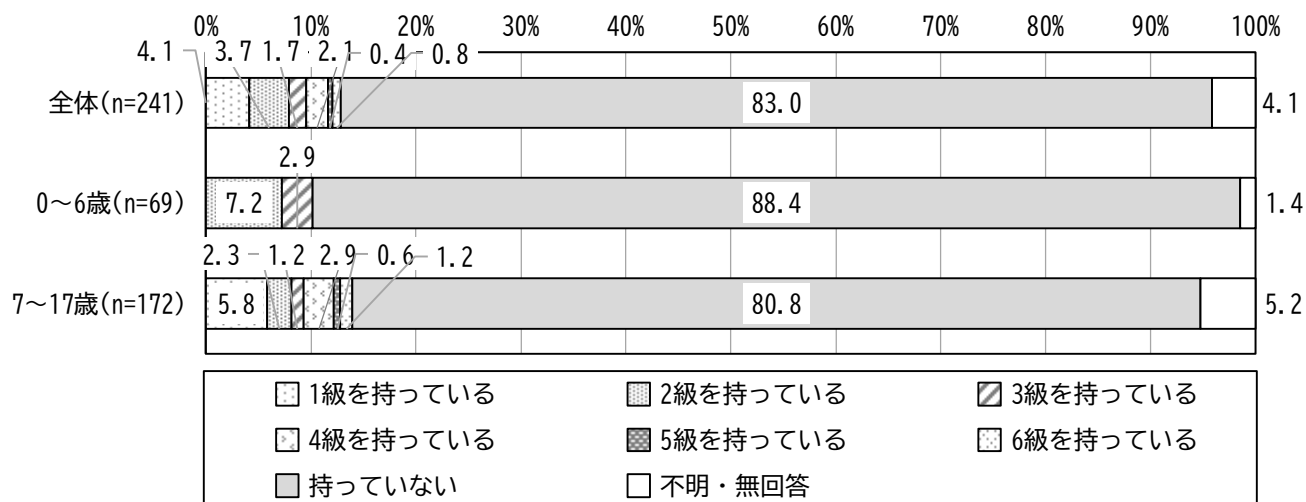


(3) 障がい者手帳について

問3 お子さんが持っている「障がい者手帳」についてお答えください。

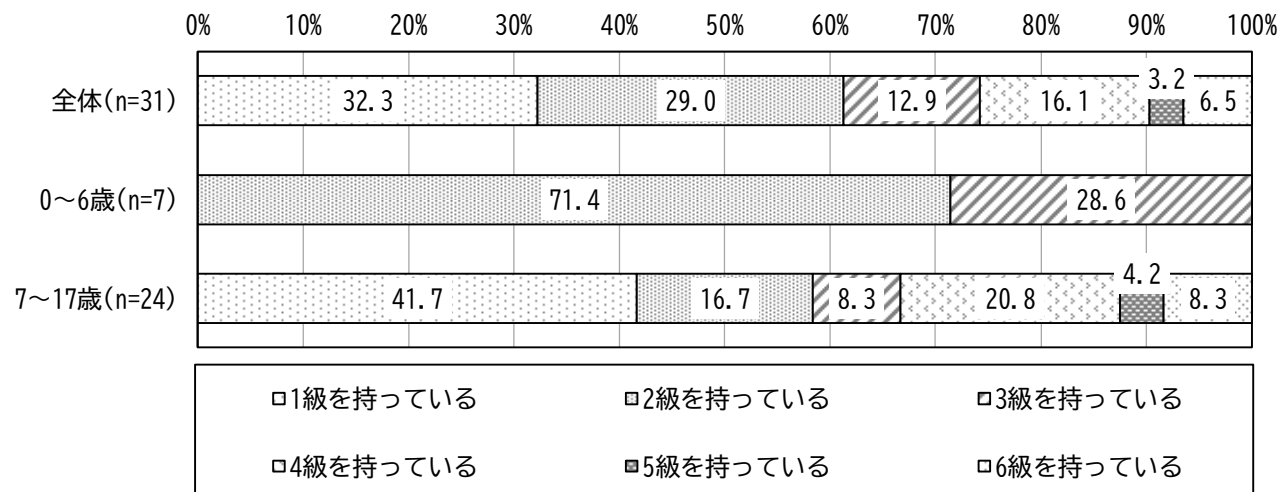
① お子さんは、身体障害者手帳を持っていますか。(○は1つだけ)

身体障害者手帳の等級については、「持っていない」が83.0%で最も多く、次いで「1級」が4.1%、「2級」が3.7%となっています。



【年齢別】

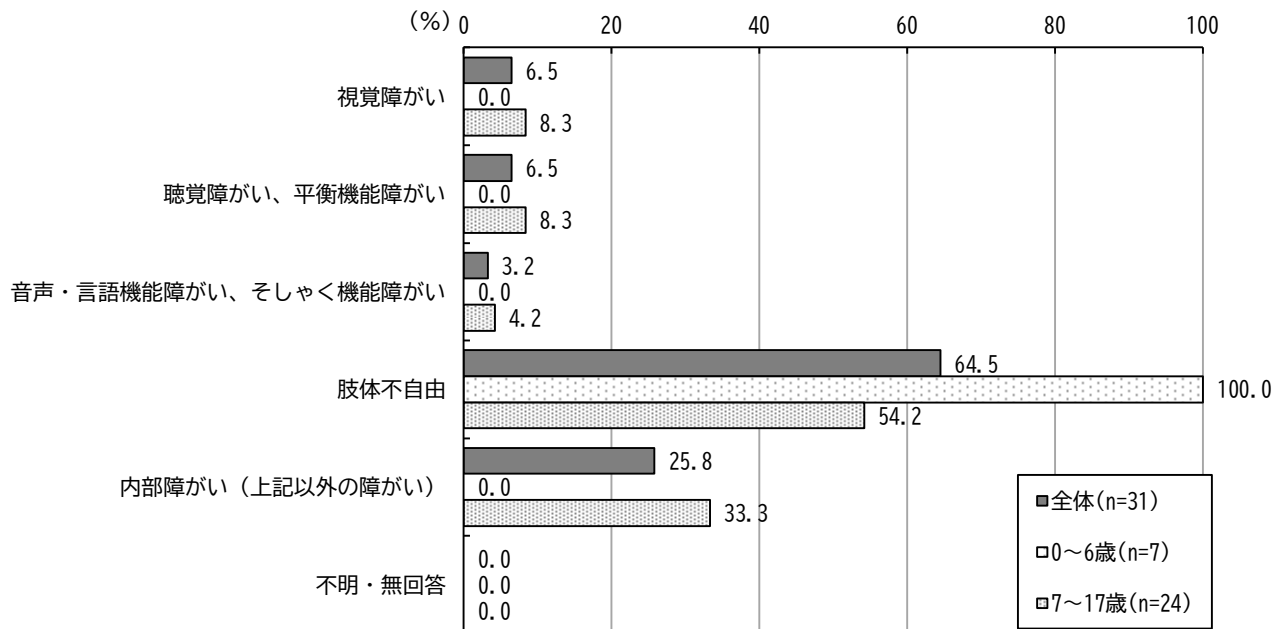
所持者のみの割合を年齢別にみると、0~6歳で「2級」が71.4%、7~17歳で「1級」が41.7%と多くなっています。



② 身体障害者手帳を持っている場合、障がいの内容をお答えください。

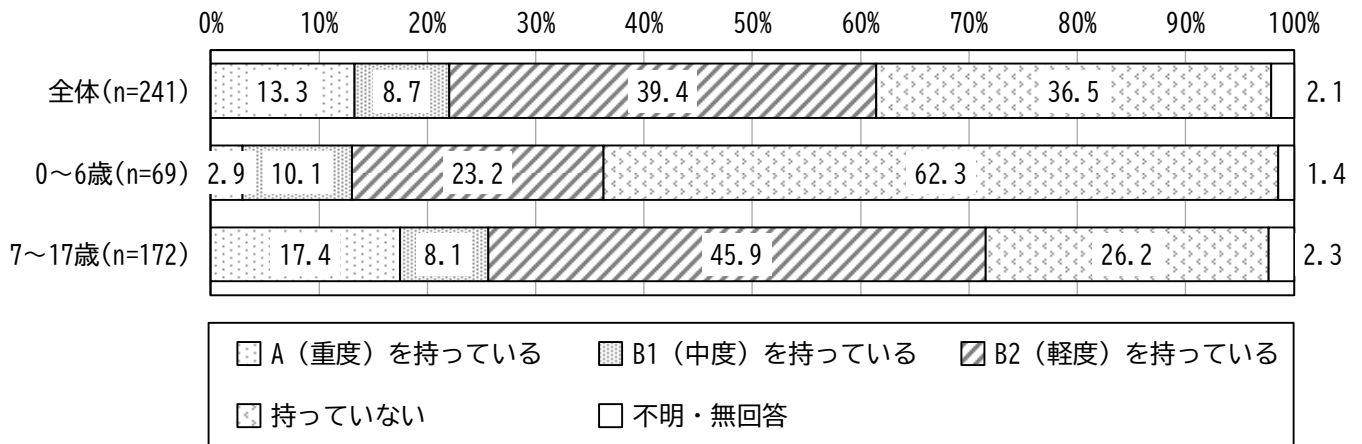
(あてはまるものすべてに○)

身体障害者手帳を持っている人の主な障がいの内容は、「肢体不自由」が64.5%で最も多く、次いで「内部障がい」が25.8%、「視覚障がい」「聴覚障がい、平衡機能障がい」が6.5%となっています。



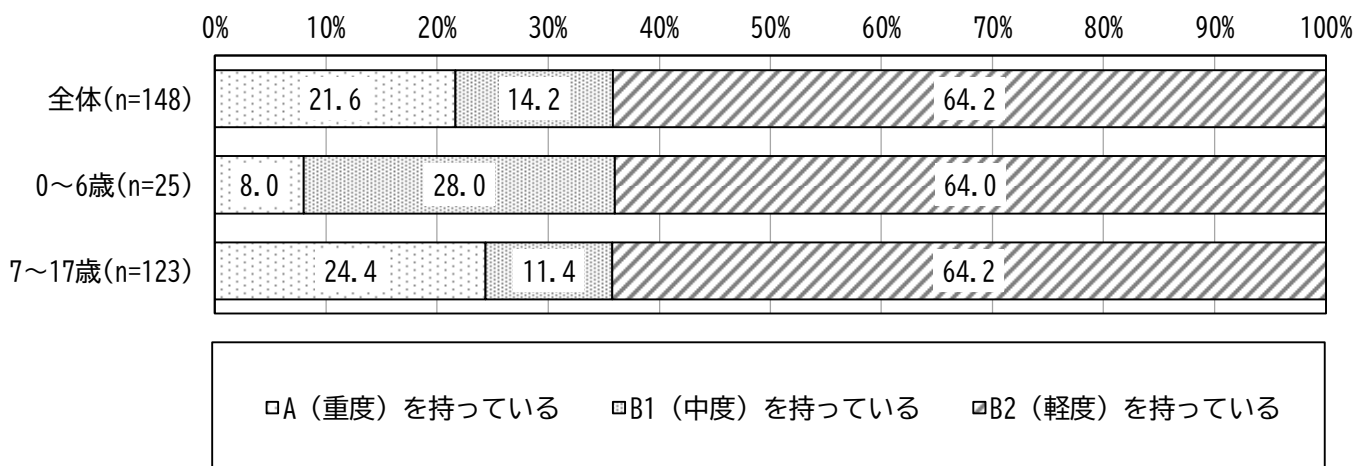
③ お子さんは、療育手帳を持っていますか。(○は1つだけ)

療育手帳所持者については、「持っていない」が36.5%、「A（重度）」が13.3%、「B1（中度）」が8.7%、「B2（軽度）」が39.4%となっています。



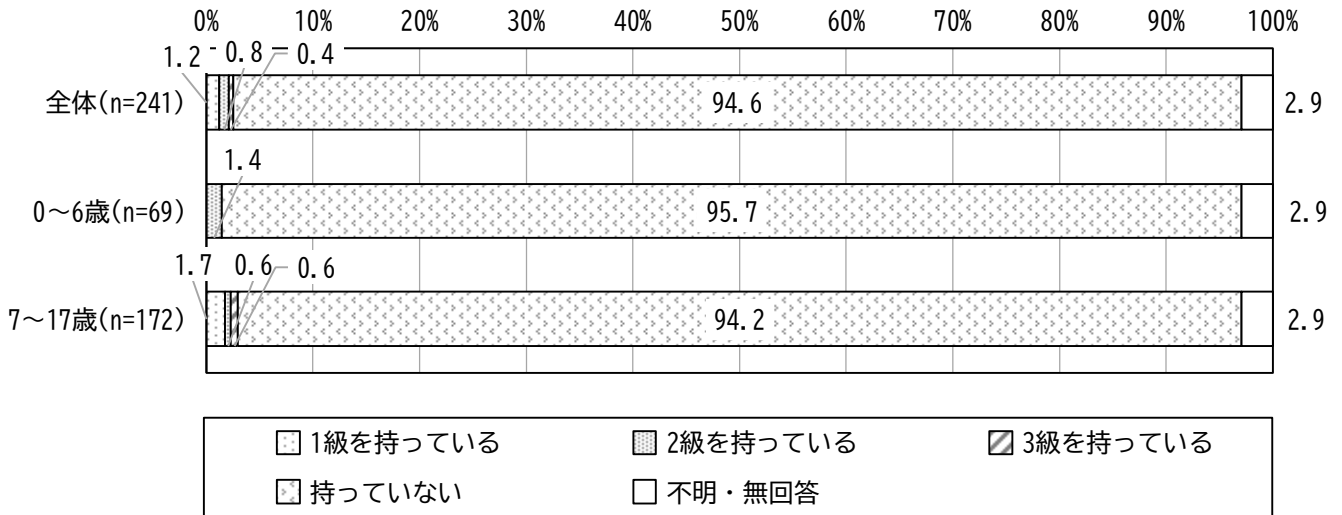
【年齢別】

所持者のみの割合を年齢別にみると、0～6歳では「B1（中度）」が28.0%、7～17歳では「A（重度）」が24.4%と多くなっています。



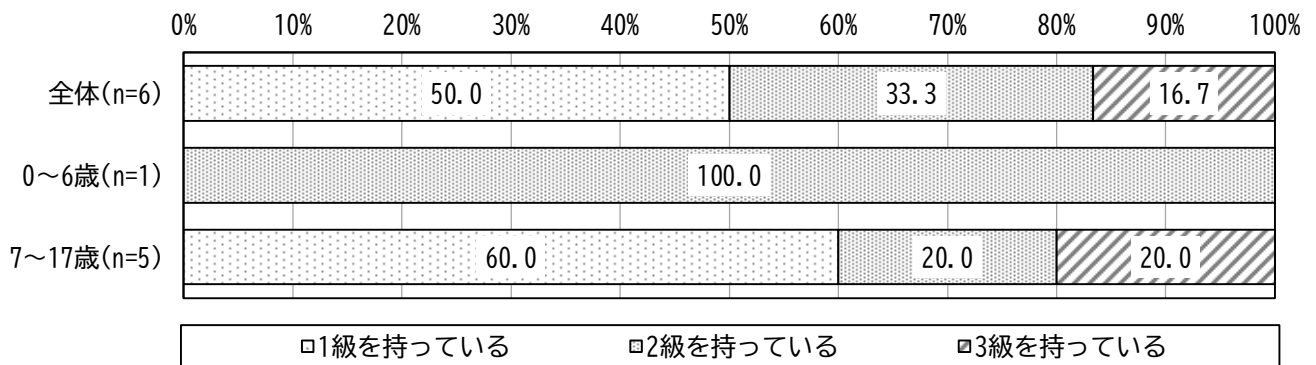
④ お子さんは、精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。(○は1つだけ)

精神障害者保健福祉手帳所持者については、「持っていない」が94.6%、「1級」が1.2%、「2級」が0.8%、「3級」が0.4%となっています。



【年齢別】

所持者のみの割合を年齢別にみると、以下のようになっています。



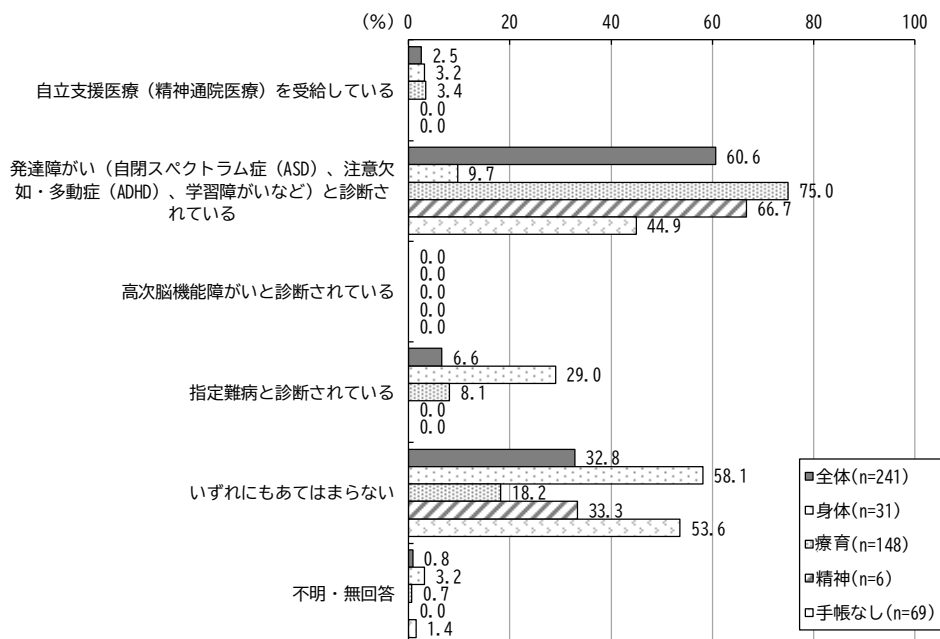
(4) 障がいの診断

問4 お子さんは、次のような障がいの診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

障がいの診断などについては、「発達障がい(自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障がいなど)と診断されている」が60.6%、「いずれにもあてはまらない」が32.8%、「指定難病と診断されている」が6.6%となっています。

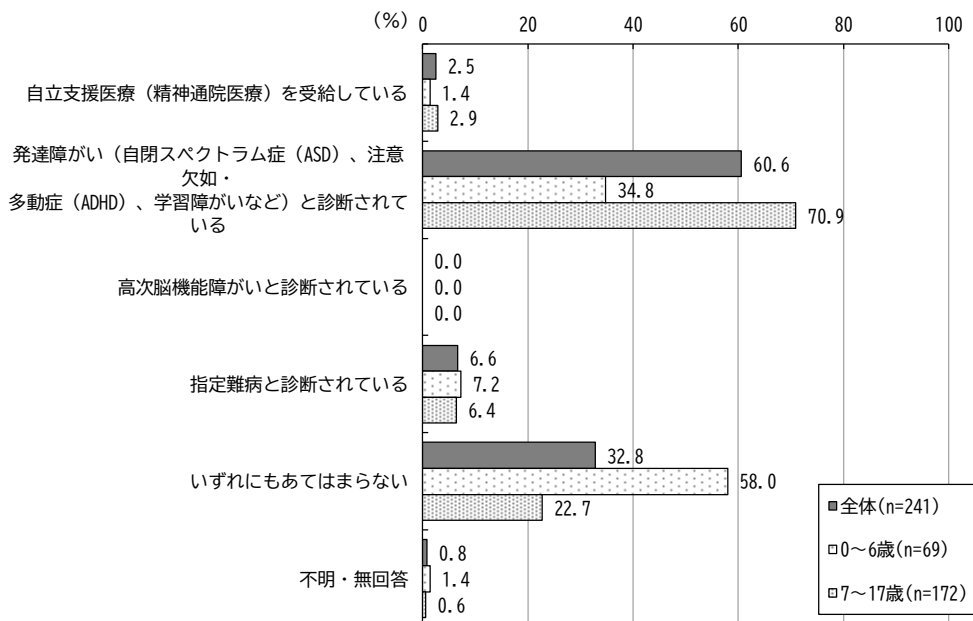
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「いずれにもあてはまらない」、7～17歳では「発達障がい(自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障がいなど)と診断されている」が多くなっています。



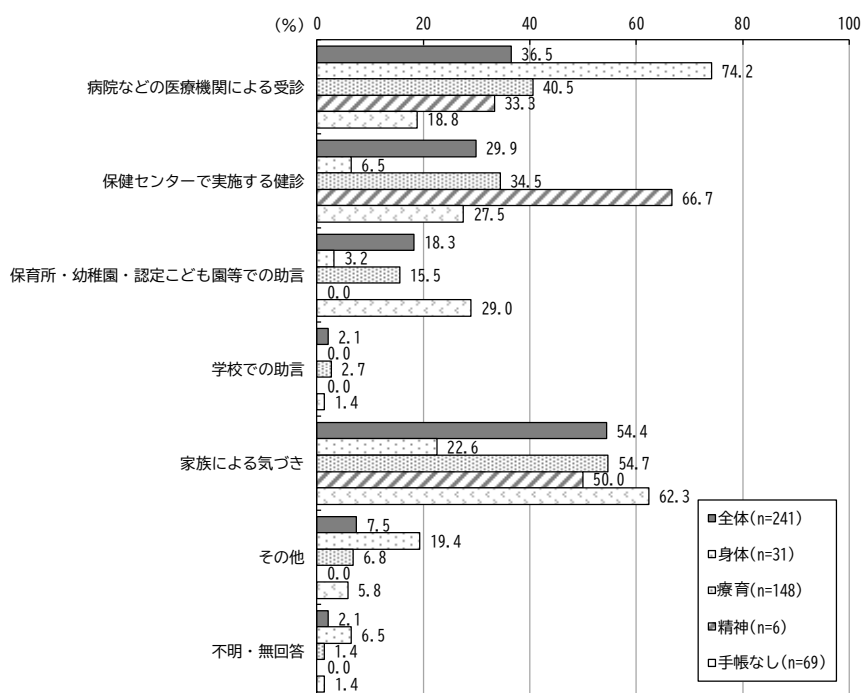
(5) 障がいや発達の特徴に気づいたきっかけ

問5 お子さんの障がいや発達の特徴に気づいたきっかけはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

障がいや発達の特徴に気づいたきっかけについては、「家族による気づき」が 54.4%で最も多く、次いで「病院などの医療機関による受診」が 36.5%、「保健センターで実施する健診」が 29.9%となっています。

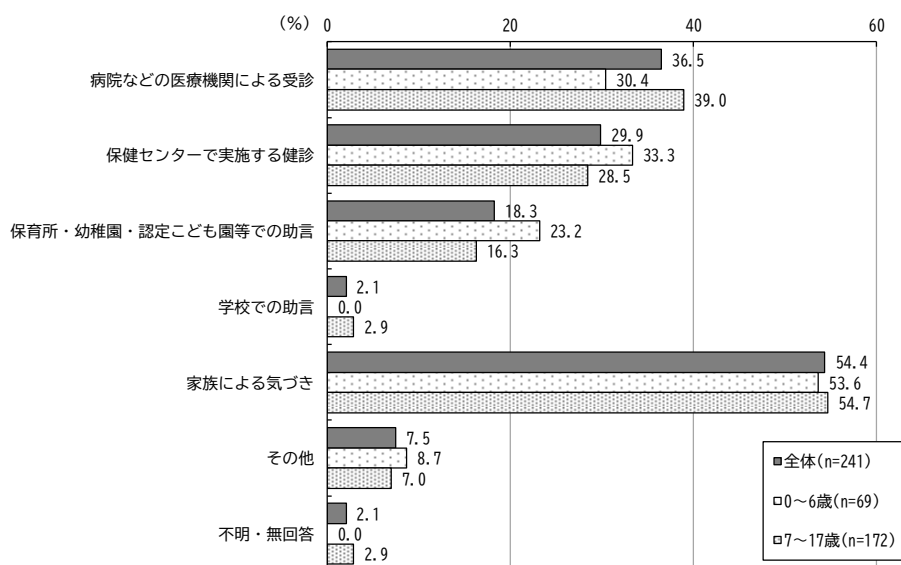
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「病院などの医療機関による受診」、精神障がいのある人で「保健センターで実施する健診」、手帳を持っていない人で「家族による気づき」「保育所・幼稚園・認定子ども園等での助言」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「保健センターで実施する健診」「保育所・幼稚園・認定子ども園等での助言」がやや多くなっています。



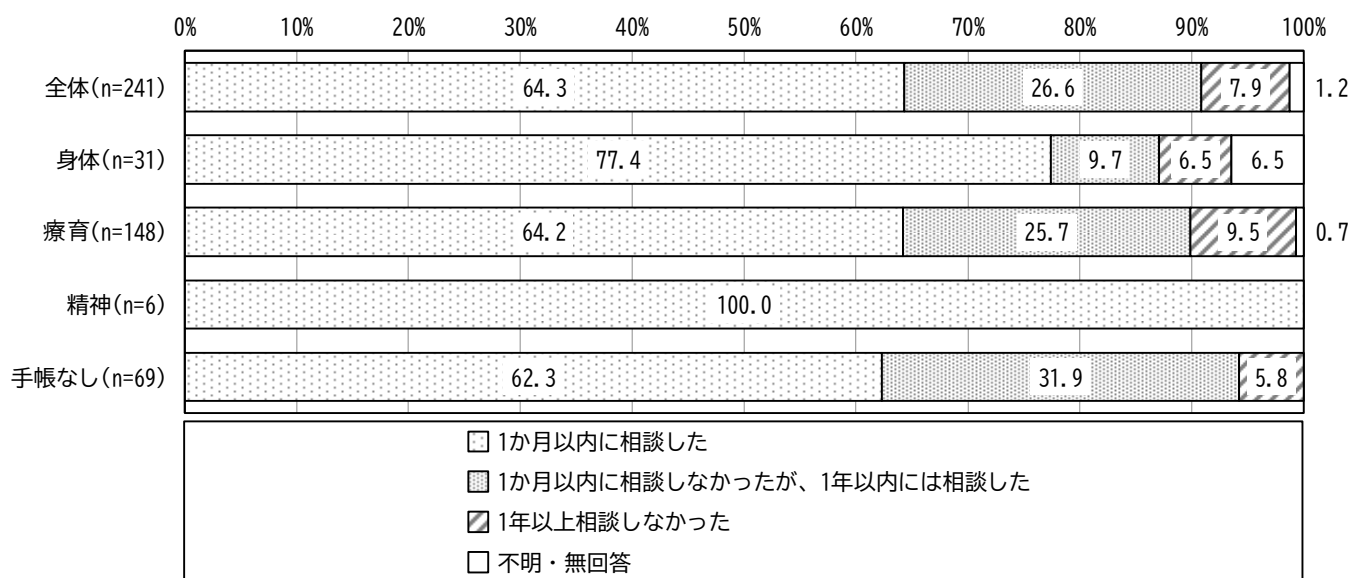
(6) 専門機関への相談

問6 お子さんの障がいや発達の特徴に気づき、すぐに医療機関や市、保健センターなどの専門機関に相談しましたか。(○は1つだけ)

医療機関や市、保健センターなどの専門機関への相談については、「1ヶ月以内に相談した」が64.3%、「1ヶ月以内に相談しなかったが、1年以内には相談した」が26.6%、「1年以上相談しなかった」が7.9%となっています。

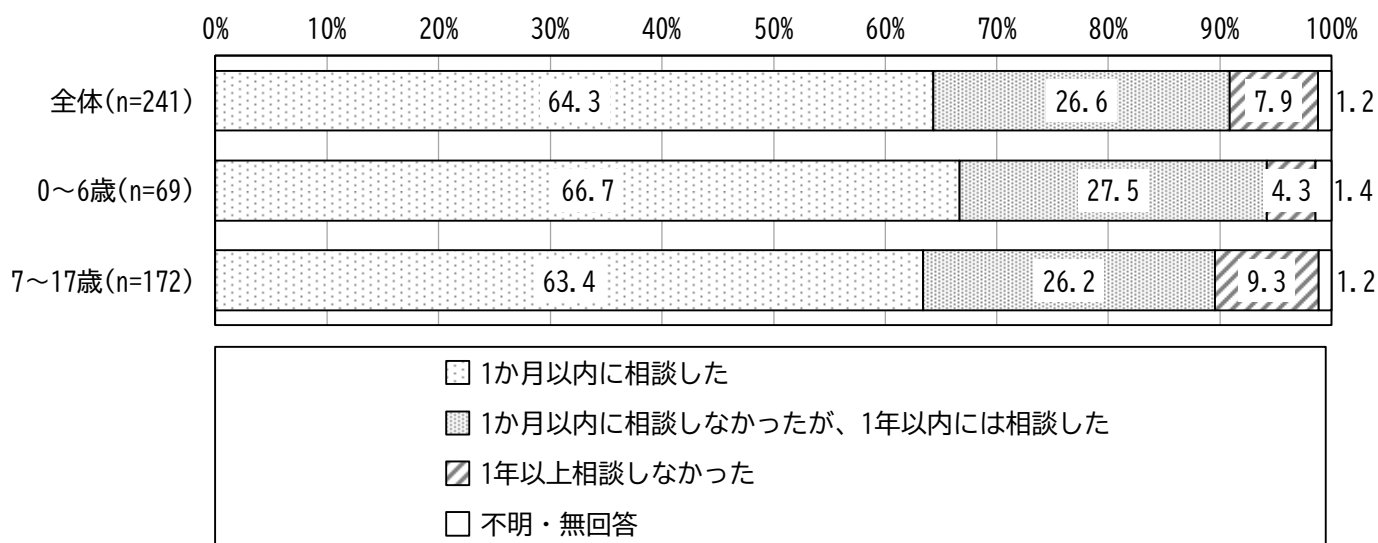
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「1ヶ月以内に相談した」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳では「1年以上相談しなかった」がやや多くなっています。



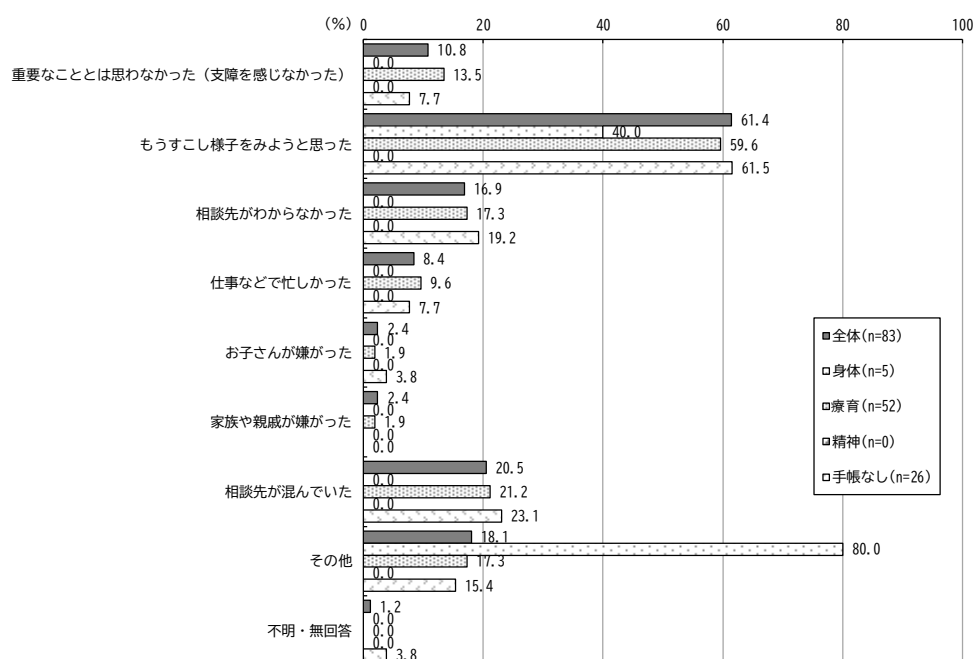
(7) すぐに相談できなかった理由

問7 問6で2、3を選んだ方にお聞きします。すぐに相談できなかった理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

すぐに相談できなかった理由については、「もうすこし様子をみようと思った」が61.4%で最も多く、次いで「相談先が混んでいた」が20.5%、「相談先がわからなかった」が16.9%となっています。

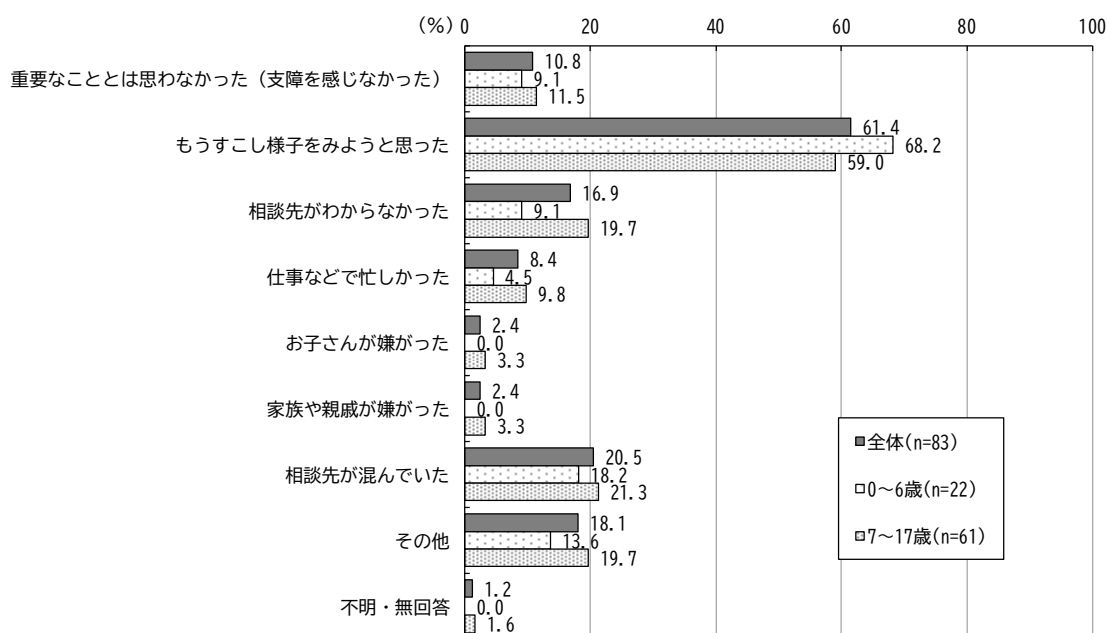
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「もうすこし様子をみようと思った」が多くなっています。



◇すぐに相談できなかった理由 「その他」の回答

内 容	
① 様子見・健診機会を踏まえた判断	
まだ年齢が低く、発達の経過を見ようと思ったため	
まだ年齢が低く、相談をしても「様子を見ましょう」と言われるのが分かっていたため	
他市在住時の健診時に様子見になったが、芦屋市に転居予定だったこともあり転居後に動こうと思ったため	
定期健診等の機会に相談しようと思っていたため（3人）	
学校でまず対応してもらっていたため	
② 医療・保健による継続的フォロー	
別途に健診を受診したり、経過観察などの対応をしていたため（3人）	
④ 家庭状況・タイミングの制約	
妊娠中、出産後の期間であったため	育児が忙しかった、こどもが入院していたため

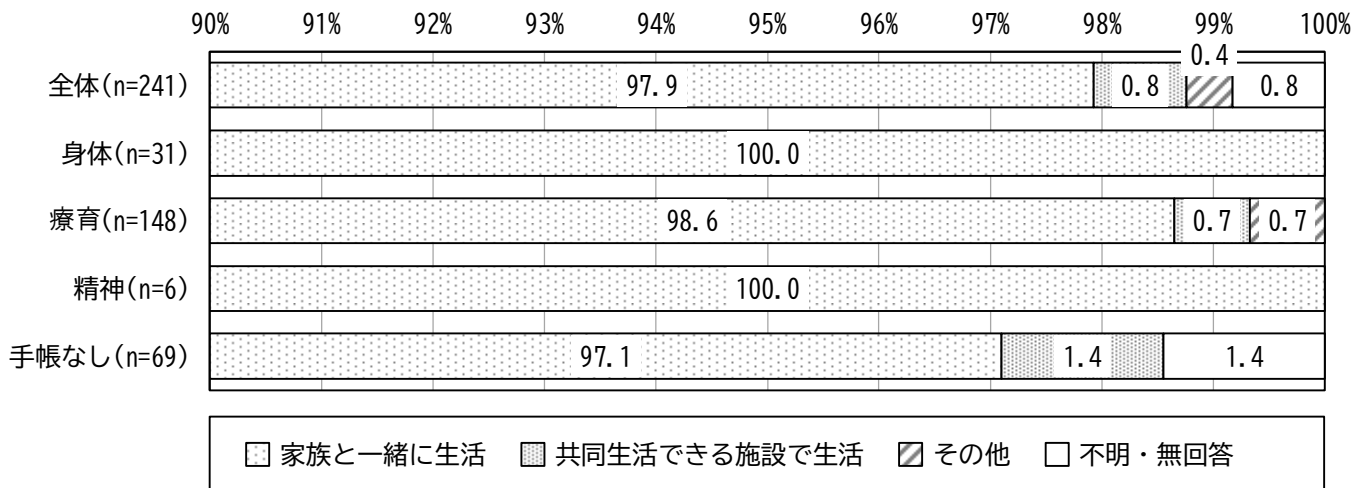
など

2. お子さんの現在の生活について

(1) 現在生活している場所

問8 お子さんが、今現在生活している場所はどこですか。(○は1つだけ)

今現在生活している場所については、「家族と一緒に生活」が 97.9%、「共同生活できる施設で生活」が 0.8%となっています。



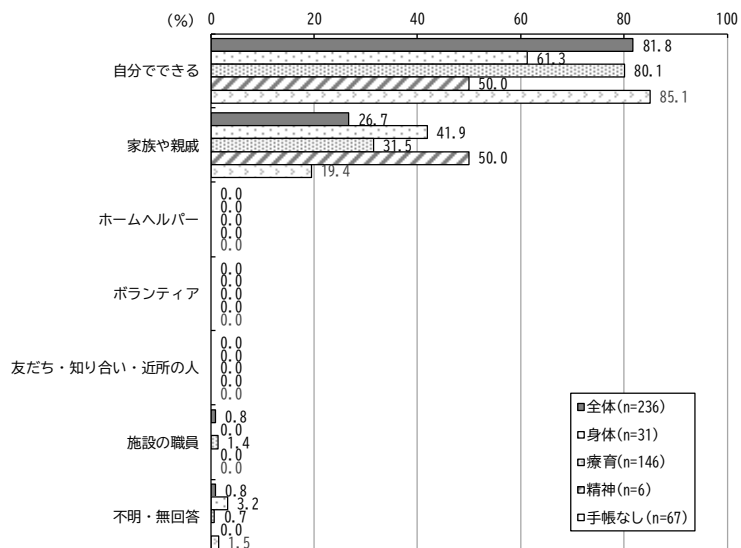
(2) 主な介護・介助者

問9 問8で1を選んだ方にお聞きしますお子さんが以下のことをするとき、だれの支援を受けていますか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

①食事をするとき(料理、配膳、片付けなどは含まない)

【障がい種別】

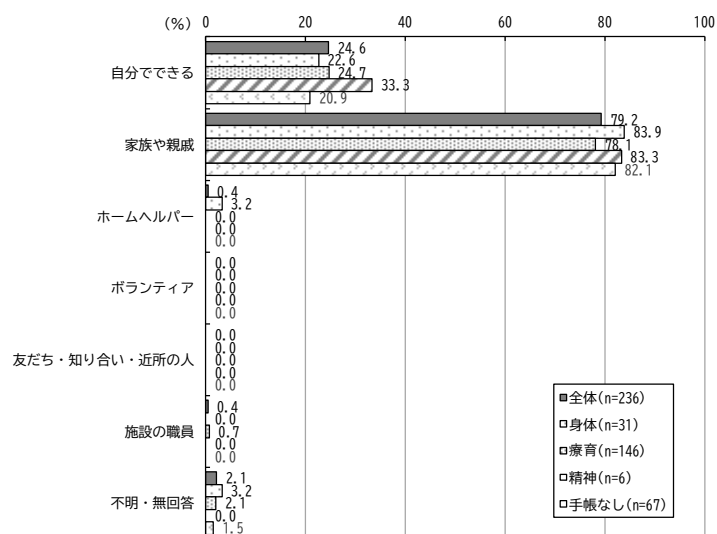
障がい種別にみると、右のようになっています。



②薬を飲んだり保管するとき

【障がい種別】

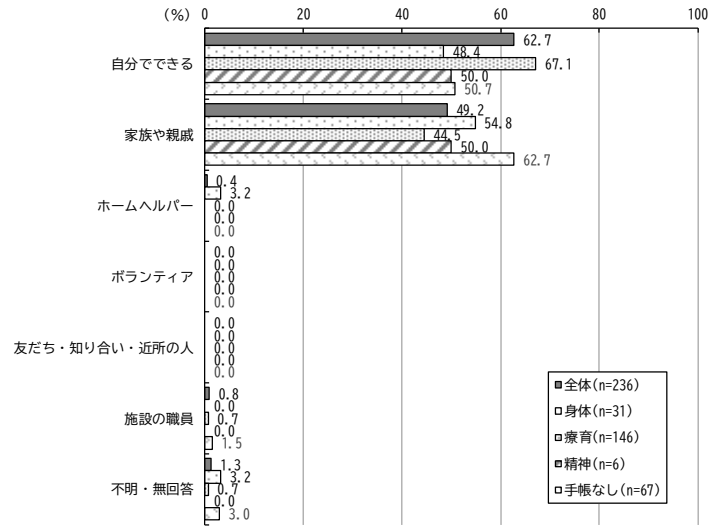
障がい種別にみると、右のようになっています。



③お風呂に入る・トイレを使うとき

【障がい種別】

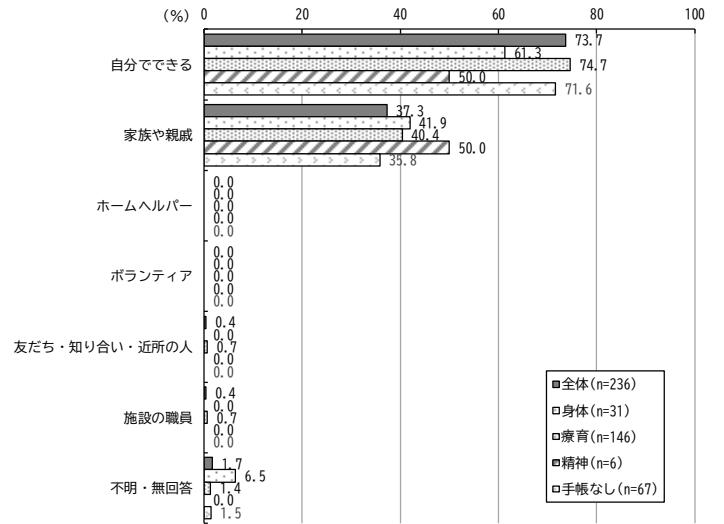
障がい種別にみると、右のようになっています。



④着替えをするとき

【障がい種別】

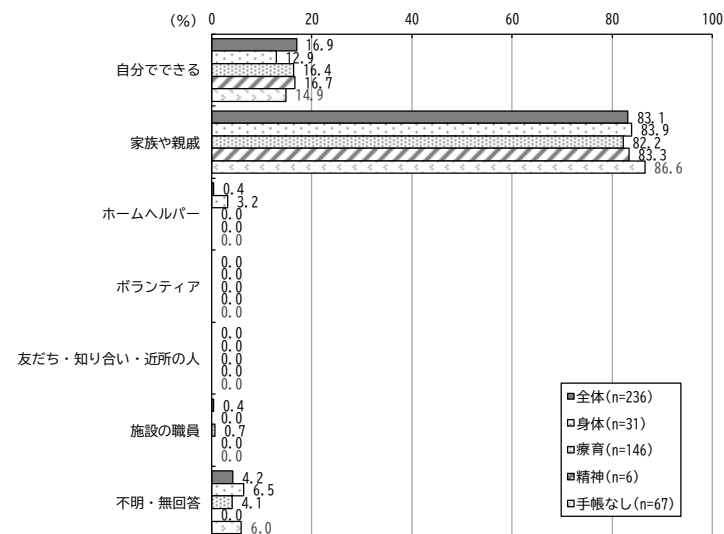
障がい種別にみると、右のようになっています。



⑤料理・掃除・洗濯をするとき

【障がい種別】

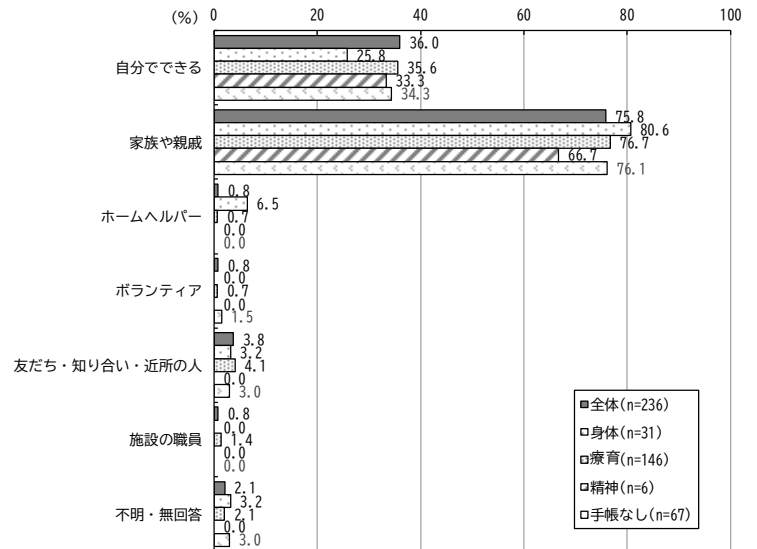
障がい種別にみると、右のようになっています。



⑥出かけるとき（通院や買い物など）

【障がい種別】

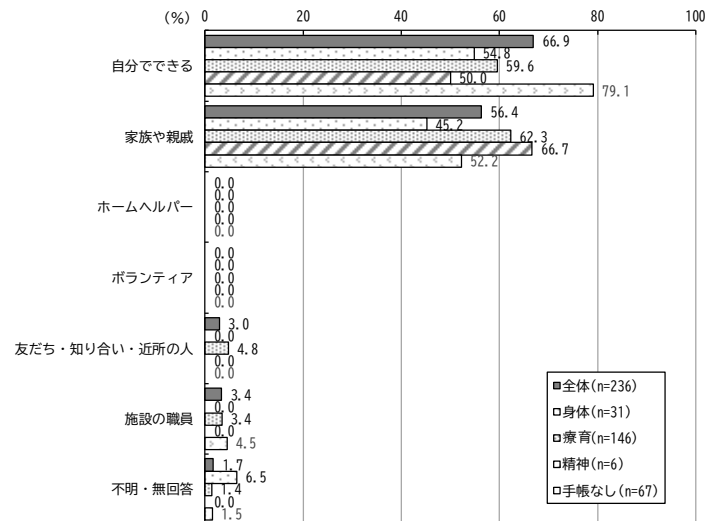
障がい種別にみると、右のようになっています。



⑦自分の考えを伝えたいとき

【障がい種別】

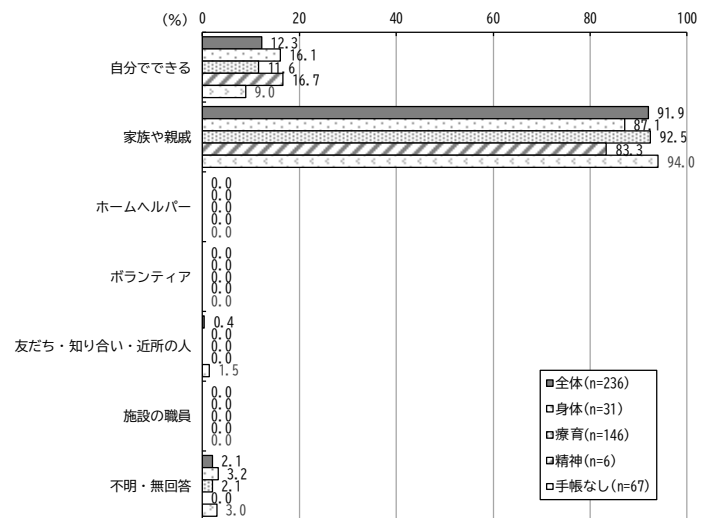
障がい種別にみると、右のようになっています。



⑧生活費など、お金の管理をするとき

【障がい種別】

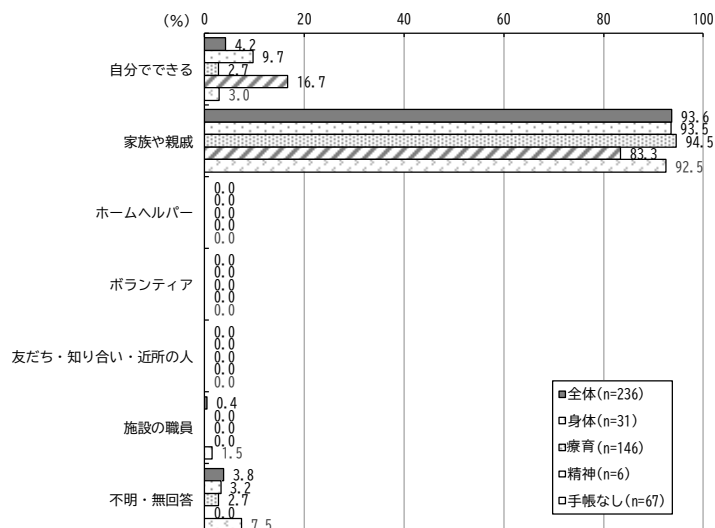
障がい種別にみると、右のようになっています。



⑨ 日常の暮らしに必要な手続きをするとき

【障がい種別】

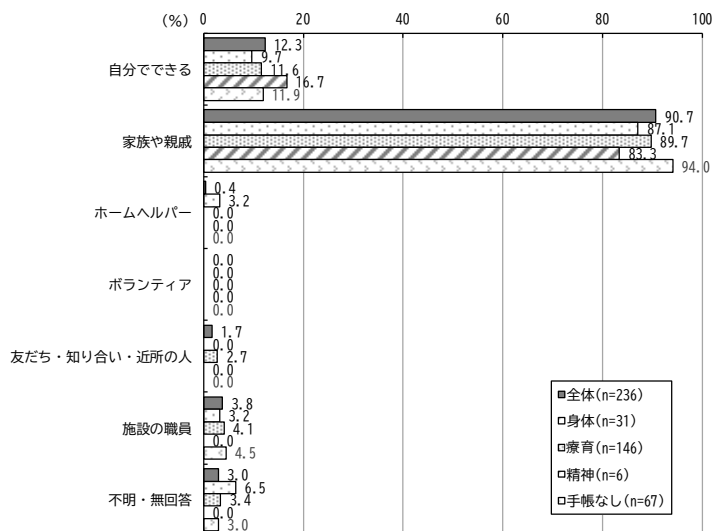
障がい種別にみると、右のようになっています。



⑩ 地震や台風など、緊急時に避難・連絡したいとき

【障がい種別】

障がい種別にみると、右のようになっています。



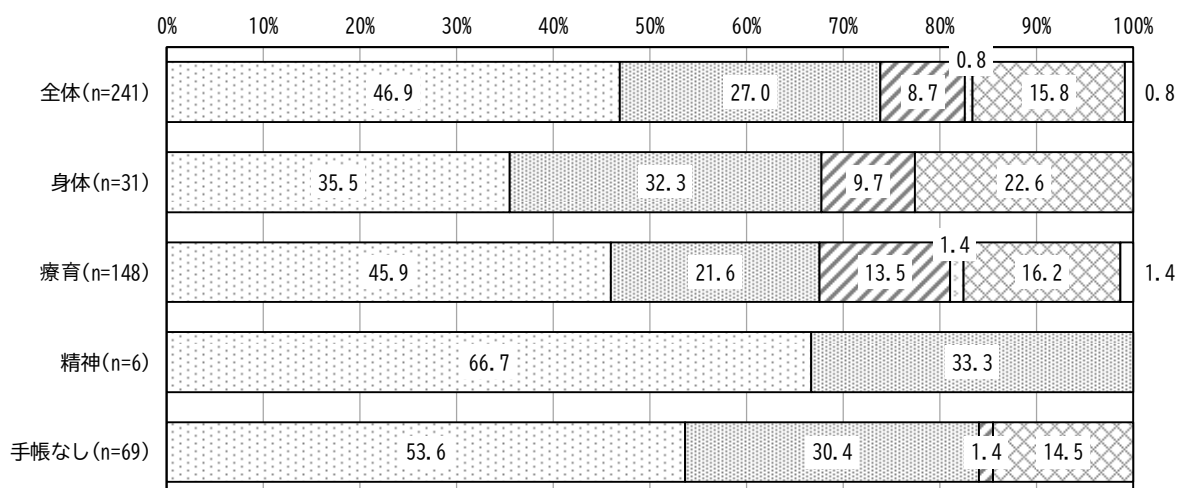
(3) 将来生活したい場所

問 10 将来的には、お子さんはどのような場所で生活したいと思いますか。(○は1つだけ)

どのような場所で生活したいと思うかについては、「家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）」が46.9%で最も多く、次いで「家族（親・兄弟姉妹）と離れて一人で生活がしたい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）」が27.0%、「わからない」が15.8%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）」が多くなっています。



- 家族（親・兄弟姉妹）と一緒に自宅で生活したい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）
- 家族（親・兄弟姉妹）と離れて一人で生活がしたい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）
- 専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホームなど）を利用したい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）
- 入所施設で生活したい（もしくは、お子さんがそれを将来希望すると思う）
- その他
- わからない
- 不明・無回答

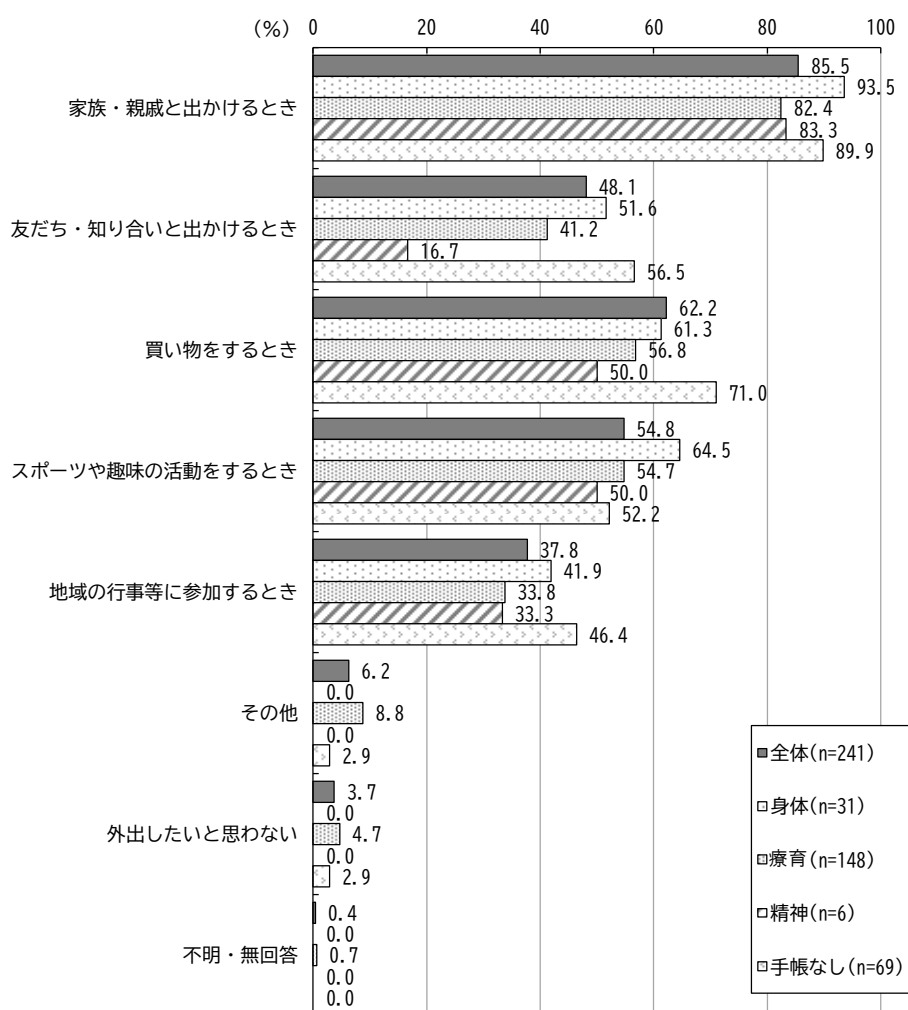
(4) 通学、通勤、通所や通院以外で外出したいと思うとき

問11 お子さんが通園・通学、通所や通院以外で「外出したい」と思うのは、どのようなときですか。
(あてはまるものすべてに○)

通学、通勤、通所や通院以外で「外出したい」と思うときについては、「家族・親戚と出かけるとき」が85.5%で最も多く、次いで「買い物をするとき」が62.2%、「スポーツや趣味の活動をするとき」が54.8%となっています。

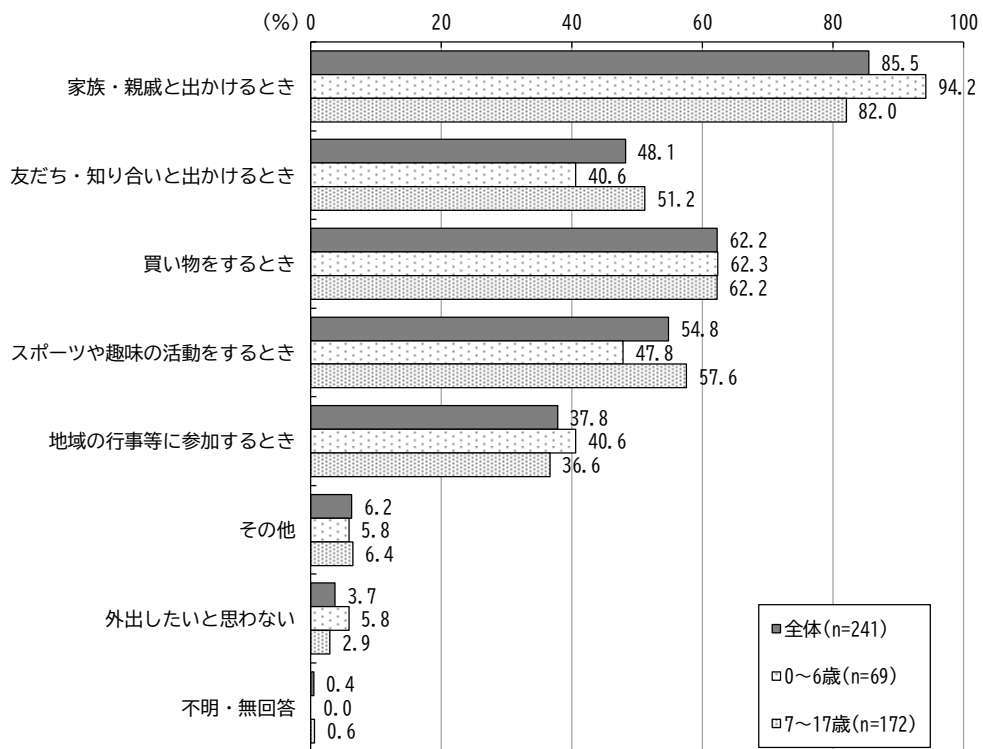
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「家族・親戚と出かけるとき」「スポーツや趣味の活動をするとき」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「家族・親戚と出かけるとき」が多くなっています。



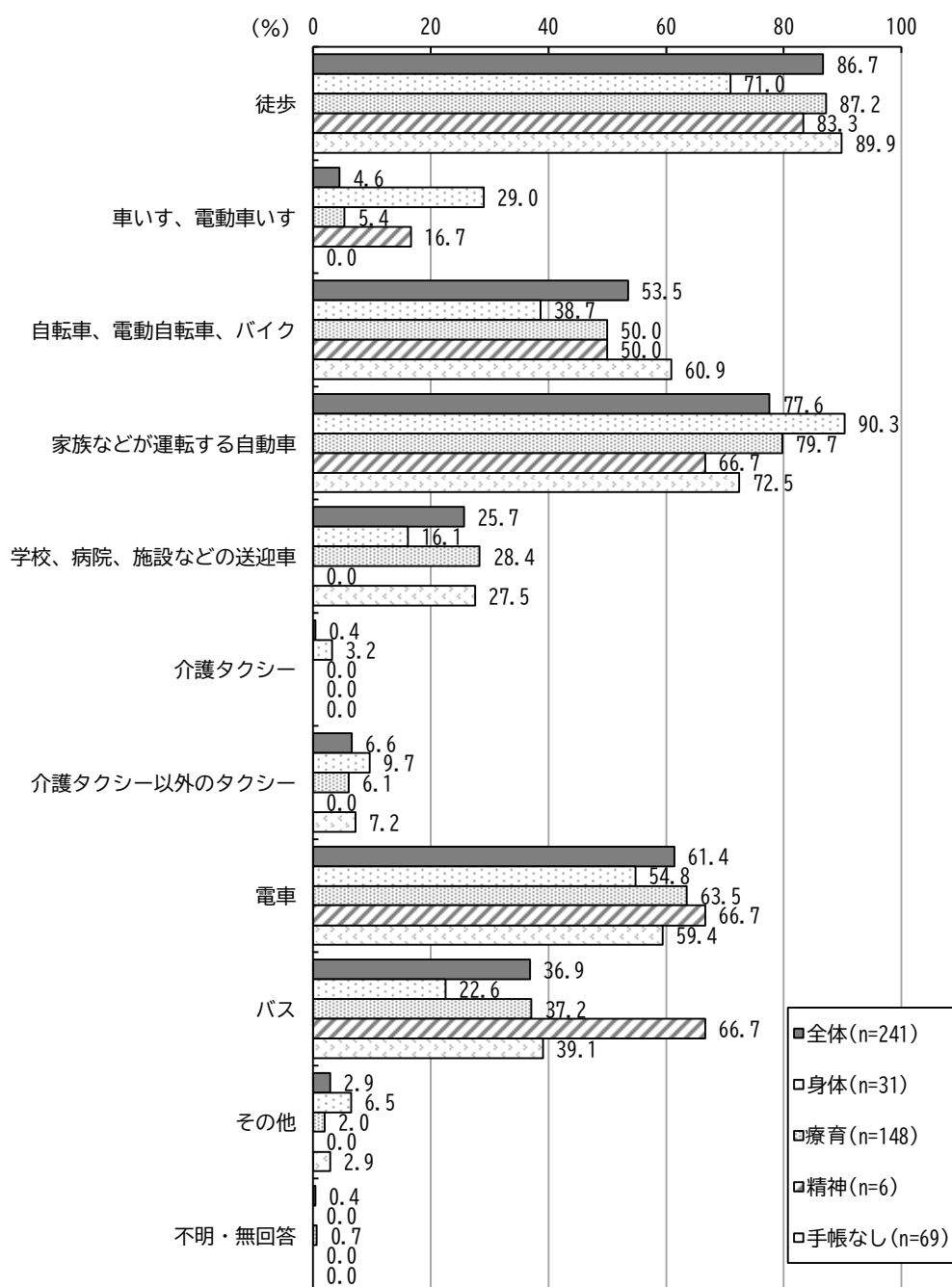
(5) 外出時の移動手段

問 12 お子さんが出かけるとき、何で移動しますか（通学、通勤、通所や通院も含む）。（もっともあてはまるもの5つまでに○）

出かけるとき、何で移動するかについては、「徒歩」が86.7%で最も多く、次いで「家族などが運転する自動車」が77.6%、「電車」が61.4%となっています。

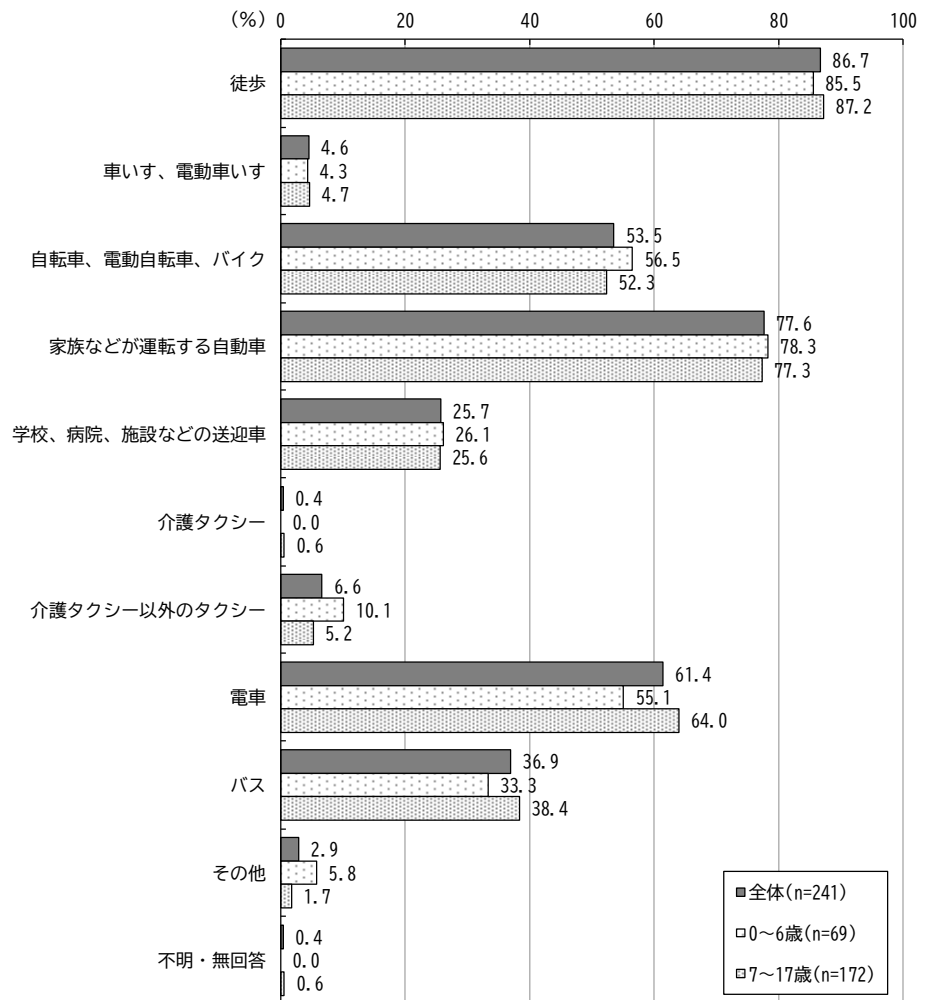
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「家族などが運転する自動車」「車いす、電動車いす」が他の障がい種別に比べて多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「介護タクシー以外のタクシー」が多くなっています。



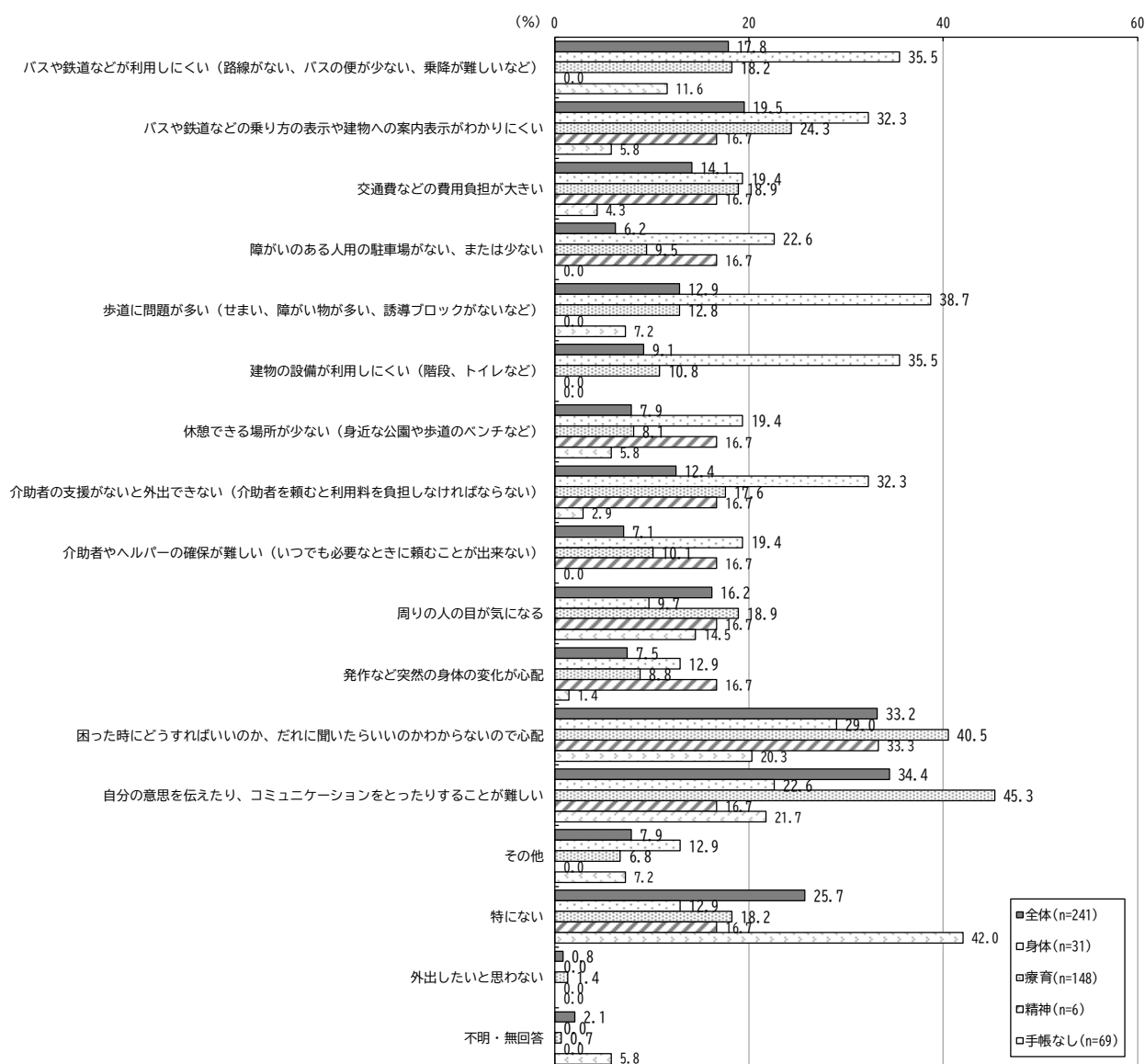
(6) 外出時に困ったり、心配になったりすること

問13 お子さんが出かけるときに、困ったり、心配になったりすることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

出かけるときに、困ったり、心配になったりすることについては、「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが難しい」が34.4%で最も多く、次いで「困ったときにどうすればいいのか、だれに聞いたらいいのかわからないので心配」が33.2%、「特にない」が25.7%となっています。

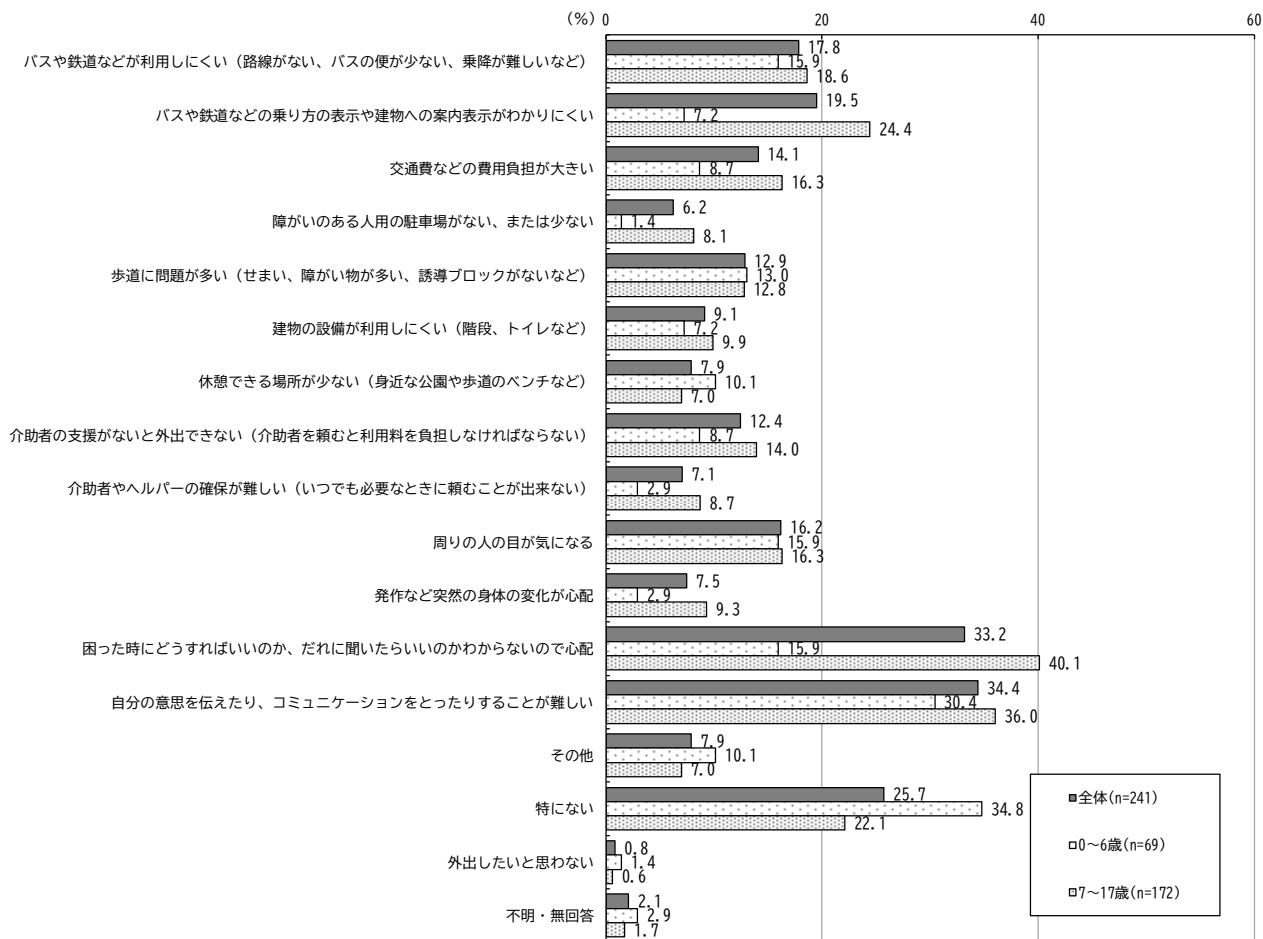
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「バスや鉄道などが利用しにくい（路線がない、バスの便が少ない、乗降が難しいなど）」「歩道に問題が多い（せまい、障がい物が多い、誘導ブロックがないなど）」「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレなど）」「バスや鉄道などの乗り方の表示や建物への案内表示がわかりにくい」などが、知的障がい・発達障がいのある人で「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが難しい」「困ったときにどうすればいいのか、だれに聞いたらいいのかわからないので心配」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「特にない」が、7～17歳では「困った時にどうすればいいのか、だれに聞いたらいいのかわからないので心配」「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが難しい」が多くなっています。



3. 教育・保育や通所支援などについて

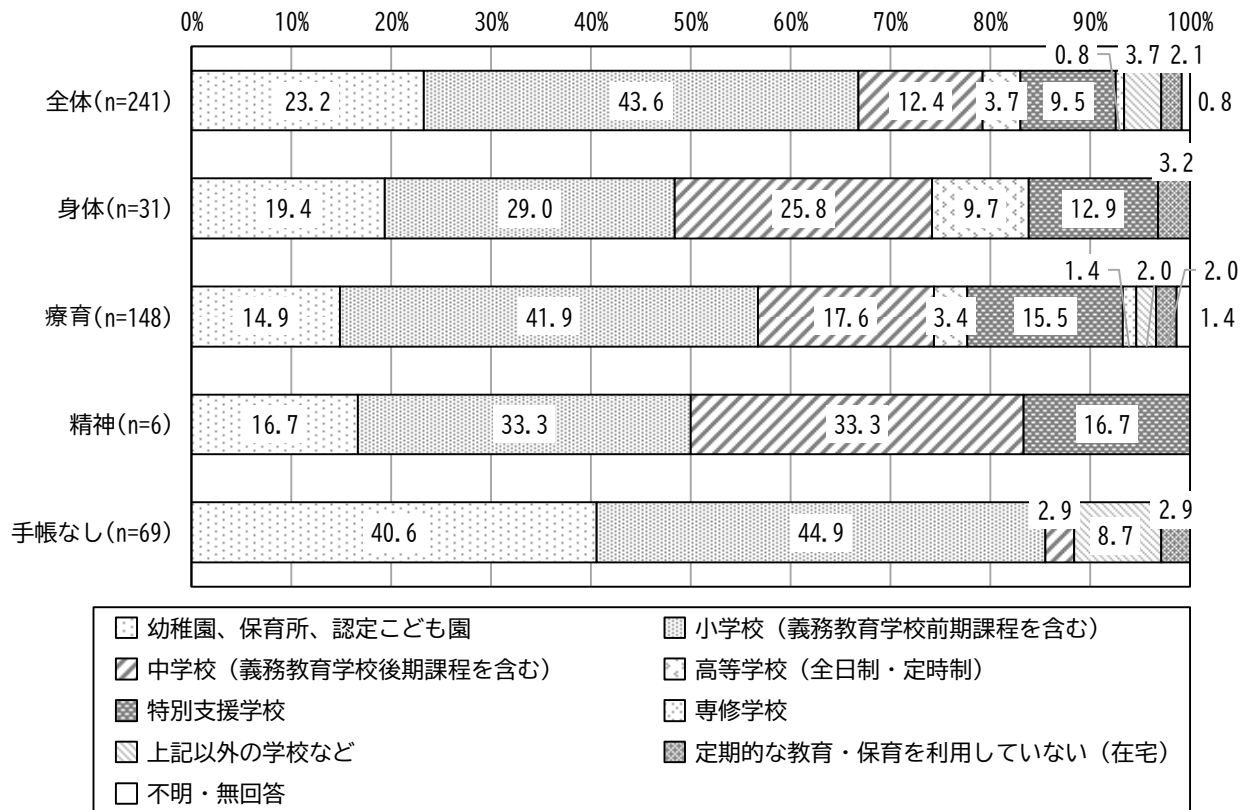
(1) 在籍している学校

問 14 現在、お子さんが在籍している学校などはどれですか（○は1つだけ）

在籍している学校については、「小学校（義務教育学校前期課程を含む）」が 43.6%で最も多く、次いで「幼稚園、保育所、認定こども園」が 23.2%、「中学校（義務教育学校後期課程を含む）」が 12.4%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



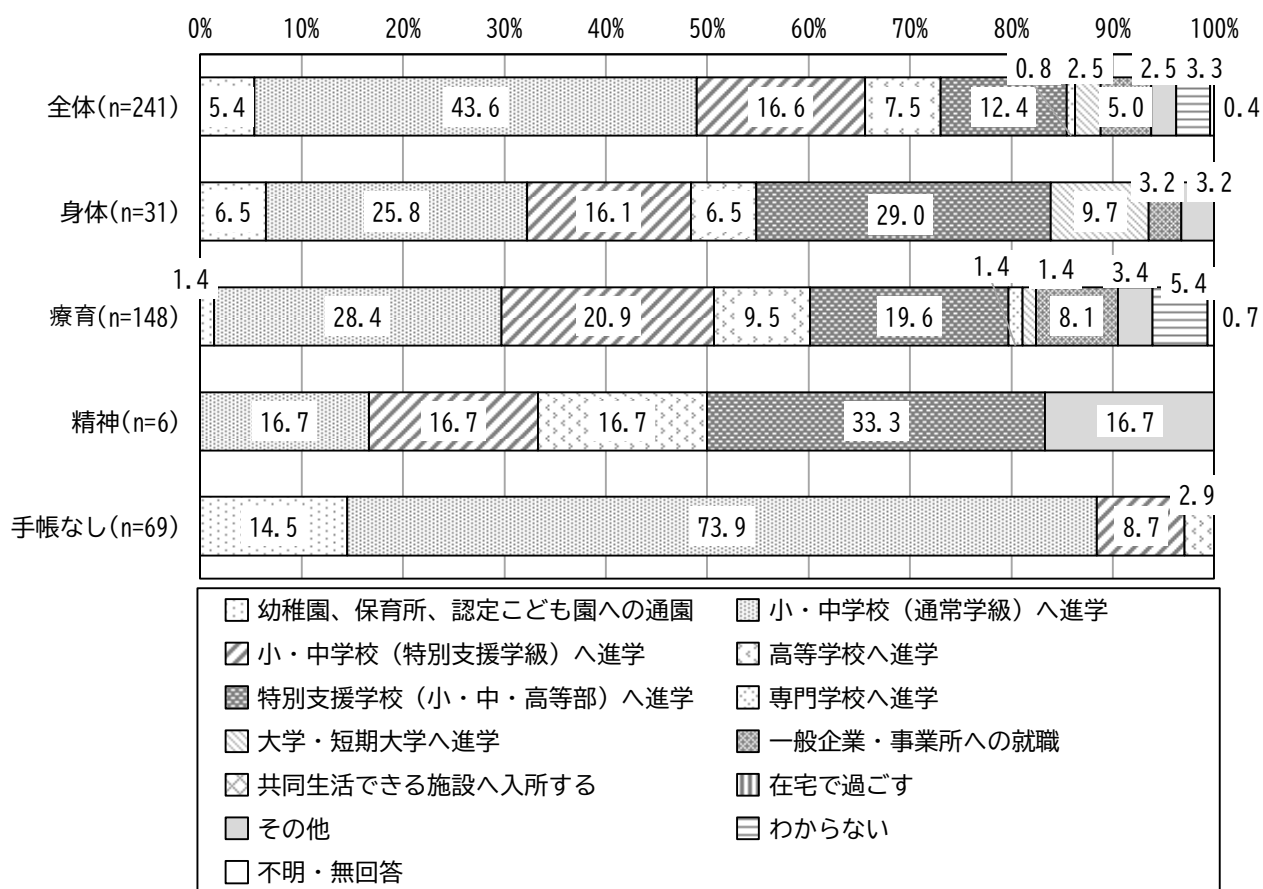
(2) 希望する進路

問 15 現在在籍している学校など（在宅含む）の次の進路（進学や就職、その他）について、どのようなことを望まれますか。（○は1つだけ）

現在在籍している学校など（在宅含む）の次の進路（進学や就職、その他）について望むことについては、「小・中学校（通常学級）へ進学」が43.6%で最も多く、次いで「小・中学校（特別支援学級）へ進学」が16.6%、「特別支援学校（小・中・高等部）へ進学」が12.4%となっています。

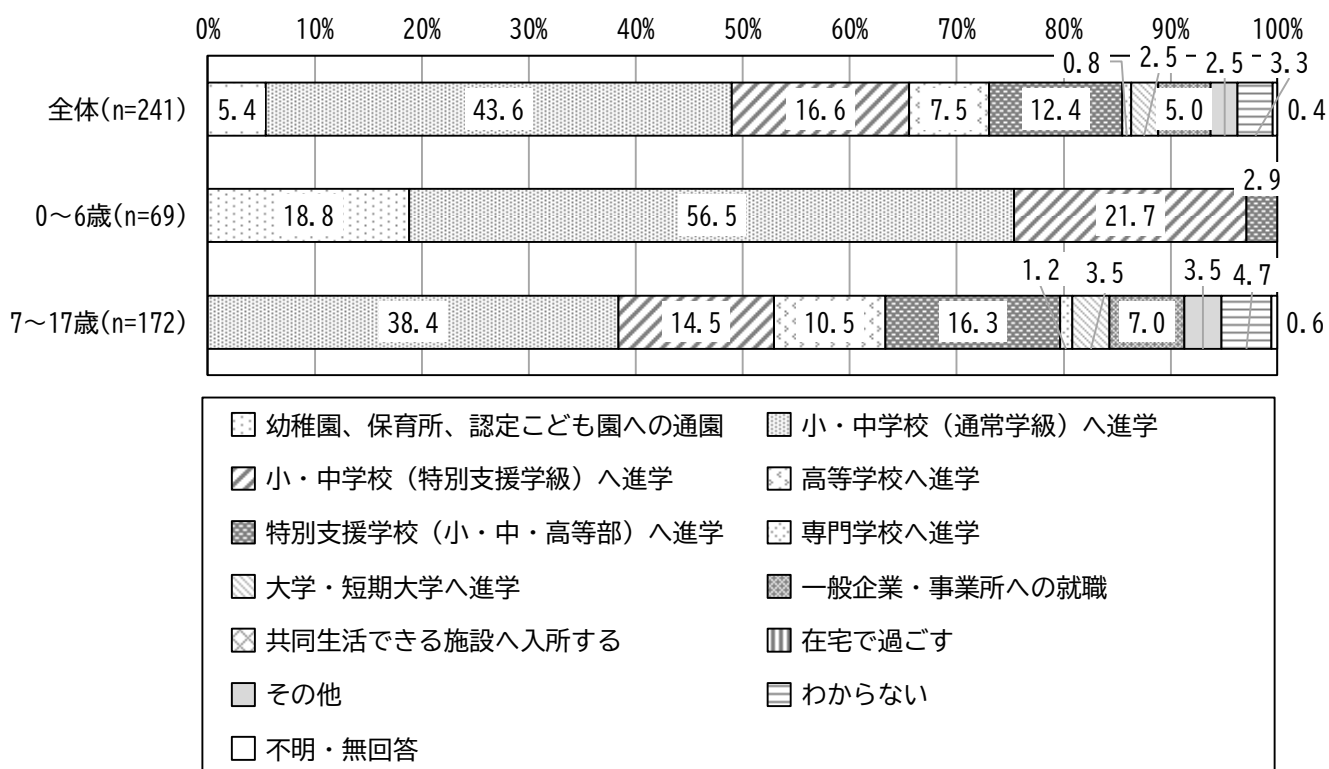
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、以下のようになっています。



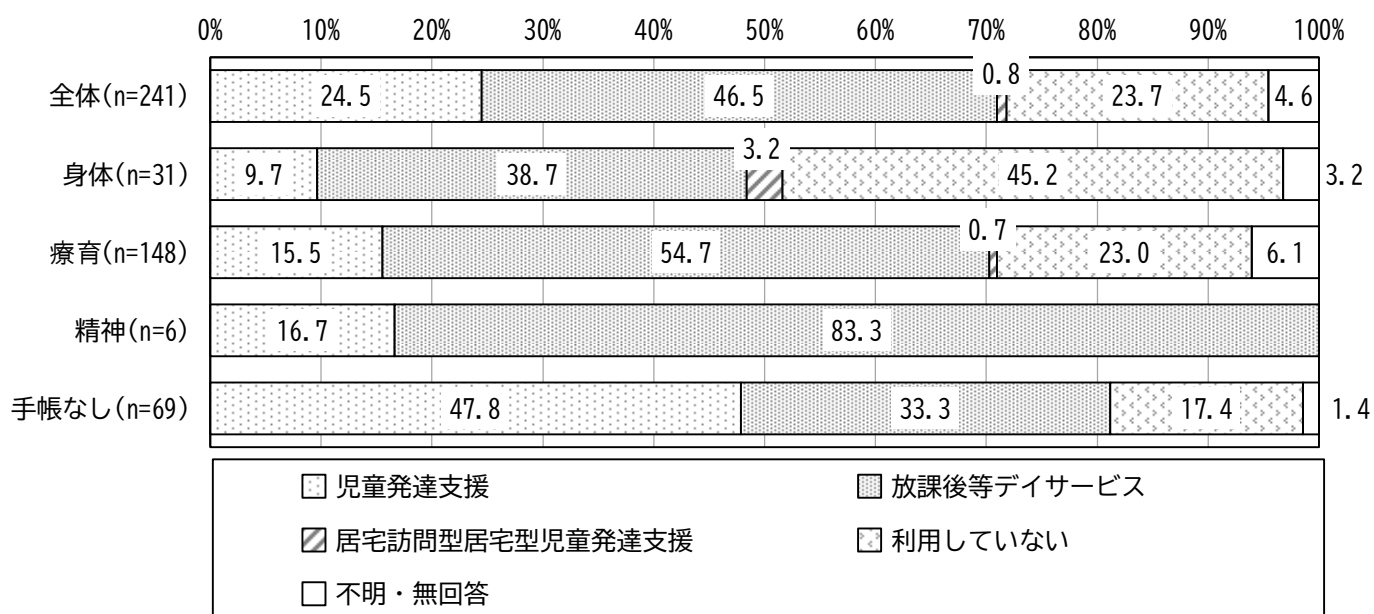
(3) 障がい児通所支援の利用状況

問 16 「障がい児通所支援」を利用していますか。(○は1つだけ)

「障がい児通所支援」の利用状況については、「放課後等デイサービス」が46.5%で最も多く、次いで「児童発達支援」が24.5%、「利用していない」が23.7%となっています。

【障がい種別】

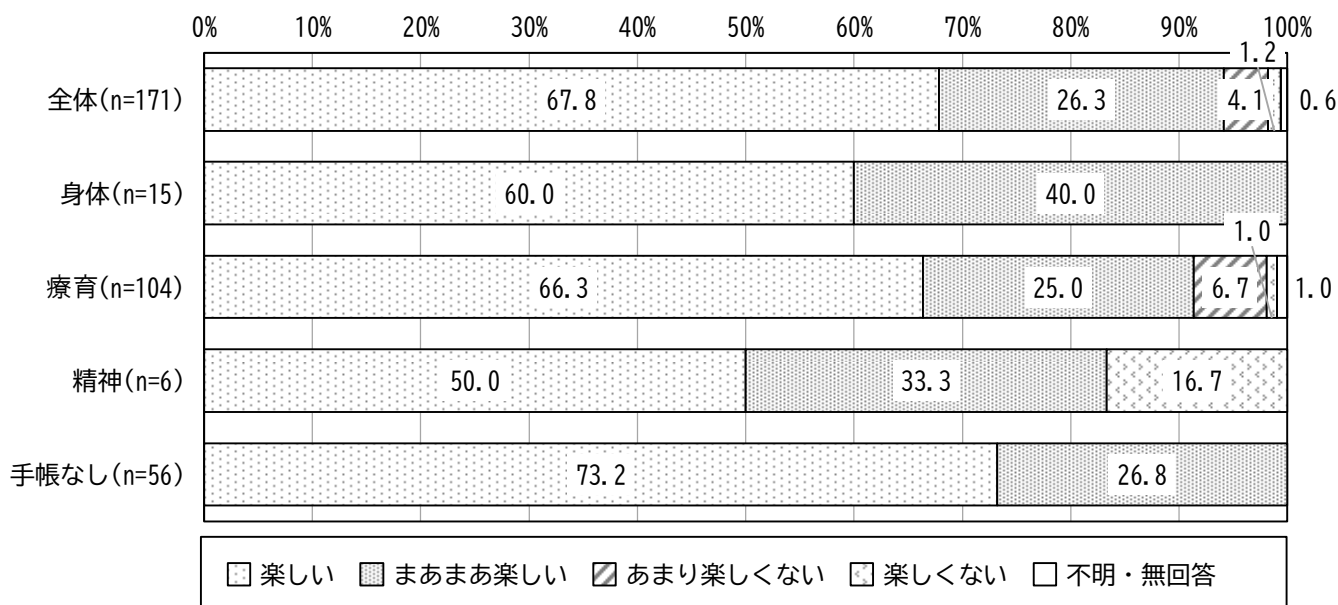
障がい種別にみると、「児童発達支援」「放課後等デイサービス」を合わせると、身体障がいのある人で48.4%、知的障がい・発達障がいのある人で70.2%となっています。



(4) 児童発達支援や放課後等デイサービスの評価

問 17 問 16 で 1、2 のいずれかを選んだ方にお聞きします。主に利用している児童発達支援や放課後等デイサービスは楽しいですか。(○は1つだけ)

主に利用している児童発達支援や放課後等デイサービスについては、「楽しい」が 67.8%で最も多く、次いで「まあまあ楽しい」が 26.3%、「あまり楽しくない」が 4.1%となっています。



(5) 児童発達支援や放課後等デイサービスが楽しくない理由

問 18 問 17 で 3、4 のいずれかを選んだ方にお聞きします。児童発達支援や放課後等デイサービスが楽しくない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

児童発達支援や放課後等デイサービスが楽しくないと回答した人 (n=9) に対して理由をたずねると、「好きな活動がない」(3名)、「仲の良いお友達がない」(3名)、「好きな先生がない」(2名)、「家から遠い」(2名)、「場所(部屋や建物)が落ち着かない」(1名)が挙げられています。

◇児童発達支援や放課後等デイサービスが楽しくない理由 「その他」の回答

内容
以前は楽しく通っていたが、最近は理由も言わず行きたくないと言う
家で過ごすのが好きだから

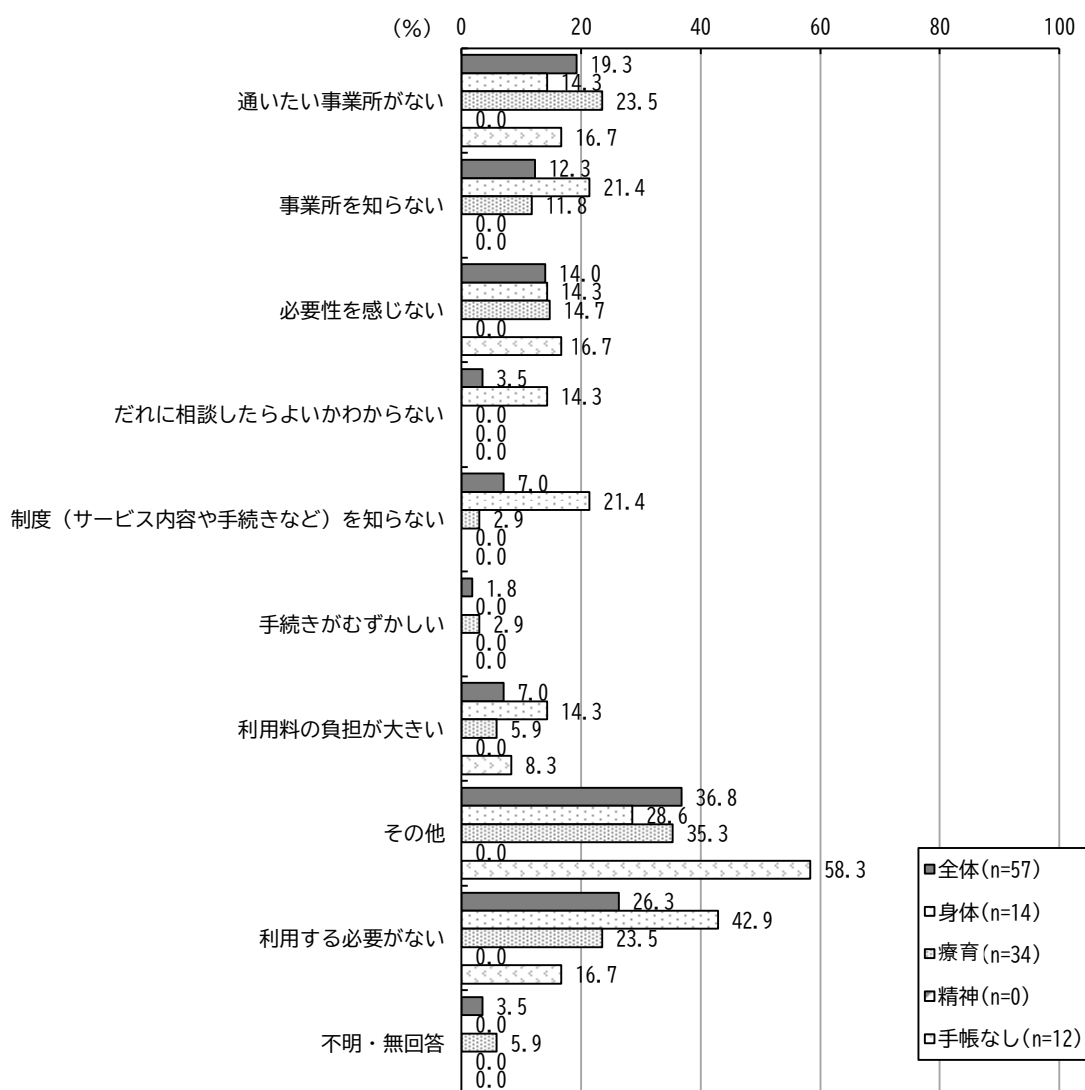
(6) 障がい児通所支援を利用していない理由

問 19 問 16 で 4 を選んだ方にお聞きします。「障がい児通所支援を利用していない理由」はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「障がい児通所支援を利用していない理由」については、「その他」が 36.8%で最も多く、次いで「利用する必要がない」が 26.3%、「通いたい事業所がない」が 19.3%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「事業所を知らない」「制度（サービス内容や手続きなど）を知らない」「だれに相談したらよいかわからない」、知的障がい・発達障がいのある人で「通いたい事業所がない」が多くなっています。



◇「障がい児通所支援」を利用していない理由 「その他」の回答

内 容	
① 本人の意向・拒否	
	本人が学校の友人と遊びたいと希望したため
	本人が行きたがらない・嫌がる（8人）
② 利用手続き・検討段階	
	今後の利用を検討または準備している（6人）
③ 受入れ体制・サービス内容	
	通いたい事業所の空きがない
	希望する相談や支援の場がみつけれない
④ 家庭の事情による制約	
	親が就労しており、利用が難しい
⑤ 利用の必要性の変化	
	以前は通っていたが、通う必要がなくなった（2人）

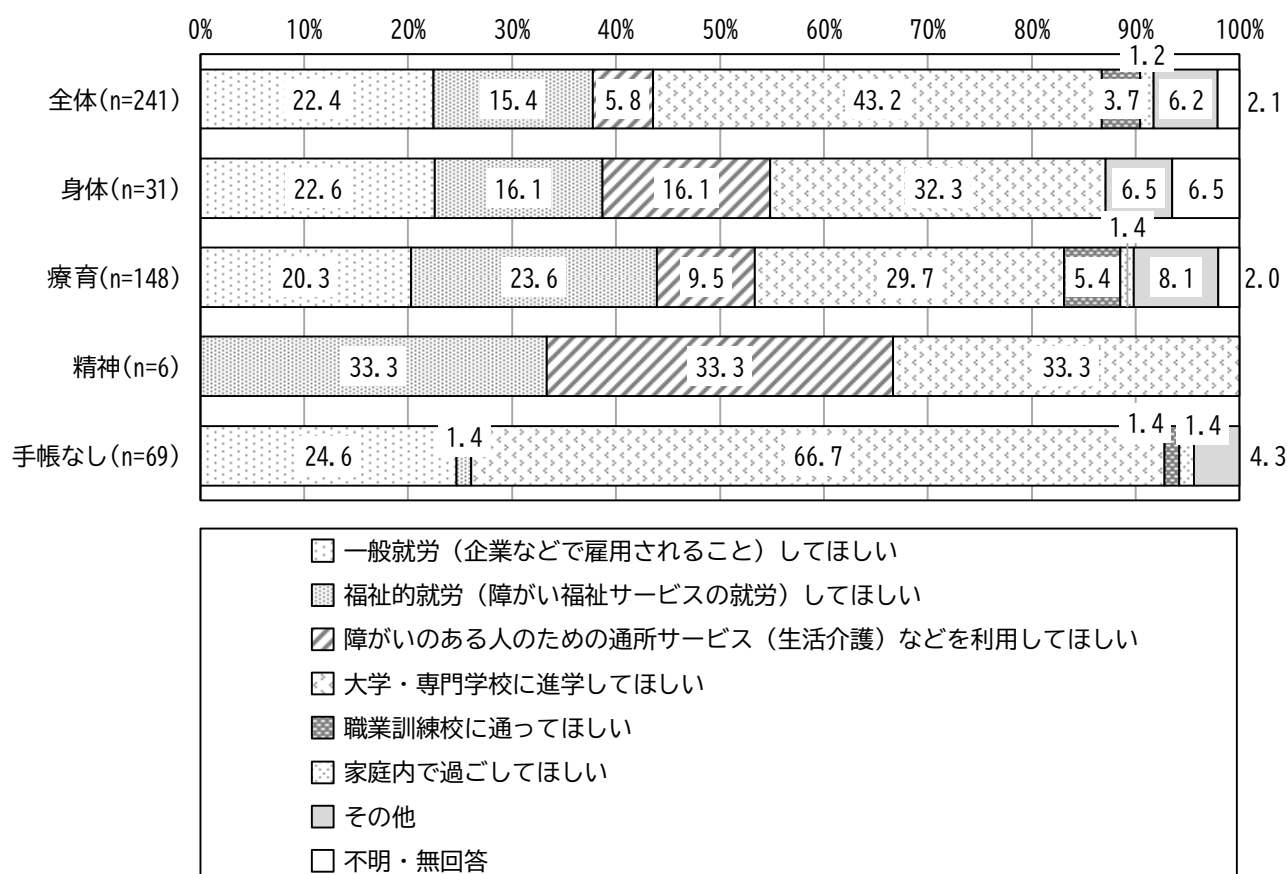
(7) 「障がい児通所支援」の利用終了後、日中をどのように過ごしてほしいか

問 20 お子さんが将来 18 歳になり、「障がい児通所支援」の利用が終了になった後、日中をどのように過ごしてほしいですか。(○は1つだけ)

日中をどのように過ごしてほしいかについては、「大学・専門学校に進学してほしい」が 43.2%で最も多く、次いで「一般就労（企業などで雇用されること）してほしい」が 22.4%、「福祉的就労（障がい福祉サービスの就労）してほしい」が 15.4%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「大学・専門学校に進学してほしい」、知的障がい・発達障がいのある人で「福祉的就労（障がい福祉サービスの就労）してほしい」、手帳をもっていない人で「大学・専門学校に進学してほしい」が多くなっています。



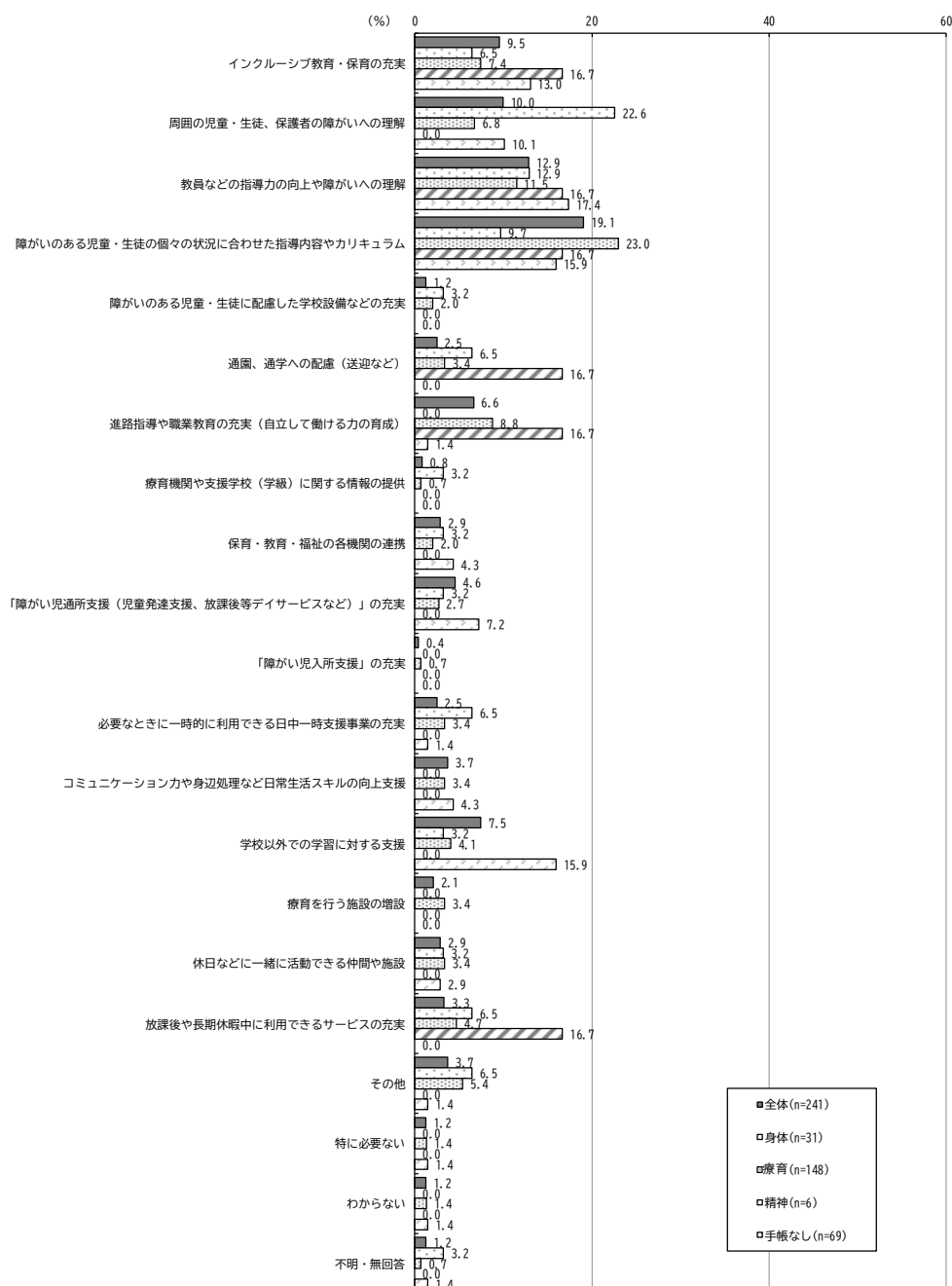
(8) 保育・教育において今後特に必要と思うもの

問 21 お子さんの保育や教育について、今後、特にどのようなことが必要だと思いますか。現在通われていない方は、これまでのご経験からお答えください。(〇は1つだけ)

保育や教育について、今後、特に必要だと思うことについては、「障がいのある児童・生徒の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」が 19.1%で最も多く、次いで「教員などの指導力の向上や障がいへの理解」が 12.9%、「周囲の児童・生徒、保護者の障がいへの理解」が 10.0%となっています。

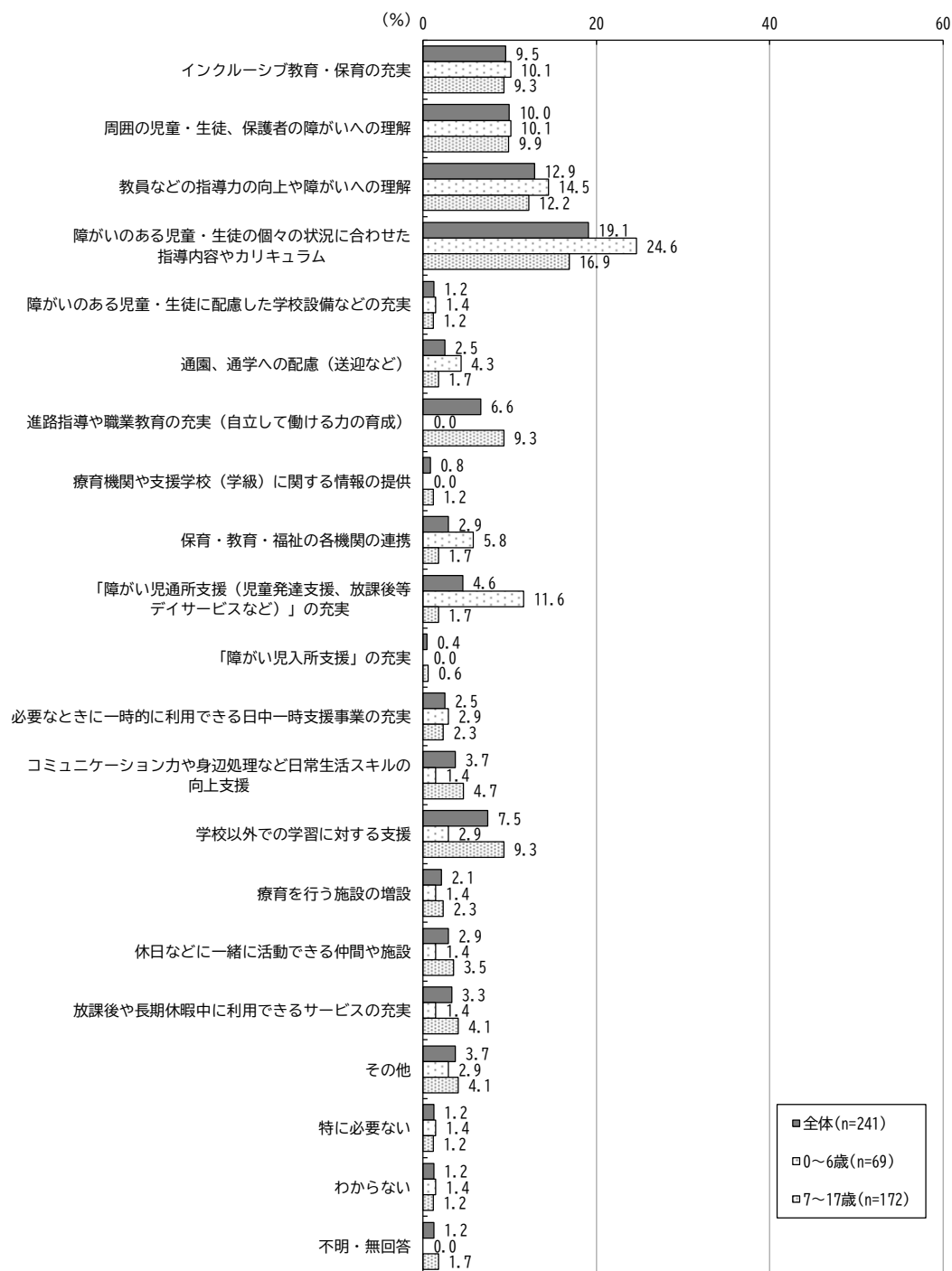
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「周囲の児童・生徒、保護者の障がいへの理解」、知的障がい・発達障がいのある人で「障がいのある児童・生徒の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」、手帳を持っていない人で「学校以外での学習に対する支援」「障がい児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）」の充実」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「障がいのある児童・生徒の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」「『障がい児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）』の充実」、7～18歳では「学校以外での学習に対する支援」「進路指導や職業教育の充実（自立して働ける力の育成）」が多くなっています。



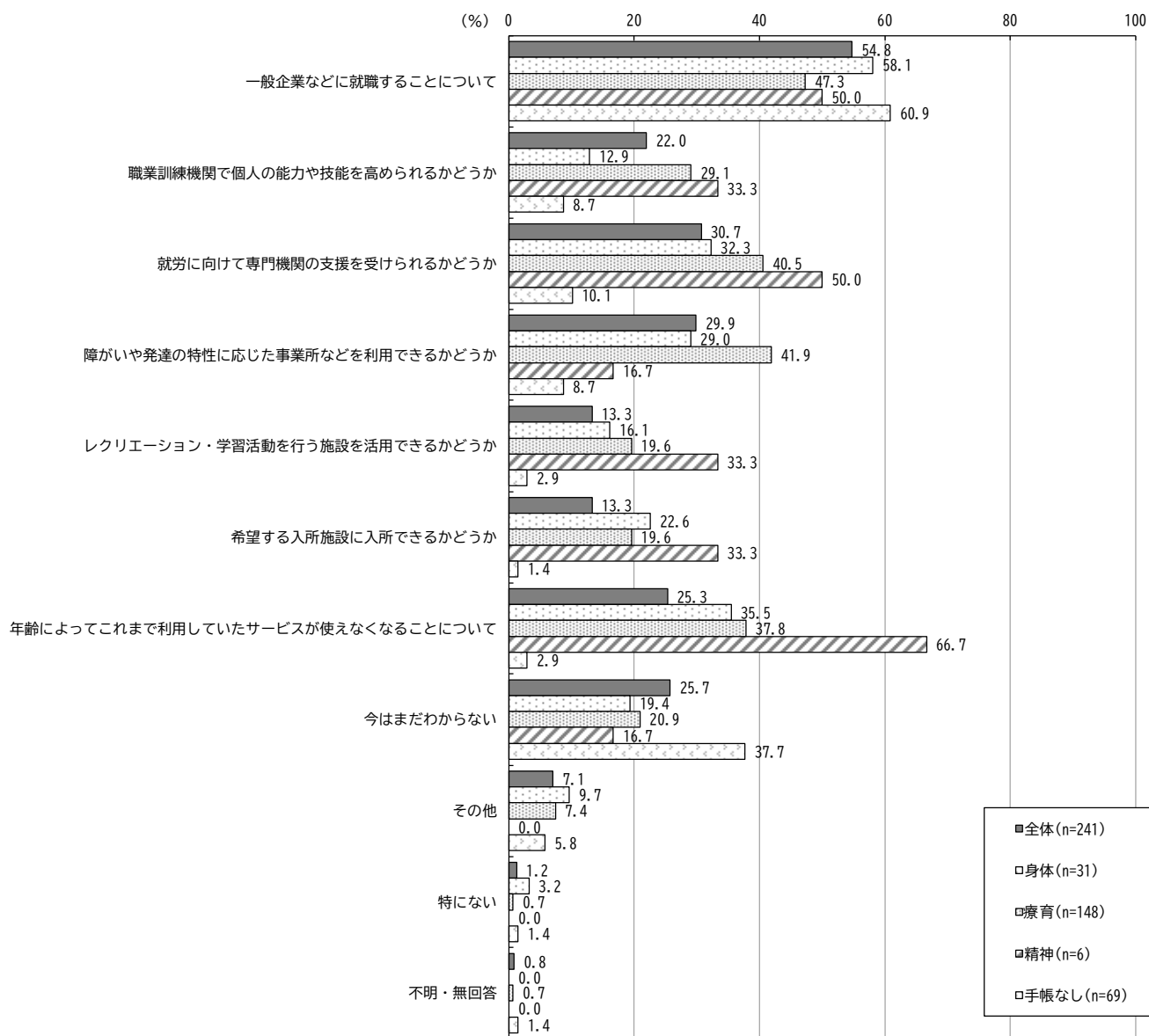
(9) 学校教育終了後の進路に関する不安

問 22 学校教育終了後の進路を考えるにあたって、どのような不安を持っていますか。(あてはまるものをすべてに○)

学校教育終了後の進路を考えるにあたっての不安については、「一般企業などに就職することについて」が 54.8%で最も多く、次いで「就労に向けて専門機関の支援を受けられるかどうか」が 30.7%、「障がいや発達の特徴に応じた事業所などを利用できるかどうか」が 29.9%となっています。

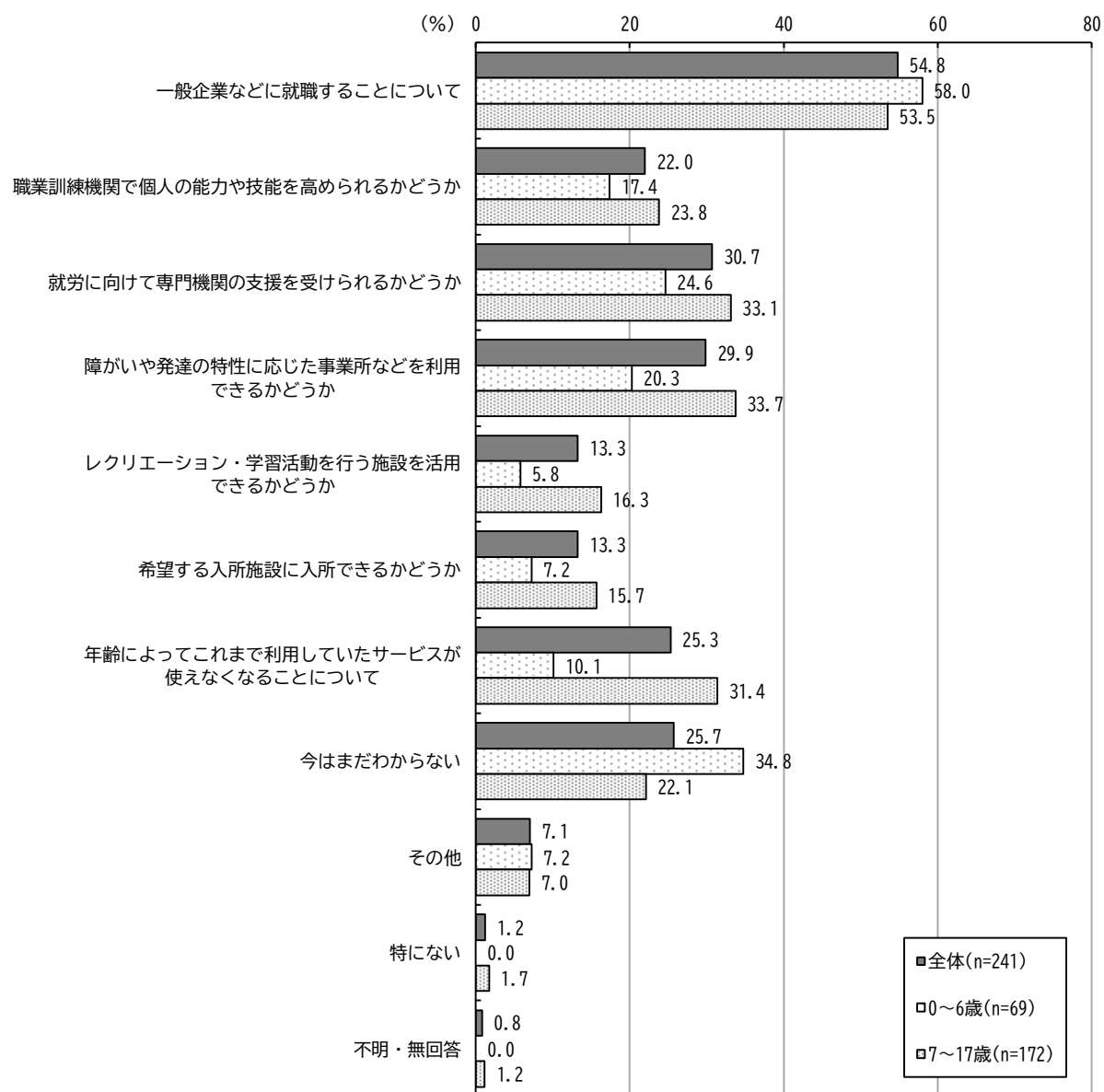
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「一般企業などに就職することについて」、知的障がい・発達障がいのある人で「障がいや発達の特徴に応じた事業所などを利用できるかどうか」、手帳を持っていない人で「一般企業などに就職することについて」「今はまだわからない」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「一般企業などに就職することについて」、7～17歳では「一般企業などに就職することについて」「障がいや発達の特性に応じた事業所などを利用できるかどうか」が多くなっています。



4. 通院の状況などについて

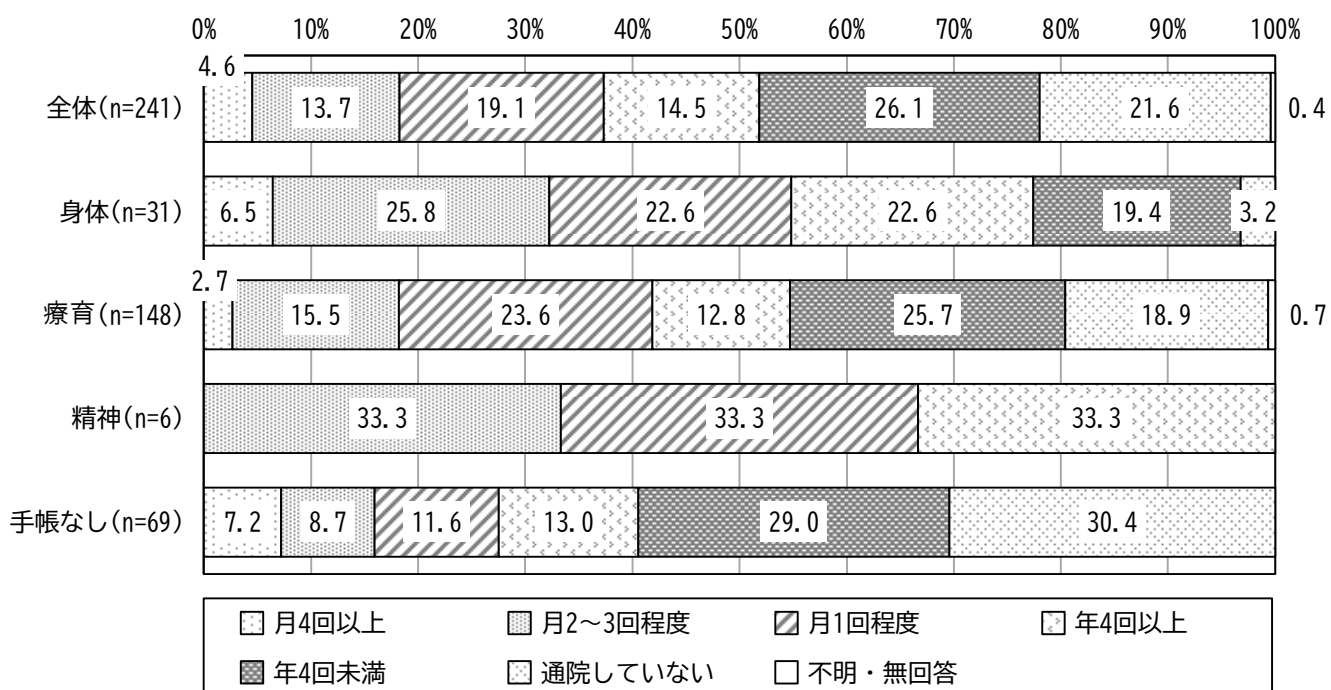
(1) 通院頻度

問 23 お子さんは現在、どのくらい通院していますか。(○は1つだけ)

現在、どのくらい通院しているかについては、「年4回未満」が26.1%で最も多く、次いで「通院していない」が21.6%、「月1回程度」が19.1%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人と手帳を持っていない人で「年4回未満」「通院していない」が多くなっています。



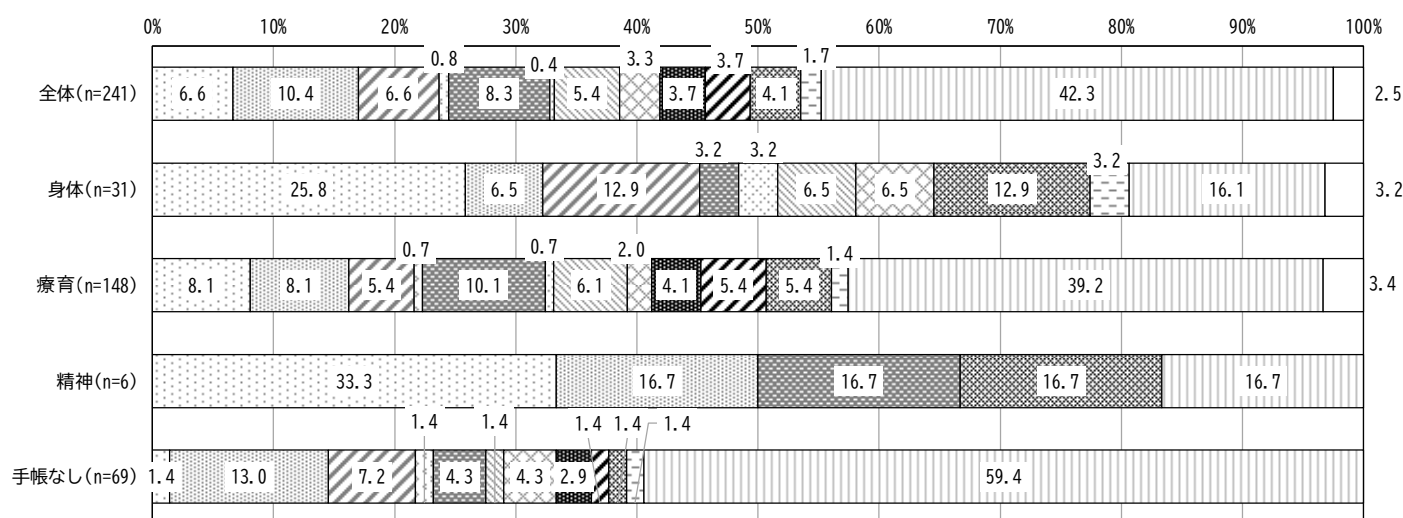
(2) 医療に関係することで困っていること

問 24 医療に関係することで、困っていることはありますか。(○は1つだけ)

医療に関係することで、困っていることについては、「特に困っていない」が42.3%で最も多く、次いで「専門的な治療を行う病院が身近にない」が10.4%、「障がいが理由で治療を受けにくい診療科がある（例：歯科・整形外科など）」が8.3%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「通院・入退院するときに手助けしてくれる人がいない」が多くなっています。



- 通院・入退院するときに手助けしてくれる人がいない
- 専門的な治療を行う病院が身近にない
- 専門的なリハビリを受けられる施設が身近にない
- ちょっとした病気やけがのときに診てくれる病院が身近にない
- 障がいが理由で治療を受けにくい診療科がある（例：歯科・整形外科など）
- 往診を頼める医師がいない
- 通院の負担が大きい（交通費など）
- 医療費の負担が大きい
- 医師、看護師とのコミュニケーションがとりにくい
- 障がいの特性などを医師、看護師に理解してもらうことがむずかしい
- 年齢によってこれまで診てもらっていた病院を変更しなければいけない
- その他
- 特に困っていない
- 不明・無回答

5. 生活の不安、相談などについて

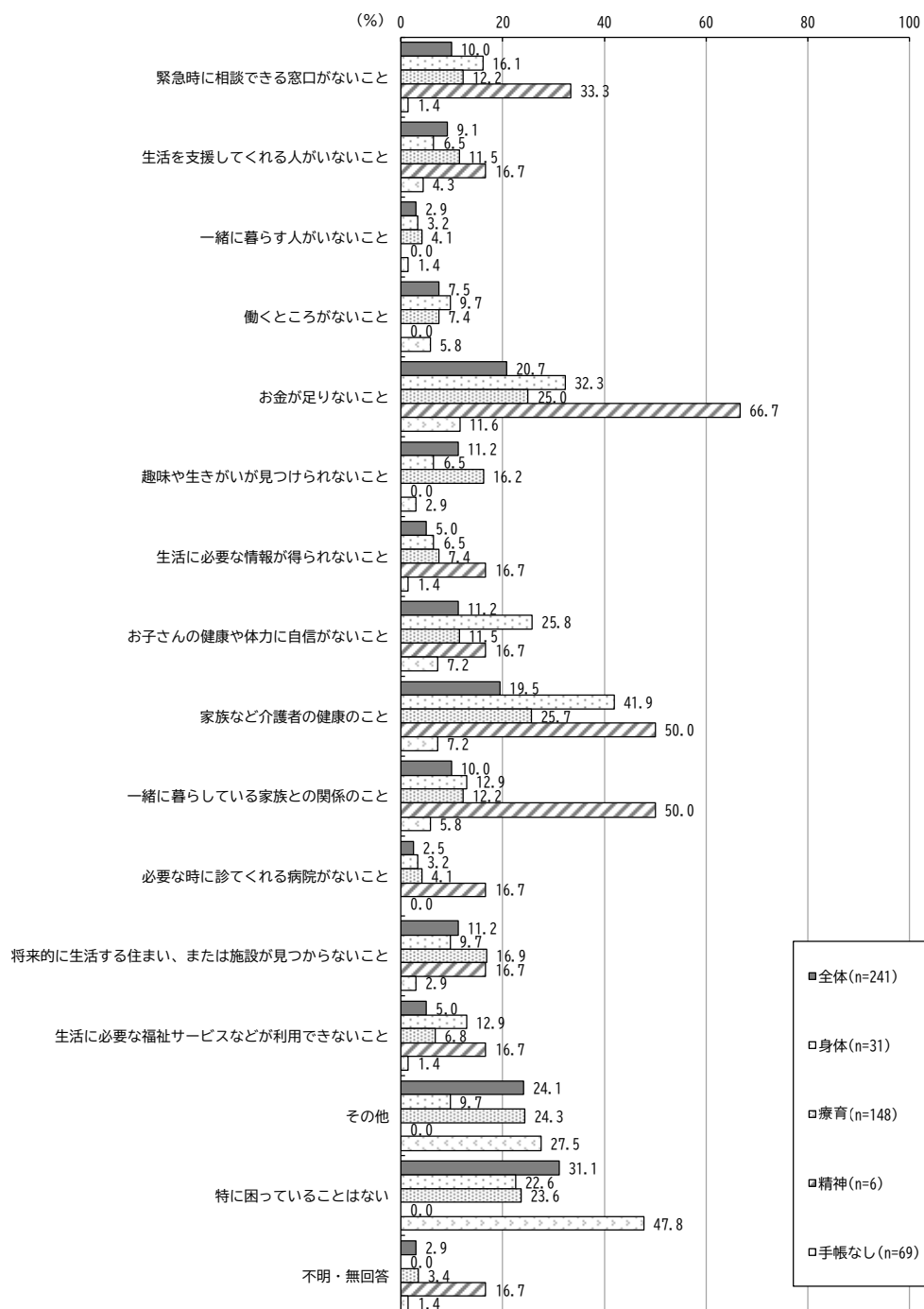
(1) 生活で困っていること・不安なこと

問 25 お子さんや保護者の方が、現在の生活で困っていることや、不安に思っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で困っていることや、不安に思っていることについては、「特に困っていることはない」が31.1%で最も多く、次いで「その他」が24.1%、「お金が足りないこと」が20.7%となっています。

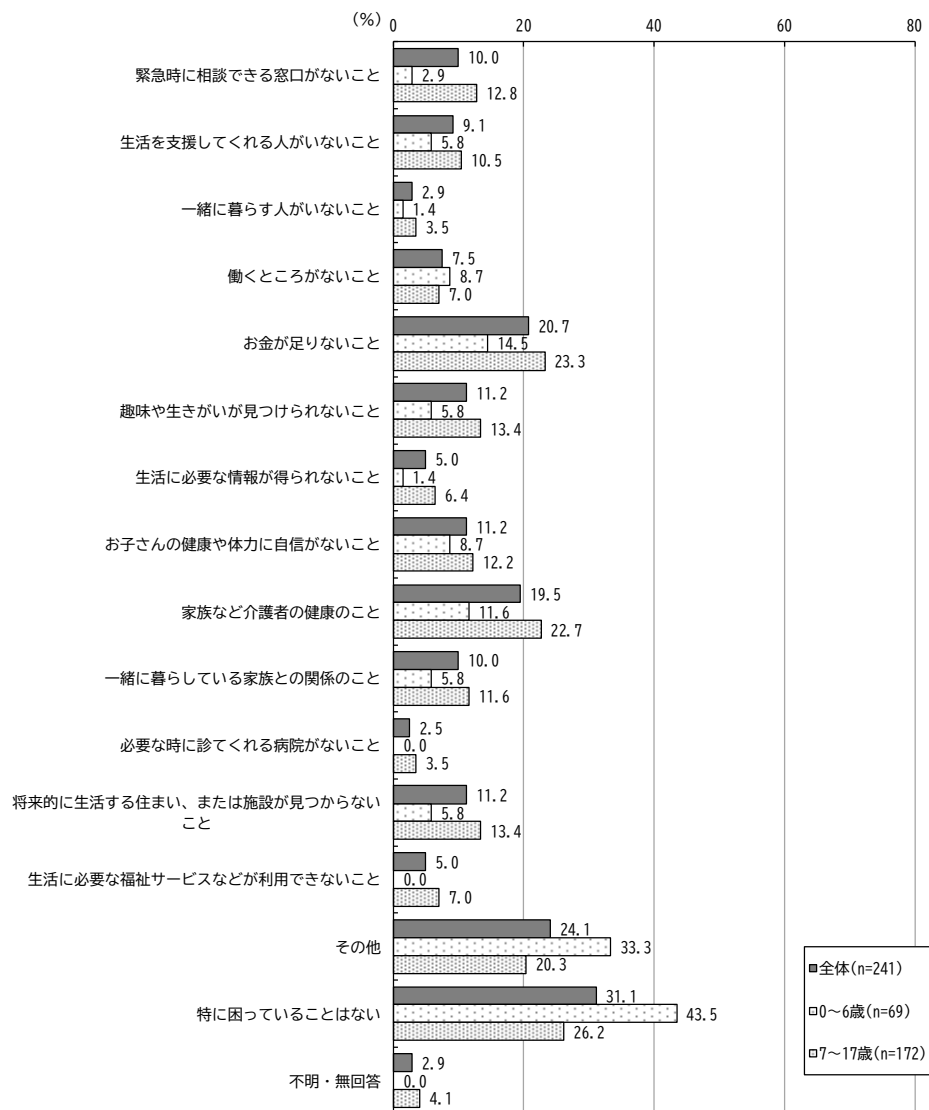
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「家族など介護者の健康のこと」「お金が足りないこと」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳では「お金が足りないこと」「家族など介護者の健康のこと」が多くなっています。



◇現在の生活で困っていること、不安な事 「その他」の回答

内 容	
① 子育て・日常生活の負担	
こどもが1人で留守番をする時間が発生すること	
こどもの気持ちを理解してあげられなかったり、どうしてあげたらいいのかわからないときがあること	
家族・親族のこどもの特性への理解不足	
親戚や家族が近くにいないこと	
こどもが親以外からのサポートを受けづらい状況	
人手が足りないこと 福祉情報を得るのが大変なこと	
② 就労や経済的な不安	
保護者の就労に関すること（子育てとの両立がしんどい、働き方に制限が生じる・働けない、今後の就労への不安など）（8人）	
③ 将来への不安	
漠然とした不安	将来の選択肢がよくわからないこと
両親が亡くなったとき（後）のこと（3人）	
④ 教育・就学に関する課題	
小学校について、日常生活スキル	不登校
学校の教員の障がいへの理解が足りないこと	
勉強が難しい、ついていけない、フォローがないこと（2人）	
学校以外で勉強を教えてくれるところがないこと	
進学に関する不安（学校生活や学習面、不登校への懸念）（2人）	
進学に関する不安（こどもにあった就学環境がない）	
⑤ サービス・支援体制の不足	
就学の際に利用する支援（放課後デイサービスなど）のこと	
就学すると個別の療育がないこと	
他市に比べて福祉サービスが著しく低いと感じる	
難聴療育をしてくれる施設が近くになく、毎月遠方にこどもを連れて行っているが、いつまで続けられるか不安	
市の経済的な支援に関すること（所得制限による手当の不支給、受給者証の負担額、医療費の負担割合など）（2人）	
障がいのある人専用の往診機関（救急）があると助かる	
⑨ その他	
まだわからない	

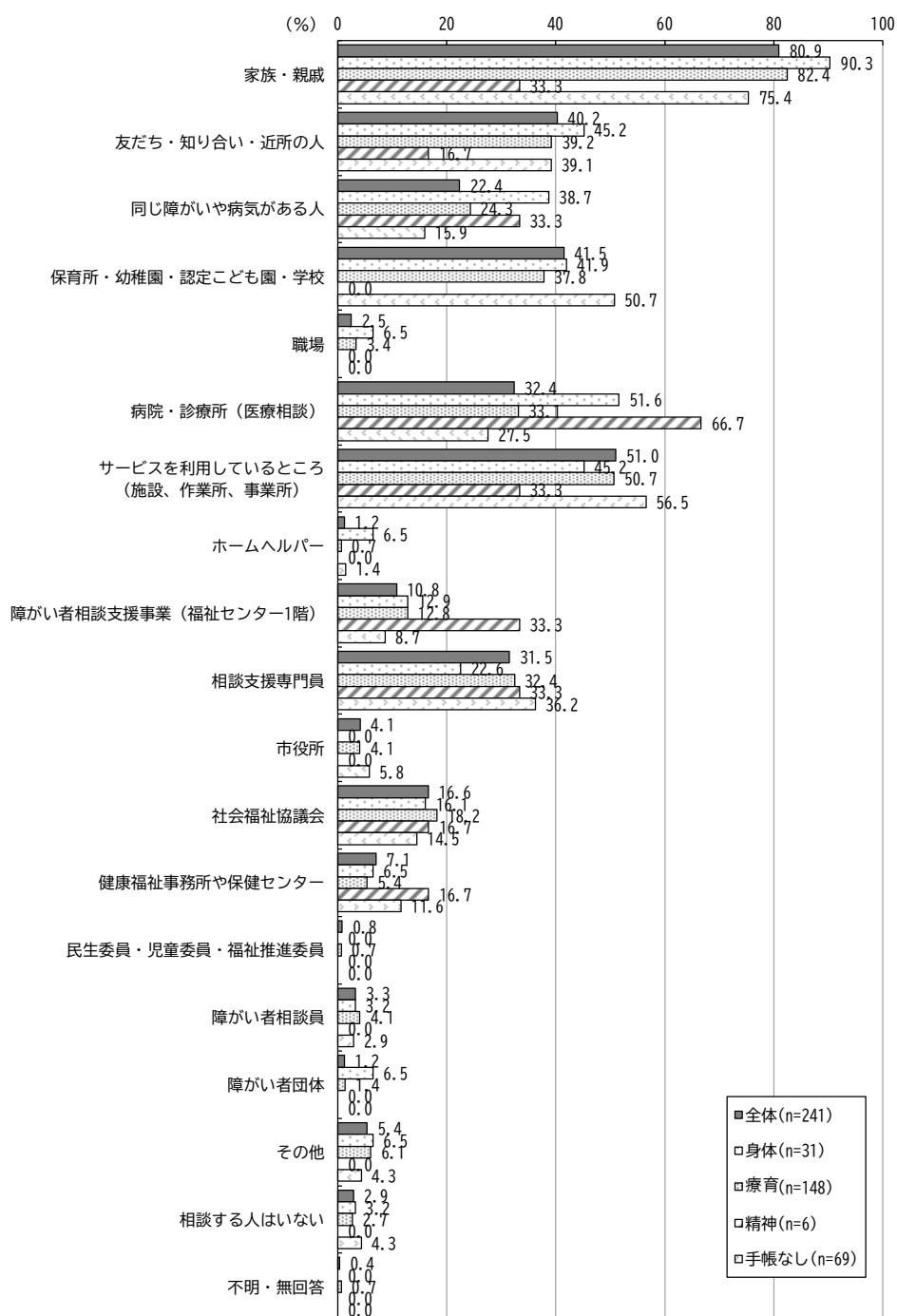
(2) 相談相手

問 26 悩みや困ったことを相談するのはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

悩みや困ったことを相談する相手については、「家族・親戚」が80.9%で最も多く、次いで「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」が51.0%、「保育所・幼稚園・認定こども園・学校」が41.5%となっています。

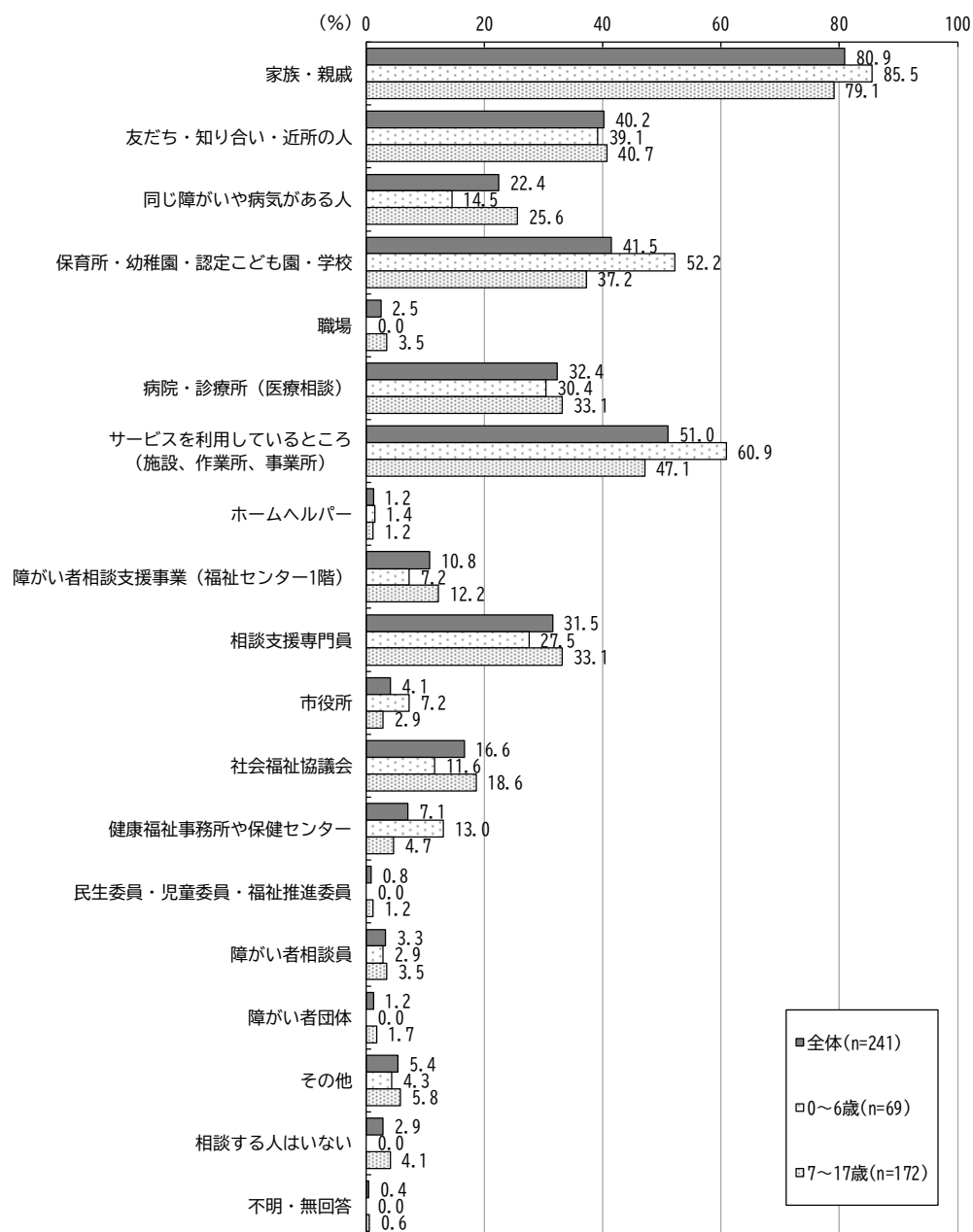
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「病院・診療所（医療相談）」、知的障がい・発達障がいのある人で「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」、手帳を持っていない人で「保育所・幼稚園・認定こども園・学校」「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「保育所・幼稚園・認定こども園・学校」が多くなっています。



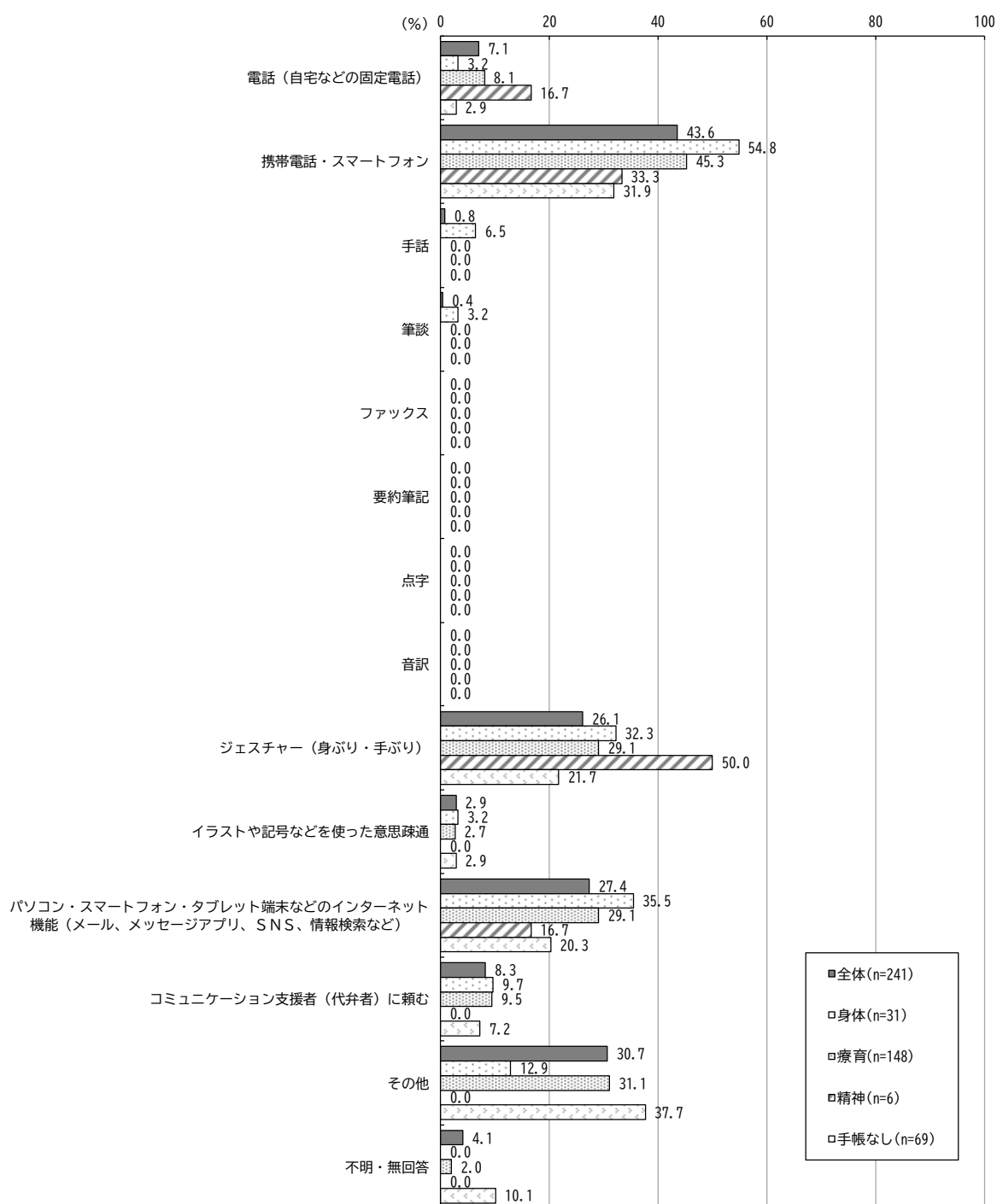
(3) 連絡や相談、情報を得るときやコミュニケーションをとるときの方法

問 27 お子さんは、連絡や相談、情報を得るときや周囲の人とコミュニケーションをとるときに、どのような方法をよく使いますか。(あてはまるものすべてに○)

連絡や相談、情報を得るときや周囲の人とコミュニケーションをとるときに使う方法については、「携帯電話・スマートフォン」が43.6%で最も多く、次いで「その他」が30.7%、「パソコン・スマートフォン・タブレット端末などのインターネット機能（メール、メッセージアプリ、SNS、情報検索など）」が27.4%となっています。

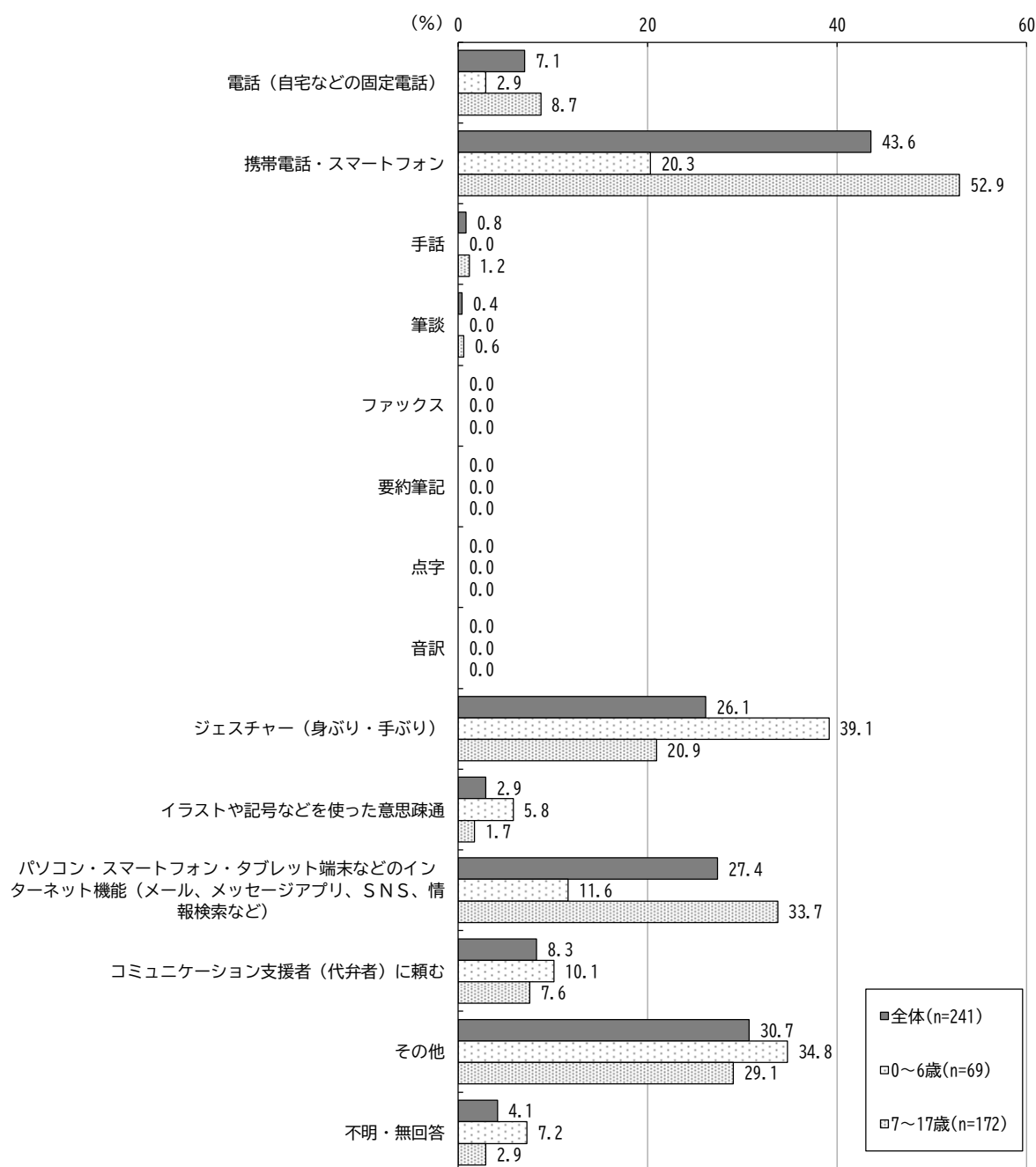
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「携帯電話・スマートフォンが多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「ジェスチャー（身ぶり・手ぶり）」が、7～17歳では「携帯電話・スマートフォン」が多くなっています。



◇連絡、相談、情報入手、コミュニケーションの手段 「その他」の回答

内 容	
① 言語表現による伝達	
会話をする、(限定的な表現であっても)しゃべる (34人)	
簡単な文章・言葉	
② 年齢による状況	
年齢が低く、質問に当てはまるコミュニケーションがない (2人)	
できない、そのようなコミュニケーション力がない (2人)	
③ 非言語のコミュニケーション	
最低限の手話のみ	
④ 家族等による支援	
両親が支援	親が電話やメールで連絡してあげる

など

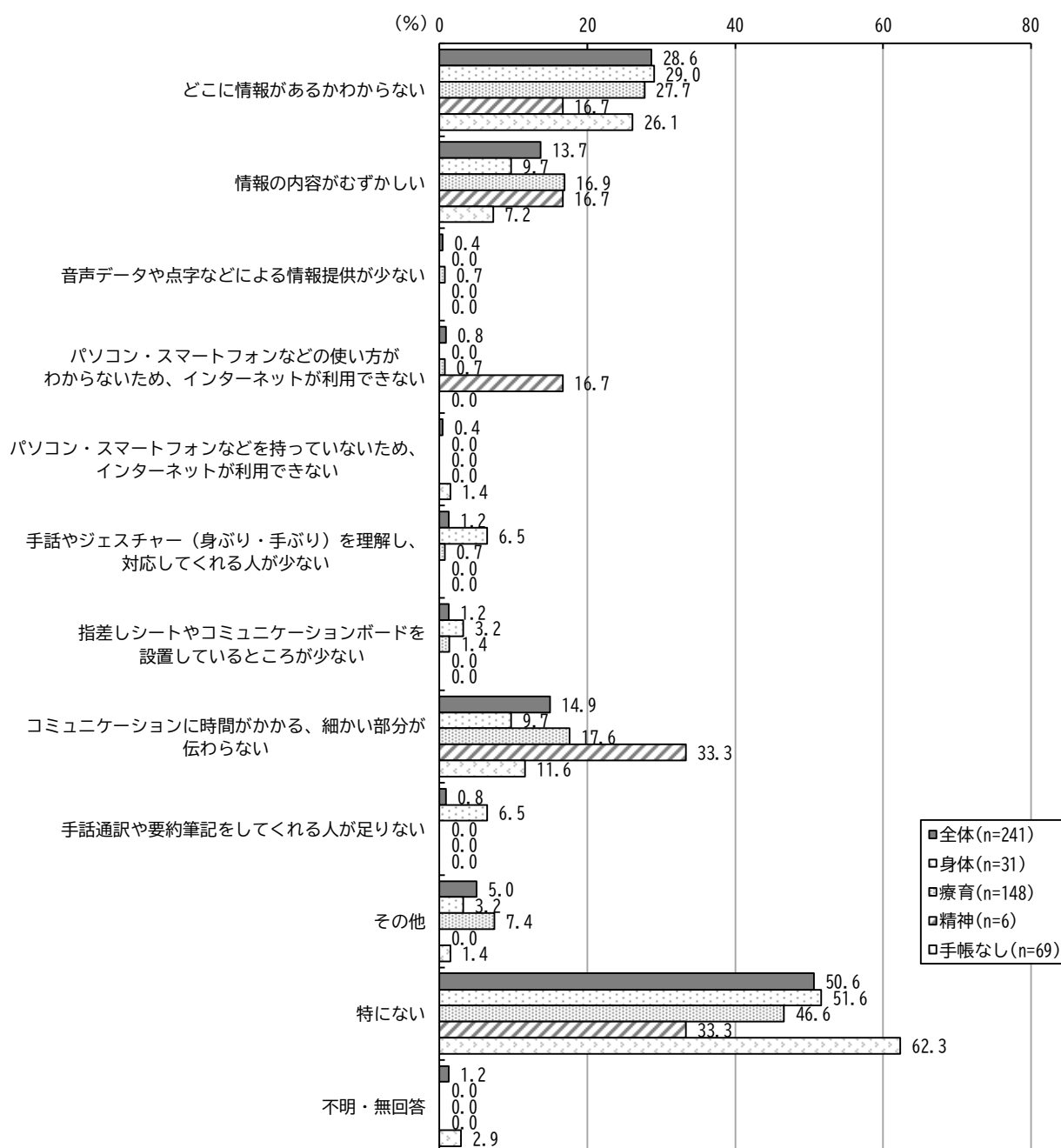
(4) 連絡や相談、情報を得るときやコミュニケーションをとるときに困っていること

問 28 お子さんのことで、連絡や相談、情報を得るときや周りの人とコミュニケーションをとるときに、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

連絡や相談、情報を得るときや周りの人とコミュニケーションをとるときに、困っていることについては、「特になし」が50.6%で最も多く、次いで「どこに情報があるかわからない」が28.6%、「コミュニケーションに時間がかかる、細かい部分が伝わらない」が14.9%となっています。

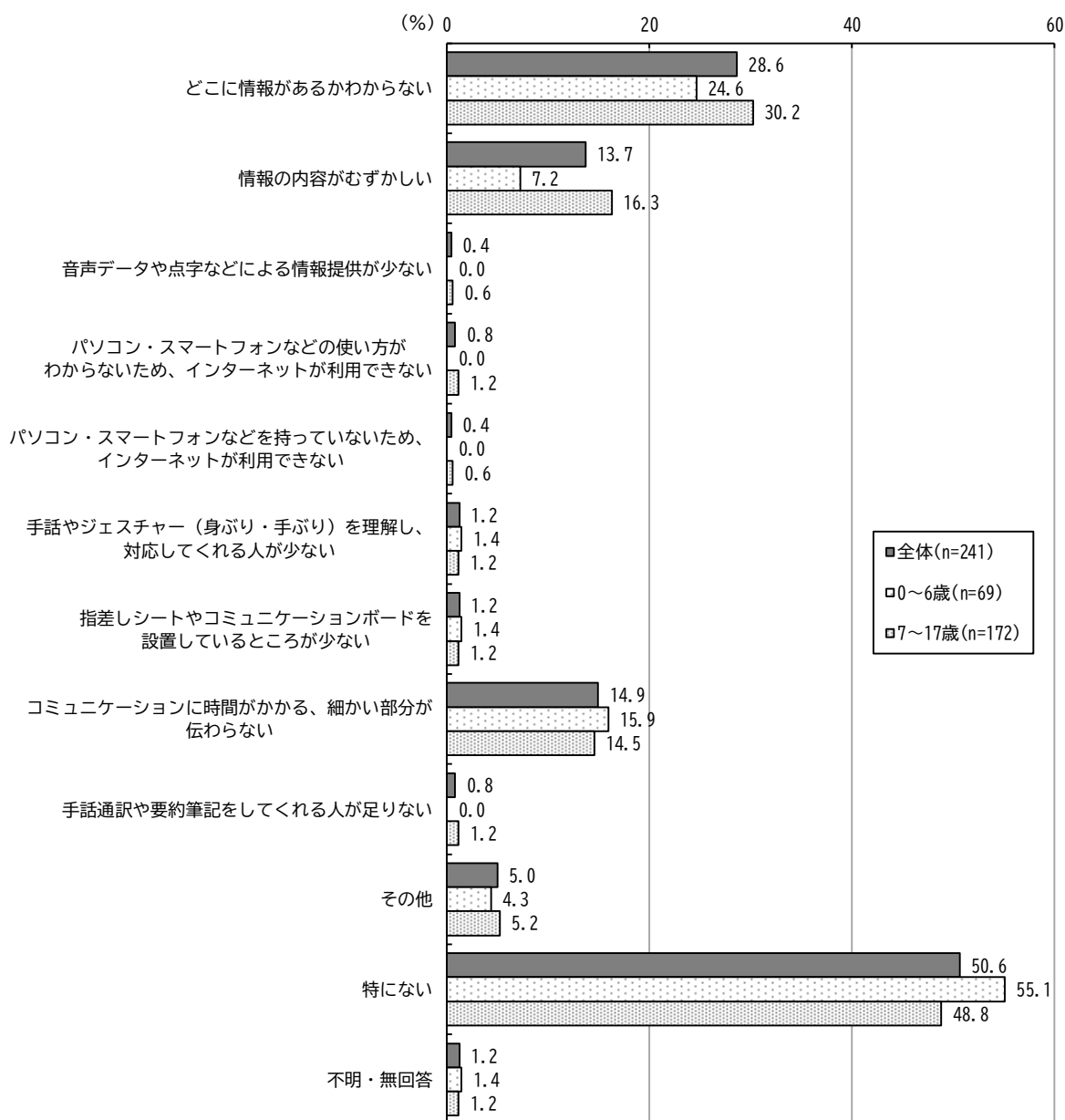
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳では「どこに情報があるかわからない」「情報の内容がむずかしい」が多くなっています。



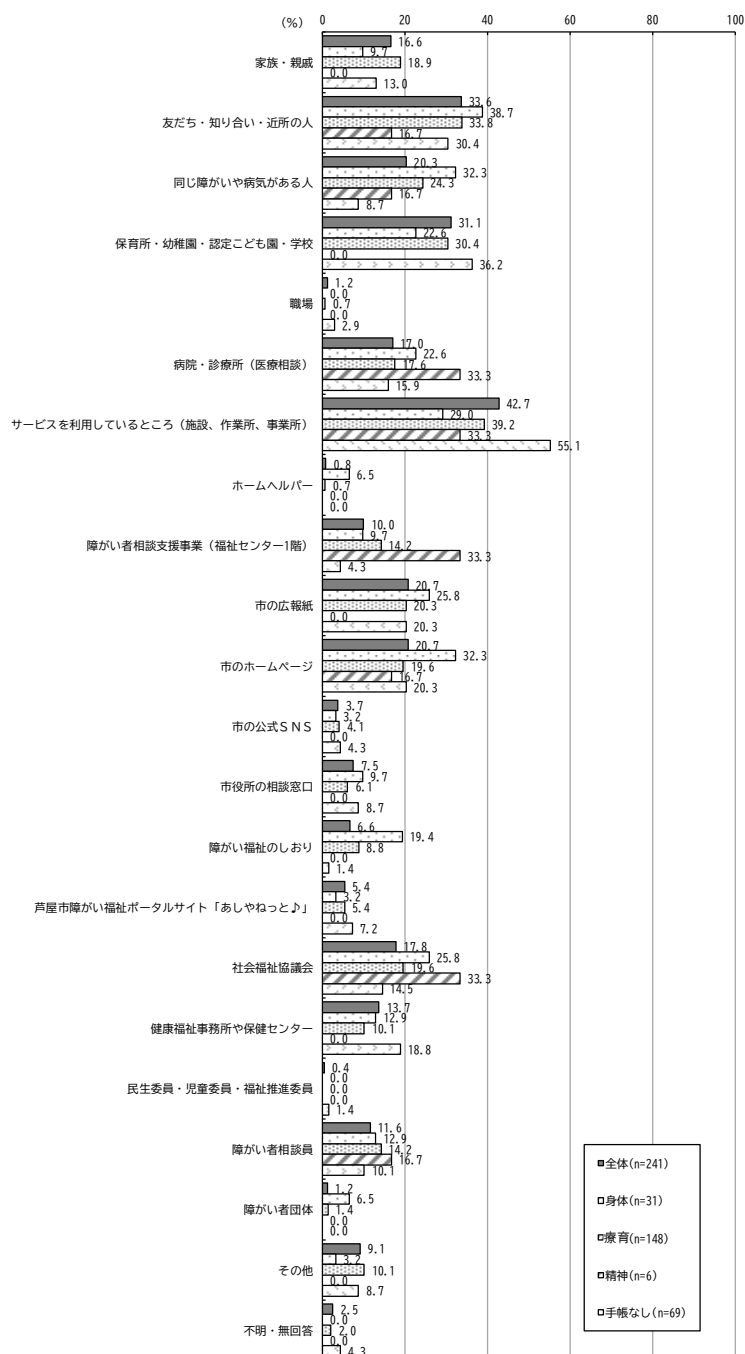
(5) 地域での生活や福祉サービスなどに関する情報を得る方法

問 29 地域での生活や福祉サービスなどに関する情報を、どこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

地域での生活や福祉サービスなどに関する情報を、どこから得ているのかについては、「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」が42.7%で最も多く、次いで「友だち・知り合い・近所の人」が33.6%、「保育所・幼稚園・認定こども園・学校」が31.1%となっています。

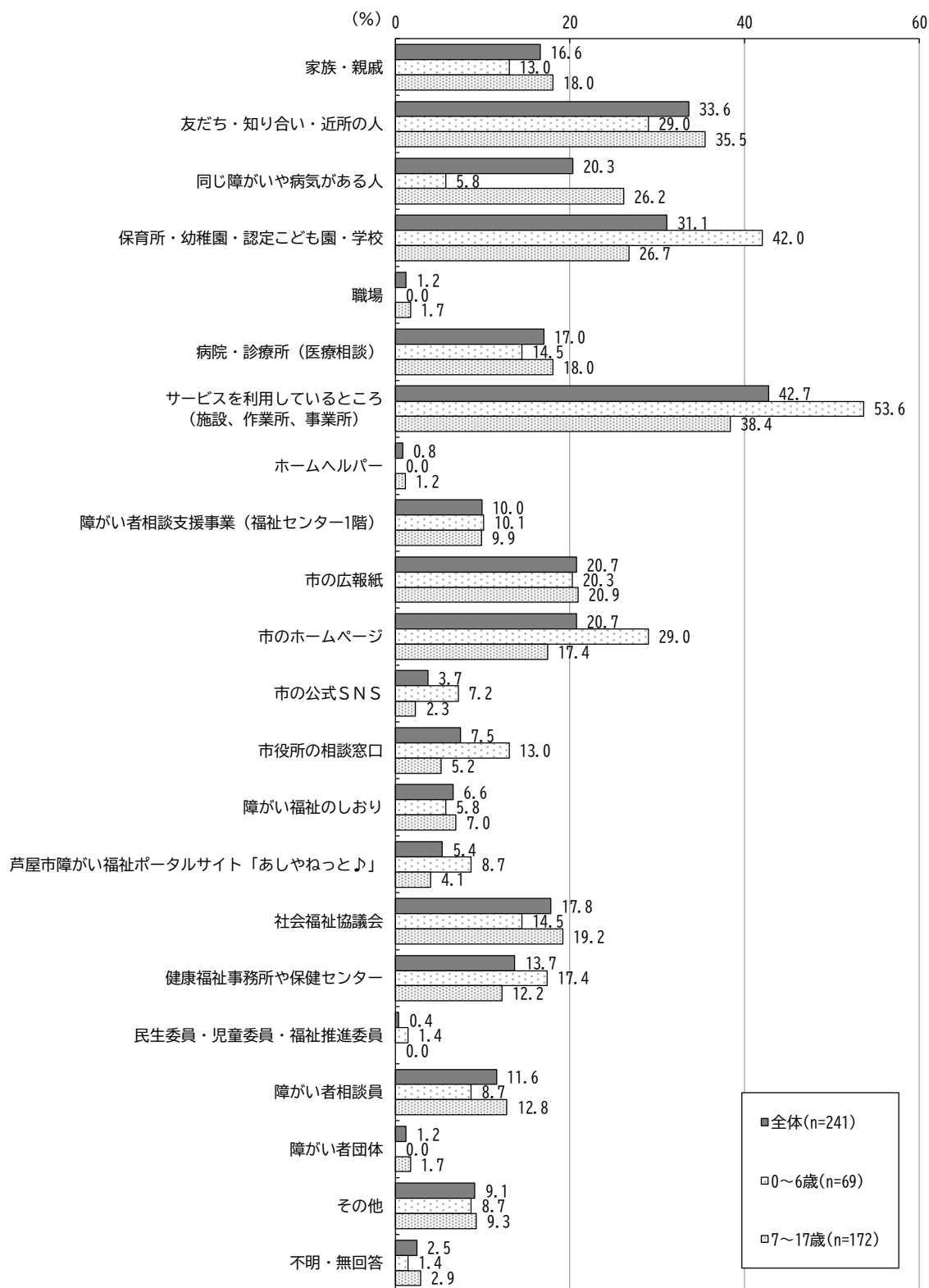
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「友だち・知り合い・近所の人」「同じ障がいや病気がある人」「市のホームページ」、知的障がい・発達障がいのある人で「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「友だち・知り合い・近所の人」、手帳を持っていない人で「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「保育所・幼稚園・認定こども園・学校」が多くなっています。



6. 障がい福祉サービス等の利用について

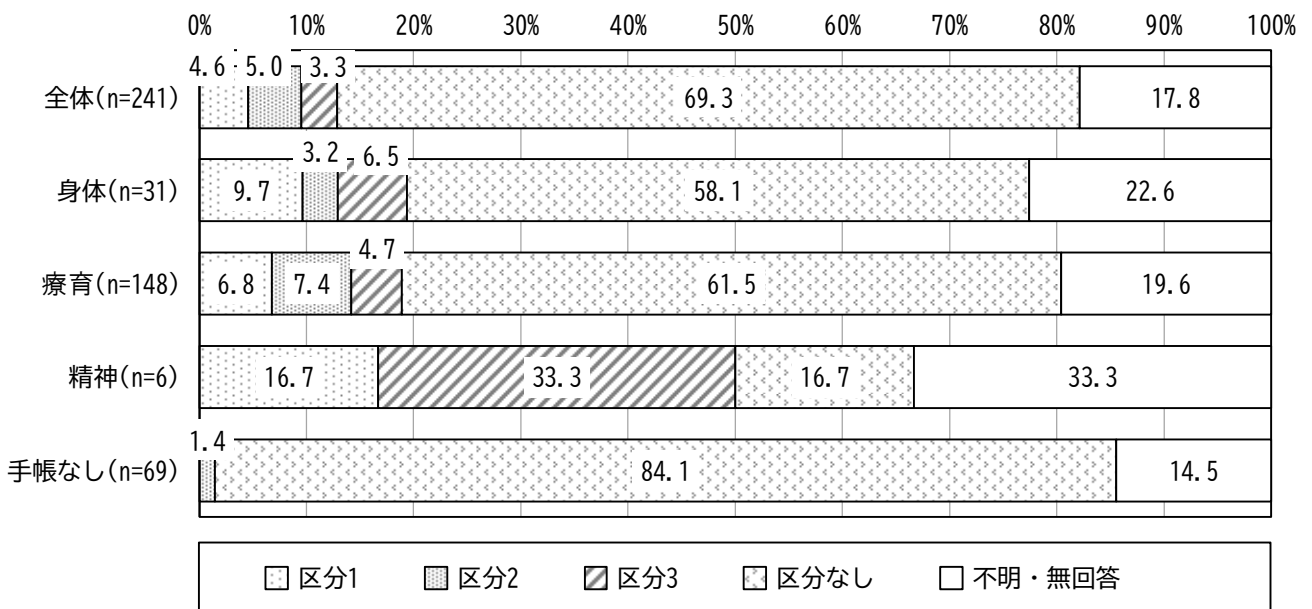
(1) 障がい福祉サービスの支援区分

問 30 お子さんは、障がい福祉サービスを利用するための障がい支援区分の認定を受けていますか。
(○は1つだけ)

障がい福祉サービスを利用するための障がい支援区分の認定を受けているかについては、「区分なし」が69.3%で最も多く、次いで「区分2」が5.0%、「区分1」が4.6%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「区分1」が多くなっています。



(2) 障がい福祉サービスの利用有無と今後利用したいサービス

問 31 お子さんは次にあげる障がい福祉サービス等を利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。(①から③のそれぞれについて、「現在の利用」、「今後3年以内の利用希望」について回答してください。)

■現在の利用

現在の利用については、「児童発達支援」(28.2%)「放課後等デイサービス」(50.2%)が最も多く、次いで「計画相談支援・障害児相談支援」が38.6%、「保育所等訪問支援」が23.2%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「計画相談支援・障害児相談支援」「放課後等デイサービス」、知的障がい・発達障がいのある人で「放課後等デイサービス」「計画相談支援・障害児相談支援」、手帳を持っていない人で「児童発達支援」「放課後等デイサービス」が多くなっています。

(利用している割合)	全体	身体	療育	精神	手帳なし
n=	241	31	148	6	69
居宅介護（ホームヘルプ）	0.8	6.5	0.7	0.0	0.0
同行援護	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行動援護	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度障害者等包括支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短期入所（ショートステイ）	3.3	6.5	4.7	16.7	1.4
児童発達支援	28.2	12.9	20.9	33.3	47.8
放課後等デイサービス	50.2	32.3	60.8	50.0	34.8
保育所等訪問支援	23.2	16.1	26.4	33.3	18.8
居宅訪問型児童発達支援	1.2	3.2	1.4	0.0	0.0
計画相談支援・障害児相談支援	38.6	35.5	45.9	50.0	30.4
意思疎通支援事業	0.8	0.0	0.7	0.0	1.4
地域活動支援センター	0.8	3.2	0.7	16.7	1.4
移動支援事業	2.9	9.7	4.7	16.7	0.0
日中一時支援事業	4.6	6.5	7.4	0.0	0.0

障がい種別に上位3項目を色づけ

■今後3年以内の利用希望

今後3年以内の利用希望については、以下のようになっています。

n=241

【全体】	今よりも 利用を増 やしたい (利用を はじめた い)	今と同じ くらい利 用したい	今よりも 利用を減 らしたい	利用した くない	わから ない	不明・無 回答
居宅介護（ホームヘルプ）	2.9	0.4	0.0	40.2	24.1	32.4
同行援護	4.1	0.8	0.0	37.3	24.1	33.6
行動援護	6.2	0.8	0.0	34.4	22.8	35.7
重度障害者等包括支援	2.1	0.0	0.0	39.8	22.4	35.7
短期入所（ショートステイ）	9.1	1.7	0.0	35.3	21.6	32.4
児童発達支援	7.9	12.4	1.7	29.5	18.7	29.9
放課後等デイサービス	27.8	36.5	1.7	9.1	10.4	14.5
保育所等訪問支援	15.4	14.5	1.7	23.2	17.0	28.2
居宅訪問型児童発達支援	3.7	0.8	0.0	34.4	27.0	34.0
計画相談支援・障害児相談支援	10.4	29.9	0.8	14.9	15.4	28.6
意思疎通支援事業	3.7	0.4	0.4	29.9	32.4	33.2
地域活動支援センター	3.3	1.7	0.0	28.2	33.2	33.6
移動支援事業	10.0	1.2	0.0	28.2	27.0	33.6
日中一時支援事業	8.7	4.1	0.0	26.6	29.5	31.1

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

【障がい種別】

障がい種別にみると、「今よりも利用を増やしたい（利用をはじめたい）」のは、身体障がいのある人、知的障がい・発達障がいのある人、手帳を持っていない人で「放課後等デイサービス」が多くなっています。

n=31

【身体】	今よりも 利用を増 やしたい (利用を はじめた い)	今と同じ くらい利 用したい	今よりも 利用を減 らしたい	利用した くない	わから ない	不明・無 回答
居宅介護（ホームヘルプ）	9.7	3.2	0.0	35.5	25.8	25.8
同行援護	9.7	3.2	0.0	22.6	35.5	29.0
行動援護	19.4	3.2	0.0	25.8	22.6	29.0
重度障害者等包括支援	9.7	0.0	0.0	35.5	19.4	35.5
短期入所（ショートステイ）	16.1	0.0	0.0	35.5	22.6	25.8
児童発達支援	9.7	3.2	6.5	22.6	25.8	32.3
放課後等デイサービス	32.3	12.9	6.5	9.7	19.4	19.4
保育所等訪問支援	25.8	3.2	3.2	16.1	22.6	29.0
居宅訪問型児童発達支援	12.9	3.2	0.0	25.8	25.8	32.3
計画相談支援・障害児相談支援	22.6	12.9	0.0	16.1	16.1	32.3
意思疎通支援事業	6.5	0.0	0.0	32.3	29.0	32.3
地域活動支援センター	6.5	0.0	0.0	19.4	41.9	32.3
移動支援事業	19.4	0.0	0.0	19.4	29.0	32.3
日中一時支援事業	16.1	3.2	0.0	12.9	38.7	29.0

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

n=148

【療育】	今よりも 利用を増 やしたい (利用を はじめた い)	今と同じ くらい利 用したい	今よりも 利用を減 らしたい	利用した くない	わからな い	不明・無 回答
居宅介護（ホームヘルプ）	4.7	0.0	0.0	37.8	27.0	30.4
同行援護	6.1	0.7	0.0	35.8	26.4	31.1
行動援護	7.4	0.7	0.0	33.8	24.3	33.8
重度障害者等包括支援	2.7	0.0	0.0	36.5	27.0	33.8
短期入所（ショートステイ）	14.9	2.0	0.0	31.8	23.0	28.4
児童発達支援	6.8	11.5	0.7	29.1	20.9	31.1
放課後等デイサービス	27.7	41.2	0.0	10.1	8.8	12.2
保育所等訪問支援	12.8	14.9	0.7	23.0	19.6	29.1
居宅訪問型児童発達支援	4.1	0.7	0.0	33.8	30.4	31.1
計画相談支援・障害児相談支援	10.1	35.8	1.4	11.5	15.5	25.7
意思疎通支援事業	4.1	0.7	0.0	26.4	37.2	31.8
地域活動支援センター	4.7	2.0	0.0	26.4	35.8	31.1
移動支援事業	13.5	2.0	0.0	25.0	27.7	31.8
日中一時支援事業	11.5	6.8	0.0	23.0	30.4	28.4

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

n=6

【精神】	今よりも 利用を増 やしたい (利用を はじめた い)	今と同じ くらい利 用したい	今よりも 利用を減 らしたい	利用した くない	わからな い	不明・無 回答
居宅介護（ホームヘルプ）	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0
同行援護	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0
行動援護	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0
重度障害者等包括支援	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0
短期入所（ショートステイ）	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3
児童発達支援	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0
放課後等デイサービス	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7
保育所等訪問支援	12.8	14.9	0.7	23.0	19.6	29.1
居宅訪問型児童発達支援	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0
計画相談支援・障害児相談支援	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0
意思疎通支援事業	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0
地域活動支援センター	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	50.0
移動支援事業	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0
日中一時支援事業	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

n=69

【手帳なし】	今よりも 利用を増 やしたい (利用を はじめた い)	今と同じ くらい利 用したい	今よりも 利用を減 らしたい	利用した くない	わからな い	不明・無 回答
居宅介護（ホームヘルプ）	0.0	0.0	0.0	46.4	20.3	33.3
同行援護	0.0	0.0	0.0	44.9	18.8	36.2
行動援護	1.4	0.0	0.0	39.1	21.7	37.7
重度障害者等包括支援	0.0	0.0	0.0	47.8	15.9	36.2
短期入所（ショートステイ）	0.0	1.4	0.0	42.0	18.8	37.7
児童発達支援	8.7	17.4	2.9	33.3	14.5	23.2
放課後等デイサービス	29.0	33.3	1.4	7.2	10.1	18.8
保育所等訪問支援	20.3	15.9	2.9	24.6	11.6	24.6
居宅訪問型児童発達支援	0.0	0.0	0.0	39.1	23.2	37.7
計画相談支援・障害児相談支援	7.2	26.1	0.0	23.2	13.0	30.4
意思疎通支援事業	1.4	0.0	1.4	36.2	27.5	33.3
地域活動支援センター	0.0	1.4	0.0	34.8	27.5	36.2
移動支援事業	1.4	0.0	0.0	37.7	26.1	34.8
日中一時支援事業	1.4	0.0	0.0	39.1	26.1	33.3

項目別に上位3項目を色づけ(不明・無回答除く)

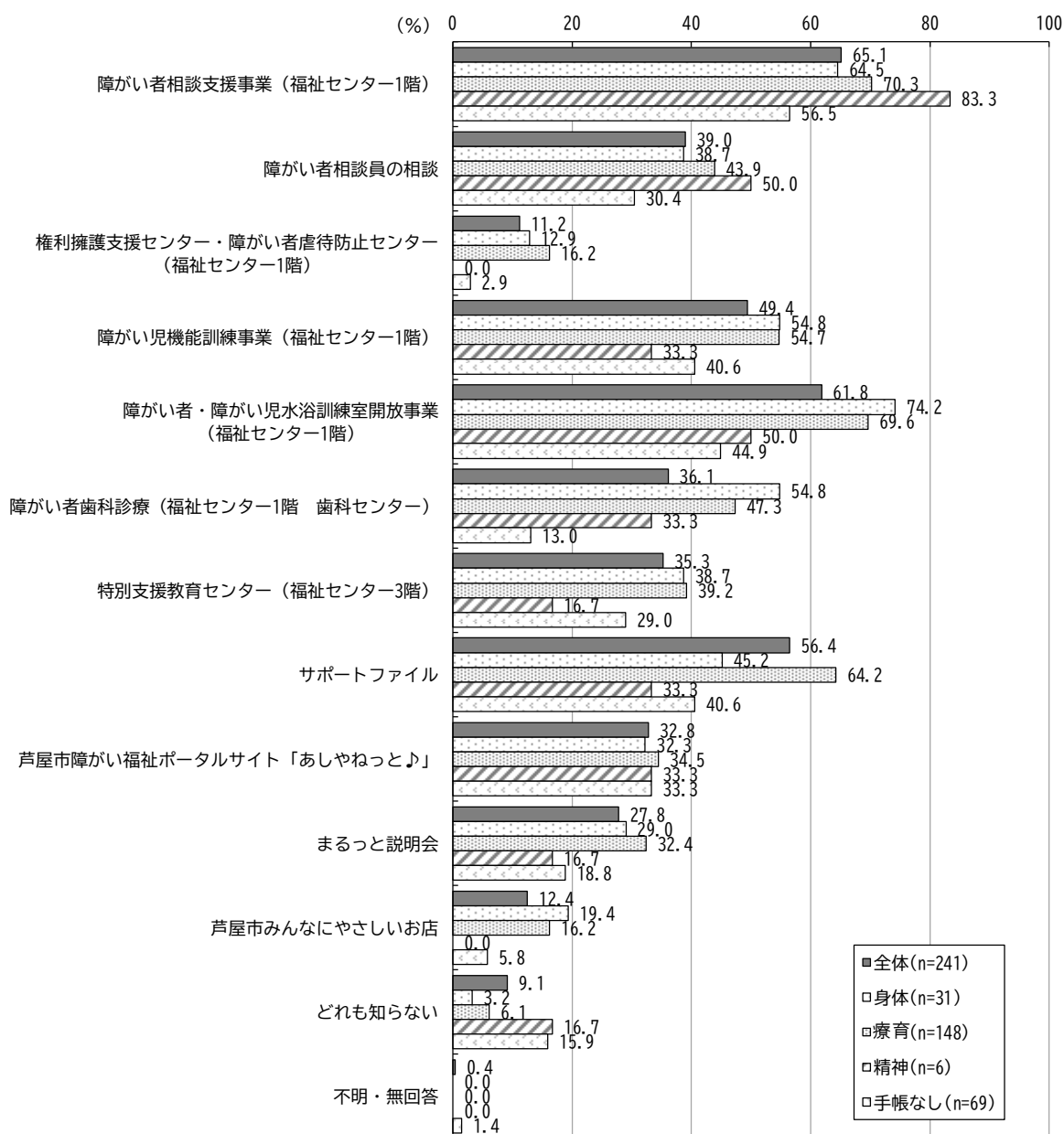
(3) 市の窓口・機関・事業等の認知

問 32 芦屋市にある以下の窓口や機関、事業などについて知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

芦屋市にある以下の窓口や機関、事業などの認知について、「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」が 65.1%で最も多く、次いで「障がい者・障がい児水浴訓練室開放事業（福祉センター1階）」が 61.8%、「サポートファイル」が 56.4%となっています。

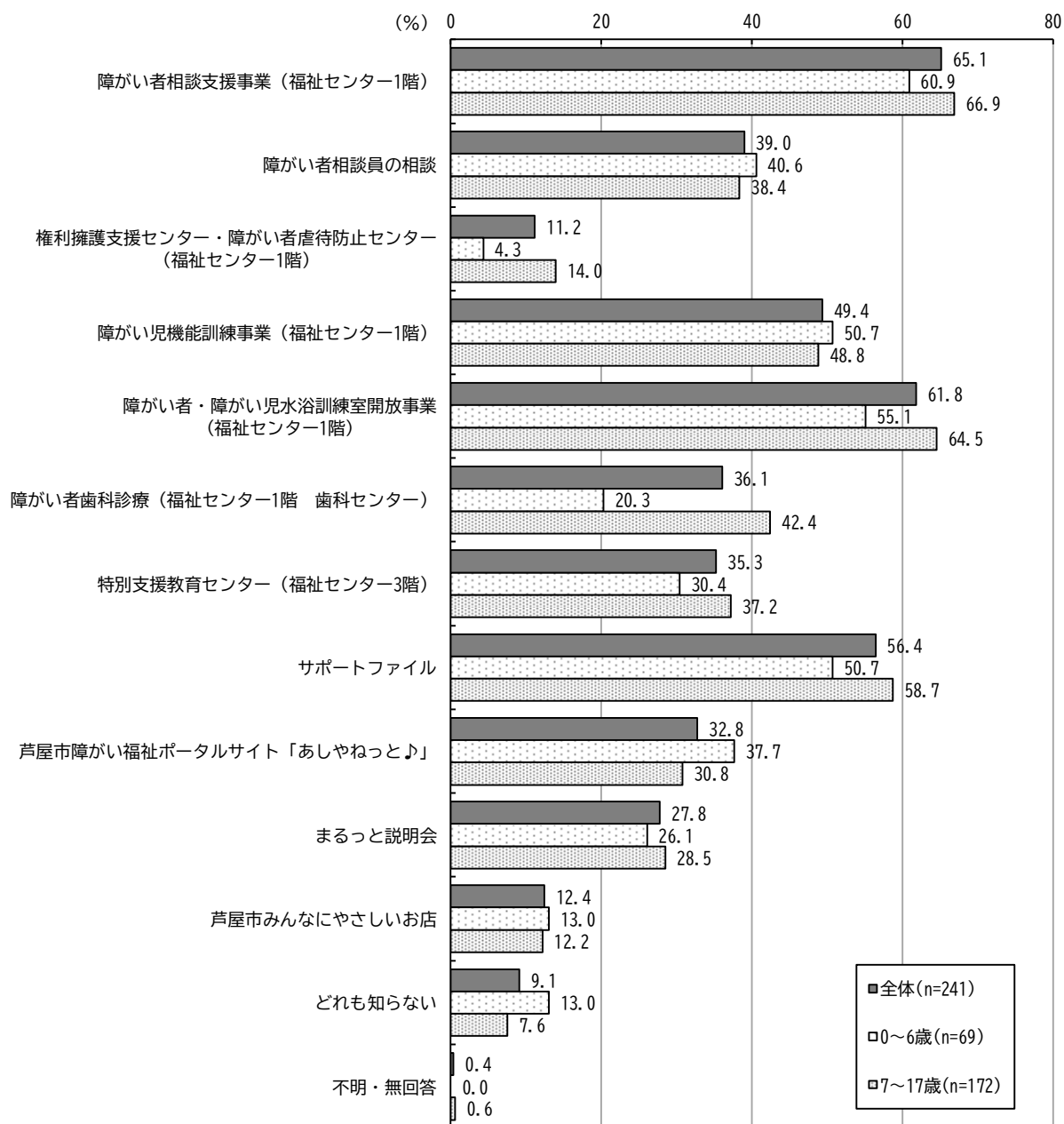
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「障がい者・障がい児水浴訓練室開放事業（福祉センター1階）」、知的障がい・発達障がいのある人で「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」「障がい者・障がい児水浴訓練室開放事業（福祉センター1階）」「サポートファイル」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳では「障がい者相談支援事業（福祉センター1階）」「障がい者・障がい児水浴訓練室開放事業（福祉センター1階）」「サポートファイル」がやや多くなっています。また、0～6歳では「権利擁護支援センター・障がい者虐待防止センター（福祉センター1階）」「障がい者歯科診療（福祉センター1階 歯科センター）」が低くなっています。



7. 災害時や緊急時の対応について

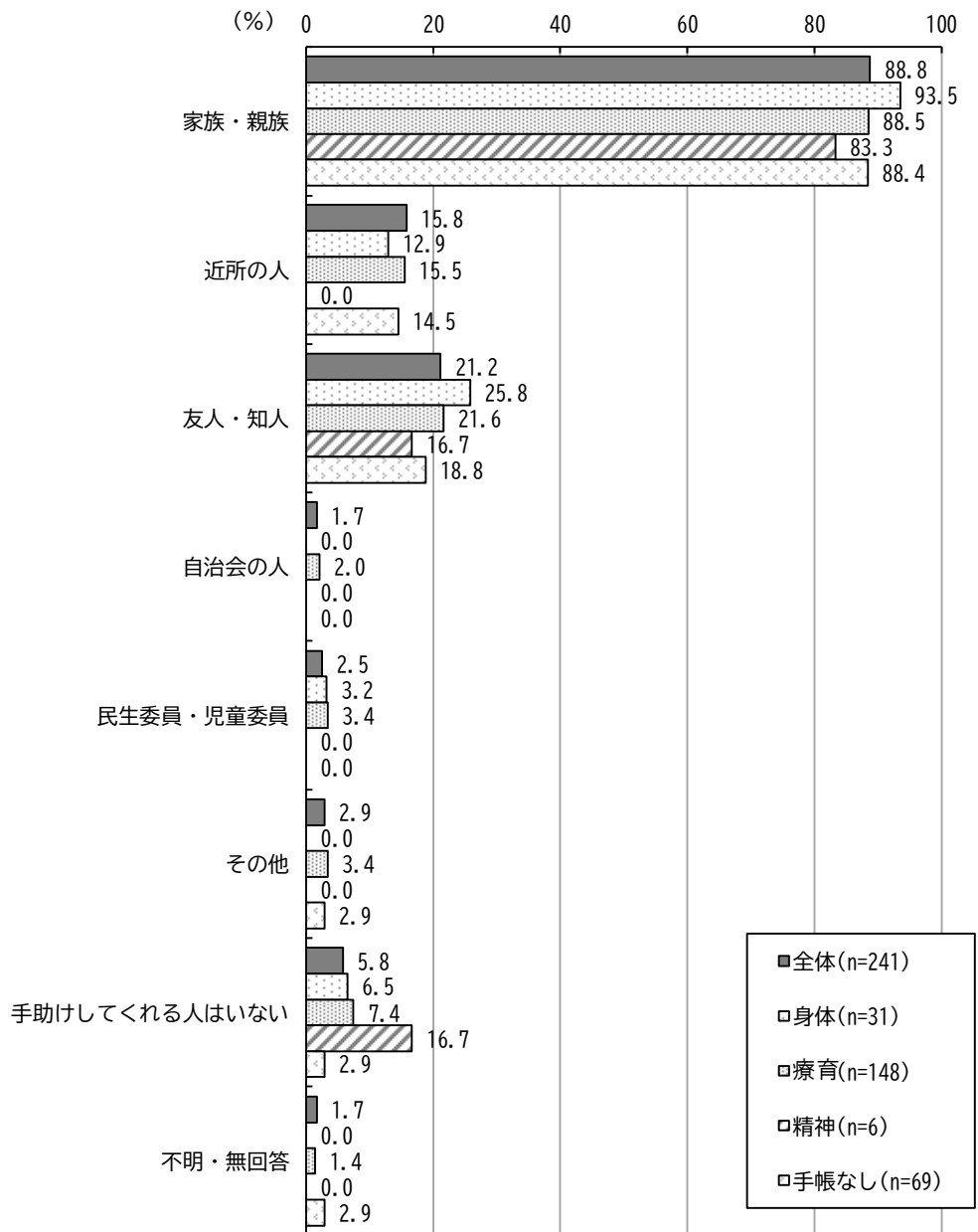
(1) 避難の際に手助けしてくれる人

問 33 災害時や緊急時に避難する際、お子さんを手助けしてくれる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

災害時や緊急時に避難する際、手助けしてくれる人がいるかについては、「家族・親族」が88.8%で最も多く、次いで「友人・知人」が21.2%、「近所の人」が15.8%となっています。

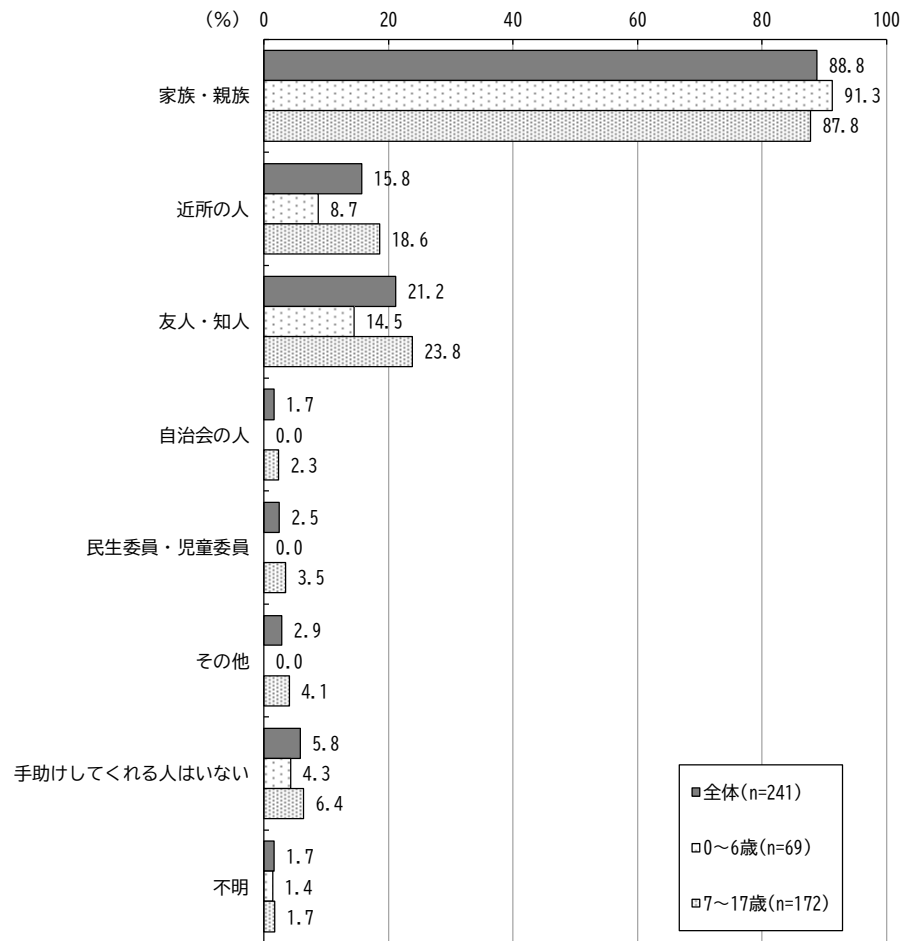
【障がい種別】

障がい種別にみると、以下のようになっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳では「友人・知人」「近所の人」が多くなっています。



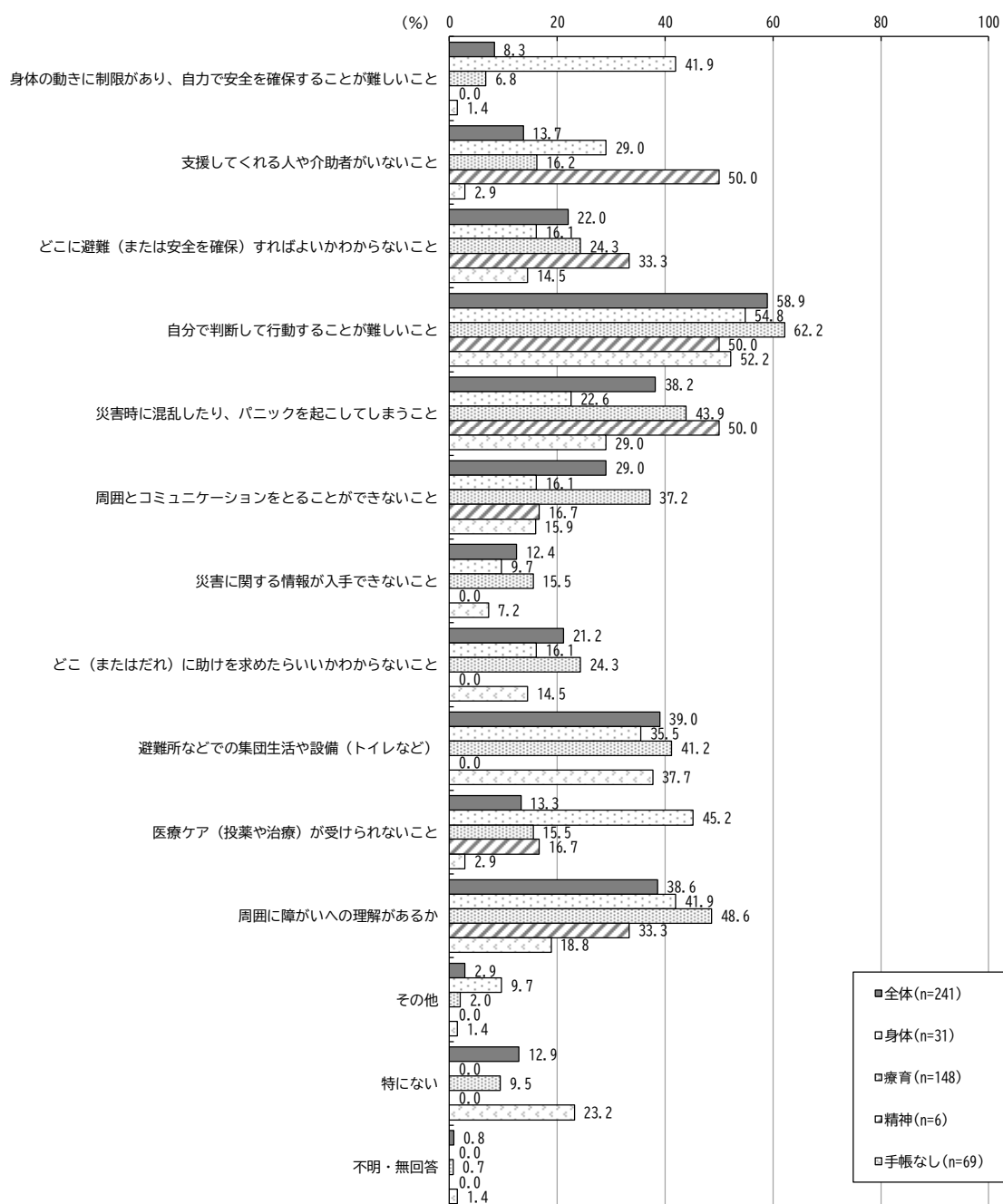
(2) 災害時に不安なこと

問 34 大きな地震や風水害が起こった場合、どのようなことを不安に感じますか。(あてはまるものすべてに○)

大きな地震や風水害が起こった場合、不安に感じることについては、「自分で判断して行動することが難しいこと」が58.9%で最も多く、次いで「避難所などでの集団生活や設備（トイレなど）」が39.0%、「周囲に障がいへの理解があるか」が38.6%となっています。

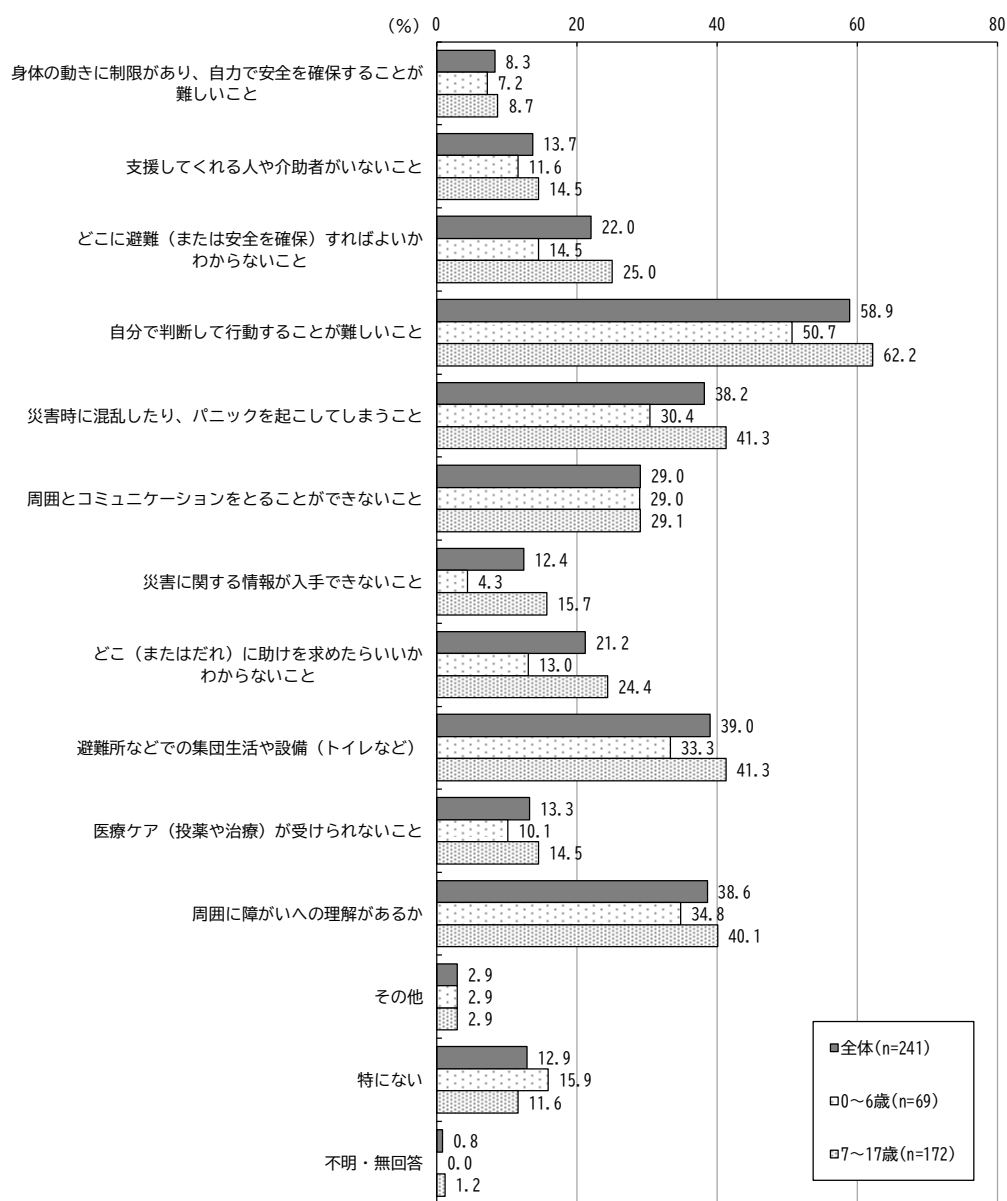
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「身体の動きに制限があり、自力で安全を確保することが難しいこと」「医療ケア（投薬や治療）が受けられないこと」、知的障がい・発達障がいのある人で「自分で判断して行動することが難しいこと」「周囲とコミュニケーションをとることができないこと」「周囲に障がいへの理解があるか」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳では「自分で判断して行動することが難しいこと」「災害時に混乱したり、パニックを起こしてしまうこと」が多くなっています。



8. 障がいのある人に対する差別や虐待などについて

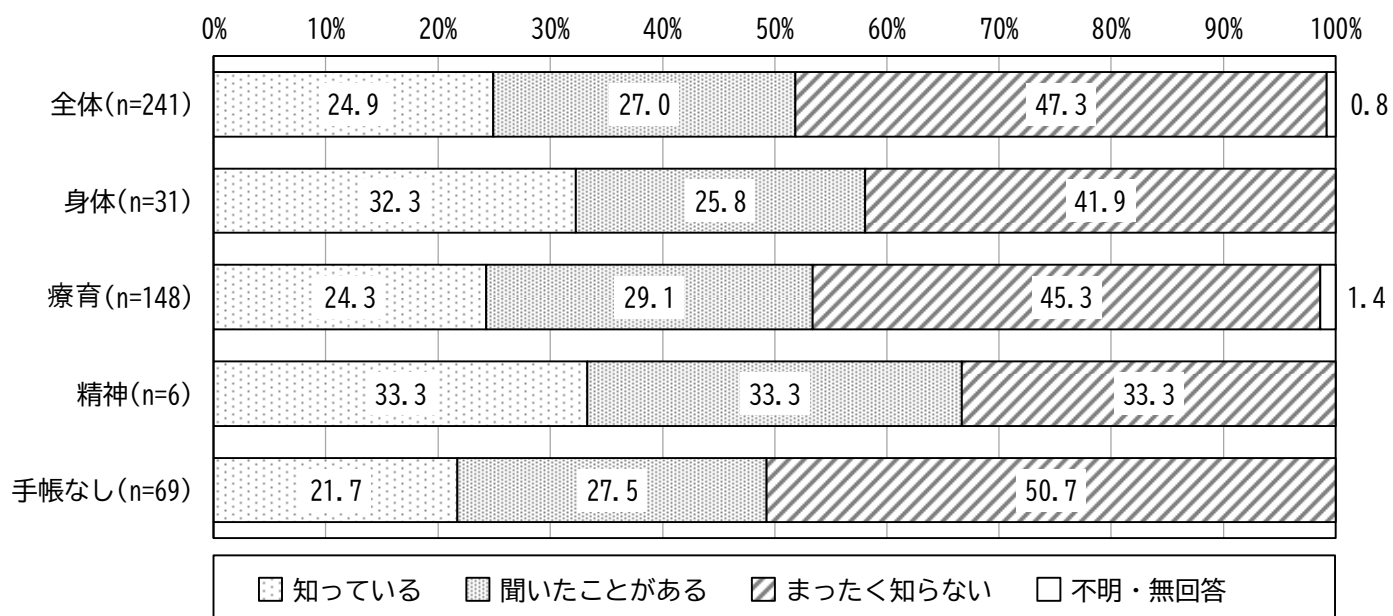
(1) 「障がい者差別解消法」の認知

問 35 「障害者差別解消法」を知っていますか。(○は1つだけ)

「障害者差別解消法」については、「知っている」が24.9%、「聞いたことがある」が27.0%、「まったく知らない」が47.3%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「まったく知らない」が45.3%、手帳を持っていない人で50.7%となっています。



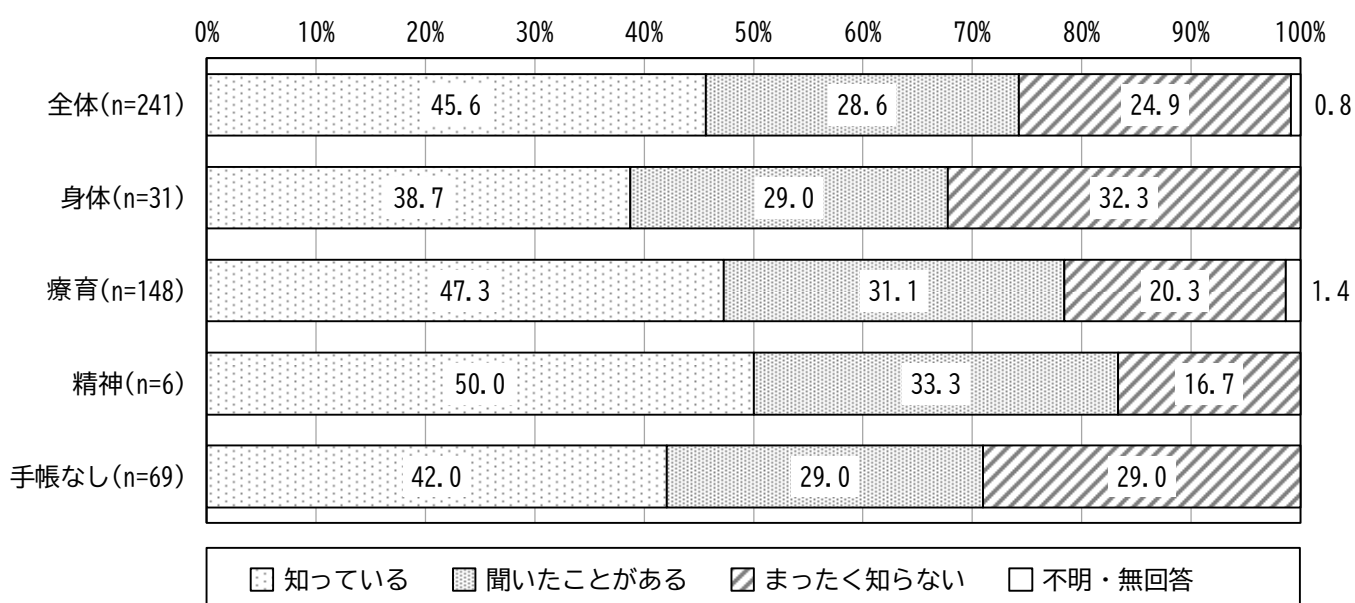
(2) 「合理的配慮」の認知

問 36 「合理的配慮」を知っていますか。(○は1つだけ)

「合理的配慮」については、「知っている」が45.6%、「聞いたことがある」が28.6%、「まったく知らない」が24.9%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、「知っている」「聞いたことがある」を合わせると、身体障がいのある人で67.7%、知的障がい・発達障がいのある人で78.4%、手帳を持っていない人で71.0%と、知的障がい・発達障がいのある人で多くなっています。



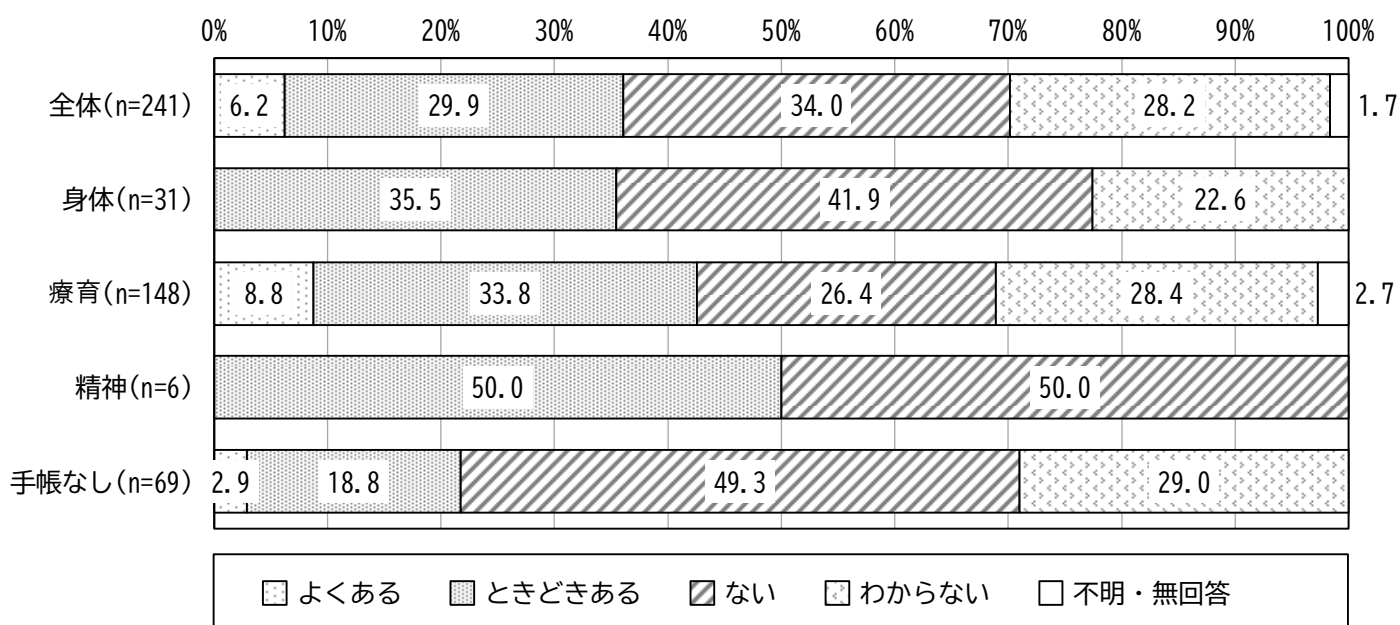
(3) 障がいがあることで差別・偏見を受けた経験

問 37 これまで、障がいがあることで差別や偏見などを受けたことがありますか。(○は1つだけ)

これまで、障がいがあることで差別や偏見などを受けたことがあるかについては、「ない」が34.0%で最も多く、次いで「ときどきある」が29.9%、「わからない」が28.2%となっています。

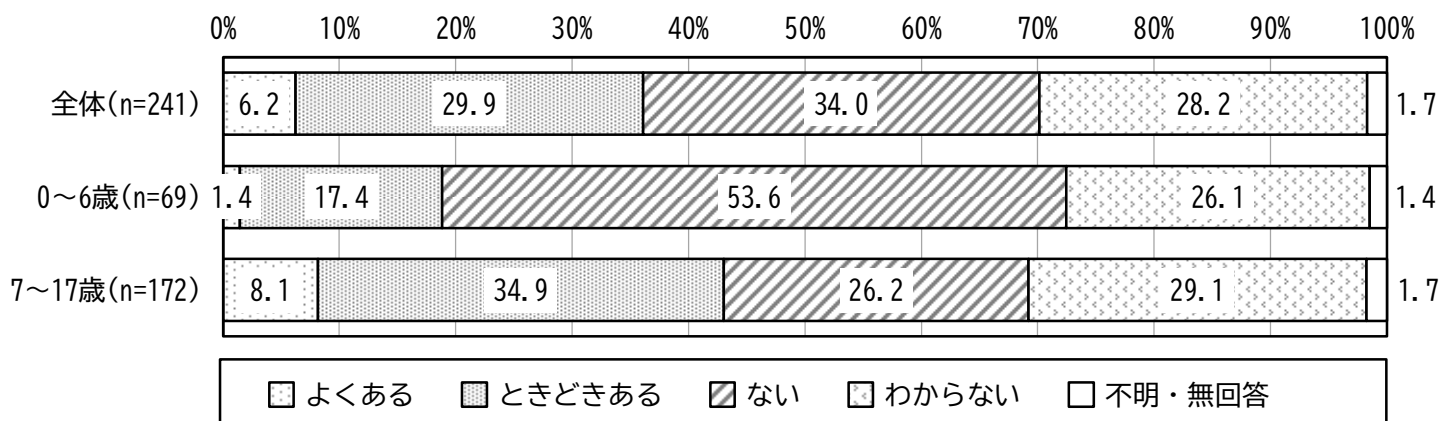
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「よくある」が8.8%と多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳で「よくある」「ときどきある」を合わせて18.8%、7～17歳で43.0%と、7～17歳で多くなっています。



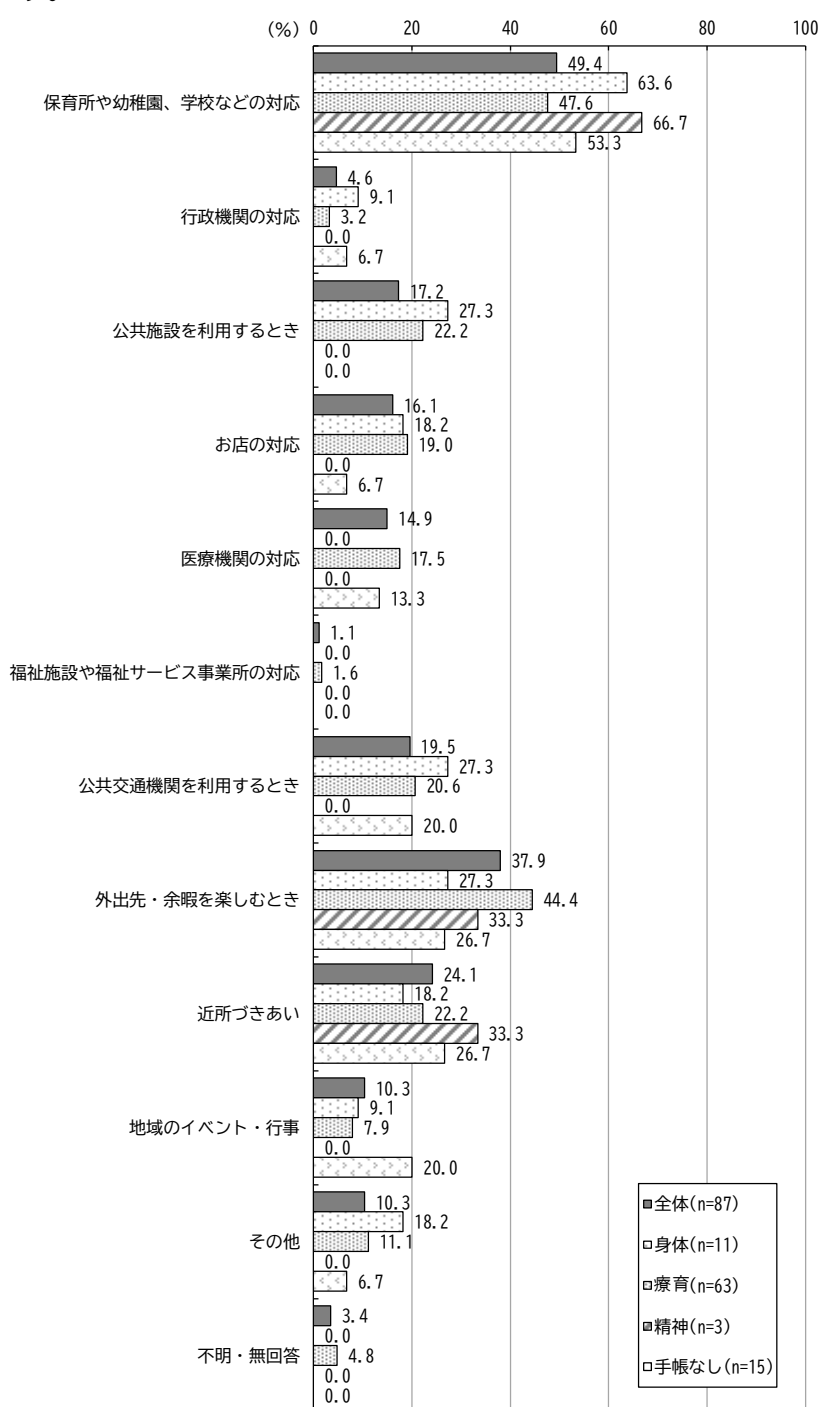
(4) 差別を受けた場所や場面

問 38 問 37 で 1、2 のいずれかを選んだ方にお聞きします。どのような場所や場面で差別などを受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

どのような場所や場面で差別などを受けたかについては、「保育所や幼稚園、学校などの対応」が 49.4%で最も多く、次いで「外出先・余暇を楽しむとき」が 37.9%、「近所づきあい」が 24.1%となっています。

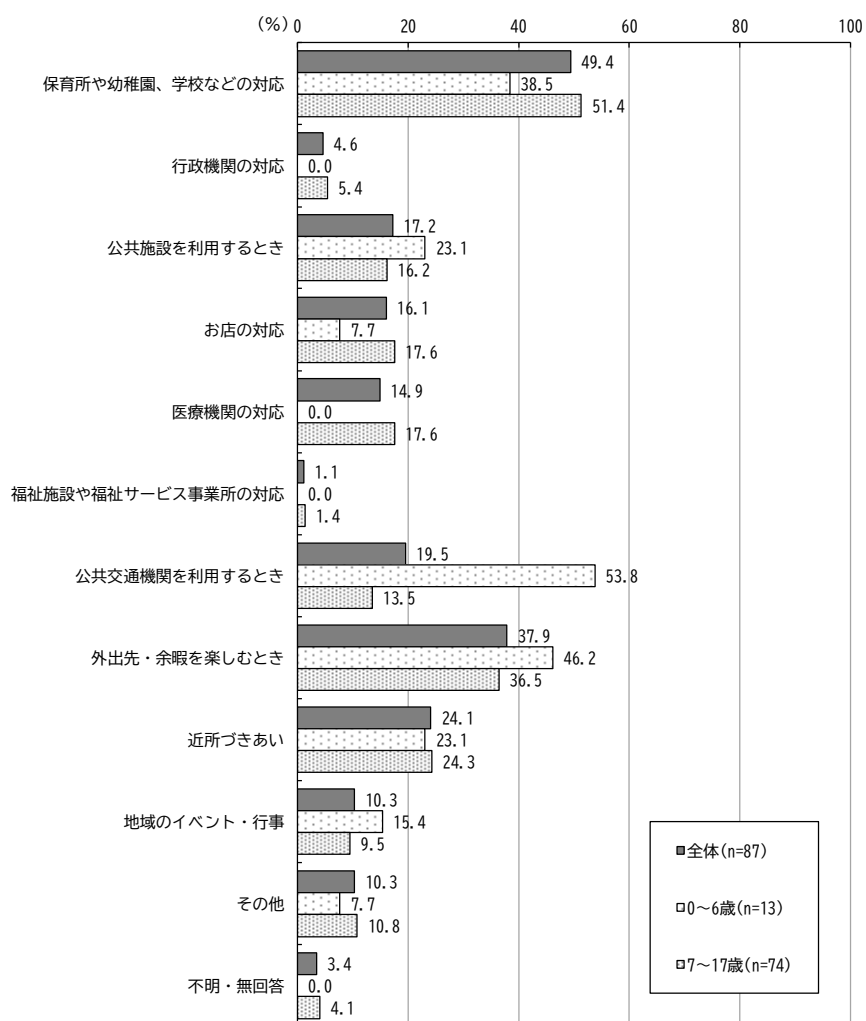
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「保育所や幼稚園、学校などの対応」、知的障がい・発達障がいのある人で「外出先・余暇を楽しむとき」、手帳を持っていない人で「地域のイベント・行事」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「公共交通機関を利用するとき」「外出先・余暇を楽しむとき」、7～17歳で「保育所や幼稚園、学校などの対応」「お店の対応」「医療機関の対応」が多くなっています。



◇どのような場所や場面で差別等を受けたか 「その他」の回答

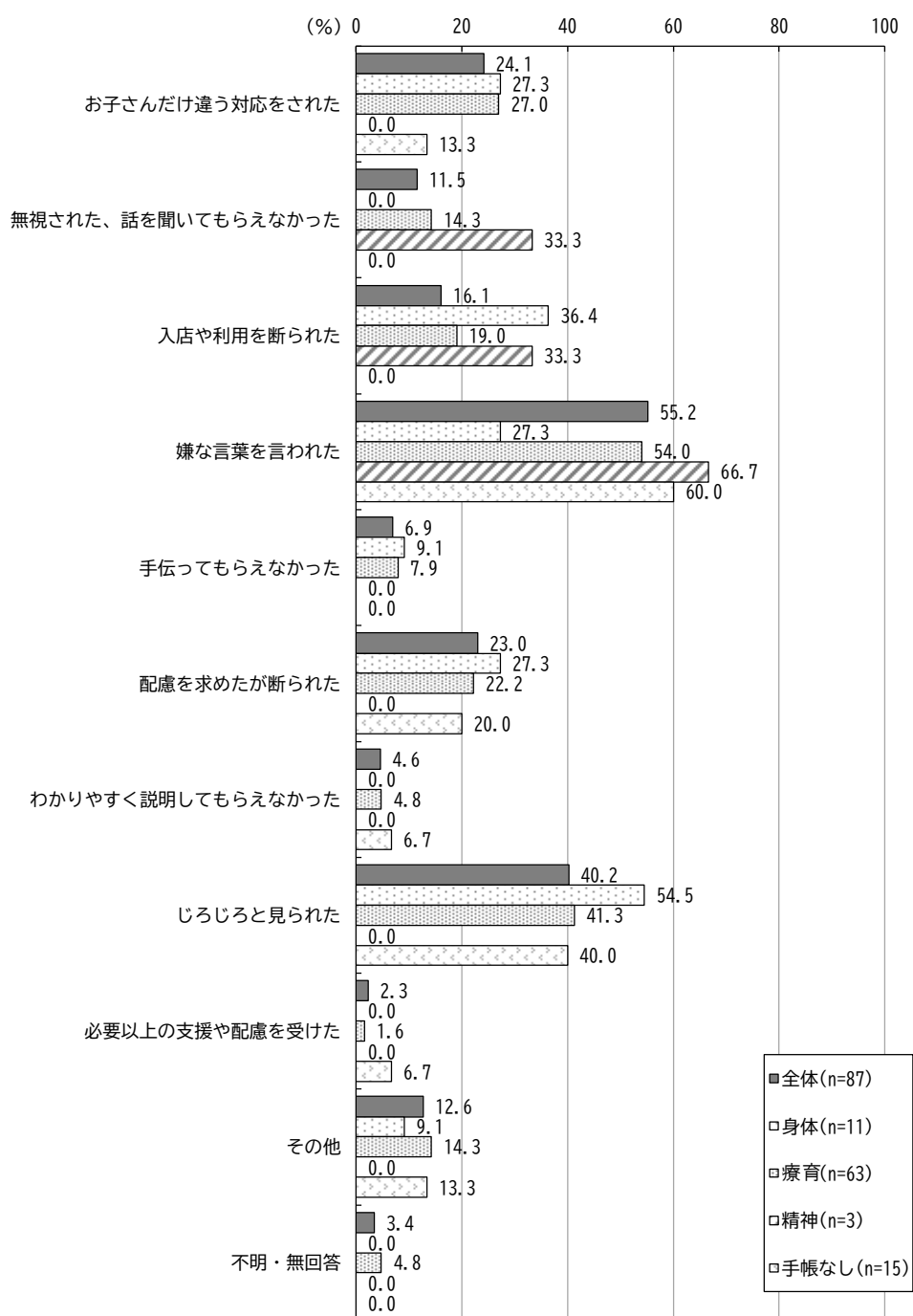
内容	
学校等の同じ年齢の子ども (2人)	クラスのグループLINE
塾・習い事 (3人)	子どもの友達の母

① それは、どのような内容でしたか。(あてはまるものすべてに○)

差別などの内容については、「嫌な言葉を言われた」が55.2%で最も多く、次いで「じろじろと見られた」が40.2%、「お子さんだけ違う対応をされた」が24.1%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「じろじろと見られた」「入店や利用を断られた」、知的障がい・発達障がいのある人と手帳を持っていない人で「嫌な言葉を言われた」が多くなっています。



◇差別等の内容 「その他」の回答

内 容	
入園を断られた (2人)	いじめ
支援級や通級のこどもを一律に差別していた	
歩けないときに公園で「赤ちゃん」と言われた	
出来ないことを出来るようにするべきと強要された	
見た目では判断できないので、怒られたり、注意をきつくされる	

など

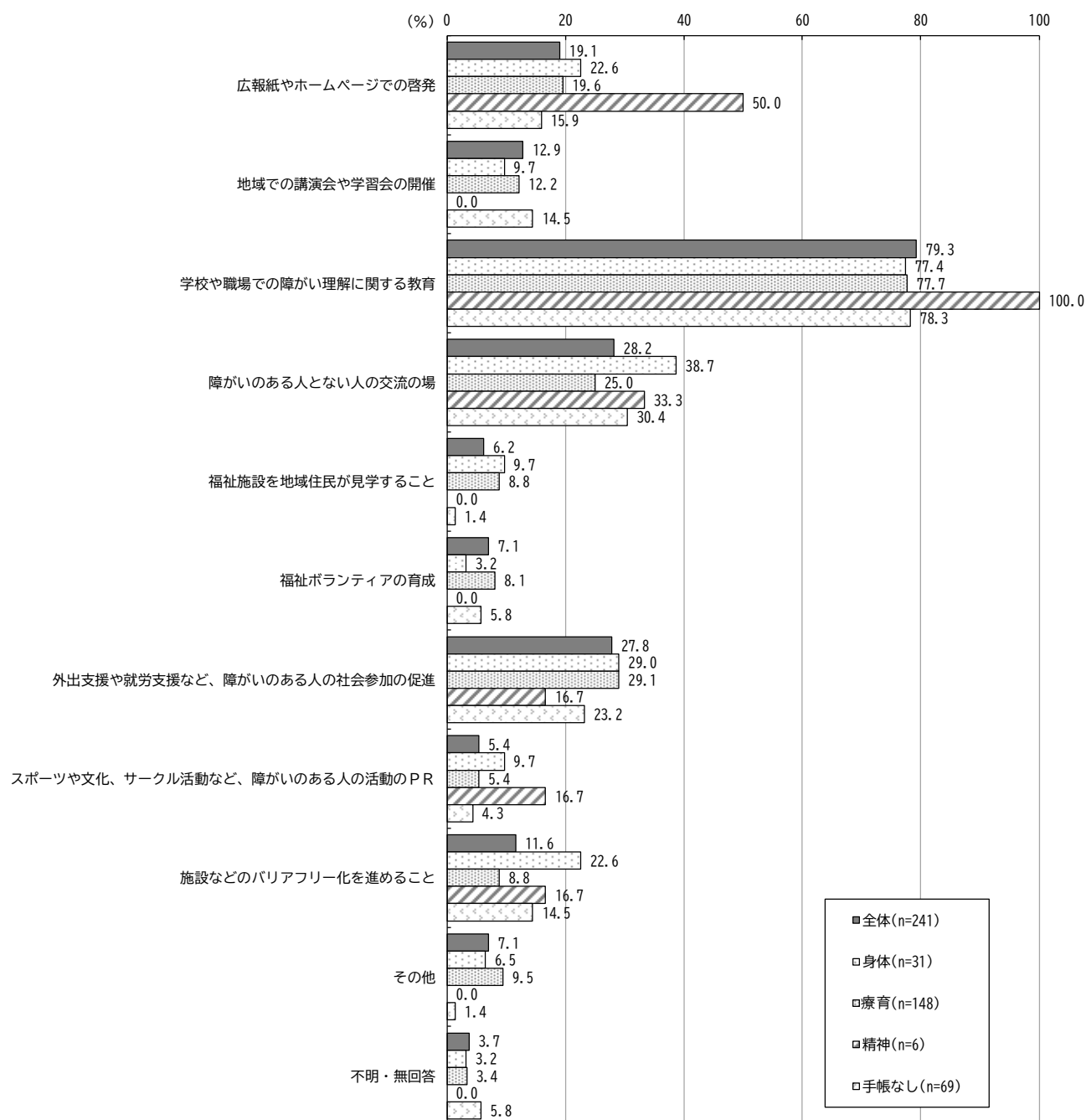
(5) 差別や偏見をなくすために必要なこと

問 39 地域や周囲の人の「障がい」や「障がいのある人」への理解を深め、差別や偏見をなくすためには、何が必要だと思いますか。(もっともあてはまるもの3つまでに○)

地域や周囲の人の「障がい」や「障がいのある人」への理解を深め、差別や偏見をなくすために必要なことについては、「学校や職場での障がい理解に関する教育」が79.3%で最も多く、次いで「障がいのある人とない人の交流の場」が28.2%、「外出支援や就労支援など、障がいのある人の社会参加の促進」が27.8%となっています。

【障がい種別】

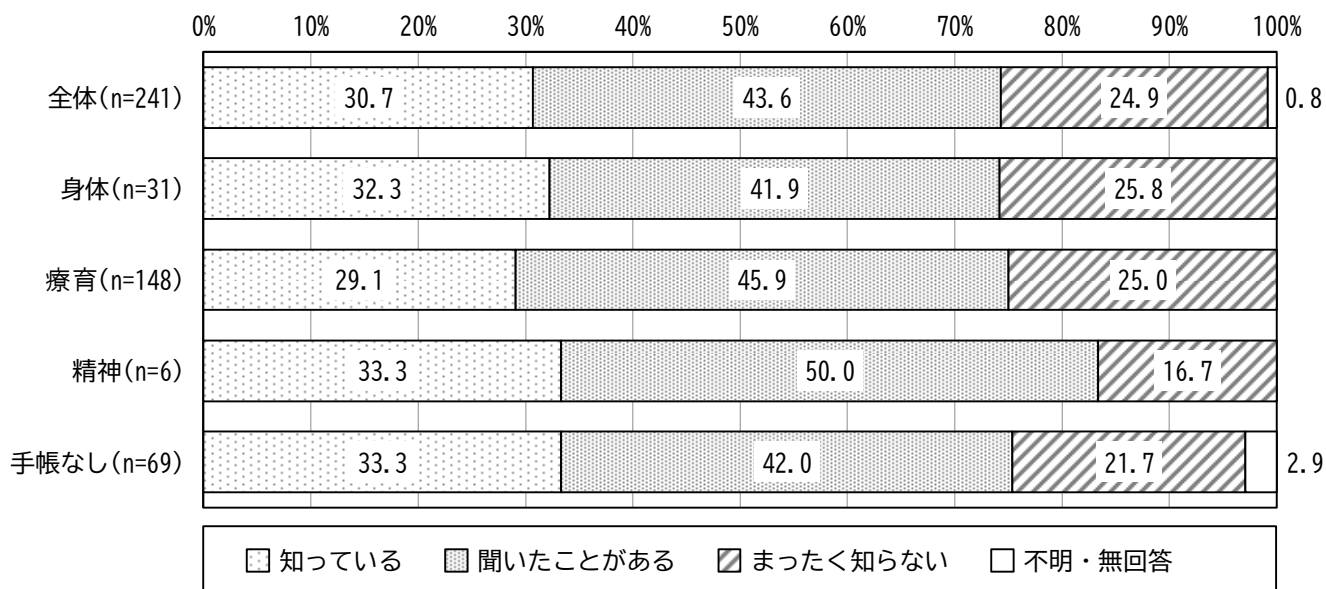
障がい種別にみると、身体障がいのある人で「障がいのある人とない人の交流の場」が多くなっています。



(6) 「障がい者虐待防止法」の認知

問 40 「障害者虐待防止法」を知っていますか。(○は1つだけ)

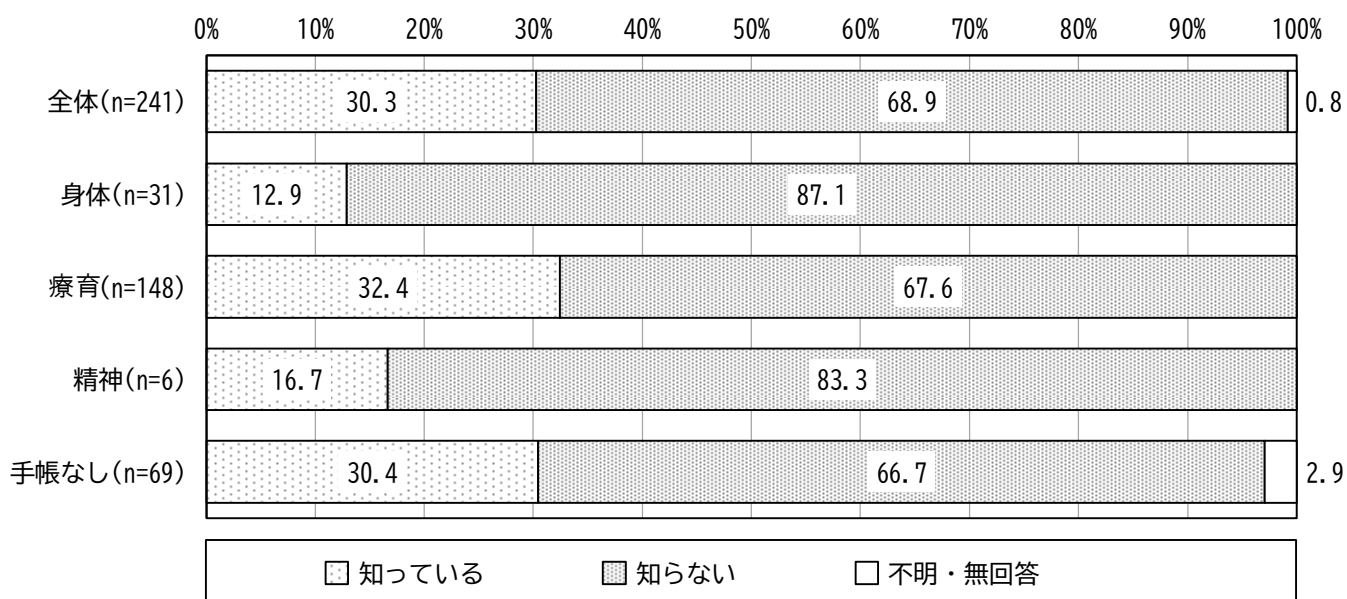
「障害者虐待防止法」については、「知っている」が30.7%、「聞いたことがある」が43.6%、「まったく知らない」が24.9%となっています。



(7) 虐待に関する相談先

問 41 虐待を受けたり、受けている人を見つけた際の相談・通報先を知っていますか。(○は1つだけ)

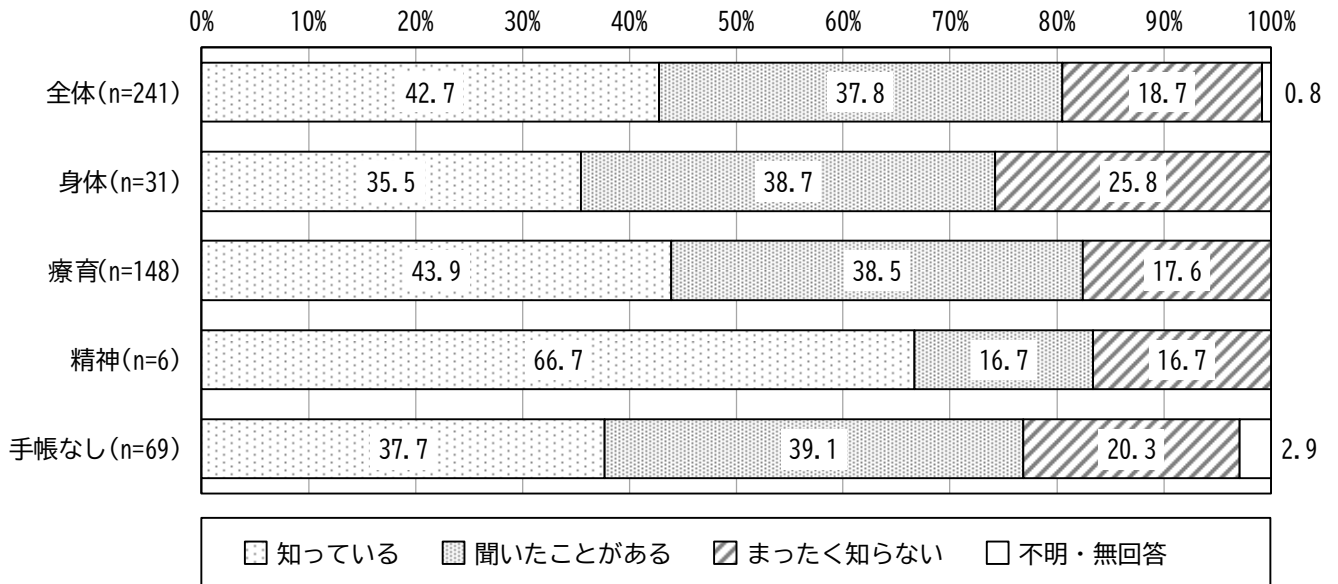
虐待を受けたり、受けている人を見つけた際の相談・通報先については、「知っている」が30.3%、「知らない」が68.9%となっています。



(8) 「成年後見制度」の認知

問 42 「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つだけ)

「成年後見制度」については、「知っている」が42.7%、「聞いたことがある」が37.8%、「まったく知らない」が18.7%となっています。



9. 地域社会とのかかわりについて

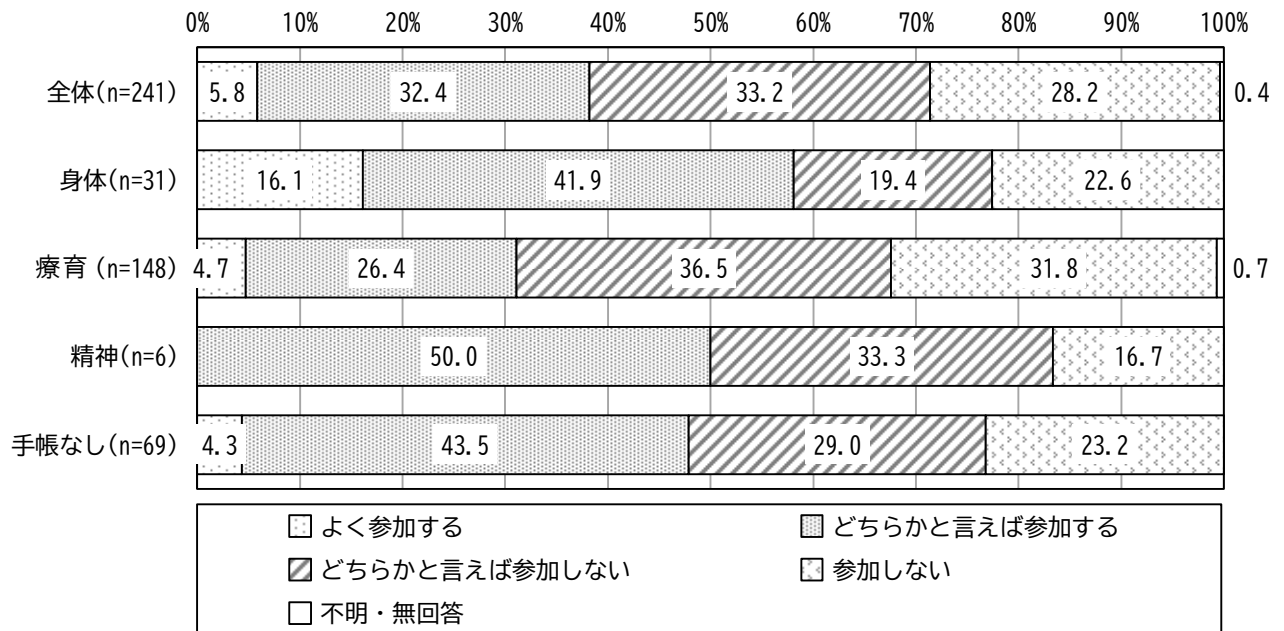
(1) 地域の行事・活動への参加状況

問 43 あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。(○は1つだけ)

地域の行事や活動に参加しているかについては、「どちらかといえば参加しない」が33.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば参加する」が32.4%、「参加しない」が28.2%となっています。

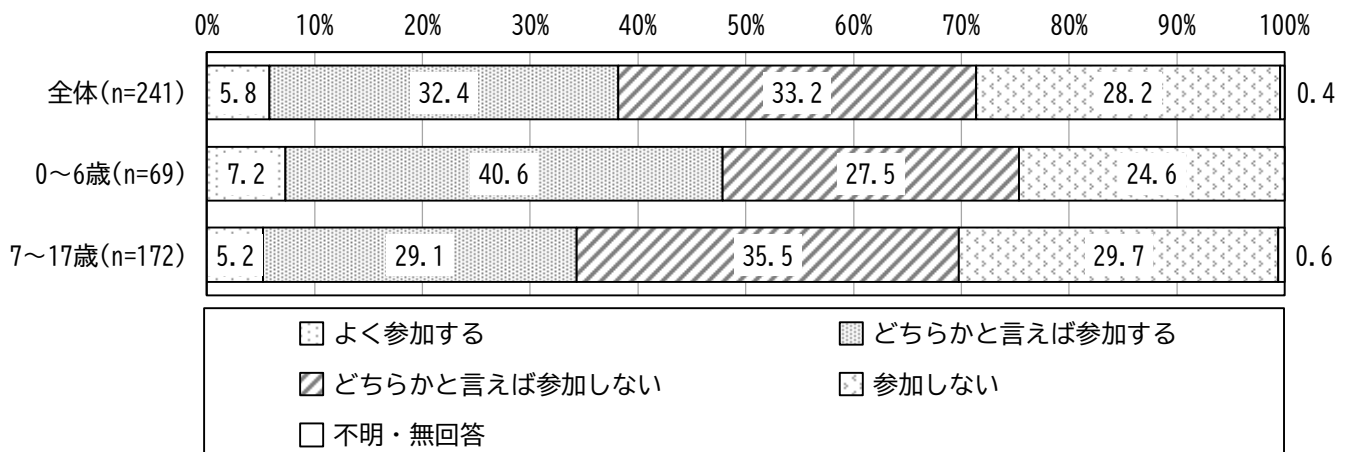
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「よく参加する」が16.1%と多く、知的障がい・発達障がいのある人で「どちらかといえば参加しない」「参加しない」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳で「よく参加する」「どちらかといえば参加する」を合わせて47.8%、7～17歳で34.3%となっています。



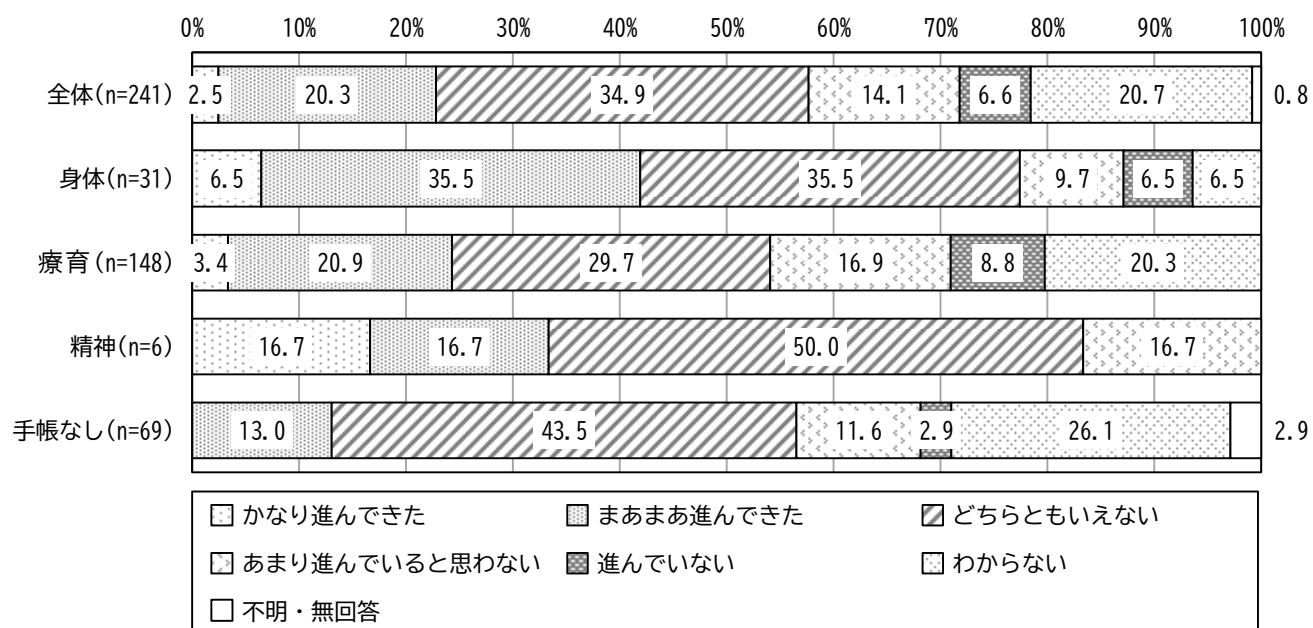
(2) 障がいのある人に対する地域の理解

問 44 障がいのある人に対する地域の理解は進んできたと思いますか。(○は1つだけ)

障がいのある人に対する地域の理解は進んできたと思うかについては、「どちらともいえない」が34.9%で最も多く、次いで「わからない」が20.7%、「まあまあ進んできた」が20.3%となっています。

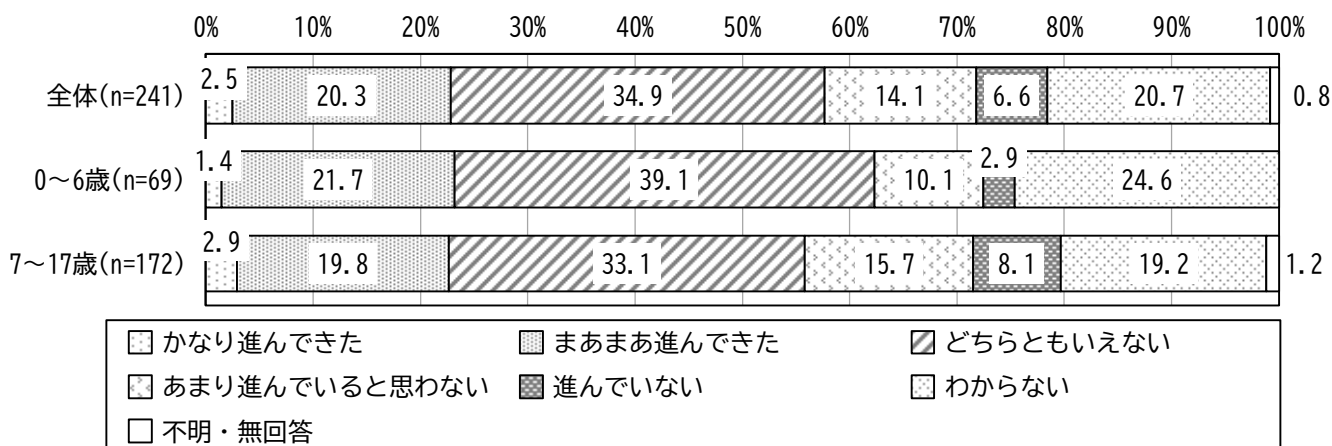
【障がい種別】

障がい種別にみると、「かなり進んできた」「まあまあ進んできた」を合わせて、身体障がいのある人で42.0%、知的障がい・発達障がいのある人で24.3%、手帳を持っていない人で13.0%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳で「あまり進んでいると思わない」「進んでいない」が多くなっています。



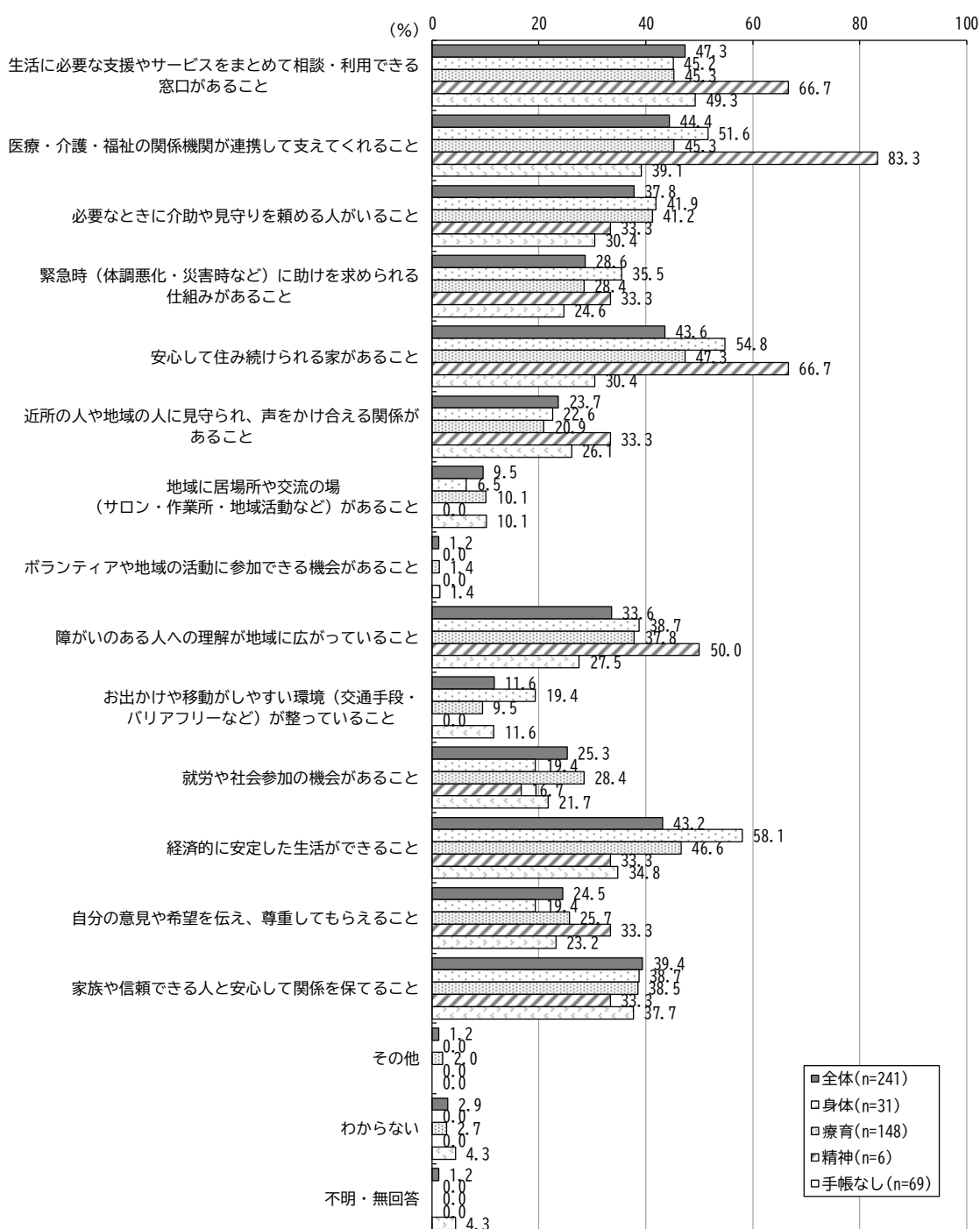
(3) 自宅・地域で生活するために必要なこと

問 45 お子さんが自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ためには、どのような条件が必要だと思いますか。（もっともあてはまるもの5つまでに○）

自宅・地域で生活する（または、生活したいと思う）ために必要だと思う条件については、「生活に必要な支援やサービスをまとめて相談・利用できる窓口があること」が47.3%で最も多く、次いで「医療・介護・福祉の関係機関が連携して支えてくれること」が44.4%、「安心して住み続けられる家があること」が43.6%となっています。

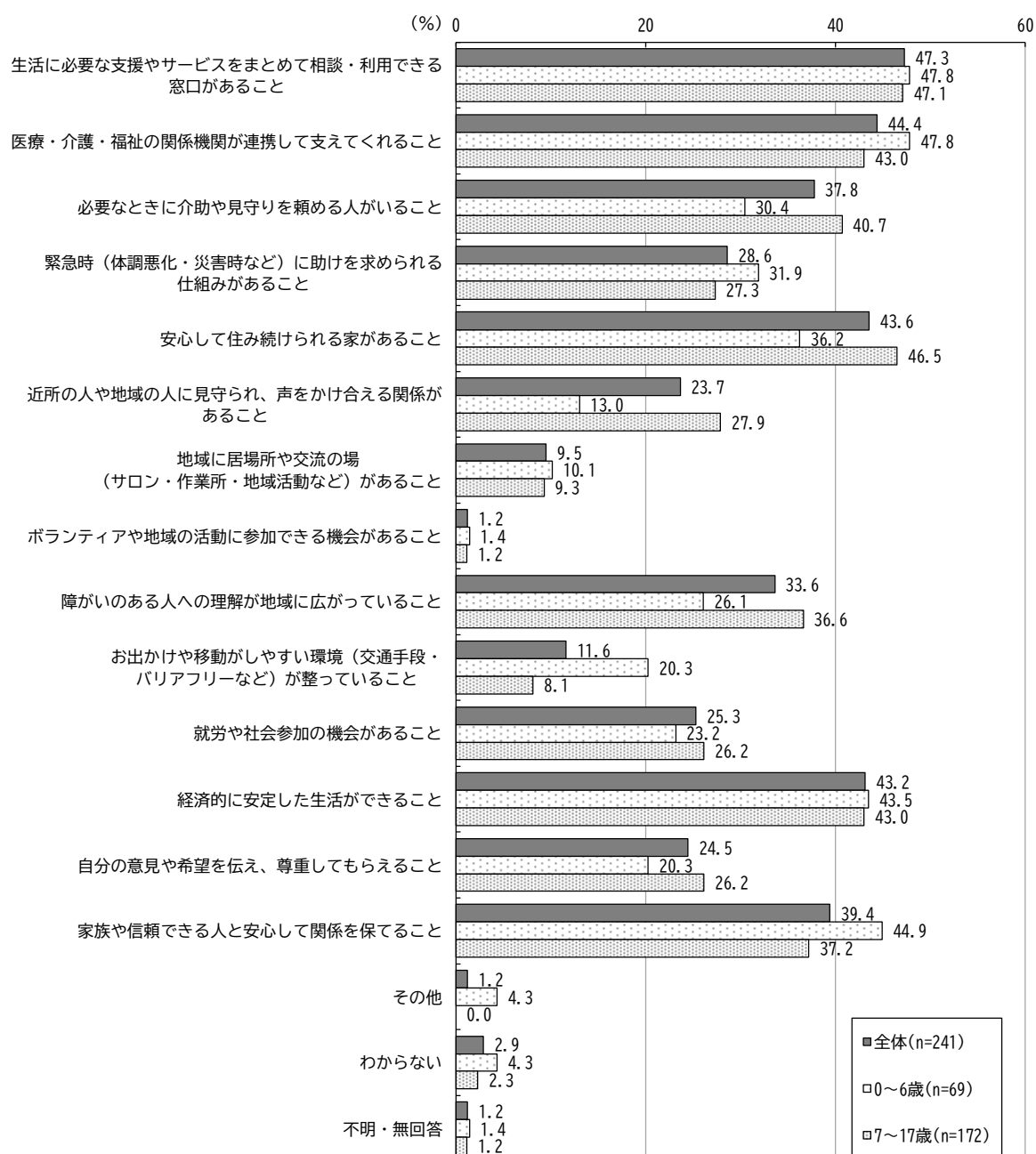
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「経済的に安定した生活ができること」「安心して住み続けられる家があること」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「家族や信頼できる人と安心して関係を保てること」「医療・介護・福祉の関係機関が連携して支えてくれること」が、7～17歳では「安心して住み続けられる家があること」が多くなっています。



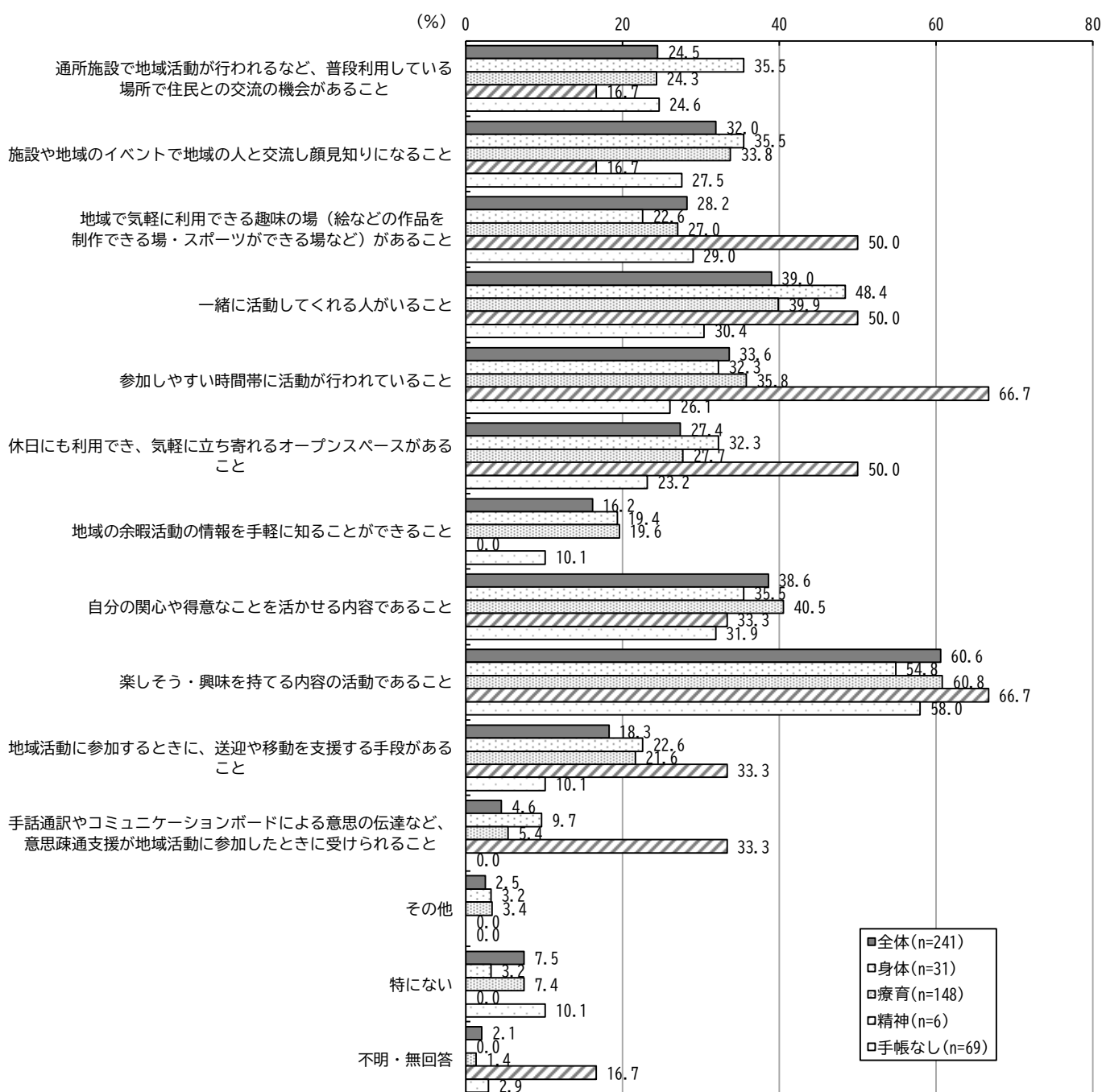
(4) 地域活動に参加するために必要なこと

問 46 地域の中では、住民同士の交流を深める活動をはじめ、様々な地域活動が行われています。地域活動に参加するために何が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動に参加するために必要だと思うことについては、「楽しそう・興味を持てる内容の活動であること」が60.6%で最も多く、次いで「一緒に活動してくれる人がいること」が39.0%、「自分の関心や得意なことを活かせる内容であること」が38.6%となっています。

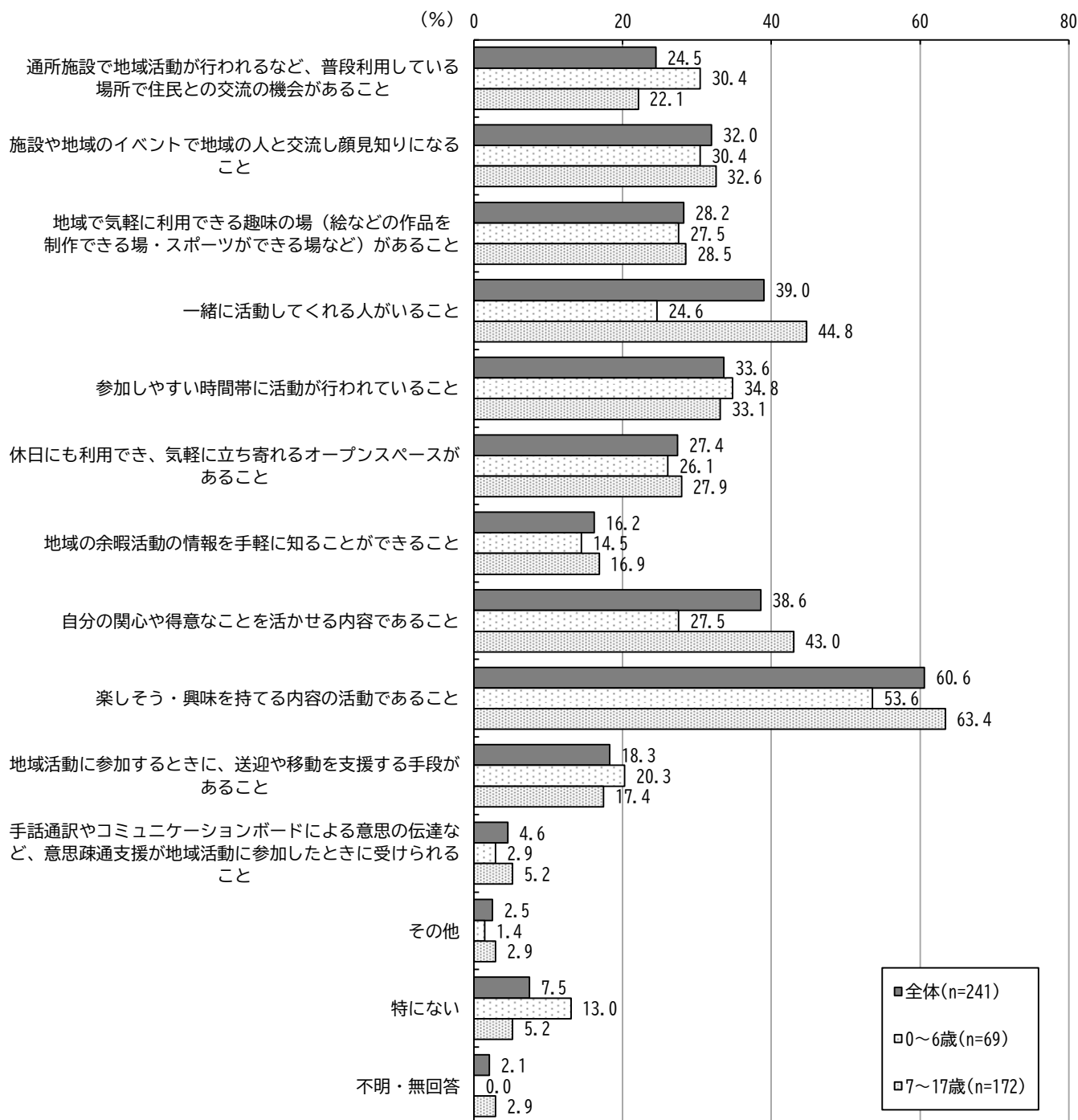
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「通所施設で地域活動が行われるなど、普段利用している場所で住民との交流の機会があること」「一緒に活動してくれる人がいること」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳では「楽しそう・興味を持てる内容の活動であること」「一緒に活動してくれる人がいること」「自分の関心や得意なことを活かせる内容であること」が多くなっています。



10. 芦屋市の取り組みについて

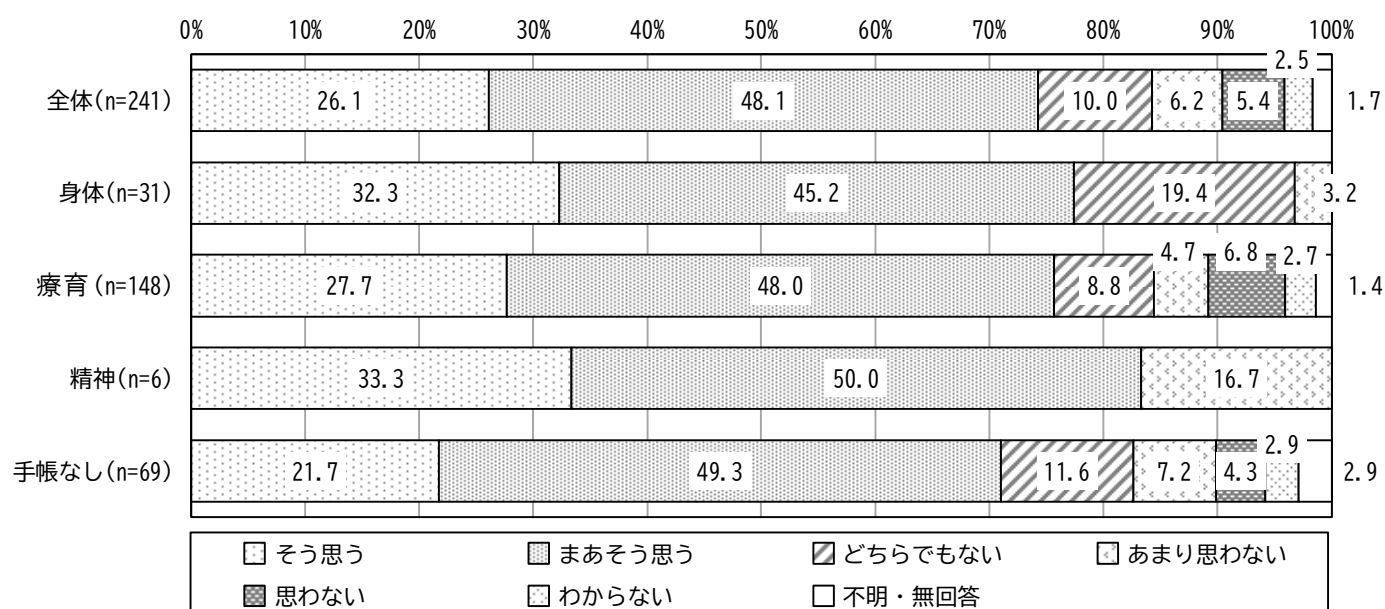
(1) 暮らしやすさ

問 47 芦屋市は、暮らしやすいまちですか。(〇は1つだけ)

芦屋市が暮らしやすいまちだと思うかについては、「まあそう思う」が48.1%で最も多く、次いで「そう思う」が26.1%、「どちらでもない」が10.0%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、「そう思う」「まあそう思う」を合わせると、身体障がいのある人と知的障がい・発達障がいのある人でおおよそ8割、手帳を持っていない人でおおよそ7割となっています。



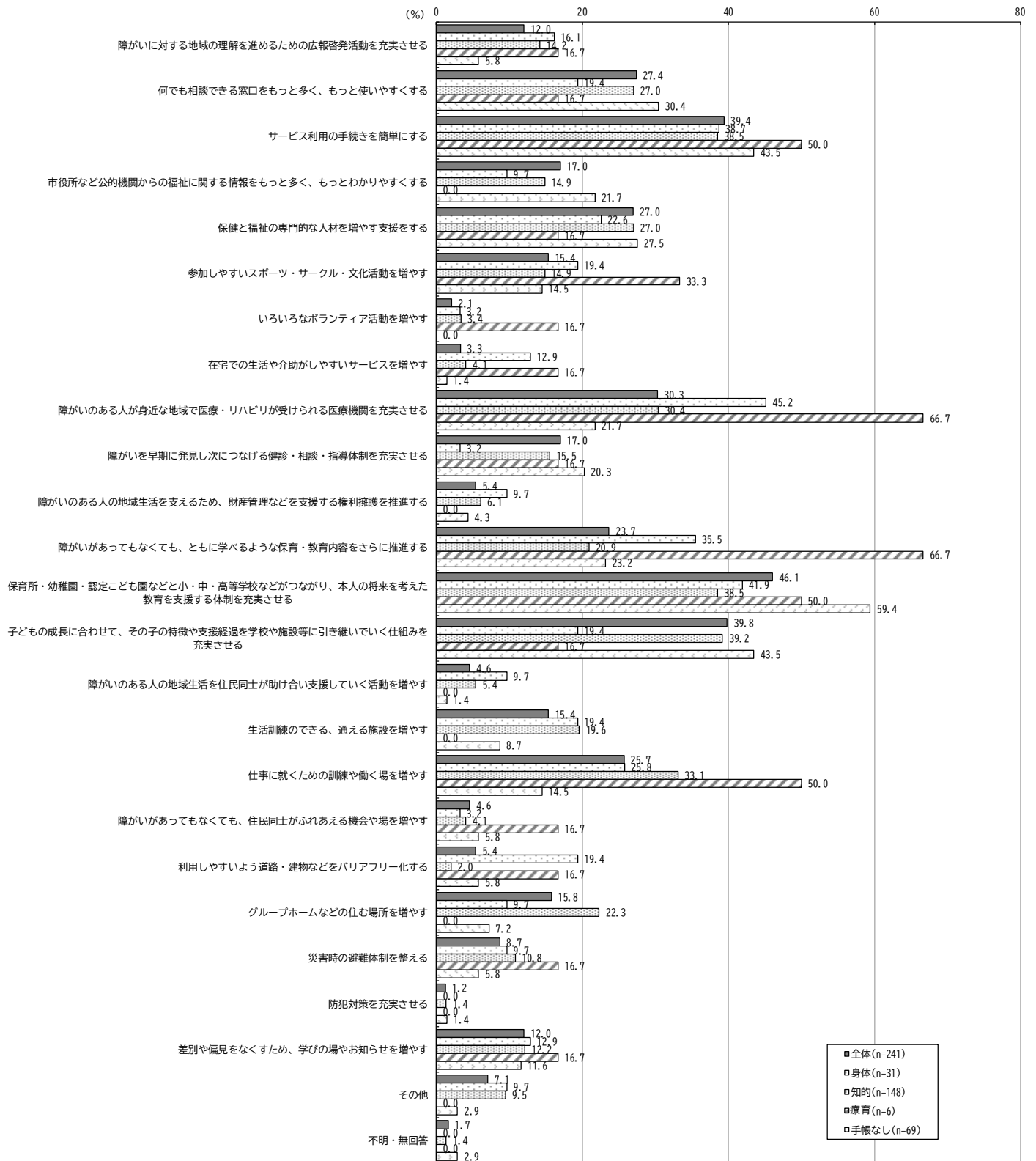
(2) 障がい者施策に期待すること・重要だと思うこと

問 48 芦屋市が行っている各種障がい者施策に期待すること、重要だと思うことはなんですか。(もっともあてはまるもの5つまでに○)

各種障がい者施策に期待すること、重要だと思うことについては、「保育所・幼稚園・認定こども園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制を充実させる」が 46.1%で最も多く、次いで「こどもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みを充実させる」が 39.8%、「サービス利用の手続きを簡単にする」が 39.4%となっています。

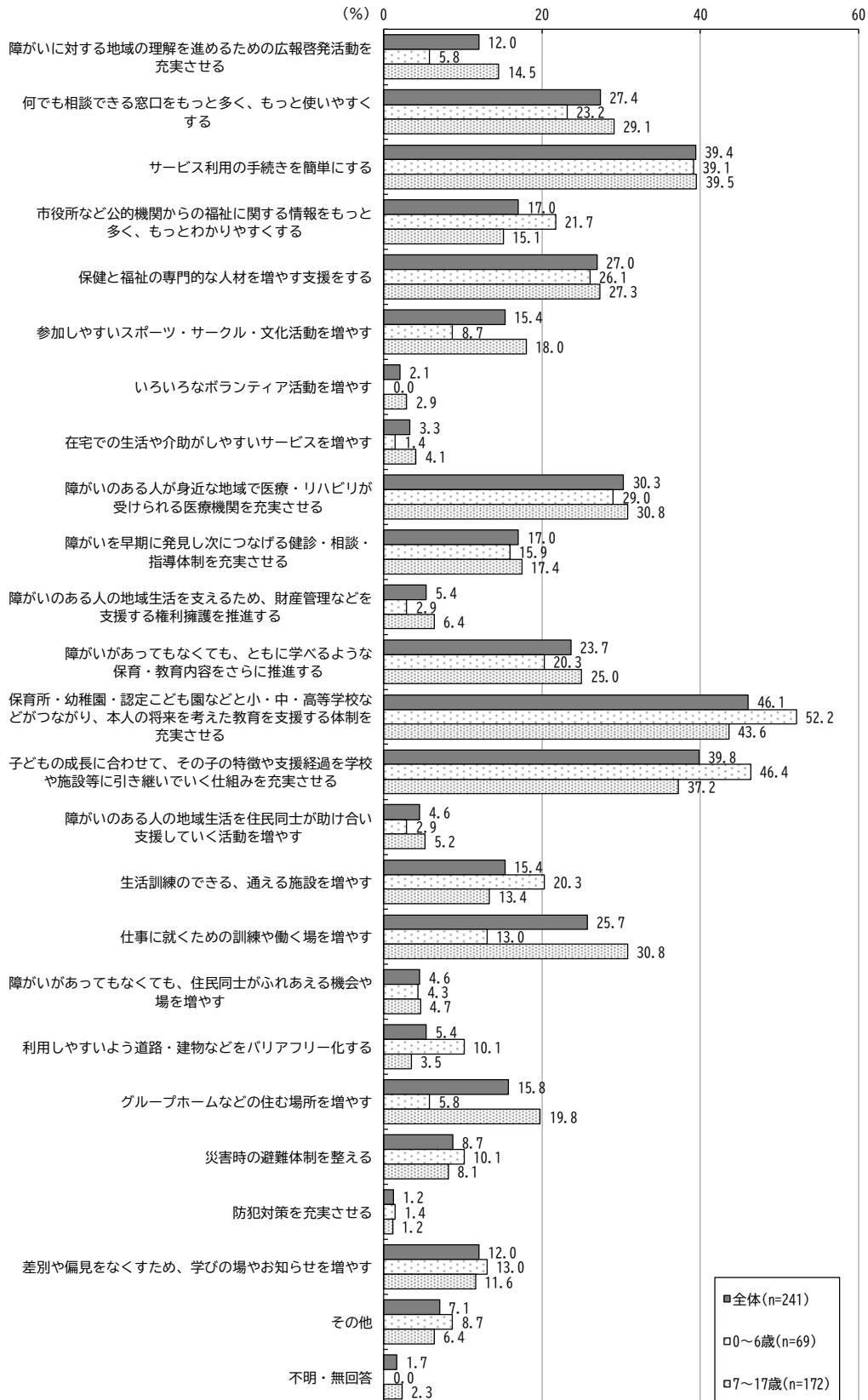
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「障がいのある人が身近な地域で医療・リハビリが受けられる医療機関を充実させる」、知的障がい・発達障がいのある人で「こどもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みを充実させる」「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」「グループホームなどの住む場所を増やす」、手帳を持っていない人で「こどもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みを充実させる」「保育所・幼稚園・認定こども園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制を充実させる」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳では「保育所・幼稚園・認定こども園などと小・中・高等学校などがつながり、本人の将来を考えた教育を支援する体制を充実させる」「こどもの成長に合わせて、その子の特徴や支援経過を学校や施設等に引き継いでいく仕組みを充実させる」、7～17歳では「参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動を増やす」「仕事に就くための訓練や働く場を増やす」「グループホームなどの住む場所を増やす」が多くなっています。



11. お子さんの介護者について

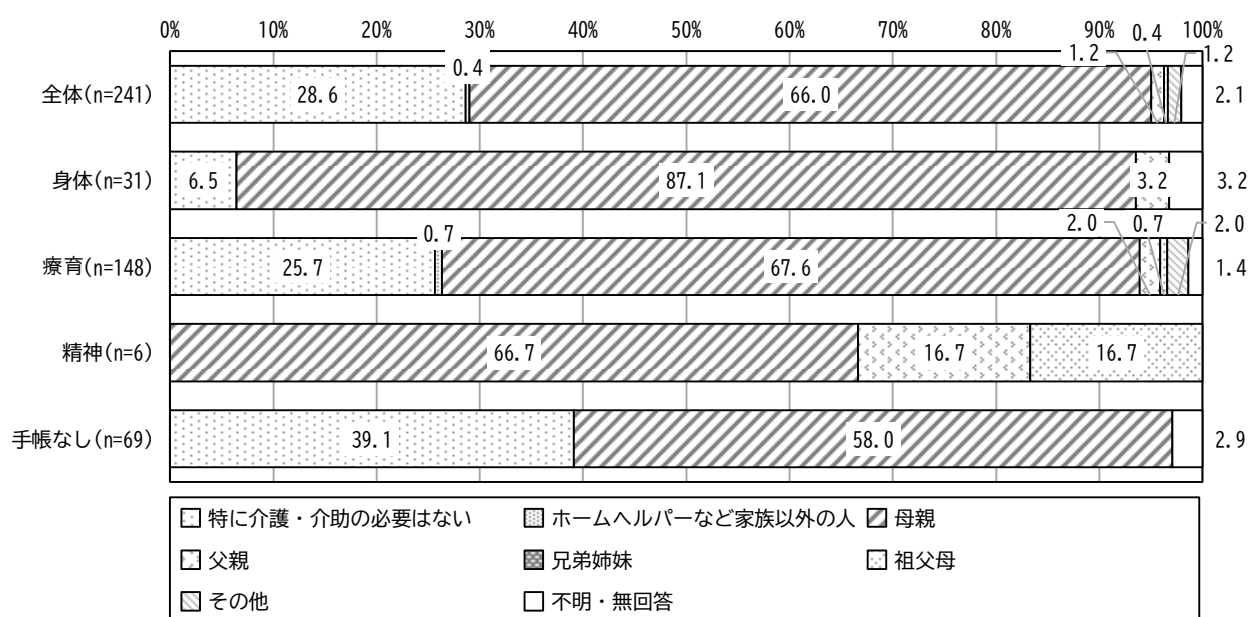
(1) 介護者の状況について

問 49 お子さんを今、主に介護・介助している人はだれですか。(○は1つだけ)

主な介護・介助者については、「母親」が66.0%で最も多く、次いで「特に介護・介助の必要はない」が28.6%となっています。

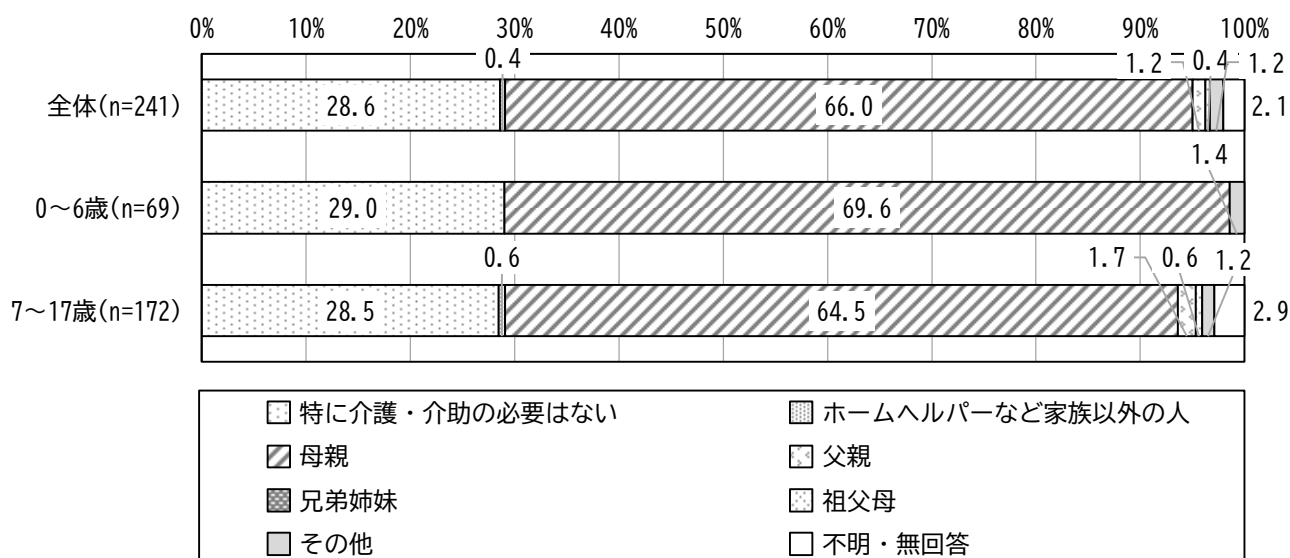
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「母親」が87.1%と多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳で「母親」が69.6%とやや多くなっています。

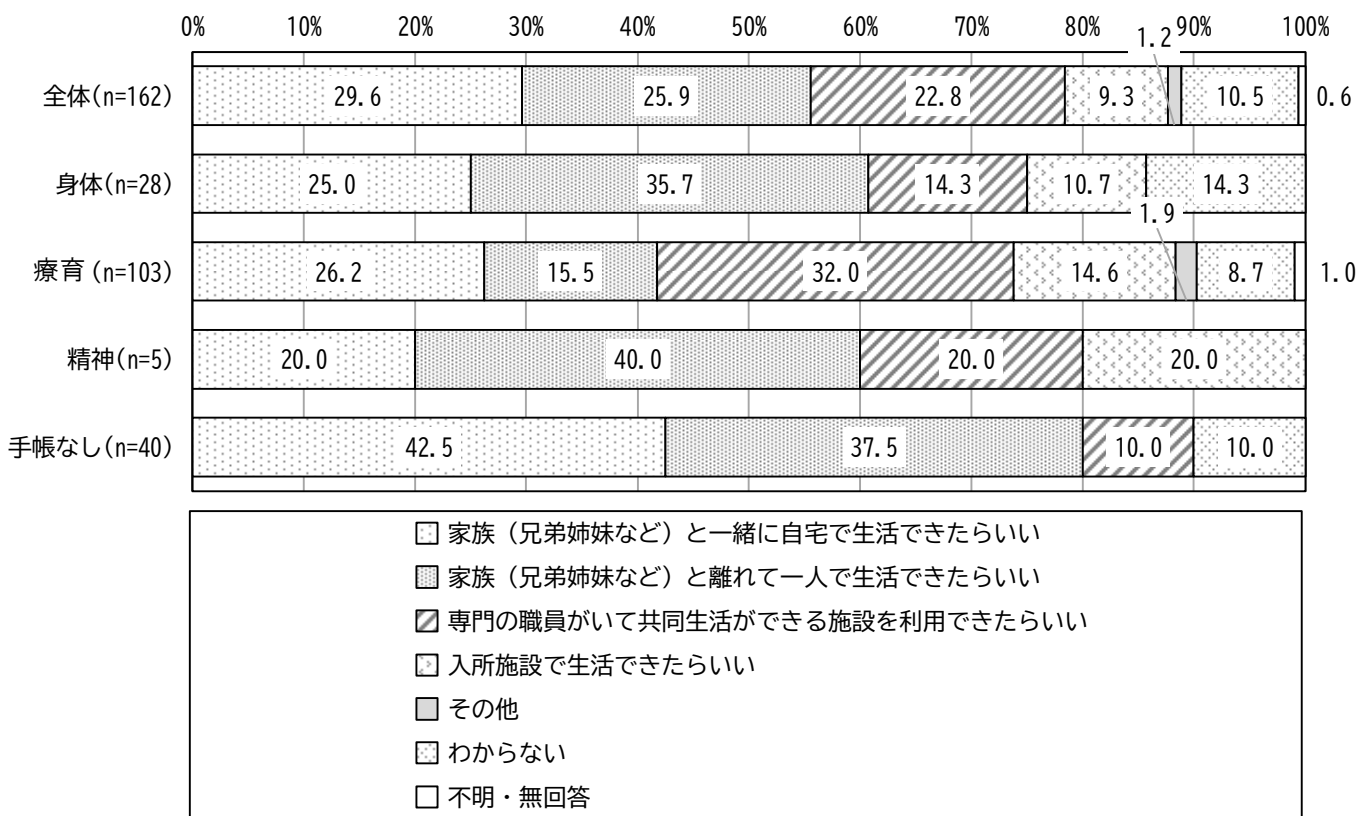


① 問 49 で 3、4 のいずれかを選んだ方にお聞きします。「親が病気や死亡等によって将来お子さんを支えられなくなったとき」に、どこで生活できたらいいと考えていますか。(○は1つだけ)

「親が病気や死亡等によって将来お子さんを支えられなくなったとき」に、どこで生活しようと考えているかについては、「家族（兄弟姉妹など）と一緒に自宅で生活できたらいい」が 29.6%で最も多く、次いで「家族（兄弟姉妹など）と離れて一人で生活できたらいい」が 25.9%、「専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用できたらいい」が 22.8%となっています。

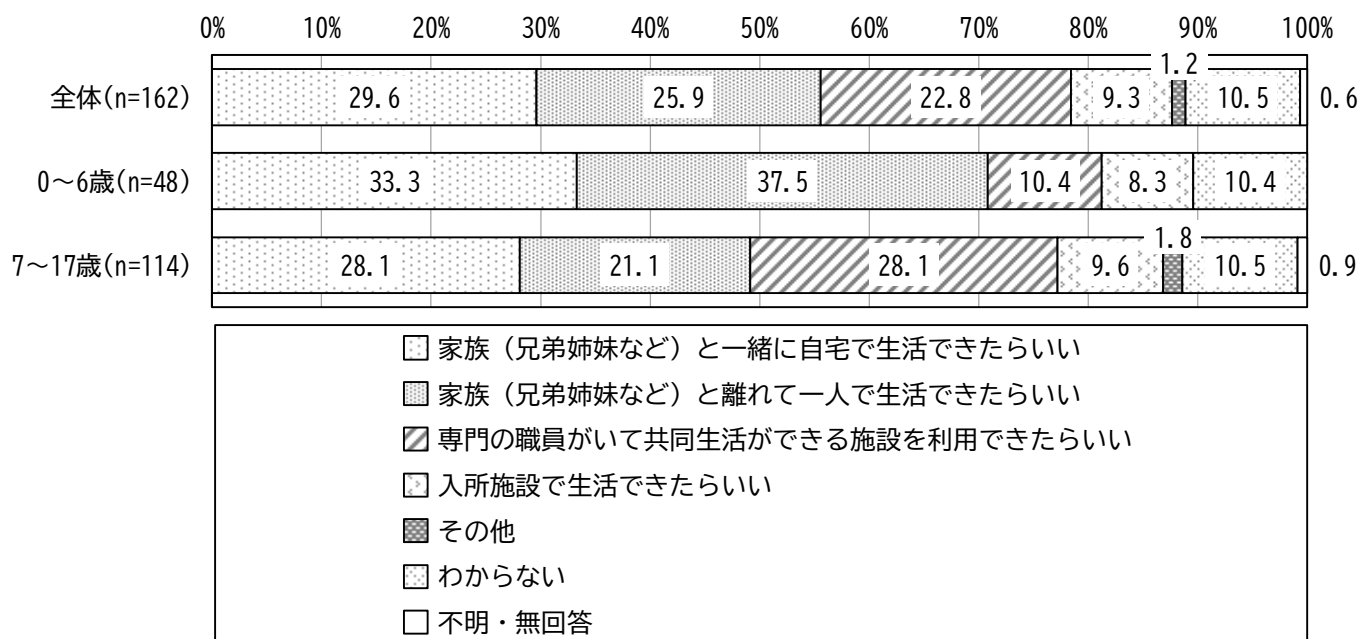
【障がい種別】

障がい種別にみると、知的障がい・発達障がいのある人で「専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用できたらいい」、手帳を持っていない人で「家族（兄弟姉妹など）と一緒に自宅で生活できたらいい」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～6歳で「家族（兄弟姉妹など）と離れて一人で生活できたらいい」、7～17歳で「専門の職員がいて共同生活ができる施設を利用できたらいい」が多くなっています。



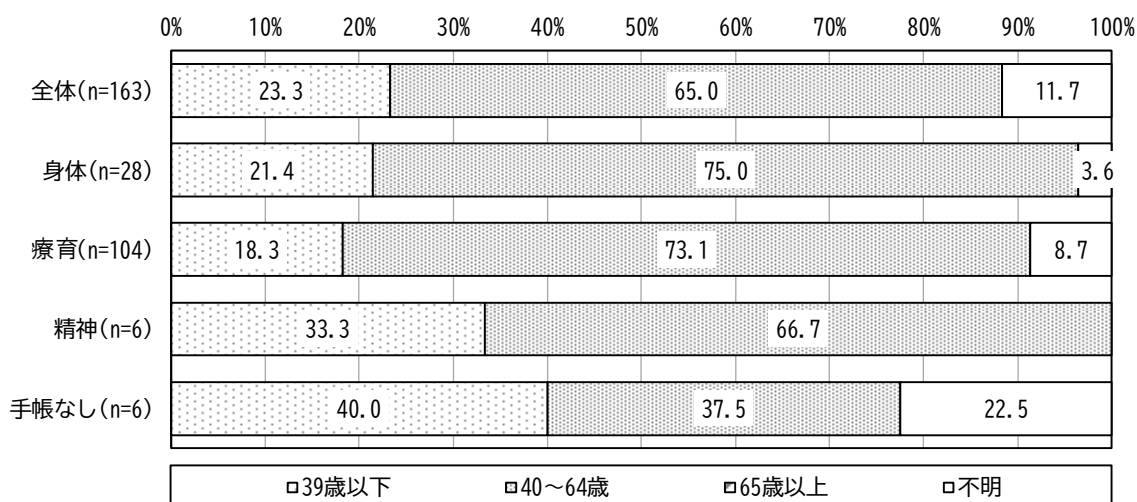
(2) 主な介護者の年齢

問 50 問 49 で 3～6（ご家族の介護者）のいずれかを選んだ方にお聞きします。主な介護者の年齢は何歳ですか。（数字を記入）

主な介護者の年齢については、「39歳以下」が23.3%、「40～64歳」が65.0%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「40～64歳」が75.0%と多くなっています。



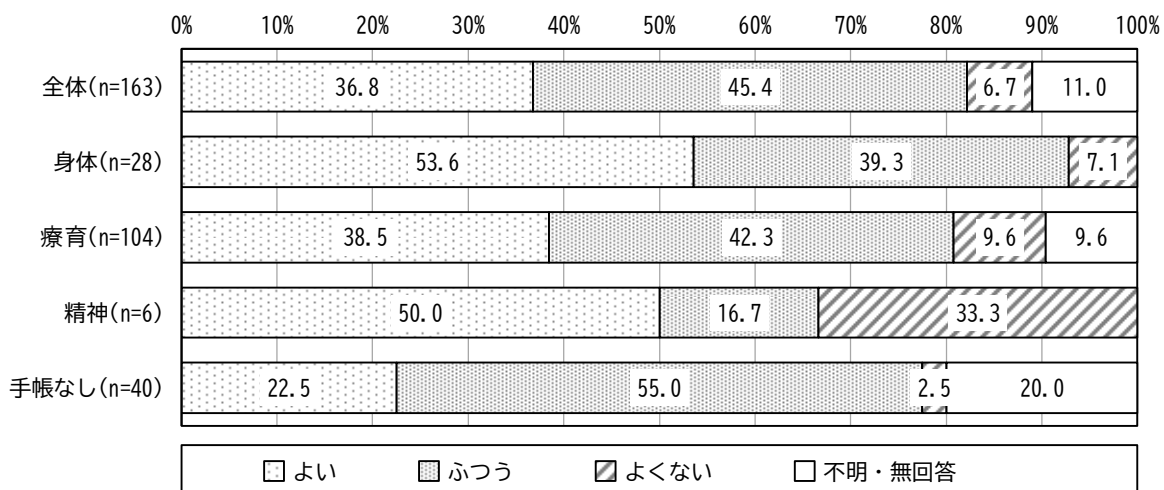
(3) 主な介護者の健康状態

問 51 問 49 で 3～6（ご家族の介護者）のいずれかを選んだ方にお聞きします。主な介護者の健康状態はいかがですか。（○は1つだけ）

主な介護者の健康状態については、「よい」が36.8%、「ふつう」が45.4%、「よくない」が6.7%となっています。

【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「よい」が53.6%と多くなっています。



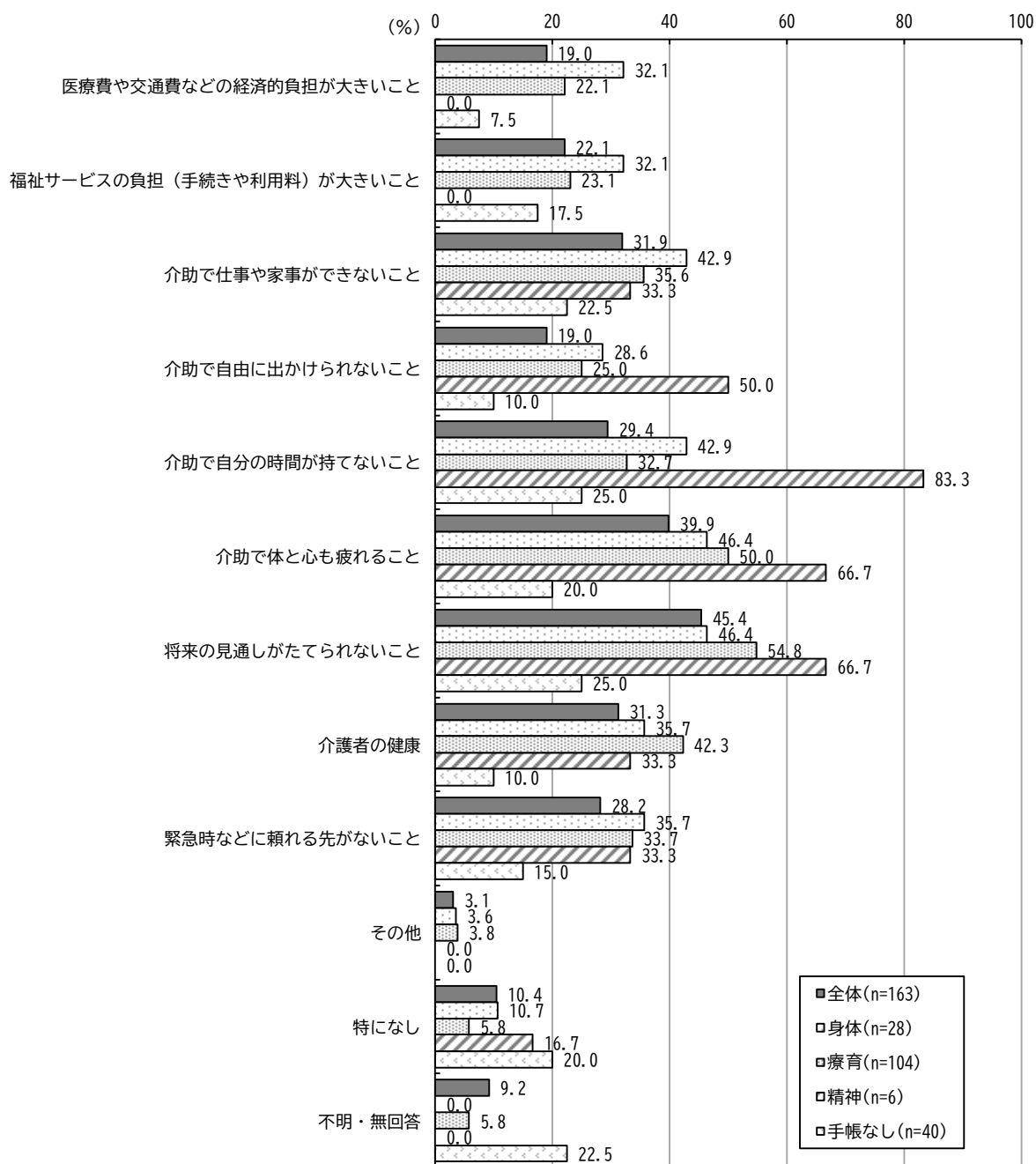
(4) 介護するうえで困っていること・不安なこと

問 52 問 49 で 3~6 (ご家族の介護者) のいずれかを選んだ方にお聞きします。介護をするうえで、介護者が困っていることや不安などはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護をするうえで、介護者が困っていることや不安などについては、「将来の見通しがたてられないこと」が 45.4% で最も多く、次いで「介助で体と心も疲れること」が 39.9%、「介助で仕事や家事ができないこと」が 31.9% となっています。

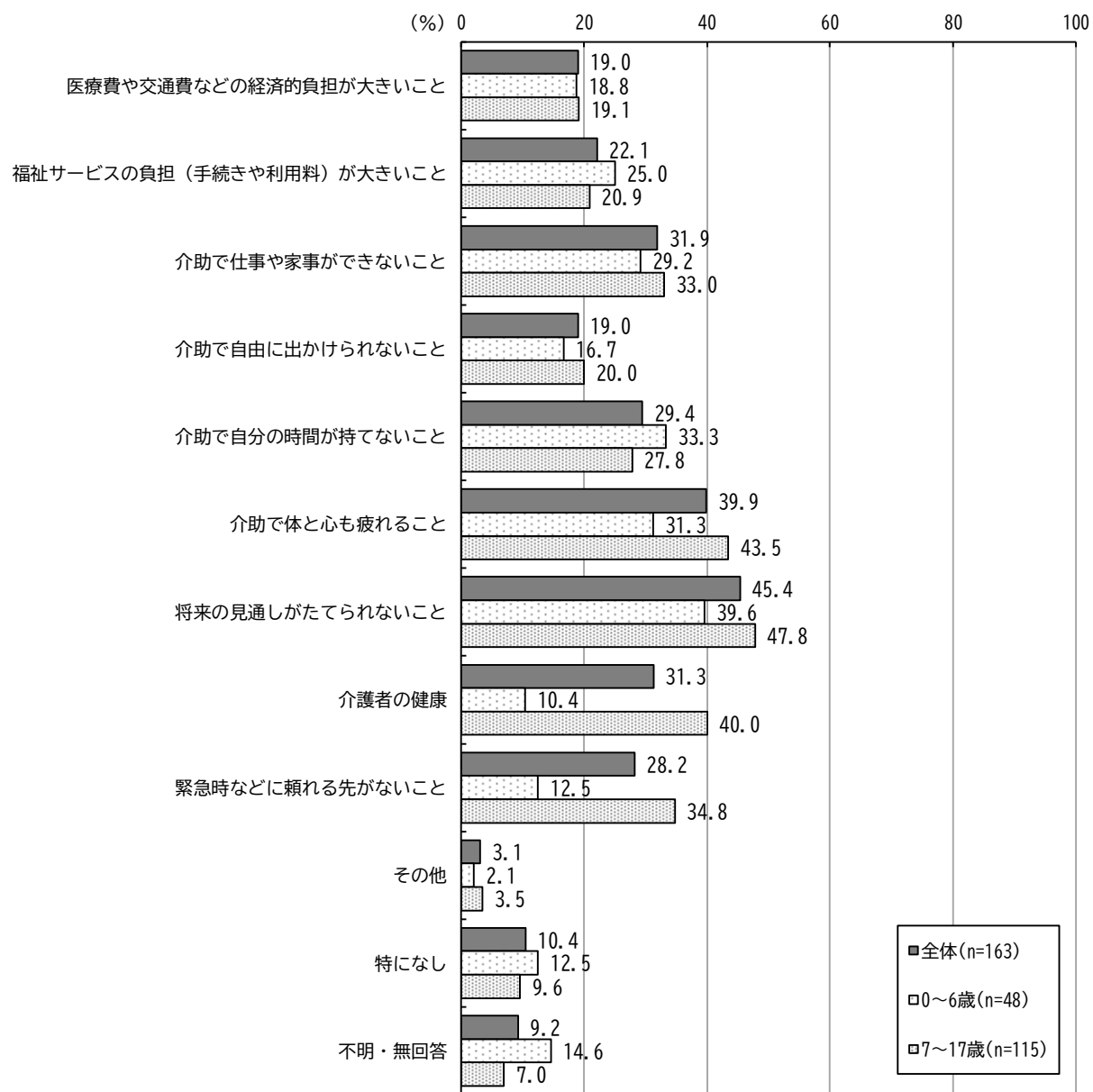
【障がい種別】

障がい種別にみると、身体障がいのある人で「医療費や交通費などの経済的負担が大きいこと」「介助で仕事や家事ができないこと」「介助で自分の時間が持てないこと」、知的障がい・発達障がいのある人で「将来の見通しがたてられないこと」が多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、7～17歳で「将来の見通しがたてられないこと」「介助で体と心も疲れること」が多くなっています。



12. 自由意見一覧

問 53 最後に、ご意見・ご提案などがありましたらご自由にお書きください。

自由記述設問では、101人から回答がありました。内容を分類した結果は下表のとおりです。最も多かったのが「⑧ 障がい福祉サービスについて」(36件)で、児童発達支援や放課後等デイサービス、療育、移動支援、短期入所などに関するご意見が寄せられました。「③ 社会参加について」(33件)では、インクルーシブ教育、イベント開催、参加しやすい環境づくりなどに関するご意見が寄せられました。「② 相談支援について」(22件)では、家族に寄り添った支援や相談窓口へのご意見がありました。

なお、複数の意見が書かれている場合は、それぞれに計上しているため、回答数と各意見の合計数は一致しません。また、意見の内容は、主なものを抜粋するとともに、類似した意見をまとめるなどして整理しています。

① 権利擁護について の主な意見	1件
<p>「親がみればよい」ということが基本になり、そこに福祉サービスが足されている状況であるので、結局は「家で何とかしないと」となることが多い。「自分時間＝仕事」は良いようでした。必要なお金が毎月もらえず、成年後見制度、障害年金はあてにならない。</p>	

② 相談支援について の主な意見	22件
<p>発達に不安があるときどこに相談すればよいかを、学校や保育所などがもっと知識を持って正しくサポートを行えるようにしてほしい。</p>	
<p>発達障がいの診断を受けた時点で、特性のわかる専門の相談員とつながり、こどもや家族に寄り添いながら子育てしていければ良かったと思っている。医師から学校、福祉への連携が早ければ早いほどこどもも家族も心強かったと思う。身近に接している家族が、特性を理解し、日々の困り事を相談できる場所がないと苦しくなる。</p>	
<p>スクールカウンセラーは、医療や福祉も視野に入れて保護者にかかわっていただければと思う。市役所の窓口では、最初だけでも個室で話ができる環境があればありがたいと感じた。</p>	
<p>色々なサービスがあることは有り難いが、たて割りではなく丸ごと相談できる方がいることが、特性があっても地域で生きられる安心につながると思う。</p>	
<p>こどもの将来が不安。自分がいなくなった後にお金を残せたとしてもこどもの面倒を誰が見るのか、騙されたりなどしないかといったことへの心配がある。</p>	
<p>母親が病気等でこどもの支援ができなくなった時を考えると不安である。</p>	
<p>市役所に出向いての申請や、知らなかったサービスを自分で調べることに負担を感じる。</p>	
<p>相談員や福祉職員等の対応に差があり、傷つく言葉をかけられたり、高圧的に感じたりすることもある。こどもや家族に寄り添った対応ができるよう、職員の意識や接遇、支援の質を高めてほしい。</p>	
<p>平日以外でも、月1回とかでも行政サービスをうけられるようにしてほしい。</p>	

<p>せめて、週1回でも平日、20時頃までやってくれると会社員も行けるのではないか。</p> <p>今は、母子医療など受けられているが、18歳、20歳と期限があるため、その先親だけの収入で生活できるか不安である。</p> <p>「障がい」や「収入が低い」などの状況に、何かしらの支援があればすごく助かる。</p>
<p>こどもとの関わりのなかで、母親として全ての時間を10年以上こどものサポートに費やしている。将来を見据えて仕事がしたくても動くことができない、上限があり特別児童扶養手当ももらえないなか、成人までそばにつきっきりで、こどもが大人になったとしても60才近い自分に仕事が見つかると思えない。制度や施策で解決できることがたくさんあると感じる。実感できるレベルで教育的、経済的サポートを少しでも手厚くしてほしい。</p>
<p>特別児童扶養手当等、所得制限額が低い為、療育など経済的な負担が重なり将来が不安である。</p>
<p>制度やサービスのことを知らないまま時期を逃してしまうことがあり、受けられる支援や福祉サービスをもっと早くから活用したかった。発達に不安のある人が参考にできるガイドブック等、発達外来で配ってもらえればと思う。また、市役所ではひとつ質問をすると担当が違ふとかなり時間をとられ、帰りにはかなり疲れてしまう。</p>
<p>こどもが受けるサービスや自立に向けた方向性を、親が手探りで判断しないといけない。そのなかで、時間の無駄や焦りを感じる時がある。</p>
<p>両親とも働きながら、こどもが療育を受ける機会を確保することが難しい。保育園と療育先の送迎などの柔軟な対応があれば、様々な可能性が広がると思う。</p>
<p>最初に気軽に相談できるようハードルを下げて支援に繋がる体制ができればいいと思う。支援側のスタッフもゆとりがないと個別対応できないと思うので、そちらへの配慮や体制づくりも上手くいけばいいなと思っている。</p>

<p>③ 社会参加について の主な意見</p>	<p>33件</p>
<p>芦屋市福祉タクシー利用券について、上限を6枚にするもしくは撤廃するなどして、使い方は利用者に任せてほしい。また、市の障害児児童手当も少なすぎで生活の足しにならない。</p>	
<p>公立の学校は人員が少なく就学に不安がある。人の特性や発達に合わせた教育を受けられるよう、少しずつでも、教育現場への人材を充実させてほしい。</p>	
<p>インクルーシブ教育を進めるのであれば、教員、介助員、加配支援員などの人数を増やし、こどもに応じた支援ができるよう支援体制を希望する。先生一人ひとりの頑張りに頼るのではなく、仕組みとして支えられるようにしてほしい。教員と介助員に正しいインクルーシブ教育、合理的配慮を指導できる体制がない。投資や支援が不十分なまま“同じ教室にいさせること”をただ目的としてしまっているようにしか思えない。</p> <p>親が必要と感じていれば支援級に入れてほしい。障がいのあるこども・ないこども、みんなが望む学校生活を受けれるようにしてほしい。</p>	
<p>芦屋はインクルーシブへのこだわりがあるように感じるが、自閉スペクトラム症など、騒がしい場所やみんなで行動するのが苦手な人がいることもわかってほしい。</p>	
<p>今まで通りのインクルーシブ教育の継続と推進。</p>	
<p>慣れない場所や人、音が苦手なこどもでも、少しずつ地域の活動にも参加できれば嬉しい。</p>	

<p>様々な活動が長く続いてほしい。</p>
<p>将来、働いてお給料をもらい、人にだまされたりせず、幸せに暮らしていけることを願っている。周囲の理解、活動場所の充実をお願いする。</p>
<p>市立の保育所・認定こども園と市立の幼稚園で、加配の運用が異なり、それにより入園時期に差が生じている。まさか障がいのために公立保育所の利用ができないとは、けっこうな驚きとショックだった。障がいがあっても同様に利用ができるように、ぜひ考えて頂きたい。</p>
<p>市が主催・共催・後援などするイベントでは、余程の理由がなければ全て、障がいのある人・こどもの参加を前提とし、「参加希望の方にはサポートします」とイベントのチラシやホームページ等に明記してください。「障がいのある人の活動を理解してもらう」のではなく「いつも当たり前と一緒に活動する」芦屋市に方針転換してほしい。</p>
<p>こどもの特性や発達段階に応じて、温泉施設や駐輪場など日常の外出先でも利用しやすい配慮がほしい。発達のゆっくりなこどもを連れて外出するにあたり負担感がある。</p>
<p>障がいのある人が安心でき、障がいのない人も希望すれば使える居場所が増えてほしい。いくつかから選択できることも幸せにつながると思う。</p>

④ 専門機関支援について の主な意見	9件
<p>保育所、学校等の現場で、発達障がいへの理解をもっと深めてほしい。見えにくい障害や発達障がいのグレーゾーンの子どもに対しての関わり、サポートがまだまだ不足しており、不登校や生きづらさを抱えている子どもがたくさんいると思う。診断の有無に関わらず個々の特性に気づいてほしい。</p>	
<p>特別支援学校等で、支援が必要な子どもに手厚く関われる人材をもっと増やしてほしい。支援が薄いと、子どもが安心して通えず、不登校につながる不安がある。また、障がいのある子どもの親への支援も充実させてほしい。</p>	
<p>放課後等デイサービスが少ない。スタッフ不足や安全面への不安もある。子どもにとっても働くスタッフにとっても安全性の高い事業所をもっと増えればと思う。</p>	
<p>保育士、学童支援員、教育現場の人材など、障がいのある子どもを支える役割を担う人材を増やすことが重要である。</p>	
<p>支援側のスタッフもゆとりがないと個別対応できないと思うので、そちらへの配慮や体制づくりも上手くいけばいいなと思っている。</p>	

⑤ 地域づくりについて の主な意見	15件
<p>見た目では分からない障がい（自閉症、知的障害など）への理解が広がることを願う。電車内にあるヘルプマークには妊婦などの見た目で見分ける絵しかない。特に、高齢者の心無い言葉に傷つくことがある。</p>	
<p>同じような年齢の子どもの親のなかに、とても冷たい対応をする人たちがいるということが最も辛かった。同じ母親たちが一番の敵なんかじゃないかと思うくらいいじわるをされることもあった。全員でなく、いい方もいるが、母親なのに…と厳しく非難してくるのは他の母親。理解を広めるにはどうしたらいいのかと思う。</p>	
<p>障がいへの理解について、身体障がいが主となっているように感じる。発達障がいへの理解は進んでおらず、偏見を受けていると感じる。未だに親のしつけの問題として発言されることもある。</p>	
<p>障がいの理解、それを発信・共有していく機会を増やしてみんなにとって身近なものになり、学んでいくことが大切だと思っている。</p>	
<p>社会全体の障がいへの理解が今以上に進むことで、生活がしやすくなると思う。</p>	
<p>障がいのある子どもを育てる親同士が、情報交換できる場があると良いと思う。また、きょうだい児同士が遊びなどを通して交流し、特有の悩みなどを分かち合える場ができれば、きょうだい児も悩み等を抱えこまなくても良いのではないと思う。</p>	
<p>すでに小学校に通っている近所の方から情報を得たりもしているが、交流会などをつくってもらえるとありがたい。</p>	
<p>災害時には、はじめから福祉避難所に行きたい。あるいは慣れた学校で過ごせるなら別室で対応するなどの仕組みがほしい。</p>	
<p>現在の日本では、グレーゾーンにある子どもたちが、サービスを利用できず取り残されているように思える。障がいや特性の有無に関わらず、誰もが生きやすいように地域や各連絡</p>	

所が協力できる環境を整えば良いと強く願う。
聴覚情報処理障害（聞き取り困難症）は、認知度が低い。秋田県大仙市のように市のホームページでも取り上げていただけると嬉しい。
発達障がいの認知度は上がってきたが、識字障がいの認知度が低いと感じる。このような障がいが多くの人に知られるようになり、合理的配慮が当たり前となり、一人でも多くの子どもが勉強の楽しさを知って自分らしい未来を選択できるようになってほしい。
市内で使えるサービスがよく分からない。乳幼児期～成人にかけて、それぞれに何が使用でき、また何が変わって来るのか、いつ何の手続きが必要なのか、利用できるものをすべて知っているのか、分からない。
障がいのあるこどもの自立が進まなければ、家族の暮らしは今よりもさらに苦しくなることも考えられる。18歳になるとデイサービスにも通所できなくなり、人とのつきあいも今までのようにならなくなるときっとさみしい思いをすと思う。小さな一歩でも前向きに明るく踏み出せるよう、今以上に見守っていただける社会になることをいつも願っている。

⑥ アンケートについて の主な意見	7件
質問数が多く、答えるのが大変である。	
介助が必要な人向けの質問が多いなど、対象に合っていないと感じる。もう少し対象者を絞ったり、手帳の有無で設問を変える方が実態に沿った意見が得られると思った。	
冊子が封筒に入れにくい。	
封筒に「障がい福祉」と大きく書かれていることに抵抗があり、子どもや周囲の人の目にも触れるため、もっと配慮してほしい。	
このようなアンケートがあること自体を心強く感じている。	
アンケートで入所施設と共同生活できる施設の違いがよく分からなかった。	

⑦ 市への要望について の主な意見	9件
障がいのあるこどもの医療費無償化を希望する。	
発達に不安のある人が参考にできるガイドブック等、発達外来で配ってもらえればと思う。また、市役所ではひとつ質問をすると担当が違ふとかなり時間をとられ、帰りにはかなり疲れてしまう。	
小学校の入学に際して、必要な手続きについて部署が分かれ過ぎていてわかりにくい。	
行政サービスや手続きが非常に分かりづらく、マイナンバーの活用などで基本情報の記載を省けるようにするなど IT 化を進めるとともに、サービスについても提案型にしてほしい。	
啓発活動にも力を入れてほしいが、経済的支援はもっと充実させてほしい。	
芦屋市は、子ども、特に障がいのあるこどもを育てる家庭にとっては、福祉サービスが著しく利用しにくい市だと感じている。 療育についても、他市と比較して日数を増やすことが非常に難しく、柔軟性に欠けている。	
手指欠損のため、小学校、中学校の音楽授業でつかうリコーダーが使えず、特別なリコーダーを作成してもらったがそれなりの費用がかかった。作成費用の補助を芦屋市でも検討して	

ほしい。
療育手帳を持っており市の駐車場が無料になるのはありがたいが、総合公園ではクラブハウスが閉まった後に利用できなかったり、本人と一緒にいないと無料にならないと言われたりする。駐車券の投入口に入れたら無料になるカードを配布するなどして欲しい。

⑧ 障がい福祉サービス の主な意見	36件
保護者が就労や病気で付添登園、登校ができないときに、ヘルパーによる通園・通学ができる制度としてほしい。	
保育所等訪問支援の日数が他市よりも少なく制限されている。相談員不足による待機の発生により支援が必要なこどもが成長の時間を失っている、市内の療育施設が増えないなどの課題も感じている。	
保育所に通うにあたっての療育施設との併用の時間帯の制限を緩和してほしい。	
放課後等デイサービスや児童発達支援の事業所が少なく、選択肢が少ない。もっと増えればと思う。放課後デイの日数を増やしてほしい。	
学童と放課後デイサービスを利用すると両方の費用がかかるので、家計の問題でどちらかにしないといけないが、放課後デイサービスは毎日使えないため学童を利用することになってしまう。	
学校への送迎の負担が大きく、小学生から通学に使用できる移動支援があればよい。また、18歳以上になった後も放課後等デイサービスのような、送迎付きの施設が利用できるとよい。	
中学生になると長期休暇時に学童が使えなくなり、放課後等デイサービスのお迎えが9時から10時頃となるため仕事に間に合わない。母子家庭のため、仕事が続けられるのか不安に思う。	
高校を卒業すると、作業所の開始時間、終了時間が早く放課後等デイサービスもなくなり、仕事ができなくなる保護者が多いのが現状だと思う。放課後等デイサービスの様なサービスが受けられれば大変助かる。	
放課後等デイサービスの受給日を30日程度に増やしてほしい。ファミリーサポートを中学3年生までサポートしてもらえるようにしてほしい。また、複数のファミリーサポートさんに社会福祉協議会の建物の中でサポートしてもらえると非常に助かると思う。	
通所支援サービスにおいても、芦屋市は1か月あたりの日数が少なく足りない分の自己負担額も大きい。幼少期からの早期療育の大切さをご理解いただきたい。	
芦屋に言語聴覚士や理学療法士の訓練が受けられる場を早く提供してほしい。	
両親とも働きながら、こどもが療育を受ける機会を確保することが難しい。保育園と療育先の送迎などの柔軟な対応があれば、様々な可能性が広がると思う。	
ショートステイできる施設を増やしてほしい。	
芦屋市内にグループホームなどの福祉施設がもっと増えてほしい。	
市の障害児児童手当も少なすぎで生活の足しにならない。	
障害児通所支援などの利用負担に関して、小学校から所得制限があるため、利用を悩んでしまう場面がある。	

<p>機能訓練などの利用料支払いが銀行窓口での支払いとなっているが、保護者が働いている場合なども想定してコンビニ支払いなど支払い方法を増やしてほしい。そのほかにも、平日の日中にしか行えないものがあるので、時間や方法を増やしてほしい。</p>
<p>サービスを、働く保護者にもっと寄り添ったものとしてほしい。療育に通うために仕事を辞めたり、転職したり、通わせたい療育施設をあきらめたりしている保護者がいることをもっと知って、改善に取り組んでほしい。</p>
<p>いわゆるグレーゾーンの自閉症や ADHD の人を支援してもらえるような場所があると大変ありがたい。</p>
<p>ディスレクシアに対する支援があれば嬉しい。</p>
<p>グループホームの虐待が増えているなら、家でしっかりみてあげたい。</p>
<p>軽度知的障がいに対する対応が少ない。高校進学も公立では難しい場合、私立など高額な授業料が必要になる。進学も就労も難しい。義務教育の後も芦屋で安心して生活出来るように途切れのない支援が必要だ。</p>
<p>難聴療育を近隣で受けられる場所がなく、難聴者に対応できる ST はいないとのこと。これから小学校の進学を控え、不安を感じる。</p>
<p>児童発達支援や OT、ST 等の事業所が少ない。 公立の学校は人員が少なく就学に不安がある。もう少し支援の方が多いと助かる。</p>
<p>就労施設、入所施設を市内に増やしてほしい。障がいのある親の働く場所がほしい。</p>
<p>胃ろうケアがあるなか、急な用事があっても預け先を見つけることが難しい。短期入所（ケア）できる施設もつくって欲しい。</p>